

2024年度

# 社会健康医学系専攻シラバス

京都大学大学院医学研究科



## 2024年度 京都大学アカデミックカレンダー

前期始まり	◇	4月1日(月)
年度当初調整期間	◇	4月1日(月)～5日(金)
入学式	◇	4月5日(金)
前期授業	◇	4月8日(月)～7月22日(月)
創立記念日	◇	6月18日(火)
試験・フィードバック期間	◇	7月23日(火)～8月5日(月)
夏季休業	◇	8月6日(火)～9月30日(月)
前期終わり	◇	9月30日(月)
後期始まり	◇	10月1日(火)
後期授業	◇	10月1日(火)～1月24日(金)
11月祭	◇	11月下旬 授業休止(予定):11月20日(水)～22日(金)
冬季休業	◇	12月29日(日)～1月3日(金)
試験・フィードバック期間	◇	1月27日(月)～2月7日(金)
修士・博士学位授与式	◇	3月24日(月)
卒業式	◇	3月25日(火)
後期終わり	◇	3月31日(月)

注：調整期間は原則として次の内容を考慮する。

年度当初調整期間：ガイダンス等を行う。

※学部入試に伴う授業休止について

前期日程試験 準備日：2025年2月24日(月)

試験日：2025年2月25日(火)～27日(木)

## ◇目 次◇

社会健康医学系専攻について	1
社会健康医学系専攻専門職学位課程 全授業科目一覧表	5
専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて 〈特別コース〉	
I. 臨床研究者養成 (MCR) コース	9
臨床研究者養成 (MCR) コース 授業科目一覧表	10
II. 遺伝カウンセラーコース	11
遺伝カウンセラーコース 授業科目一覧表	12
III. 臨床統計家育成 (CB) コース	13
臨床統計家育成コース 授業科目一覧表	14
〈特別プログラム〉	
I. 知的財産経営学プログラム	15
知的財産経営学プログラム 授業科目一覧表	16
II. 医療経営ヤングリーダー・プログラム	17
社会健康医学系専攻 前期時間割 全教科	18
社会健康医学系専攻 後期時間割 全教科	19
<b>社会健康医学系専攻 授業科目内容</b>	<b>21</b>
【MPHコア】	
疫学Ⅰ (疫学入門)	22
疫学Ⅱ (研究デザイン)	22
医療統計学	23
感染症疫学	23
産業・環境衛生学	24
医療制度・政策・経済	24
社会健康医学と健康政策	25
医薬政策・行政	25
保健・医療の経済評価	26
健康危機管理の制度政策と実践	26
行動科学	27
基礎医療倫理学	27
医学コミュニケーション・基礎	28
社会疫学	28
【MPH必修】	
医学基礎Ⅰ「生理学Ⅰ」	29
医学基礎Ⅰ「神経生理学」	30
医学基礎Ⅰ「解剖学」	30
医学基礎Ⅰ「基礎人類遺伝学」	31
医学基礎Ⅱ	32
臨床医学概論	32
【MPH選択】	
医療統計学実習	33
文献検索法	33

文献評価法	34
ヘルスサイエンス研究の進め方	34
毒性科学	35
医療社会学・基礎	35
臨床試験	36
統計家の行動基準	36
健康デザイン論	37
統計的推測の基礎	37
生存時間解析	38
統計モデルとその応用	38
行政医学・産業医学	39
健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ	39
多重性の考え方	40
遺伝医療と倫理・社会	40
基礎人類遺伝学	41
臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	42
遺伝医学特論（集中講義）	42
地域保健活動論	43
人間生態学	44
交絡調整の方法	45
解析計画実習	45
環境曝露・リスク評価	46
ベンチトレーニングコース	46
医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査	47
医薬品の開発と評価	47
ゲノム科学と医療	48
医療倫理学各論	48
健康情報学Ⅰ	49
健康情報学Ⅱ	49
質的研究・演習	50
質的研究入門	50
環境・感染症論	51
臨床試験の統計的方法	51
社会健康医学課外実習	52
感染症数理モデル入門	52
ゾリアントな社会づくりのイノベーション：展望・自由提言	53
QOL・PRO 評価法	53
公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション	54
健康・予防医療学領域の実装科学	54
グローバルヘルス通論	55
<b>【限定】</b>	
医療経営特別カリキュラムⅠ	55
医療経営特別カリキュラムⅡ	56
医療経営ケーススタディ	56

<b>臨床研究者養成（MCR）コース 授業科目内容</b> . . . . .	<b>59</b>
【MCR必修】	
臨床研究計画法Ⅰ . . . . .	60
臨床研究計画法演習Ⅰ . . . . .	60
医療技術の経済評価 . . . . .	61
臨床研究計画法Ⅱ . . . . .	62
【MCR選択】	
臨床研究計画法演習Ⅱ . . . . .	62
EBM・診療ガイドライン特論 . . . . .	63
臨床研究データ管理学 . . . . .	63
臨床研究特論 . . . . .	64
系統的レビュー . . . . .	64
データ解析法特論 . . . . .	65
社会疫学研究法 . . . . .	65
<b>遺伝カウンセラーコース 授業科目内容</b> . . . . .	<b>67</b>
【GC必修】	
基礎人類遺伝学演習 . . . . .	68
臨床遺伝学演習 . . . . .	68
遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 . . . . .	69
遺伝カウンセリング演習1 . . . . .	70
遺伝カウンセリング演習2 . . . . .	70
遺伝カウンセリング実習1 . . . . .	71
遺伝カウンセリング実習2 . . . . .	72
遺伝サービス情報学 . . . . .	73
<b>臨床統計家育成（CB）コース 授業科目内容</b> . . . . .	<b>75</b>
【CB必修】	
臨床研究実地研修Ⅰ . . . . .	76
臨床研究実地研修Ⅱ . . . . .	76
【CB選択】	
臨床統計家の実務スキル . . . . .	77
統計的推測の基礎・演習 . . . . .	77
メタアナリシス . . . . .	78
<b>知的財産経営学プログラム 授業科目内容</b> . . . . .	<b>79</b>
【知財必修】	
アントレプレナーシップ . . . . .	80
医療ビジネス・イノベーション概論 . . . . .	80
特許法特論・演習（前期） . . . . .	81
契約実務演習 . . . . .	82

【知財選択】

知的財産経営学 基礎	82
アントレプレナーシップ特論	83
特許法特論・演習（後期）	83
知的財産法演習	84
創薬医学特論	84

**FY 2024 Syllabi for Master Course** 85

Mission and educational program of the Kyoto University School of Public Health	86
Curriculum for Master degree program in the fiscal year 2024	91

Epidemiology I	102
Epidemiology II	102
Fundamentals of Biostatistics	103
Infectious Disease Epidemiology	103
Occupational health and environmental health sciences	104
Health Policy and Academia	104
Drug Policy and Regulation	105
Economic Evaluation in Health Care	105
Behavioral Science	106
Basic Medical Ethics	107
Medical Communication: Introduction	107
Social epidemiology	108
Basic Medicine I (Anatomy)	108
Basic Medicine I (Physiology I)	109
Basic Medicine I (Neurophysiology)	109
Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics)	110
Basic Medicine II	111
Introduction to Clinical Medicine	111
Introduction to Statistical Computing and Data Management	112
Literature Search	113
Critical Appraisal	113
Methods of Health Science Research	114
Toxicological Sciences	114
Medical Sociology	115
Clinical Trial	115
Statisticians Standard of Conducts	116
Designing Health communication	116
Fundamentals of Statistical Inference	117
Survival Analysis	117
Statistical Modeling and Applications	118
Medical Doctors in Government and Occupational Settings	118
Multiplicity in clinical trials	119
Entrepreneurship	119
Introduction to Medical Innovation and Businesses	120
Intellectual Property Management in Medical Science	121
Special Lecture for Entrepreneurship	121

Special Lecture and Practicum for the Patent Law I	122
Genetic Medicine, Ethics and Society	122
Introduction to Human Genetics	123
Clinical Genetics and Genetic Counseling	124
Special Seminar for Genetic Medicine	125
Public health intervention strategies	125
Field Medicine	126
Intermediate Biostatistics	126
Health Data Processing Laboratory	127
Environmental exposures and their risk assessments	127
On the Bench Training Course	128
Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices	128
Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences	129
Business Contract Practice	129
Practicum for Intellectual Properties Protection Law	130
Special lecture and practicum for the Patent Law II	130
Special Lecture for Drug Discovery	131
Genome Science and Medicine	132
Practicum for Clinical Genetics	132
Health informatics I	133
Health informatics II	133
Applied Medical Communication	134
Environment and Infection	134
Introduction to Qualitative Research	135
Statistical Methods in Clinical Trials	135
Global health	136
Introduction to infectious disease modelling	136
QOL/PRO assessment	137
Risk Communication for Public Health Emergencies	137
Healthcare management Special Curriculum I	138
Healthcare management Special Curriculum II	138
Case Studies in Healthcare Management	139
Seminar in Study Design I	139
Special Seminar in Study Design I	140
Economic Evaluation of Medical Technologies	141
Seminar in Study Design II	141
Special Seminar in Study Design II	142
Special Lectures on EBM and clinical practice guidelines	143
Data Management for Clinical Research	143
Systematic Reviews	144
Special Seminar of Data Analysis	144
Methods in social epidemiology	145
Fundamental Human Genetics, exercise	145
Clinical Genetics, Exercise	146
Communication for Genetic Counselors	147
Genetic Counselling, Exercise 1	147
Genetic Counselling, Exercise 2	148
Genetic Counselling, Practice 1	149



Genetic Counselling, Practice 2	150
Genetic service informatics	150
Practical Skills for Clinical Biostatisticians	151
Practicum in Fundamentals of Statistical Inference	151
Meta-analysis	152
Clinical Research Training I	152
Clinical Research Training II	153

2024 年度人間健康科学系専攻科目及び他部局開講科目（公共政策大学院科目）における 社会健康医学系専攻学生の受講について	155
--	-----

**科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業  
「公共圏における科学技術・教育研究拠点」**

教育プログラム 授業科目	157
現代社会と科学技術 A	158
現代社会と科学技術 B	158
科学技術イノベーション政策総合演習	159
研究プロジェクト	159
政策のための研究方法論（政策）	159
科学技術コミュニケーション演習	160
科学技術イノベーション政策特別演習	160



## ◆社会健康医学系専攻について

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/>)

### 1. 本専攻の概要

社会健康医学系専攻の使命は、医学・医療と社会・環境とのインターフェースを機軸とし以下の活動とその相互作用を通じて、人々の健康と福祉を向上させることである。

#### ○教育 (Teaching)

社会健康医学に関わる実務、政策、研究、教育において専門的かつ指導的役割を身につける幅広い教育を行う。

#### ○研究 (Research)

人々の健康に関わる経済、環境、行動、社会的要因についての知識を深め、新しい知識と技術を生み出す。

#### ○成果の還元 (Translating Research into Practice and Policy)

その成果を健康・医療に関わる現実社会の実践方策と政策に還元する。

#### ○専門的貢献 (Professional Practice)

専門の知識と技術を持って、個人・組織・地域・国・世界レベルで貢献する。

健康に関する問題は非常に広い範囲にわたっており、本専攻の教員、学生のテーマや専門性も多岐に渡っている。本専攻には、定量的評価に不可欠な疫学、統計に関する基礎領域から、ゲノム情報と健康のかかわり、医療の質の評価や経済的評価、倫理的側面、社会への健康情報の発信、健康増進と行動変容、健康の社会的決定要因、健康格差、グローバルヘルス、感染症など危機管理に関する研究や気候変動など環境要因と健康に関する研究、ヘルスコミュニケーションや質的研究など、さまざまな教育・研究を推進する分野が設置されている。

### 2. 教育課程

本専攻は、専門職学位課程（実務者レベル）2年と博士後期課程（研究者、教育者レベル）3年に区分され、専門職学位課程は、さらに、基幹課程である2年制 MPH コースをはじめ、1年制 MPH コース、臨床研究者養成（MCR）コース（1年制）、遺伝カウンセラーコース（2年制）、臨床統計家育成コース（2年制）を含めて5コースに分かれている。

教育内容として、下記のコア5領域が定められており、これらの領域を構成する科目を、必修（コア領域1、2）、選択必修（コア領域3、4、5）と指定している。いずれのコースでも5領域から最低1科目（コア領域1は2科目）の履修を必要とする。

区分		科目コード	科目名	責任者	単位	備考
MPH コア 5領域	コア領域1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	中山	1	必修
		H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	山本（洋）	1	必修
	コア領域2	H001000	医療統計学	教務委員長 （近藤）	2	必修
	コア領域3	H070000	感染症疫学	西浦	1	
		H124000	産業・環境衛生学	西浦	1	
	コア領域4	H166000	医療制度・政策・経済	今中	2	
		H126000	保健・医療の経済評価	今中	1	MCR コース 受講不可
		H170000	健康危機管理の制度政策と実践	今中	1	
		H127000	社会健康医学と健康政策	健康政策の 運営委員会	2	
	コア領域5	H109000	医薬政策・行政	川上	1	後期
		H075000	行動科学	田近	1	
		H076000	基礎医療倫理学	井上	1	
		H077000	医学コミュニケーション基礎	岩隈	1	
			H157000	社会疫学	近藤	2

※前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

医学研究科人間健康科学系専攻、公共政策大学院、経営管理大学院、法学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、工学研究科、「グローバル生存学大学院連携プログラム」、「政策のための科学プログラム」の予め定められた科目の履修・単位取得が可能。ただし、修了に必要な単位とはならない。具体的にはシラバス巻末およびホームページを参照。

URL: <http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/syllabus.html>

## (1) 専門職学位課程

専門職学位課程に2年以上(2年制コース)もしくは1年以上(1年制コース)在学し、下記の30単位以上を修得し、本専攻が定める教育課程を修了することが「社会健康医学修士(専門職)」取得の要件である。

なお、1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、原則42単位とする。ただし、特別コース・特別プログラム(1年制MPHコース、臨床研究者養成(MCR)コース、遺伝カウンセラーコース、臨床統計家育成コース、知的財産経営学プログラム)の履修者が、特別コース・特別プログラムにおける必修科目等を履修する場合は超過を認める。その他、やむを得ない事情により履修登録上限単位数を緩和する必要がある場合には、指導教員の申し出により超過を認めることがある。

### [2年制MPHコース]

科目	「医療系」 出身者*	「医療系」以外 出身者
MPH コア5領域(コア領域1-5のすべての領域を含む)(注1)	10	10
MPH 必修(医学基礎Ⅰ(注3)・Ⅱ、臨床医学概論)(注2)	—	6
課題研究	4	4
選択(特別プログラムで指定されるものを含む)	16	10
計	30	30

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部の出身者

上記以外でかつ生物系等学部、医療系短期大学及び医療系専門学校の出身者であっても医療系の国家資格を取得できるコースの出身者は、一括認定の対象とする。

「上記の一括認定で認定されなかった者」で、「医療系」出身者としての認定を求める際は、入学時に申請が必要である。

(注1) MPH コア科目を10単位を超えて取得した場合は、選択科目として算入する。

(注2) MPH 必修を、「医療系」出身者の学生が取得した場合、学位取得に必要な30単位に算入することはできない。

(注3) 「医学基礎Ⅰ」として、「医学基礎Ⅰ(生理学Ⅰ)」「医学基礎Ⅰ(神経生理学)」「医学基礎Ⅰ(解剖学)」あるいは「医学基礎Ⅰ(基礎人類遺伝学)」のいずれか履修すること。

課題研究：専門職学位課程共通。テーマ毎に、最も適切な研究室に配属し、研究アイデアから研究プロトコルの作成、データ収集と解析、結果の考察などを経験し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションを行う者は、プレゼンテーションを行う当該年度に修了見込みの者に限られる。

既修得単位の認定：本専攻では上記コア領域科目の受講を推奨しているが、他大学院における取得単位について、コア領域1～5に相当する科目を対象に最大10単位以内を既修得単位として認定する場合がある。認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

### [専門職学位課程特別コース・特別プログラム]

本専攻は、下記の特別コースを有する。これらの特別コースは入試枠が異なり、入学後にコース間の移動はできない。加えて、下記の如く、本専攻が修了を認める特別プログラムがある。

これらの詳細は、別途、「◇専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて」に後述する。

#### <特別コース>

1) 1年制MPHコース (1年で修了しうるが、修了要件は上記の2年制MPHコースと同じ。)

2) 臨床研究者養成(MCR)コース

3) 遺伝カウンセラーコース

4) 臨床統計家育成コース

#### <特別プログラム>

1) 知的財産経営学プログラム

2) 医療経営ヤングリーダー・プログラム

## (2) MPH-DrPH 課程について

出願資格：1) 修士相当の学位を有する者 あるいは、2) 医師・歯科医師の内、2年以上の臨床経験あるいは卒後臨床研修を修了した者。

上記出願資格1)、2)の条件を満たし、専門職学位課程に引き続き本専攻博士後期課程に進学を希望する者で、学部あるいは修士の履修成績、入学試験および専門職学位課程入学後の成績も優秀であり、意欲と能力のある者は、審査を受け、本専攻博士後期課程の受験資格を認定された場合、専門職学位課程の修了要件を満し、かつ上記の博士後期課程入学試験に合格することにより、1年次修了時点で博士後期課程に進学できる。

受験資格の認定を希望する者は、前期にコア科目8単位以上を取得(見込)したうえで、MPH-DrPH課程の願書、志望理由書、指導教員の推薦書(注)と、修士相当の者は、1) 修士学位の証明と修士および学部の成績、あるいは医師・歯科医師の者は、2) 臨床経験あるいは卒後臨床研修と在職証明書を添えて8月2日(金)までに教務課大学院教務掛に提出すること(認定を希望する者は、提出に先立ち、教務課大学院教務掛に事前に相談すること)。

本課程は、あくまで、博士後期課程への進学を前提としたものであり、進学しない場合は、1年次修了は無効となる。

(注) 課題研究に関する情報(課題名、プロトコール、進捗状況を示す資料等)は必須ではないが、推薦書に添付することができる。

## (3) 博士後期課程

博士後期課程に3年以上在学し、研究指導を受け、下記の所定単位を修得し、博士論文の審査および試験に合格することが「博士(社会健康医学)」取得の要件である。なお、1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、原則42単位とする。

2022年度入学者より、大学院教育コース「社会健康医学・臨床疫学研究」において学位論文の中間ヒアリングとチューターシステムを導入することによって、大学院生の研究進捗状況をチェックし、必要に応じてアドバイスを与えることによって研究レベルの向上をサポートする体制を強化する。2年次あるいは3年次に中間ヒアリングにおいてチューターが研究進捗状況をチェックし、適切な研究方針で研究しているか、順調に研究が進展しているかなどを確認・審査する。中間ヒアリングに合格することが「実習」2単位の修得要件となる。

### 【2021年度以前入学者】

科目		本専攻専門職学位課程修了者以外		本専攻専門職学位課程修了者
		「医療系」出身者*	「医療系」以外出身者	
博士課程セミナー		6	6	6
専門職学位課程 授業科目	MPHコア5領域 (コア領域1-5のすべての領域を含む)	7 (領域1と領域2は、それぞれ2単位)	7 (領域1と領域2は、それぞれ2単位)	—
	MPH必修 (医学基礎Ⅰ(注1)、医学基礎Ⅱ、臨床医学概論)	—	6	—
計		13	19	6
【2022年度以降入学者】科目		本専攻専門職学位課程修了者以外		本専攻専門職学位課程修了者
		「医療系」出身者*	「医療系」以外出身者	
博士課程セミナー		6	6	6
大学院教育コース:社会健康医学・臨床疫学研究(演習)(1年次~)		4	4	4
大学院教育コース:社会健康医学・臨床疫学研究(実習)(2年次~)		2	2	2
専門職学位課程 授業科目	MPHコア5領域 (コア領域1-5のすべての領域を含む)	7 (領域1と領域2は、それぞれ2単位)	7 (領域1と領域2は、それぞれ2単位)	—
	MPH必修 (医学基礎Ⅰ(注1)、医学基礎Ⅱ、臨床医学概論)	—	6	—
計		19	25	12

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部の出身者

上記以外でかつ生物系等学部、医療系短期大学及び医療系専門学校出身者であっても医療系の国家資格を取得できるコースの出身者は、一括認定の対象とする。

「上記の一括認定されなかった者」で、「医療系」出身者としての認定を求める際は、入学時に申請が必要である。

(注1) 令和4年度以降は「医学基礎I」として、「医学基礎I(生理学I)」「医学基礎I(神経生理学)」「医学基礎I(解剖学)」あるいは「医学基礎I(基礎人類遺伝学)」のいずれか履修すること。

※既修得単位の認定：本専攻では上記コア領域科目の受講を推奨しているが、他大学院における取得単位について、コア領域1～5に相当する科目を対象に最大7単位以内を既修得単位として認定する場合がある。認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

令和6年度 社会健康医学系専攻 専門職学位課程 全授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	レベル
			前期	後期				
MPH コア 必修	H118000	領域1 疫学Ⅰ（疫学入門）	○*		中山教授	1		基礎
	H119000	領域1 疫学Ⅱ（研究デザイン）	○前半		山本教授	1		基礎
	H001000	領域2 医療統計学	○		近藤教授・佐藤非常勤講師	2		基礎
MPH コア 選択 必修	H070000	領域3 感染症疫学	○後半		西浦教授	1		基礎
	H124000	領域3 産業・環境衛生学	○前半		西浦教授	1		基礎
	H166000	領域4 医療制度・政策・経済	○		今中教授	2		中級
	H127000	領域4 社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2		基礎
	H109000	領域4 医薬政策・行政		○前半	川上教授	1		中級
	H126000	領域4 保健・医療の経済評価	○前半		今中教授	1	MCRコース生は受講不可	中級
	H170000	領域4 健康危機管理の制度政策と実践	通年		今中教授	1		応用
	H075000	領域5 行動科学	○前半		田近准教授	1		基礎
	H076000	領域5 基礎医療倫理学	○前半		井上教授	1		基礎
	H077000	領域5 医学コミュニケーション基礎	○前半		岩隈准教授	1		基礎
	H157000	領域5 社会疫学	○		近藤教授	2		基礎
MPH 必修	H154000	医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）	○前半		近藤教授	2	「医療系」以外の出身者のみいずれか一つを選択必修	基礎
	H163000	医学基礎Ⅰ（神経生理学）		○後半	近藤教授	2		基礎
	H153000	医学基礎Ⅰ（解剖学）	○前半		近藤教授	2		基礎
	H164000	医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）	○*		小川特定准教授	2		基礎
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	尾野教授・加藤准教授・塩見助教・山地助教・河田講師	2	「医療系」以外の出身者のみ必修	基礎
	H008000	臨床医学概論		○	高田特定助教・錦織助教・岩崎講師・星野特定講師・千葉非常勤講師	2		基礎
	(別表)	課題研究	○2年次		所属分野の指導員	4		—
MPH 選択	H011000	医療統計学実習	○		大森特定教授	2		中級
	H093000	文献検索法	○前半		高橋准教授	1		基礎
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1		基礎
	H115000	ヘルスサイエンス研究の進め方	○*		中山教授	1		基礎
	H129000	医療の質評価	-	-	-	1	2024年度は開講せず	中級
	H162000	毒性科学	○		原田准教授	2		基礎
	H103000	医療社会学・基礎	○後半		岩隈准教授	1		基礎
	S004000	統計遺伝学Ⅰ	-	-	-	2	2024年度は開講せず	中級
	H112000	臨床試験	○		田中(司)特定教授	2		中級
	H134000	統計家の行動基準	○*		大森特定教授	1		応用
	H143000	健康デザイン論	通年・集中*		中山教授	1		応用
	H136000	統計的推測の基礎	○		大森特定教授	2		中級
	H137000	生存時間解析		集中	大森特定教授	1		中級
	H138000	統計モデルとその応用		集中	大森特定教授	1		中級
	H142000	行政医学・産業医学	集中		今中教授	2		応用
	H172000	健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ	集中		今中教授	1	2024年度新規開講	応用
	H145000	多重性の考え方	○前半		大森特定教授	1		中級
	M001000	アントレプレナーシップ	○		寺西非常勤講師	2		基礎
	M119000	医療ビジネス・イノベーション概論	○		早乙女特定教授	2		基礎
	M017000	知的財産経営学基礎	○		早乙女特定教授	2		基礎
	M021000	アントレプレナーシップ特論	集中		早乙女特定教授	2		応用
	M024000	特許法特論・演習（前期）	○		高山非常勤講師・東田非常勤講師	2		基礎

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	レベル
			前期	後期				
MPH 選択	N015000	遺伝医療と倫理・社会	○*		小川特定准教授	2		基礎
	H040000	基礎人類遺伝学	○*		小川特定准教授	2		基礎
	N021000	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	○*		小川特定准教授	3		基礎
	N017000	遺伝医学特論（集中講義）	2年次		川崎特定講師	2		応用
	H158000	地域保健活動論		○前半	近藤教授	2		応用
	H020000	人間生態学		○	坂本准教授	2		基礎
	H021000	交絡調整の方法		○	大森特定教授	2		中級
	H022000	解析計画実習		○	大森特定教授	2		応用
	H159000	環境曝露・リスク評価		○	原田准教授	2		中級
	H032000	ベンチトレーニングコース (On the Bench Training Course)		集中	原田准教授	2		応用
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2		応用
	H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1		中級
	M004000	契約実務演習		○	鈴木特定准教授	2		基礎
	M007000	知的財産法演習		○	富麻非常勤講師	2		中級
	M025000	特許法特論・演習（後期）		○	田中（順） 非常勤講師	2		中級
	M120000	創薬医学特論		○	早乙女特定教授	1		応用
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2		応用
	N018000	医療倫理学各論		○*	井上教授	2		応用
	S005000	統計遺伝学Ⅱ	-	-	-	2	2024年度は開講せず	中級
	H130000	健康情報学Ⅰ		○	中山教授	2		中級
	H151000	健康情報学Ⅱ		○*	高橋准教授	2		中級
	H160000	質的研究・演習	通年・集中		岩隈准教授	2		中級
	H156000	質的研究入門	○後半		中山教授・河野特定講師	1		基礎
	H152000	環境・感染症論		○	山崎教授	2		中級
	H135000	臨床試験の統計的方法		○前半	田中(司)特定教授	1		応用
	H061000	社会健康医学課外実習	集中		所属分野の指導員等	1または2	インターシップ	-
	Z203M01	グローバルヘルス通論		○	中山教授	2		中級
	H161000	感染症数理モデル入門	集中		西浦教授	2		応用
	H173M01	レジリエントな社会づくりのイノベーション：展望・自由提言	通年		今中教授	2		応用
	H167000	QOL・PRO 評価法		○*	山本教授	1		中級
	H169000	公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション	通年・集中*		中山教授	1		応用
	H171000	健康・予防医療学領域の実装科学		○	石見教授	2	2024年度新規開講	中級
	限定 科目	H082000	医療経営特別カリキュラムⅠ	集中		今中教授	2	医療経営ヤングリーダー・プログラム 限定
H083000		医療経営特別カリキュラムⅡ		集中	今中教授	2	応用	
H053000		医療経営ケーススタディ	通年・集中		今中教授	2	応用	
K026000		臨床研究計画Ⅰ	○		川上教授	1	MCR 限定必修	応用
K028000		臨床研究計画Ⅰ演習Ⅰ	○		山本教授	1	MCR 限定必修	応用
K030000		医療技術の経済評価	○前半		今中教授	1	MCR 限定必修	応用
K027000		臨床研究計画Ⅱ		○	川上教授	1	MCR 限定必修	応用
K029000		臨床研究計画Ⅱ演習Ⅱ		○	山本教授	1	MCR 限定選択	応用
K020000		EEM・診療ガイドライン特論		○	中山教授	1	MCR 限定選択	応用
K025000		臨床研究データ管理学		○前半	中尾葉子特定准教授	1	MCR 限定選択・CB 限定必修	応用
K034000		臨床研究特論		○	石見教授	2	MCR 限定選択	応用
K036000		系統的レビュー		○	小川准教授	1	MCR 限定選択	応用
K033000		データ解析法特論	○後半		山本教授	1	MCR 限定選択	中級
K035000		社会疫学研究法	○後半		近藤教授	1	MCR 限定選択	応用
N022000		基礎人類遺伝学演習		1年次	川崎特定講師	1	GC 限定	応用



区分	科目 コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	レベル
			前期	後期				
	N006000	臨床遺伝学演習（ロールプレイ演習）		○1年次 *	川崎特定講師	1	GC 限定	応用
	N020000	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論	通年*		川崎特定講師	3	GC 限定	基礎
	N007000	遺伝カウンセリング演習 1	1年次（隔週）		川崎特定講師	2	GC 限定	基礎
	N008000	遺伝カウンセリング演習 2	2年次（隔週）		川崎特定講師	2	GC 限定	応用
	N009000	遺伝カウンセリング実習 1	1年次		川崎特定講師	2	GC 限定	基礎
	N010000	遺伝カウンセリング実習 2	2年次		川崎特定講師	4	GC 限定	応用
	H168000	遺伝サービス情報学	○後*		川崎特定講師	1	GC 限定	基礎
	H139000	臨床統計家の実務スキル	○		大森特定教授	1	CB 限定選択	基礎
	H144000	統計的推測の基礎・演習	○		大森特定教授	1	CB 限定選択	中級
	H146000	メタアナリシス	集中		田中(司)特定教授	1	CB・MCR 限定選択	応用
	H140000	臨床研究実地研修Ⅰ	通年・集中		田中(司)特定教授	2	CB 限定必修	応用
	H147000	臨床研究実地研修Ⅱ	通年・集中		田中(司)特定教授	2	CB 限定選択	応用

MCR＝臨床研究者養成コース、知財＝知的財産経営学プログラム、GC＝遺伝カウンセラーコース、CB＝臨床統計家育成コース

限定科目：該当する特別プログラムの者に限り履修可。

[期間] \*マークは、開講日注意。 [レベル] 基礎：予備知識を必要としないレベル、中級：一定の予備知識や経験を求めるレベル、応用：社会での実践や研究へ応用できるレベル、空欄：各シラバス参照

※ 医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）と基礎人類遺伝学の両方を履修することはできない。

※ 2022年度までに「医療制度・政策」、「世界における医療制度・政策」、「行動経済学と健康医療介護」3科目（各1単位）のすべてを取得した学生は、「医療制度・政策・経済」を修得しても修了に必要な単位に算入することができない。

※ 「健康危機管理の制度政策と実践」の単位を2023年度までに取得した学生は「選択科目」の単位へ、2024年度以降に取得した学生は「MPH コア5領域」の単位へ算入する。

※ 2023年度までに「メディカル分野技術経営学概論」の単位を取得した学生は、「医療ビジネス・イノベーション概論」を修得しても修了に必要な単位に算入することができない。

※ 2023年度までに「ポストコロナ社会のイノベーション：展望と自由提言」の単位を取得した学生は、「レジリエントな社会づくりのイノベーション：展望・自由提言」を修得しても修了に必要な単位に算入することができない。

※ 前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表3) 科目変更対応表」を確認すること

(別表 1) 課題研究及び博士課程セミナー科目コード

研究分野	科目コード		
	課題研究 (専門職学位課程)	[MCR]	博士課程セミナー (博士後期課程)
医療統計学	I001000		J001000
医療疫学	I002000	L002000	J002000
薬剤疫学	I003000	L003000	J003000
ゲノム情報疫学	I004000		J004000
医療経済学	I005000	L005000	J005000
医療倫理学	I006000	L006000	J006000
健康情報学	I007000	L007000	J007000
医学コミュニケーション学	I016000		J016000
環境衛生学	I009000		J009000
健康増進・行動学	I010000	L010000	J010000
予防医療学	I011000	L011000	J011000
社会疫学	I020000		J016000
健康政策・国際保健学	I013000		J013000
環境生態学	I014000		J014000
人間生態学	I015000		J015000
知的財産経営学	M018000		
遺伝医療学 (遺伝カウンセラー)	N901000		
臨床統計家育成コース (臨床統計学)	I019000		

(別表 2) 社会健康医学・臨床疫学研究 (演習・実習) 科目コード

科目名	科目コード
社会健康医学・臨床疫学研究 (演習)	P033000
社会健康医学・臨床疫学研究 (実習)	P034000

(別表 3) 科目変更対応表

科目コード	科目名 (新)	科目名 (旧)
<b>令和 5 年度開講科目</b>		<b>令和 4 年度以前開講科目</b>
H166000	医療制度・政策・経済	医療制度・政策 世界における医療制度・政策 行動経済学と健康医療介護
<b>令和 6 年度開講科目</b>		<b>令和 5 年度以前開講科目</b>
H173M01	レジリエントな社会づくりのイノベーション: 展望・自由提言	ポストコロナ社会のイノベーション: 展望と自由提言
M119000	医療ビジネス・イノベーション概論	メディカル分野技術経営学概論

## ◇専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて

### <特別コース>

#### I. 臨床研究者養成（MCR）コース

(<http://www.mcrkyoto-u.jp/>)

##### (1) 学習達成目標

- ① 臨床研究を支える種々の基本理論、知識、実践技術に習熟すること。
- ② 自分の臨床上の疑問に基づいた臨床研究を計画し、研究プロトコルの作成、研究の実施・マネジメント、得られたデータの基本的な解析処理、結果の解釈、論文にまとめる、などの一連の作業を独力でできる。
- ③ 自分の臨床研究の計画・実施・解析・解釈の過程で生じる疑問について、適切な時期に、適切な専門家に、適切な相談・照会ができる。

##### (2) 本コースのカリキュラムの特徴

- ① 集中的な授業・実習  
本コースでは、臨床研究の基本（理論、知識、方法、実践）を1年間で体系的に学習できるよう全体のカリキュラムが構成されている。加えて、本コース推奨科目以外にも社会健康医学系専攻が提供する殆ど全ての科目を履修することができる。なお、学生が入学前に取得した科目があり、既修得単位として認められれば履修が免除される。
- ② 個別指導（メンタリング）の重視  
本コースの学生には、入学時に1～2名の個別指導担当教員（メンター）を決定し、この担当教員が責任を持って担当学生の研究プロトコルの作成やデータの解析の指導、および実際の研究計画実施上の指導を行なう。研究の種類にもよるが、必要に応じて2名が指導教員となることもある。この個別指導は、本コース在学期間のみでなく、双方の合意のもとに、修了後も、研究実施、結果解析、論文作成まで継続的に行うことを念頭につくられている。指導教員の決定にあたっては、学生本人と本コース教員の間で協議を行ない決定する。
- ③ 修了時の課題研究発表と試問  
本コース修了時に、全ての学生は、自分の臨床上の疑問に基づく臨床研究を完成させ（研究プロトコルも認める）、発表会で試問を受け、合格する必要がある。  
なお専門職大学院のため、修士論文などは課さない。

##### (3) 修了要件

科目	単位数
MPH コア5領域（コア領域1－5のすべての領域を含む7単位以上*）およびMCR必修科目	14
選択科目	12
課題研究	4
計	30

\*詳細は、「MCR コース授業科目一覧表」を参照。

平成28年度以降入学者は、上記を適用する。

照会先：臨床情報疫学分野および各担当分野

令和6年度 社会健康医学系専攻 臨床研究者養成(MCR)コース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		担当教員	単位	備考	
			前期	後期				
MCR 必修	K026000	臨床研究計画法 I	○		川上教授	1	MCR 限定	
	K027000	臨床研究計画法 II		○	川上教授	1	MCR 限定	
	K028000	臨床研究計画法演習 I	○		山本教授	1	MCR 限定	
	H001000	医療統計学	○		近藤教授・佐藤 非常勤講師	2	【コア領域2】	
	H118000	疫学 I (疫学入門)	○†		中山教授	1	【コア領域1】	
	H119000	疫学 II (研究デザイン)	○前半		山本教授	1	【コア領域1】	
	K030000	医療技術の経済評価	○前半		今中教授	1	MCR 限定	
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1		
	H112000	臨床試験	○		田中(司) 特定教授	2		
	-	コア領域3の科目を最低1単位*				1	【コア領域3】	
	-	コア領域4の科目を最低1単位**				1	【コア領域4】	
	-	コア領域5の科目を最低1単位***				1	【コア領域5】	
		L002000 ----- L003000 ----- L005000 ----- L006000 ----- L007000 ----- L011000 ----- L010000	課題研究：MCR (医療疫学) 課題研究：MCR (薬剤疫学) 課題研究：MCR (医療経済学) 課題研究：MCR (医療倫理学) 課題研究：MCR (健康情報学) 課題研究：MCR (健康増進・行動学) 課題研究：MCR (予防医療学)	通年		指導教員	4	指導教員が講義 する課題研究 を履修
	MCR 推奨 選択	K036000	系統的レビュー		○	小川准教授	1	MCR 限定選択
K033000		データ解析法特論	○後半		山本教授	1	MCR 限定選択	
K020000		EBM・診療ガイドライン特論		○	中山教授	1	MCR 限定選択	
K029000		臨床研究計画法演習 II		○	山本教授	1	MCR 限定選択	
K025000		臨床研究データ管理学		○前半	中尾葉子 特定准 教授	1	MCR 限定選択 CB 限 定必修	
K034000		臨床研究特論		○	石見教授	2	MCR 限定選択	
K035000		社会疫学研究法	○後半†		近藤教授	1	MCR 限定選択	
H129000		医療の質評価	-	-	-	1	2024年度は開講せず	
H011000		医療統計学実習	○		大森特定教授	2		
H076000		基礎医療倫理学	○前半		井上教授	1	【コア領域5】	
H075000		行動科学	○前半		田近准教授	1	【コア領域5】	
H021000		交絡調整の方法		○	大森特定教授	2		
H022000		解析計画実習		○	大森特定教授	2		
H130000		健康情報学 I		○	中山教授	2		
H109000		医薬政策・行政		○前半	川上教授	1	【コア領域4】	
H079000		医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1		
H099000		医薬品・医療機器の開発計画、薬事と 審査		○	川上教授	2		
H146000		メタアナリシス	集中		田中(司) 特定教 授	1	CB・MCR 限定選択	
H167000		QOL・PRO 評価法		○†	山本教授	1		

MCR 限定科目は、MCR 専科生および受講生のみ受講可能である。聴講は不可。

\*コア領域3の科目とは、感染症疫学および産業・環境衛生学(西浦教授)であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

\*\*コア領域4の科目とは、社会健康医学と健康政策(健康政策の運営委員会)、医薬政策・行政(川上教授)、保健・医療の経済評価、医療制度・政策・経済、健康危機管理の制度政策と実践(今中教授)であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

\*\*\*コア領域5の科目とは、行動科学(田近准教授)、基礎医療倫理学(井上教授)、医学コミュニケーション基礎(岩隈准教授)、社会疫学(近藤教授)であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

[期間] †開講日注意

※上記以外のシラバスに掲載されている MPH 科目(他のコース等の限定科目を除く)を選択科目として履修することができる(開講日時が同一の科目を同時に履修登録することは不可)。

## II. 遺伝カウンセラーコース

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/class-06.html>)

### (1) 遺伝カウンセラーコースの概要

ゲノム・遺伝情報を利用した医療、遺伝薬理学情報に基づいたテーラーメイド医療に対応できる高度な専門的知識と技術ならびにコミュニケーション能力をもち、患者・家族の立場を理解して新医療とのインターフェースとなりうる人材を総合的に養成する。

### (2) 遺伝カウンセラーコースの特徴

- ① 充実したスタッフ：この分野でトップレベルの多数の指導者が社会健康医学系専攻の教員とともに充実した専門教育を行う。
- ② 社会健康医学の幅広い素養：社会健康医学コア科目を履修する。修了時には、社会健康医学修士(専門職)(Master of Public Health; MPH)の学位が授けられる。
- ③ 充実した実習：現場での実習に特に重点を置いており、京都大学医学部附属病院遺伝子診療部などでの充実した実習が可能である。
- ④ 資格認定試験受験資格：遺伝カウンセラーコース：コース終了後、「認定遺伝カウンセラー」資格認定試験受験資格が得られる。

### (3) 修了要件

科目	「医療系」 出身者 <sup>※</sup>	「医療系」 以外出身者
MPH コア 5 領域 (コア領域 1 - 5 のすべての領域を含むこと)	7	7
医学基礎 I <sup>(注1)</sup> 、医学基礎 II、臨床医学概論	—	6
遺伝カウンセラーコース必修	29	27
課題研究	4	4
合計	40	44

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部の出身者  
上記以外でかつ生物系等学部、医療系短期大学及び医療系専門学校出身者であっても医療系の国家資格を取得できる  
コースの出身者は、一括認定の対象とする。

「上記の一括認定されなかった者」で、「医療系」出身者としての認定を求める際は、入学時に申請が必要である。

平成 28 年度以降入学者は、上記を適用する。

(注1) 医学基礎 I として、「医療系以外出身者」は「医学基礎 I (「基礎人類遺伝学」) を履修すること。なお、「医療系出身者」は「基礎人類遺伝学」を履修すること。

#### (参考) 課題研究：

初年度の学習や実習経験に基づいて専門領域の発展にふさわしいテーマを見出し、テーマごとにもっとも適切な教員の指導のもと、遺伝医療および遺伝カウンセリングの臨床現場の質の向上に資するとともに、クライアントの QOL の改善につながるような研究を行い、とりまとめを行う。

照会先：遺伝医療学分野

令和6年度 社会健康医学系専攻 遺伝カウンセラーコース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○*		中山教授	1	必修
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○前半		山本教授	1	必修
コア領域2	H001000	医療統計学	○		近藤教授・佐藤非常勤講師	2	必修
コア領域3	H070000	感染症疫学	○後半		西浦教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○前半		西浦教授	1	選択必修
コア領域4	H166000	医療制度・政策・経済	○		今中教授	2	選択必修
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	選択必修
	H109000	医薬政策・行政		○前半	川上教授	1	選択必修
コア領域5	H075000	行動科学	○前半		田近准教授	1	推奨
	H076000	基礎医療倫理学	○前半		井上教授	1	GC必修
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○前半		岩隈准教授	1	推奨
MPH必修	H164000	医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）	○*		小川特定講師	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	尾野教授・加藤准教授・塩見助教・山田助教・河田講師	2	
	H008000	臨床医学概論		○	高田特任助教・齋藤助教・岩崎講師・星野特任講師・千葉非常勤講師	2	
	N901000	課題研究（遺伝カウンセラー）	2年次		所属分野の指導員	4	
GC必修	H040000	基礎人類遺伝学	1年次*		小川特定講師	2	
	N015000	遺伝医療と倫理・社会	1年次*		小川特定講師	2	
	N021000	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	1年次*		小川特定准教授	3	
	N022000	基礎人類遺伝学演習		1年次	川崎特定講師	1	GC限定
	N006000	臨床遺伝学演習（ロールプレイ演習）		1年次*	川崎特定講師	1	GC限定
	N018000	医療倫理学各論		1年次*	井上教授	2	
	N017000	遺伝医学特論（集中講義）	2年次		川崎特定講師	2	
	N020000	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論	1年次*		川崎特定講師	3	GC限定
	N007000	遺伝カウンセリング演習1	1年次（隔週）		川崎特定講師	2	合同カンファレンス
	N008000	遺伝カウンセリング演習2	2年次（隔週）		川崎特定講師	2	合同カンファレンス
	N009000	遺伝カウンセリング実習1	1年次		川崎特定講師	2	GC限定
	N010000	遺伝カウンセリング実習2	2年次		川崎特定講師	4	GC限定
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2	
	H168000	遺伝サービス情報学	1年次後*		川崎特定講師	1	GC限定
GC推奨選択	H157000	社会疫学	○		近藤教授	2	
	H156000	質的研究入門	○後半		中山教授・河野特定講師	1	
	S004000	統計遺伝学Ⅰ	-	-	-	2	参考科目、2024年度は開講せず
	S005000	統計遺伝学Ⅱ	-	-	-	2	参考科目、2024年度は開講せず
	H093000	文献検索法	○前半		高橋准教授	1	
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1	

※ GC = 遺伝カウンセラーコース

[期間] \*マークは、開講日注意。

医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）と基礎人類遺伝学の両方を履修することはできない。

### Ⅲ. 臨床統計家育成 (CB) コース

(<http://www.cbc.med.kyoto-u.ac.jp/>)

#### (1) 学習達成目標

- ① 臨床研究の科学的な質を保つために必要な統計学基礎および臨床統計学を修めること。特に「臨床試験のための統計的原則 (ICH E9 ガイドライン)」について十分に理解すること。
- ② 病院での臨床研究に関する実地研修を通じて、統計解析、データマネジメント等の実務を経験し、臨床統計家に求められる技術に習熟すること。
- ③ 臨床研究の倫理的な質を保つために必要な知識・態度を身に着けること。特に日本計量生物学会作成の「統計家の行動基準」について十分に理解すること。

#### (2) 本コースのカリキュラムの特徴

本コースは、臨床統計家の人材供給を求める日本の臨床研究現場からの強いニーズにより設置された2年制の専門職学位課程である。コース修了後は、臨床統計家育成コースを修了したことを証明する修了証とともに社会健康医学修士(専門職)が授与される。本コースでは、臨床統計家に必要な知識、技術、態度を2年間で体系的に学習できるよう、臨床統計関連科目だけではなく、医学、疫学、研究倫理などから全体のカリキュラムが構成されている。これに加えて、臨床試験を実施している京都大学医学部附属病院・国立循環器病研究センターと連携し、on the job training による臨床研究に関する実地研修を提供する(1年次・2年次の夏季集中で行う臨床研究実地研修Ⅰ・Ⅱ)。この実務経験を通じて、計画立案、データマネジメント、解析等、臨床統計学の実践的な技術を学ぶことができる。また、本コース推奨科目以外にも社会健康医学系専攻が提供する多くの科目を履修することができる。

#### (3) 修了要件

科目	「医療系」 出身者※	「医療系」 以外出身者
MPH コア 5 領域 (コア領域 1-5 のすべての領域を含むこと)	10	10
医学基礎Ⅰ <sup>(注1)</sup> 、医学基礎Ⅱ、臨床医学概論	—	6
臨床統計家育成コース必修	19	19
課題研究	4	4
合計	33	39

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部・公衆衛生学部などの医療系学部の出身者

上記以外でかつ生物系等学部、医療系短期大学及び医療系専門学校出身者であっても医療系の国家資格を取得できるコースの出身者は、一括認定の対象とする。

「上記の一括認定されなかった者」で、「医療系」出身者としての認定を求める際は、入学時に申請が必要である。

(注1)「医学基礎Ⅰ」として、「医学基礎Ⅰ(生理学Ⅰ)」「医学基礎Ⅰ(神経生理学)」「医学基礎Ⅰ(解剖学)」あるいは「医学基礎Ⅰ(基礎人類遺伝学)」のいずれか履修すること。

照会先：医療統計学分野および臨床統計学分野

令和6年度 社会健康医学系専攻 臨床統計家育成コース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域1	H118000	疫学Ⅰ (疫学入門)	○*		中山教授	1	必修
	H119000	疫学Ⅱ (研究デザイン)	○前半		山本教授	1	必修
コア領域2	H001000	医療統計学	○		近藤教授・佐藤非常勤講師	2	必修
コア領域3	H070000	感染症疫学	○後半		西浦教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○前半		西浦教授	1	選択必修
コア領域4	H166000	医療制度・政策・経済	○		今中教授	2	選択必修
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	選択必修
	H109000	医薬政策・行政		○前半	川上教授	1	推奨
	H126000	保健・医療の経済評価	○前半		今中教授	1	推奨
	H170000	健康危機管理の制度政策と実践		通年	今中教授	1	選択必修
コア領域5	H075000	行動科学	○前半		田近准教授	1	選択必修
	H076000	基礎医療倫理学	○前半		井上教授	1	選択必修
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○前半		岩隈准教授	1	選択必修
	H157000	社会疫学	○		近藤教授	2	選択必修
MPH 必修	H154000	医学基礎Ⅰ (生理学Ⅰ)	○前半		近藤教授	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。ただし、医学基礎Ⅰ (生理学Ⅰ)・医学基礎Ⅰ (神経生理学)・医学基礎Ⅰ (解剖学)・医学基礎Ⅰ (基礎人類遺伝学) についてはいずれか1つを選択必修。
	H163000	医学基礎Ⅰ (神経生理学)		○後半	近藤教授	2	
	H153000	医学基礎Ⅰ (解剖学)	○前半		近藤教授	2	
	H164000	医学基礎Ⅰ (基礎人類遺伝学)	○*		小川特定准教授	2	
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	尾野教授・加藤准教授・塩見助教・山此助教・河田講師	2	
	H008000	臨床医学概論		○	高田特任助教・錦織助教・岩崎講師・星野特任講師・千葉非常勤講師	2	
	I019000	課題研究 (臨床統計家育成コース)		2年次	各指導教員	4	
CB 必修	H136000	統計的推測の基礎	○		大森特定教授	2	
	H134000	統計家の行動基準	○*		大森特定教授	1	
	H011000	医療統計学実習	○		大森特定教授	2	
	H112000	臨床試験	○		田中(司)特定教授	2	
	H137000	生存時間解析		集中	大森特定教授	1	夏季集中講義
	H138000	統計モデルとその応用		集中	大森特定教授	1	夏季集中講義
	H021000	交絡調整の方法		○	大森特定教授	2	
	H022000	解析計画実習		○	大森特定教授	2	
	H135000	臨床試験の統計的方法		○前半	田中(司)特定教授	1	
	K025000	臨床研究データ管理学		○前半	中尾葉子特定准教授	1	MCR 限定選択・CB 限定必修
	H140000	臨床研究実地研修Ⅰ		通年・集中	田中(司)特定教授	2	CB 限定必修 (病院での実習)
	H147000	臨床研究実地研修Ⅱ		通年・集中	田中(司)特定教授	2	CB 限定必修 (病院での実習)
CB 推奨 選択	H139000	臨床統計家の実務スキル	○		大森特定教授	1	
	H093000	文献検索法	○前半		高橋准教授	1	
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1	
	H144000	統計的推測の基礎・演習	○		大森特定教授	1	CB 限定選択
	H145000	多重性の考え方	○前半		大森特定教授	1	
	H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1	
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2	
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2	
	H130000	健康情報学Ⅰ		○	中山教授	2	
	H151000	健康情報学Ⅱ		○	高橋准教授	2	
H146000	メタアナリシス		集中	田中(司)特定教授	1	CB・MCR 限定選択	

※ CB = 臨床統計家育成コース

[期間] \*マークは、開講日注意。



## ＜特別プログラム＞

### I. 知的財産経営学プログラム

#### (1) 知的財産経営学プログラムの概要

大学の研究成果をもとに新規産業を興し経営するには、これまでの日本の企業風土で蓄積された企業文化、経営のノウハウとは異なるものが要求される。その一つが技術経営であり、特に知的財産を最大限に活用する知的財産戦略を担うディレクター（知的財産ディレクター）の仕事である。ここで期待される人材は、複数の異なるベクトルを持つ必要がある。

- ① 自然科学の分野において、医学研究科で先端医学領域の研究を実施している教員や産業界における探索・開発研究の経験が豊富な教員による講義により、トップレベルの科学的な知識とその活用に当たっての社会的受容性の知識を習得してもらう。
- ② 人文・社会健康医学系専攻科学の分野において、知的財産権やその他ビジネスに関する基礎は、各専門分野により選ばれた教員の講義から知識を学ぶと共に、実業界でのキャリアを持つ講師（ベンチャーキャピタル分野）から、企業会計や知的財産の市場評価・流通の実務的なスキルと知識を学ぶ。
- ③ 上記により習得した知識をベースとして、実務経験を通じた知識の深化と、即戦力としての実務能力の養成を行う。具体的には、京都大学医学領域拠点業務との連携やエクスターンシップの実施も含めて、テーマ毎に適切な指導教員のもとで研究者とも連携し、研究成果の権利化と活用の実務を手伝う。実施項目としては、発明の抽出、周辺特許調査、明細書作成、ビジネスプラン作成、契約実務作業等を経験する。これらにより発明の開示から知的財産としての活用までの全体の流れを把握し、出願妥当性の判断に至る経緯の考察や産業界との連携における問題点と解決法に関する考察などのプレゼンテーションまで実際に経験させる。

これらにより専門職大学院として問題解決能力、実践・実務能力を身に付け、生命科学分野における知的財産経営、技術経営に関する高度な専門性を有する人材養成のための教育研究を行う。

#### (2) 修了要件

本プログラムの修了要件は、2年以上在学し、下記の30単位を修得し、本プログラムが定めるカリキュラムを修了することである。

	「医療系」出身者	「医療系」以外出身者
MPH コア 5 領域(コア領域 1 - 5 のすべての領域を含む)	7	7
MPH 必須	—	6
知的財産領域必修	8	8
課題研究 (知的財産経営学)	4	4
選択	1 1	5
計	3 0	3 0

照会先：知的財産経営学分野

令和6年度 社会健康医学系専攻 知的財産経営学プログラム 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○*		中山教授	1	必修
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○前半		山本教授	1	必修
コア領域2	H001000	医療統計学	○		近藤教授・佐藤非常勤講師	2	必修
コア領域3	H070000	感染症疫学	○後半		西浦教授	1	選択必修
	H124000	産業・環境衛生学	○前半		西浦教授	1	
コア領域4	H166000	医療制度・政策・経済	○		今中教授	2	選択必修
	H126000	保健・医療の経済評価	○前半		今中教授	1	
	H127000	社会健康医学と健康政策	○		健康政策の運営委員会	2	
	H109000	医薬政策・行政		○前半	川上教授	1	
	H170000	健康危機管理の制度政策と実践	通年		今中教授	1	
コア領域5	H075000	行動科学	○前半		田近准教授	1	選択必修
	H076000	基礎医療倫理学	○前半		井上教授	1	
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○前半		岩隈准教授	1	
	H157000	社会疫学	○		近藤教授	2	
MPH 必修	H154000	医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）	○前半		近藤教授	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。ただし、医学基礎Ⅰ（生理学Ⅰ）・医学基礎Ⅰ（神経生理学）・医学基礎Ⅰ（解剖学）・医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）についてはいずれか1つを選択必修。
	H163000	医学基礎Ⅰ（神経生理学）		○後半	近藤教授	2	
	H153000	医学基礎Ⅰ（解剖学）	○前半		近藤教授	2	
	H164000	医学基礎Ⅰ（基礎人類遺伝学）	○*		小川特定准教授	2	
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	尾野教授・加藤講師・塩見助教・渡部両准特助教・河田講師	2	
	H008000	臨床医学概論		○	高田特助教・錦織助教・岩破講師・星野特助講師・千葉非常勤講師	2	
M018000	課題研究（知的財産経営学）	2年次		各指導教員	4		
知的財産領域必修	M001000	アントレプレナーシップ	○		寺西非常勤講師	2	一部科目で集中講義や不規則開講の形式をとるものもあり。各シラバスなどを確認すること。
	M119000	医療ビジネス・イノベーション概論	○		早乙女特定教授	2	
	M024000	特許法特論・演習（前期）	○		高山非常勤講師・東田非常勤講師	2	
	M004000	契約実務演習		○	鈴木特定准教授	2	
選択	M017000	知的財産経営学基礎	○		早乙女特定教授	2	
	M021000	アントレプレナーシップ特論	集中		早乙女特定教授	2	夏期集中講義
	M025000	特許法特論・演習（後期）		○	田中（順）非常勤講師	2	
	M007000	知的財産法演習		○	當麻非常勤講師	2	
	M120000	創薬医学特論		○	早乙女特定教授	1	
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2	
	H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1	
	M009000	薬理学 <sup>(医)</sup>	(春期)		林教授	2	
	M027000	生化学 <sup>(医)</sup>	(春期)		竹内教授	2	

注1：(医)は医学部医学科の科目

注2：選択科目にはこの他にも、経済学研究科、法学研究科の関連科目を個別に単位認定する可能性があるため、指導教員に確認すること。

\*開講日注意

## II. 医療経営ヤングリーダー・プログラム

### (1) 医療経営ヤングリーダー・プログラムの概要

医療経営ヤングリーダー・プログラムは、高度専門職である医療経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムであり、財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、新たな教材や教育方法の創造にも参加し、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて演習、調査、ケーススタディ等を行う。

当プログラムは、面接、審査の上、経営の素養と意欲のある人材、各年若干名を対象に開講する。ケーススタディに加えて、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、支援活動などを進め、情報収集、分析、妥当な計画立案、説得力ある討議、環境適応、変革・創造、行動の力を高めるべく訓練を行う。これらを通じて現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担いようとする人材の養成をめざす。

### (2) 医療経営ヤングリーダー・プログラムの修了要件

- ① 社会健康医学系専攻専門職学位課程の修了のための要件を満たすこと
- ② 下記を全て履修すること

区分	科目コード	科目名	単位	時期
コア領域4	H166000	医療制度・政策・経済	2	前期
コア領域4	H126000	保健・医療の経済評価	1	前期前半
限定	H082000	医療経営特別カリキュラムⅠ	2	前期集中
限定	H083000	医療経営特別カリキュラムⅡ	2	後期集中
限定	H053000	医療経営ケーススタディ	2	通年集中
MPH必修	I005000	課題研究（医療経済学分野）	4	—

※前年度以前開講科目の科目変更については、「(別表) 科目変更対応表」を確認すること。

- 社会健康医学系専攻の多くの科目の選択を自ら設計して積極的に履修することを強く推奨する。
  - さらに、経営管理大学院、公共政策大学院、または経済学研究科の科目を履修することを強く推奨する。
  - また、当該分野でのセミナーに積極的に参加することが求められる。
- ③ 課題研究で医療経営に関わる課題に取り組むこと

照会先：医療経済学分野

◇ 社会健康医学系専攻 2024年度 前期時間割 (4~9月) : 全教科

月	火	水	木	金
1限 8:45~10:15	【MGR限定】 社会疫学 研究法 (前期後半) 近藤 【先講】	【MPH選択】【GC推奨選択】 質的研究入門 (前期後半) 中山・河野 【A】	【GC限定必修】 遺伝カウンセリング コミュニケーション (1年次) 川崎 【演習】	【コア必修】 疫学Ⅱ (前期前半) 山本(洋) 【A】
2限 10:30~ 12:00	【コア必修】 医療統計学 教務委員(近藤)・佐藤(後) 【A】	【コア選択必修】 医療制度・政策・経済 今中 【先講】	【コア選択必修】 産業・環境 衛生学 (前期前半) 西浦 【A】	【コア必修】 感染症疫学 (前期後半) 西浦 【A】
3限 13:45~ 14:45	【コア選択必修】 【MGR推奨選択】 【GC推奨選択】 社会疫学 近藤 【先講】	【MCR限定必修】 経済評価 (前期前半) 今中 【先講】	【MCR推奨選択】 医療の 質評価 (前期後半) 今中 【先講】	【MPH選択】 ヘルスサイエンス 研究の進め方 中山 【A】
4限 15:00~ 16:30	【MPH選択】 【MGR推奨選択】 【GC推奨選択】 文献評価法 (前期前半) 近藤 【A】	【コア選択必修】 保健・医療の 経済評価 今中 【先講】	【MPH選択】 毒性科学 原田 【先講】	【MPH選択】 統計的推測の 基礎 大森 【演習】
5限 16:45~ 18:15	【MCR限定必修】 臨床研究 計画法 川上 【A】	【MPH選択】 臨床疫学・ 遺伝カウンセリング 小川(昌) 【演習】	【MCR推奨選択】 臨床研究計画法演習I 山本(洋) 【A】	【MPH選択】 レジリエントな社 会づくりのイノ ベーション: 願望・自由発言 (通年) 今中 【C/D】
6限 18:30~ 20:00	【MCR限定選択】 データ分析 特講 (前期後半) 山本(洋) 【演習】	【MCR推奨選択】 知的財産経営学基礎 早乙女 【M/C】	【コア選択必修】 【MCR必修】 基礎医療 倫理学 (1年次・前期前半) 井上 【A】	【GC限定必修】 遺伝カウンセリング 1-2 (通年) 川崎 【A】

【A】 G棟2F セミナー室 A	【MCR限定必修】 臨床研究 計画法 川上 【A】	【MCR推奨選択】 知的財産経営学基礎 早乙女 【M/C】	【MCR推奨選択】 臨床研究計画法演習I 山本(洋) 【A】	【MPH選択】 レジリエントな社 会づくりのイノ ベーション: 願望・自由発言 (通年) 今中 【C/D】
【B】 G棟2F セミナー室 B	【MCR限定必修】 臨床研究 計画法 川上 【A】	【MCR推奨選択】 知的財産経営学基礎 早乙女 【M/C】	【MCR推奨選択】 臨床研究計画法演習I 山本(洋) 【A】	【MPH選択】 レジリエントな社 会づくりのイノ ベーション: 願望・自由発言 (通年) 今中 【C/D】
【C/D】 G棟2F セミナー室 C/D	【MCR限定必修】 臨床研究 計画法 川上 【A】	【MCR推奨選択】 知的財産経営学基礎 早乙女 【M/C】	【MCR推奨選択】 臨床研究計画法演習I 山本(洋) 【A】	【MPH選択】 レジリエントな社 会づくりのイノ ベーション: 願望・自由発言 (通年) 今中 【C/D】
【演習】 G棟3F 演習室	【MCR限定必修】 臨床研究 計画法 川上 【A】	【MCR推奨選択】 知的財産経営学基礎 早乙女 【M/C】	【MCR推奨選択】 臨床研究計画法演習I 山本(洋) 【A】	【MPH選択】 レジリエントな社 会づくりのイノ ベーション: 願望・自由発言 (通年) 今中 【C/D】
【先講】 先端科学研究棟1F セミナー室	【MCR限定必修】 臨床研究 計画法 川上 【A】	【MCR推奨選択】 知的財産経営学基礎 早乙女 【M/C】	【MCR推奨選択】 臨床研究計画法演習I 山本(洋) 【A】	【MPH選択】 レジリエントな社 会づくりのイノ ベーション: 願望・自由発言 (通年) 今中 【C/D】
【M/C】 メディカルイノベーションセンター (医学部付属病院西棟内)	【MCR限定必修】 臨床研究 計画法 川上 【A】	【MCR推奨選択】 知的財産経営学基礎 早乙女 【M/C】	【MCR推奨選択】 臨床研究計画法演習I 山本(洋) 【A】	【MPH選択】 レジリエントな社 会づくりのイノ ベーション: 願望・自由発言 (通年) 今中 【C/D】
【H/K】 医業系総合研究棟3階	【MCR限定必修】 臨床研究 計画法 川上 【A】	【MCR推奨選択】 知的財産経営学基礎 早乙女 【M/C】	【MCR推奨選択】 臨床研究計画法演習I 山本(洋) 【A】	【MPH選択】 レジリエントな社 会づくりのイノ ベーション: 願望・自由発言 (通年) 今中 【C/D】

集中講義、同時など:  
 【MPH選択】 質的研究・演習 (通年・集中) 岩隈  
 【MPH選択】 社会疫学特講 (前期・集中) 川崎  
 【MPH選択】 社会健康疫学野外実習 (前期・集中) 所属分野の指導教員等  
 【MPH選択】 健康デザイン論 (通年・集中) 中山  
 【MPH選択】 臨床疫学・産業医学 (前期・集中) 西浦  
 【MPH選択】 行政医学・疫学 (前期・集中) 今中  
 【MPH選択】 公衆衛生の発展と医療におけるリスクコミュニケーション (通年・集中) 中山  
 【MPH選択】 臨床疫学管理・改善医療マネジメントワークショップ (前期・集中) 早乙女  
 【MPH選択】 アントレプレナーシップ特講 (前期・集中) 早乙女

限定科目:  
 【GC限定必修】 臨床研究実地研修Ⅰ (通年・集中) 田中(百)  
 【CB限定必修】 臨床研究実地研修Ⅱ (通年・集中) 田中(百)  
 【GC限定】 遺伝カウンセリング実習Ⅰ・Ⅱ (通年・随時) 川崎  
 【CB/MCR限定】 メタアナリシス (前期・集中) 田中(百)  
 【医療経営やカリエータ・ワーカーに限定】 医療経営ケーススタディ (通年・集中) 今中  
 【医療経営やカリエータ・ワーカーに限定】 医療経営特別カリキュラムⅠ (前期・集中) 今中  
 【政策のための科学限定必修】 科学技術イノベーション政策 (通年) 川上・小泉・ベッカー  
 【政策のための科学限定必修】 科学技術イノベーション政策特別演習 (夏季・集中) 川上  
 【政策のための科学限定必修】 科学技術イノベーション政策特別演習 (夏季・集中) 川上・小泉・ベッカー  
 【政策のための科学限定必修】 政策のための科学限定演習 (前期・不定時) 川上・小泉・ベッカー

◇ 社会健康医学専攻 2024年度 後期時間割 (10~3月) : 全教科

	月	火	水	木	金
1限 8:45~10:15		【MPH選択】 【MCR推奨選択】 健康・予防医療学 領域の実践科学 石原 【A】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 健康・予防医療学 領域の実践科学 石原 【A】	【GC限定必修】 遺伝カウンセリング コミュニケーション概論 川崎 【1年次】 【演習】	【MCR限定選択・GB限定必修】 臨床研究デザイン管理 学 中尾 【B】
2限 10:30~12:00	【MCR限定選択】 系統的レビュー 小川(雄) 【A】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 交感調節の方法 大森 【A】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 交感調節の方法 大森 【A】	【MPH必修(医係系以外)】 【MCR推奨選択】 【知財選択必修】 医学基礎II 教務委員長(近藤) 【A】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 健康情報学I 中山 【A】
3限 13:15~14:45	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 QOL-PRO 評価法 山本(洋) 【A】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 解析計画実習 大森 【演習】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 解析計画実習 大森 【演習】	【MPH選択】 【知財選択】 【GC必修】 ケノム科等と 医療 松田 【南福総合研究棟 ヒョウライン】	【MCR限定選択】 EBM・診療ガイドライン 特論 中山 【演習】
4限 15:00~16:30	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 人間生体学 坂本 【東南アジア研究所・ 東棟E202】	【MCR限定選択】 臨床研究計画法演 習II 【A】 山本(洋)	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 臨床研究計画法演 習II 【A】 山本(洋)	【政策のための科学】 現代社会と 科学技術B 川上 【B】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 健康情報学II 高橋 【演習】
5限 16:45~18:15	【MCR限定必修】 臨床研究計画法II 川上 【A】	【知財必修】 【MPH選択】 契約実務演習 鈴木 【MIC】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 臨床試験の 統計的方法 田中(司) 【B】	【MPH選択】 【知財選択】 【GC必修】 基礎人類遺伝学 演習 川崎 【1年次】 【演習】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 環境曝露・ リスク評価 原田 【先端】
6限 18:30~20:00	【MCR限定選択】 臨床研究特論 石原 【A】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 知的財産法演習 高橋 【MIC】	【MPH選択】 【MCR推奨選択】 知的財産法演習 高橋 【MIC】	【GO限定必修】 遺伝カウンセリング 演習1-2 川崎 【A】	【GO必修】 【MPH選択】 医療倫理学 各論 井上 【演習】

**限定科目:**  
 【医療経営やクリニック・グループウェア限定】 医療経営ケーススタディ (通年・集中) 今中  
 【医療経営やクリニック・グループウェア限定】 医療経営特別カリキュラムII (後期・集中) 今中  
 【政策のための科学】 科学限定必修】 科学技術コミュニケーション演習 (通年・集中) 川上・小泉・ベッカー  
 【政策のための科学】 科学限定必修】 研究プロジェクト (通年) 川上  
 【GB限定必修】 臨床研究実地研修 (通年・集中) 田中(司)  
 【GB限定必修】 臨床研究実地研修II (通年・集中) 田中(司)  
 【GO限定】 遺伝カウンセリング実習1・2 (通年・随時) 川崎

**集中講義・随時など:**  
 【MPH選択】 質的研究・演習 (通年・集中) 岩隈  
 【MPH選択】 健康子ザイン論 (通年・集中) 中山  
 【MPH選択】 ベンチトレーニングコース (後期・集中) 原田  
 【MPH選択】 生存時間解析 (後期・集中) 大森  
 【MPH選択】 統計モデルとその応用 (後期・集中) 大森  
 【MPH選択】 公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション (通年・集中) 中山  
 【知財選択】 創薬医学特論 (後期・不定期) 早乙女

【A】 G棟2F セミナー室 A  
 【B】 G棟2F セミナー室 B  
 【C/D】 G棟2F セミナー室 C/D  
 【演習】 G棟3F 演習室  
 【先端】 先端科学研究棟1F セミナー室  
 【MIC】 メディカルイノベーションセンター  
 (医学部付属病院西構内)









## 社会健康医学系専攻授業科目内容

科目ナンバリング		P-PUB01 8H118 LB90	
授業科目名 <英訳>	疫学 I (疫学入門) 【領域1】	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫
	Epidemiology I		滋賀医科大学 教授 三浦 克之 東京都健康長寿医療センター 石崎 達郎 研究部長 藤岡 隆 社会健康医学大学院大学 田原 康文
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・前期集中		
曜時間	金3・4	授業形態	講義 (対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>【授業の概要・目的】</b>			
<p>・本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の必須科目の一つです。</p> <p>・臨床研究を含む社会健康医学 (パブリックヘルス) 領域において、最も基本となる疫学の考え方、方法論についての入門的な講義を行います。</p>			
<b>【到達目標】</b>			
<p>・疫学の基本的考え方、用語、概念、方法論を説明できる。</p> <p>・疫学の発展的な知識を学ぶための基礎を身に付ける。</p>			
<b>【授業計画と内容】</b>			
<p>第1回 4月12日 (3限) 疫学とは何か? : イントロダクション (中山)</p> <p>第2回 4月12日 (4限) コホート研究・症例対照研究 (中山)</p> <p>第3回 4月19日 (3限) 介入研究 (中山)</p> <p>第4回 4月19日 (4限) 追跡型研究 (中山)</p> <p>第5回 4月26日 (3限) 疫学研究と倫理指針・報告ガイドライン (中山)</p> <p>第6回 4月26日 (4限) 疫学をめぐる話題: 政策と疫学・ビッグデータ (中山)</p> <p>第7回 5月17日 (3限) 高齢者の疫学研究 (石崎)</p> <p>第8回 5月17日 (4限) 視聴覚教材「大いなる航海」 (中山)</p> <p>特別講義予定あり (三浦・田原)</p>			
<b>【履修要件】</b>			
特になし			
<b>【成績評価の方法・観点】</b>			
最終レポート (相互閲覧) (80%)、毎回の小レポート (20%)			
<b>【教科書】</b>			
講義資料は配布			
疫学 I (疫学入門) 【領域1】 2へ続く ↓ ↓ ↓			

疫学 I (疫学入門) 【領域1】 (2)
<b>【参考書等】</b>
<p>(参考書)</p> <p>川村孝 『エビデンスをつくる』 (医学書院)</p> <p>中山健夫・津谷喜一郎 『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』 (ライフサイエンス出版)</p> <p>矢野栄二・橋本英樹 『ロスマンの疫学』 (篠原出版新社)</p> <p>厚生統計協会編集 『図説・国民衛生の動向』 (厚生統計協会)</p> <p>ロドルフォ・サラッチ著 『読んでわかる! 疫学入門』 (大修館書店)</p>
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b>
予習は特に必要でないが、講義の復習には十分時間をあててください。
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b>
<p>・症例研究や基礎的研究と異なる「人間集団を対象とする」という疫学研究の意義と可能性を理解してもらえればと願っています。</p> <p>・本コースの内容の多様性と一貫性を保つために、担当教員はシラバス作成時、学期中、終了後など、適宜、意見交換を行い、講義資料を共有して連携を図っています。</p> <p>・留学生対応として、講義資料の事前提供、Key termの日英併記を進めます。</p> <p>・特別講義の予定は初回の講義で説明します。</p> <p>人間健康科学系専攻学生の受講可否: 可</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>

科目ナンバリング		P-PUB01 8H119 LB90	
授業科目名 <英訳>	疫学 II (研究デザイン) 【領域1】	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 山本 洋介
	Epidemiology II		医学研究科 准教授 小川 雄右 非常勤講師 土方 保和 非常勤講師 三品 浩基 医学研究科 特定助教 板谷 崇央
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・前期前半		
曜時間	金1,2	授業形態	講義 (対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>【授業の概要・目的】</b>			
<p>※ 状況により、オンライン授業で実施することがあります。</p> <p>社会健康医学領域の研究デザインに必要な理論や基本的知識を、事例を交えて学びます。なお、質的な研究は含まれません。</p>			
<b>【到達目標】</b>			
<p>・自分の疑問をリサーチエッセションに構造化できる。</p> <p>・様々な研究事例にふれ、自身の研究を着想するための基礎となる知識を身に付ける。</p>			
<b>【授業計画と内容】</b>			
<p>1) 4/26 (1限) イントロダクション・研究デザインとは (山本)</p> <p>2) 5/10 (1限) リサーチエッセションの構造化 (小川)</p> <p>3) 5/10 (2限) リサーチエッセションの構造化: 実習 (小川・板谷・山本)</p> <p>4) 5/24 (1限) 調査研究法 (山本)</p> <p>5) 5/24 (2限) 事例: 質問票を用いた研究 (三品・山本)</p> <p>6) 6/14 (1限) メタアナリシス・システマティックレビューの概要 (小川)</p> <p>7) 6/14 (2限) 診断研究・予後予測指標に関する研究 (土方)</p> <p>8) 6/28 (1限) 分割時系列デザインを用いた研究 (板谷)</p> <p>9) 6/28 (2限) 事例: 近年の臨床研究のトピックから (小川・板谷・山本)</p>			
<b>【履修要件】</b>			
<p>・MPHコア (必修) MCR必修科目</p> <p>・「疫学 I」を履修中あるいは履修済であることが履修要件です。</p>			
<b>【成績評価の方法・観点】</b>			
<p>・平常点 (講義への主体的な参加) 50%</p> <p>・レポート 50%</p>			
疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 2へ続く ↓ ↓ ↓			

疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 (2)
<b>【教科書】</b>
授業中に指示する
<b>【参考書等】</b>
(参考書) 授業中に紹介する
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b>
予習は必要ないが、復習を充分行うこと。
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b>
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H001 LJ90		
授業科目名 <英訳>	医療統計学 (コア) 【領域2】 Fundamentals of Biostatistics	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 近藤 尚己 非常勤講師 佐藤 俊哉 医学研究科 特定教授 大森 崇
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・前期		
曜時限	火2	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
<p>医療統計学は社会健康医学の実務・研究に必須であることは広く認識されています。が、医療統計の教科書には怪しげな数式ばかりでてきてとっつきにくく、一部の愛好家以外には敬遠されています。</p> <p>しかし、しかしです、本当は医療統計学っておもしろいのです。</p> <p>「医療統計学はおもしろい」ということをみなさんに伝えたいと、医療統計学では、数学的、技術的な問題に立ち入ることなく、平易なことばで医療統計学の考え方を解説しています。</p> <p>必ず復習をしてください。講義中にはわかった気分になりますが、それが自分のものとなるためには、自分の中で何度も何度も確認する必要があります。毎回、質疑の時間を設けますので、復習してわからなかったことはそこでどんどん質問してください。</p> <p>【講義動画の事前視聴+オンラインライブでのディスカッションと質疑】</p>			
<b>[到達目標]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療統計アレルギーの改善</li> <li>因果関係とコントロール(対照)について理解を深める</li> <li>疫学研究、臨床試験の代表的なデザインを学ぶ</li> <li>医療統計の基礎的な考え方を自分なりに説明できる</li> </ul>			
<b>[授業計画と内容]</b>			
<p>第1回 4月9日 コントロールの重要性【メディア授業:同時双方向型】</p> <p>第2回 4月16日 ビロリ菌と胃がん【メディア授業:同時双方向型】</p> <p>第3回 4月23日 疫学研究デザイン概論【メディア授業:同時双方向型】</p> <p>第4回 4月30日 骨粗鬆症治療薬市販後臨床試験【メディア授業:同時双方向型】</p> <p>第5回 5月7日 臨床試験デザイン概論【メディア授業:同時双方向型】</p> <p>第6回 5月14日 曝露効果、治療効果の指標/ミニテスト1【メディア授業:同時双方向型】</p> <p>第7回 5月21日 統計的仮説検定の考え方【メディア授業:同時双方向型】</p> <p>第8回 5月28日 検定と信頼区間の関係【メディア授業:同時双方向型】</p> <p>第9回 6月4日 ASA声明と「<math>P &lt; 0.05</math>の向こう側」【メディア授業:同時双方向型】</p> <p>第10回 6月11日 研究に必要なサンプルサイズ/ミニテスト2【メディア授業:同時双方向型】</p> <p>6月18日 創立記念日</p> <p>第11回 6月25日 研究の妥当性1【メディア授業:同時双方向型】</p> <p>第12回 7月2日 研究の妥当性2【メディア授業:同時双方向型】</p> <p>第13回 7月9日 新しい疫学研究デザイン【メディア授業:同時双方向型】</p> <p>第14回 7月16日 交絡とはなにか/ミニテスト3【メディア授業:同時双方向型】</p>			

医療統計学 (コア) 【領域2】(2)へ続く↓↓↓

医療統計学 (コア) 【領域2】(2)
<b>[履修要件]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません</li> <li>受講者は単位不要でも必ずミニテストを受けてください</li> <li>医療統計学を履修していないと後期「交絡調整の方法」は履修できません</li> </ul>
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回のディスカッションへの参加 (40%)</li> <li>3回のミニテスト (60%)</li> </ul>
<b>[教科書]</b>
講義前にスライド資料などをPandAにアップします。
<b>[参考書等]</b>
<p>(参考書)</p> <p>佐藤俊哉『宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ』(岩波科学ライブラリー-114, 2005) ISBN:978-4-00-007454-7</p> <p>佐藤俊哉『宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻』(岩波科学ライブラリー-194, 2012) ISBN:978-4-00-029594-9</p> <p>佐藤俊哉『宇宙怪人しまりす 統計よりも重要なことを学ぶ』(朝倉書店, 2024) ISBN:978-4-254-12297-8</p> <p>橋広計、藤田利治、佐藤俊哉編『これからの臨床試験』(朝倉書店, 1999) ISBN:978-4-254-32185-6</p> <p>佐藤俊哉、山口拓洋、石黒智恵子編『これからの薬剤疫学』(朝倉書店, 2021) ISBN:978-4-254-30123-6</p> <p>ロスマン, KJ『ロスマンの疫学, 第2版』(篠原出版新社, 2013) ISBN:978-4-8841-2372-7</p>
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
講義の前の週の金曜までに講義動画をアップしますので、当日までに視聴してください。復習も忘れずに。
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b>
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H070 LB90		
授業科目名 <英訳>	感染症疫学 【領域3】 Infectious Disease Epidemiology	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 西浦 博
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・前期集中		
曜時限	木2	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
<p>This module clearly explains fundamental concepts of infectious disease epidemiology and sets out the analytical methods employed in public health practice. The contents of the lecture series covers the concept/definition of various epidemiological measurements, assessment of the spread and control of infectious diseases using a variety of statistical methods, statistical estimation of key epidemiological indices, and introduces mathematical modeling of infectious diseases. This vast and important area of epidemiology is described in line with recent and ongoing health concerns such as HIV/AIDS, tuberculosis, malaria, dengue, SARS and influenza.</p>			
<b>[到達目標]</b>			
<p>a. Explain two special characteristics of infectious diseases, b. Explain public health importance of asymptomatic infection</p> <p>c. Describe and classify various epidemiological risks of infection and death, d. Describe the concept of herd immunity and its importance in public health practice and epidemiologic exercise, e. Describe the concept of early detection of outbreak in a sense of hypothesis testing, f. Describe the fundamental concept and method of using historical baseline, g. Explain how each of the following methods detects an outbreak: regression method, time series technique and scan statistic</p>			
<b>[授業計画と内容]</b>			
<p>Each session takes 90 minutes in total. First 60 minutes are spent for unidirectional lecture. Remaining 30 minutes are split into two parts, i.e., 15 minutes in-class assessment and 15 minutes scoring session plus Q&amp;A.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: mechanisms and epidemiological measurements of infectious diseases</li> <li>2. Natural history of infectious diseases</li> <li>3. Measuring transmissibility and severity: Concept and definition</li> <li>4. Outbreak investigation (1): active surveillance data</li> <li>5. Estimating prevalence: Unobservable nature of infection event</li> <li>6. Vaccine efficacy: Addressing dependent happening</li> <li>7. Outbreak investigation (2): notification data</li> <li>8. Tutorial, followed by exam</li> </ol>			
<b>[履修要件]</b>			
Have a background with basics of epidemiology (e.g. MPH core curriculum)			

感染症疫学 【領域3】(2)へ続く↓↓↓

感染症疫学 【領域3】(2)
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
<p>Attendance to a total of two-thirds of classes will be required to be eligible for final examination. Evaluation is conducted by coursework (i.e. comprehension during the class) (30%) and examination (70%).</p>
<b>[教科書]</b>
西浦博(編)『感染症疫学のためのデータ分析入門』(金芳堂, 2021) ISBN:978-4-7653-1882-2 (感染症疫学の入門書。本専門職学位課程での講義内容に準拠してまとめています。)
<b>[参考書等]</b>
<p>(参考書)</p> <p>西浦博(編)『感染症流行を読み解く数理』(日本評論社, 2022) ISBN:978-4-535-78759-9 (感染症の流行データを数理的に検討したい方向け。)</p>
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>
No specific preparation would be required. At the end of each session, we will have in-class assessment consisting of approximately 5-8 multiple choice questions.
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b>
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H124 LB90			
授業科目名 <英訳>	産業・環境衛生学 【領域3】 Occupational health and environmental health sciences	担当者所属 職名・氏名	医学研究科 教授 西浦 博		
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期前半
曜時間	木2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
1) ヒトの健康と環境とのかかわりについて、健康被害を基にメカニズムを理解すること。 2) 大気、水、土、さらに食品などの環境から様々な有害な化学物質を取り込む仕組みについて説明可能になること。 3) 中毒量がどのように定まっているのか、また、健康影響がどのように同定されているのか、基本的な知識と考え方を修得すること。 This module introduces health-related problems in relation to environment, focusing on mechanisms by which human health is damaged. Participants are advised to understand and describe how the natural environment including air, water and land as well as foods are associated with potential harmful chemical substance to humans. Moreover, toxicological assessment of reference dose and how the health effect is evaluated is reviewed.					
<b>【到達目標】</b>					
1) 健康と生存環境（一般生活環境と産業職場）あるいは自然環境との関係について基礎理論や事例分析、疫学的分析などを通じて十分に理解すること。 2) 公害や環境汚染を含む環境問題と健康の関わり、放射線被害の実態、労働における健康問題に関して弱者の立場を受容し、それらに対してわが国がどう対応してきたのかを記述できること。 3) 感染症あるいは中毒の患者が発生した際に、公衆衛生専門家として実施すべき行動を自発的に考え、理路整然と具体的な行動を述べるができること。 4) 社会医学的問題を肌で感じ、問題解決の現場に触れ、それを通じて、より良い社会の在り方について考え、仮想的に創造すること。 1. To understand how the health and environment are influencing each other via important examples of public nuisance in humans. 2. To describe how humans have faced public nuisance, environmental exposures including radiation and occupational hazards. 3. To logically explain how public health experts can take actions against infectious diseases and exposure accident with a toxic substance. 4. To simulate ideal future society by touching upon existing problems in social medicine and their solutions.					
<b>【授業計画と内容】</b>					
2024年度は第1回講義は4月11日（木）10:30とするので注意すること。					
全8回で構成する。 1) 環境保健学総論 2) 中毒学概論 3) 環境汚染の評価、公害 4) 放射線と健康 5) 産業保健入門 6) 住環境・騒音・振動、廃棄物と環境・健康、水質・水質汚濁 7) 食中毒と食品保健					
産業・環境衛生学 【領域3】(2)へ続く↓↓↓					

<b>産業・環境衛生学 【領域3】(2)</b>	
8) 化学物質の管理 Lectures. In total, there will be eight sessions. 1. Introduction to environmental medicine. 2. Toxicology 3. Environmental assessment and public nuisance 4. Radiation 5. Introduction to occupational health 6. Living environment, sound, environmental pollution and health 7. Food poisoning and food hygiene 8. Management of chemical substance	
<b>【履修要件】</b>	
MPHコア選択	
<b>【成績評価の方法・観点】</b>	
出席回数が3分の2に相当する6回以上を満たし、十分に内容を理解していることを講義中の個別質問で確認し、また、最終試験を実施することで修了を判定します。 Mandatory to attend two-thirds of sessions (i.e. attendance to a minimum of 6 lectures). Evaluations will be made by individual interviews during classes and final exam.	
<b>【教科書】</b>	
講義中の配布資料。	
<b>【参考書等】</b>	
<b>（参考書）</b> 以下、参考にさせていただきます。 CURRENT Occupational & Environmental Medicine: Fourth Edition / Joseph LaDou : McGraw-Hill Medical, 2006, ISBN:978-0071443135	
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>	
地球環境問題および化学などの知識は必ずしも必要ではありませんが、適宜、一般常識レベルで学習されることを求めます。	
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H166 LB90			
授業科目名 <英訳>	医療制度・政策・経済 Healthcare System, Policy and Economics	担当者所属 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特任准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 岡澤 進 医学研究科 特定助教 後藤 悦 医学研究科 特定講師 高田 大輔		
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時間	水2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
医療に関する政策・制度・経済について、国、地域・自治体、医療施設に至る諸々の場における重要課題を扱い、基本的事項を理解する。					
<内容> ・医療・福祉や健康な社会づくりに向けての政策、制度、経済 ・医療システムの把握、評価、向上 ・データ、情報、エビデンスと制度政策 ・医療の質・安全や経済性の評価やマネジメントシステムに関する政策 ・地域医療計画など医療・介護・健康に関連する諸計画 ・保健医療における行動経済学					
<b>【到達目標】</b>					
・医療の領域の政策・制度とマネジメントに関する沿革、現状、理論・概念、研究・評価手法、課題と対策について、重要事項を理解し、他者に説明できるようになること。 ・基本的な研究や社会制度の意義を系統的、批判的に解釈できるようになること。 ・社会健康医学の研究及び実務上の問題解決に、関連しうる知識等を活用できるようになること。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
1 4月10日医療の制度政策概論（1） 2 4月17日医療の制度政策概論（2） 3 4月24日医療の質、効率、そして公正 4 5月 8日 医療の質・安全と組織文化 5 5月15日諸外国と日本の医療の経済評価・HTAの利用 6 5月22日健康の決定要因 7 5月29日医師の偏在と確保：実態と政策 8 6月 5日情報システムと医療管理・政策 9 6月12日医療情報と医療政策 10 6月19日安全・質向上のための保健医療システムとUHCの強化 11 6月26日 医療・健康データの活用と政策 12 7月 3日 医療の質の指標化（QI, CI） 13 7月10日行動経済学の理論と健康関連領域への応用 14 7月17日行動経済学の実社会への応用 15 7月24日医療におけるEvidence-Based Policy					
医療制度・政策・経済(2)へ続く↓↓↓					

<b>医療制度・政策・経済(2)</b>	
* 外部講師他の諸状況により日程変更あります。初回に予定を説明します。	
<b>【履修要件】</b>	
原則、出席80%以上を前提とする *同一科目設定： 2022年度までに「医療制度・政策」、「世界における医療制度・政策」、「行動経済学と健康医療介入」3科目（各1単位）のすべてを取得した学生は、本科目を履修できません。単位の無い聴講を希望する場合は、医療経済学分野まで別途連絡をしてください。	
<b>【成績評価の方法・観点】</b>	
1. レポート 60% 2. 日々の講義へのコミットメント 40%	
<b>【教科書】</b>	
授業中に指示する 適宜、資料を講義にて配布する	
<b>【参考書等】</b>	
<b>（参考書）</b> 『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社；2023） 『病院の教科書第2版』（医学書院） 『医療制度・医療政策・医療経済』（丸善出版,2013） 『医療の原価計算』（社会保険研究所,2003） 『医療安全のエビデンス・患者を守る実践方策』（医学書院,2005） 『NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版』（南江堂, 2018.）	
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>	
予習・復習は必要	
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>	
当分野では、医療政策、医療経営、医療の質・安全・コスト研究に深く関わりたい人を募っています（医療経済学分野： <a href="http://med-econ.umin.ac.jp">http://med-econ.umin.ac.jp</a> ）	
※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	P-PUB01 8H127 LB90		
授業科目名 <英訳>	社会健康医学と健康政策 【領域4】 Health Policy and Academia	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定教授 早乙女 周子 医学研究科 教授 近藤 尚己 医学研究科 教授 西浦 博 医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 教授 川上 浩司 医学研究科 准教授 坂本 龍太 医学研究科 准教授 岩隈 美穂 医学研究科 准教授 田近 亜蘭 医学研究科 准教授 山本 洋介 医学研究科 准教授 原田 浩二 医学研究科 教授 石見 拓 医学研究科 特定講師 高田 大輔 医学研究科 特定教授 田中 司朗 医学研究科 教授 井上 悠輔
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・前期		
曜時間	水3	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
社会健康医学 (Public Health) における、健康・医療に関わる制度・政策、ならびにそれらに貢献・関連する研究、人材育成、その他の専門的活動について学ぶ。 社会健康医学系専攻を構成する各分野から、担当している研究・教育等領域の視点・見識、実績・経験などに基づき、健康・医療に関連する制度・政策や社会の仕組みがどのようにになっているか、また、健康・医療に関連する制度・政策や社会の仕組みに、研究、人材育成、その他の専門的活動がどのように関わり貢献しているかを、講義する。			
<b>[到達目標]</b>			
各分野による講義の全体を通して、健康や医療に係る制度・政策の全貌を多角的に把握できるようにする。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
第1回 4月11日 社会健康医学と健康政策：総論(今中) 第2回 4月18日 健康医療介入政策とエビデンス(今中) 第3回 4月25日 エビデンスとその不確実性(田中) 第4回 5月9日 社会健康医学と知的財産(早乙女) 第5回 5月16日 健康格差の制御(近藤) 第6回 5月23日 新型コロナウイルス感染症の疫学(西浦) 第7回 5月30日 成人における疾病予防：特定健診とがん検診(中山) 第8回 6月6日 感染症研究と倫理審査(井上) 第9回 6月13日 実地に基づく健康政策(坂本) 第10回 6月20日 学校保健や母子保健情報の利活用による地域健康政策(川上)			
社会健康医学と健康政策 【領域4】(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>社会健康医学と健康政策 【領域4】(2)</b>	
第11回 6月27日 ヘルスコミュニケーションと健康政策(岩隈) 第12回 7月4日 地域保健医療行政(今中/協力講師 宮園先生) 第13回 7月11日 心臓突然死対策における社会医学的アプローチ(石見) 第14回 7月18日 健康政策におけるQOL評価(山本) 第15回 7月25日 グローバルメンタルヘルス(田近) 第16回 8月1日 環境保健の制度と政策(原田) *予定は変更となることがあります。初回に予定を説明します。	
<b>[履修要件]</b>	
社会健康医学系専攻の院生 原則、出席80%以上を前提とする	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
講義・討論・グループワーク・発表等におけるコミットメント(配分60%)、レポート(配分40%)により、総合的に評価する。	
<b>[教科書]</b>	
適宜、資料を講義にて配布する	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 『NEW予防医学・公衆衛生学改訂第4版(編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨)』(南江堂, 2018.) 『今中雄一編 認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック:地域共生社会に向けた15の視点(共著)』(学芸出版社; 2023) 今中雄一『病院の教科書第2版』(医学書院) 適宜、資料を講義にて配布する	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
予習・復習は必要	
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b>	
健康政策学に関わる領域の教育を、専攻全体でカバーする。 ※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	P-PUB01 8H109 LB90		
授業科目名 <英訳>	医薬政策・行政 【領域4】 Drug Policy and Regulation	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・後期前半		
曜時間	水2	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
本コースは医学研究科社会健康医学系専攻のMPHコア科目の一つです。医薬品、医療機器を軸に、日本および海外の健康政策、産業政策と行政を俯瞰します。社会福祉、財務、食品衛生、医療経済の観点から、国際的な医薬品認可行政、経済性との整合、ライフサイエンス研究とトランスレショナルリサーチの実践についても学びます。 【講義担当者】川上浩司(薬剤疫学・教授)、松林恵介(吹田市・行政医師)、西嶋康浩(厚生労働省健康局 がん・疾病対策課・課長)、間宮弘晃(国際医療福祉大学・准教授)			
<b>[到達目標]</b>			
・医薬政策・行政、食品衛生行政、社会福祉に関連した政策の基本的考え方、方法論を理解している。 ・医療経済、トランスレショナルリサーチの政策上の取組の基本的考え方、方法論を理解している。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
第1回 10月2日 医薬政策、行政の潮流 (川上) 第2回 10月9日 米国連邦政府における医薬行政 (川上) 第3回 10月16日 医療機器の行政、研究開発と課題 (川上) 第4回 10月23日 医療保険制度と医薬品の評価 (松林) 第5回 10月30日 日本における医薬行政と最近の動向 (間宮) 第6回 11月6日 食品衛生行政 (西嶋)			
<b>[履修要件]</b>			
本コース終了の翌週から継続して講義が行われるH079「医薬品の開発と評価」と連続、一括した内容となっており、原則として通して受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日3・4限のH099「医薬品・医療機器の開発計画、業事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。			
<b>[成績評価の方法・観点]</b>			
講義の場への参加(50%)、レポート(50%)			
医薬政策・行政 【領域4】(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>医薬政策・行政 【領域4】(2)</b>	
<b>[教科書]</b>	
使用しない	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 安生紗枝子ら『新薬創製への招待:開発から市販後の監視まで』(共立出版, 2006.) 川上浩司, 漆原尚己, 田中司朗(監修)『ストロムの薬剤疫学』(南山堂, 2019.)	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
予習は特に不要であるが、復習については十分に行うことを期待する。	
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b>	
川上浩司 G棟3階・内線: 9469(代表) 面談希望は必ずメールでご連絡下さい。 kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp 人間健康科学系専攻学生の受講可否: 可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H126 LB90			
授業科目名 <英訳>	保健・医療の経済評価 【領域4】	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定期教 後藤 悦 医学研究科 特定期師 高田 大輔		
	Economic Evaluation in Health Care				
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期前半
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>保健・医療における経済評価を支える理論・フレームワークについての講義を行い、保健・医療の経済性評価のための主な研究方法を学習します。</li> <li>保健・医療の経済評価は、通常、現実的な制約の中で評価をすることになりますが、その際の研究のあり方についても学習します。</li> <li>保健・医療に関する幅広いテーマの経済評価の検討を行います。</li> </ul>					
<b>[到達目標]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>保健・医療における経済評価を支える理論・フレームワークや研究方法等について、重要事項を説明できる。</li> <li>医療の経済評価に関するバイアスについて理解している。</li> <li>治療技術・薬剤・医療材料・検査・健康政策プログラムなどに関する経済分析に用いられる主な研究方法として、費用分析・費用効果分析・費用効用分析・費用便益分析の違いやそれぞれの適応、費用算定・アウトカム測定・時間の概念・割引率・感度分析、増分費用効果比といった中心的な概念を理解して説明でき、分析結果の適切な解釈ができる。</li> <li>上記を踏まえてこの領域の研究文献を批判的にレビューし、その意義を説明できる。研究プロトコルの作成や研究実施時に、習得した知識・技術を活用できる。</li> </ul>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
第1回 4月10日 保健・医療における経済性の評価(1)					
第2回 4月17日 保健・医療における経済性の評価(2)					
第3回 4月24日 医療経済評価研究の評価法					
第4回 5月1日 経済評価のモデリング					
第5回 5月8日 費用効果/効用分析の方法論1					
第6回 5月15日 費用効果/効用分析の方法論2					
第7回 5月22日 保健・医療の経済評価：論文レビュー&討議1					
第8回 5月29日 保健・医療の経済評価：論文レビュー&討議2					
* 初回に予定を説明します。					
<b>[履修要件]</b>					
非MCR限定 人間健康科学系専攻学生の受講可否：否 原則、出席80%以上を前提とする					
保健・医療の経済評価 【領域4】(2)へ続く↓↓↓					

保健・医療の経済評価 【領域4】(2)					
-----					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
講義・討論・グループワーク・発表等におけるコミットメント(配分40%)、レポート(配分60%)により、総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
適宜、資料を講義にて配布する					
<b>[参考書等]</b>					
<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点(共著)』(学芸出版社；2023)</li> <li>『病院の教科書第2版』(医学書院)</li> <li>Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 4th Ed. Oxford, 2015.</li> <li>Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001.</li> <li>医療制度・医療政策・医療経済(丸善出版,2013)</li> <li>Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media)</li> <li>『NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版』(編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂, 2018.</li> </ul>					
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>					
予習・復習は必要					
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b>					
<p>経済学の学習経験は問いません。 当分野では医療の経済性、質・安全・原価の実証研究政策研究、医療の政策や経営に深く関わりたい人を募っています。(医療経済学分野: <a href="http://med-econ.umin.ac.jp">http://med-econ.umin.ac.jp</a>) 注) 医療のプロセス、アウトカム等の質指標、診療のばらつき、医療の質の評価・改善、医療機能評価、医療の質・安全に係わる制度・政策については、水曜3限「医療の質評価」(前期後半)(1単位)(MCR推奨選択・コア選択必修)を選択してください。</p>					
保健・医療の経済評価 【領域4】(3)へ続く↓↓↓					

保健・医療の経済評価 【領域4】(3)					
-----					
<p>問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 &lt;heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp&gt; へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>					
-----					

科目ナンバリング		P-PUB01 8H170 LB90			
授業科目名 <英訳>	健康危機管理の制度政策と実践	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 教授 西浦 博		
	Healthcare crisis management				
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2024・通年
曜時限	木5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>新興感染症の流行、大規模災害、紛争・生物テロ、飲料水・食中毒・医薬品等による健康危機から人々の健康と命を守るための社会のしくみと実践は、益々重要となっている。関連する制度・政策、組織・連携・体制、分析・評価、計画・対策、実践などの各側面を、日常の地域のレジリエンスとともに、強化していく必要がある。</p> <p>以上を含め、各視点から、健康危機管理を我が国の第一人者より学ぶ。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
健康危機管理のしくみを理解し説明できるようになる。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
7月18日より開始し12月26日までの間で以下の候補日から全8講義行います。 候補日：7月18日、9月5日、9月19日、10月3日、10月17日、11月7日、11月21日、12月5日、12月19日、12月26日					
<p>第1回 オリエンテーション/健康危機管理の制度と実践：アカデミアの視点から (医学研究科 社会健康医学系専攻 医療経済学 教授 今中 雄一)</p> <p>第2回 健康危機管理の制度と実践：国の行政・政策の視点から (厚生労働省 生活衛生・食品安全審議官 佐々木 昌弘)</p> <p>第3回 健康危機管理の制度と実践：保健所の視点から (全国保健所長会 副会長/枚方保健所 保健所長 白井 千香)</p> <p>第4回 健康危機管理の制度と実践：自治体行政の視点から (京都府 健康福祉部長 長谷川 学)</p> <p>第5回 健康危機管理の制度と実践：感染症危機管理の視点から (国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター長 齋藤 智也)</p> <p>第6回 健康危機管理の制度と実践：災害医療の視点から (国立病院機構本部 DMAT事務次長 近藤 久樹)</p> <p>第7回 健康危機管理の制度と実践：国の政策・研究の視点から (国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 部長 富尾 淳)</p> <p>第8回 健康危機管理の制度と実践：アカデミアと実践の視点から (医学研究科 社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授 西浦 博)</p>					
※上記の順番と題名は暫定的なものです。初回に予定を説明します。					
<b>[履修要件]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・80%以上の出席を必須とします。</li> <li>・積極的な議論への参加を重視します。</li> </ul>					
健康危機管理の制度政策と実践(2)へ続く↓↓↓					

<b>健康危機管理の制度政策と実践(2)</b>	
社会健康医学系専攻院生 他専攻院生の受講可否：医学専攻、人間健康科学系専攻の若干名可（ただし、要事前連絡。社会健康医学系専攻院生を前提とした講義となります。）	
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 講義・討論・グループワーク・発表等におけるコミットメント（配分50%）、レポート（配分50%）により、総合的に評価する。	
<b>[教科書]</b> 使用しない	
<b>[参考書等]</b> (参考書) 『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社：2023） 『病院の教科書第2版』（医学書院） 講義で紹介する	
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 本人次第	
<b>[その他（オフィスアワー等）]</b> ※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。  問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp> へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>行動科学 【領域5】 (2)</b>	
推薦テキスト： ・ Glanz et al. Health Behavior and Health Education-theory, research and practice. 4th edition. Jossey-Bass, 2008（行動科学の定番的教科書です。部分訳が出版されています「健康行動と健康教育ー理論、研究、実践」（曾根智史ら、医学書院、2006年）） ・ 松本千明、医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、医歯薬出版、2002（簡略に要領よく行動科学の種々の理論がまとめられています）	
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b> 毎回復習をしてください。	
<b>[その他（オフィスアワー等）]</b> その他メッセージ 人間健康科学系専攻院生の受講可否：可  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>科目ナンバリング</b> P-PUB01 8H075 LB90	
<b>授業科目名</b> <英訳> Behavioral Science	<b>担当者所属・職名・氏名</b> 医学研究科 准教授 田近 亜蘭
<b>配当学年</b> 専門職	<b>単位数</b> 1 <b>開講年度・開講期</b> 2024・前期前半
<b>曜時間</b> 火1	<b>授業形態</b> 講義（対面授業科目） <b>使用言語</b> 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b> I. コースの概要 人間行動に関連する理論の基礎について学習する。特に実践的に有用であることが示されている理論を中心に学習する。  II. 教育・学習方法 講義は対面式で実施する。 パワーポイントスライドによる講義、グループディスカッション、レポート提出	
<b>[到達目標]</b> ・ 主な行動理論について説明することができる。 ・ 行動理論の応用・適用を考えることができる。	
<b>[授業計画と内容]</b> 第1回 4月9日 イントロダクション、ヘルスビリーフモデル 第2回 4月16日 トランスセオレティカルモデル、計画的行動理論 第3回 4月23日 社会的認知理論 第4回 4月30日 ストレスとコーピング 第5回 5月7日 認知行動理論、認知行動療法 第6回 5月14日 動機付け面接 第7回 5月21日 まとめ 第8回 5月28日（予備）	
<b>[履修要件]</b> MPHコア（選択必修）	
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 平常点（出席を含む）50点、レポート50点（単位取得のためには、合計で60点以上が必要。）	
<b>[教科書]</b> 毎回、講義資料を配布する。	
<b>[参考書等]</b> (参考書) 必須テキスト：なし	
行動科学 【領域5】 (2)へ続く ↓ ↓ ↓	

<b>科目ナンバリング</b> P-PUB01 8H076 LB90	
<b>授業科目名</b> <英訳> Basic Medical Ethics	<b>担当者所属・職名・氏名</b> 医学研究科 教授 井上 悠輔
<b>配当学年</b> 専門職	<b>単位数</b> 1 <b>開講年度・開講期</b> 2024・前期前半
<b>曜時間</b> 木5	<b>授業形態</b> 講義（対面授業科目） <b>使用言語</b> 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b> 【基本情報】 授業日時：木曜5限（前期前半） 教室：G棟セミナー室A・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：基礎 担当者：担当者：井上悠輔（科目責任者・医療倫理学）、川崎秀徳、小川昌宣、吉田晶子、和田敬仁、竹之内沙弥香  【コースの概要】 社会健康医学における研究と実践の基礎となる倫理の考え方、研究倫理申請などについて、その骨子を学ぶ。授業は講義、演習（事例検討）などを組み合わせて行う。	
<b>[到達目標]</b> ・ 社会健康医学における研究と実践の基礎となる倫理上の問題に適切に対応できる。 ・ 主な倫理理論について説明できる。 ・ 倫理審査の取り組みを知り、自身の倫理申請について適切に検討できる。 ・ 産婦人科医療・小児医療・終末期医療など、実臨床における倫理的な葛藤を学ぶ。	
<b>[授業計画と内容]</b> 【第1回】 4/18医療・公衆衛生倫理入門（井上） 【第2回】 4/25研究倫理入門（井上） 【第3回】 5/2生命倫理の歴史（川崎） 【第4回】 5/9産婦人科医療と倫理（小川） 【第5回】 5/16遺伝カウンセリングについて（吉田） 【第6回】 5/23新生児小児医療と倫理（和田） 【第7回】 6/6終末期医療と倫理（竹之内） 【第8回】 6/20倫理審査委員会（井上）	
<b>[履修要件]</b> MPHコア科目（選択必修） 自身の研究計画を倫理申請する予定がある場合は必ず履修すること（MCR含む） 人間健康科学系専攻院生の受講可否：要事前連絡	
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 平常点（出席を含む）（約40%）、レポート（約60%）などを総合的に判定する。 <レポート提出期限> ・ 自身の研究計画を倫理申請する予定がある場合は必ず履修すること（MCR含む） ・ 中間レポート締切：5月31日 ・ 最終レポート締切：6月30日	
基礎医療倫理学 【領域5】 (2)へ続く ↓ ↓ ↓	

<b>基礎医療倫理学 【領域5】(2)</b>	
(注意)レポート提出先: yinoue-kyt@umin.ac.jp 受領確認メールはいたしません。	
<b>[教科書]</b> 講義中の配布資料	
<b>[参考書等]</b> (参考書) 玉井 真理子, 大谷 いづみ編 『はじめて出会う生命倫理』 (有斐閣 2011年) ISBN:4641124205 赤林朗編 『入門・医療倫理I (改訂版)』 (勁草書房 2017年) ISBN:4326102608	
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b> 適宜指示する	
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>科目ナンバリング</b> P-PUB01 8H077 LB90	
<b>授業科目名</b> <英訳> 医学コミュニケーション・基礎 Medical Communication: Introduction	<b>担当者所属・職名・氏名</b> 医学研究科 准教授 岩隈 美穂
<b>配当学年</b> 専門職	<b>単位数</b> 1 <b>開講年度・開講期</b> 2024・前期前半
<b>曜時間</b> 火5	<b>授業形態</b> 講義 (対面授業科目) <b>使用言語</b> 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b> コースの概要 本コースは医学研究科社会健康医学系専攻のMPHコア科目の一つです。 ヘルスコミュニケーションの基本的事項を扱いますが、特に非言語コミュニケーションへの理解を深めます。	
<b>[到達目標]</b> 学習到達目標 (このコース終了時までに習得が期待できること) ・ヘルスコミュニケーションの基本的枠組み、コンセプトを理解する。 ・臨床におけるコミュニケーションについて、ミクロ (個人) からマクロ (社会・国際) での視点で理解する。 ・ヘルスコミュニケーションにおける、非言語コミュニケーションの役割・重要性について理解する。 ・メディア論の歴史、基本的理論を理解する。 ・病院における病児の親とのコミュニケーションを理解する。 ・研究計画書の書き方について学ぶ。	
<b>[授業計画と内容]</b> 1) 4/9 イントロダクション: 個人内コミュニケーションから国際コミュニケーションまで 2) 4/16 イントロダクション: (そもそも) コミュニケーションとは? 3) 4/23 医療コミュニケーションの基礎概念 4) 4/30 コミュニケーション学の基本の「き」: 非言語 x 言語 x チャネル 5) 5/7 医療と時間と空間: E.T.ホールの概念とヘルスコミュニケーション 6) 5/14 「病棟の子供たちに遊びを通した日常を届ける」 (高谷恵美氏 京大病院「にこにこトマト」代表) 7) 5/21 メディアとリスクとヘルスコミュニケーション 8) 5/28 まとめ: 医療と文化	
<b>[履修要件]</b> 選択必修	

<b>医学コミュニケーション・基礎 【領域5】(2)</b>	
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 授業での積極的・主体的参加 40% クイズ 10% レポート 50% 「一言宣言」 5% + タイトル10% + 最終版 35%	
<b>[教科書]</b> ・ハンドアウトを配布する。 ・英文論文 (概説) を読んでおくことを宿題とすることがある。	
<b>[参考書等]</b> (参考書)	
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b> コミュニケーション学の中で興味のあるリーディングを読むことを推奨する。 宿題として英文論文 (概説) を読んできて、授業参加することを求めることがある (1~2回)。	
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b> 「授業参加・貢献」を重視しているため、自発的発言を求める。 医療・医学への社会科学的アプローチに興味のある学生向け。 障害があり、授業あるいは課題への取り組みに配慮 (Accommodation) が必要な場合、早めに相談に来ること。 講師の都合により日程変更の可能性あり。 留学生がいる場合、授業使用言語を英語にする可能性あり。 履修学生の興味などによって、ゲーミフィケーションを取り入れた授業内容に変更する場合がある。  * 今年度は、対面での授業を予定しています。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>科目ナンバリング</b> P-PUB01 8H157 LB90	
<b>授業科目名</b> <英訳> 社会疫学 Social epidemiology	<b>担当者所属・職名・氏名</b> 医学研究科 教授 近藤 尚己
<b>配当学年</b> 専門職	<b>単位数</b> 2 <b>開講年度・開講期</b> 2024・前期
<b>曜時間</b> 月3	<b>授業形態</b> 講義 (対面授業科目) <b>使用言語</b> 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b> 疾病のリスクの高い個人へのハイリスクアプローチに加え、個人を取り巻く社会環境を整備するポピュレーションアプローチが公衆衛生の大きな潮流となっています。ポピュレーションアプローチでは、個人の社会背景やお空かれた社会環境の違い、それらに伴う健康格差に配慮する必要があります。また健康格差を踏まえた戦略を立てることで、一層の効果や効率的な資源の活用が期待できます。  本コースでは、そのような活動に必要な社会疫学の基礎的な理論と分析手法について学びます。社会疫学は健康事象の社会的分布の記述 (=健康格差の記述疫学) をしたり、疾病のリスク要因/健康の推進要因としての社会環境や社会制度の役割を探索する疫学の一分野です。また社会疫学は、健康格差を是正する手法を開発したり、その効果を評価します。このことで「誰一人取り残さない健康な社会の実現に資することを目指しています。  コースを担当する近藤による総論および主要テーマのレクチャーに加え、各論では当該分野の第一人者を非常勤講師に招きます。毎年、講師たちとのアツい議論が交わされます。  In addition to the high-risk approach to individuals at high risk of disease, a major trend in public health is the population approach to the social environment surrounding individuals. In the population approach, it is necessary to take into account the differences in the social background and social environment of individuals and the health inequalities associated with these differences. Strategies that take health inequalities into account can be expected to be more effective and efficient in the use of resources.  In this course, you will learn about the basic theories and analytical methods of social epidemiology necessary for such activities. Social epidemiology is a branch of epidemiology that describes the social distribution of health events (i.e. descriptive epidemiology of health inequalities) and explores the role of the social environment and social institutions as risk factors for disease/ drivers of health. Social epidemiology also develops methods to correct health inequalities and evaluates their effectiveness. By doing so, it aims to contribute to the realisation of a healthy society where 'no one is left behind'.  In addition to the general lectures, leading experts in the field are invited to provide specific talks of their speciality. Every year, the lecturers and students engage in heated discussions.	
<b>[到達目標]</b> 1. 社会疫学の視座を理解する。 2. 主な健康の社会的決定要因の種類、評価法、実態について理解する 3. 社会学・経済学・倫理学・行動科学/社会心理学など近傍学問の関連理論を理解する 4. 健康格差の評価法の基礎を理解する 5. 健康格差の制御法の基礎を理解する 6. 社会疫学の保健活動や臨床への応用法について、自身の認識と意見を持つ	



社会疫学【領域5】(2)
1. understand the perspective of social epidemiology. 2. understand the types, assessment methods and realities of the main social determinants of health 3. understand relevant theories from neighbouring disciplines such as sociology, economics, ethics, behavioural science/social psychology 4. understand the basics of assessment methods for health inequalities 5. understand the fundamentals of control methods for health inequalities 6. have their own perceptions and opinions on how to apply social epidemiology to health activities and clinical practice.
<b>【授業計画と内容】</b>
下記予定は変更する場合があります。
日程 講義タイトル ----- 1. 4/8 社会疫学総論 2. 4/15 社会経済状況 3. 4/22 貧困と社会的排除 4. 5/13 社会格差と健康 5. 5/20 格差の認知科学と政治哲学 6. 5/27 社会関係 (東京大学/高木大資) 7. 6/3 ライフコース疫学 (東京医科大学/藤原武明) 8. 6/10 ソーシャル・キャピタルと健康 9. 6/17 SDHとしてのジェンダー (大阪医科大学/本庄かおり) 10. 6/24 健康格差の測定 (長谷田真帆) 11. 7/1 多重レベルの現象把握とデータ分析 12. 7/8 建造環境 (東京大学/高木大資) 13. 7/22 健康格差の制御法：コミュニティへのアプローチ 14. 7/29 健康格差の制御法：行動科学の応用 15. 8/5 レビュー&フィードバック ----- The schedule below is subject to change. ----- 1. 4/8 General introduction to social epidemiology 2. 4/15 Socioeconomic conditions 3. 4/22 Poverty and social exclusion 4. 5/13 Income inequality and health 5. 5/20 Cognitive science and political philosophy of inequality 6. 5/27 Social relationship (Daisuke Takagi, the University of Tokyo) 7. 6/3 Life course epidemiology (Takeo Fujiwara, Tokyo Medical and Dental University) 8. 6/10 Social capital and health 9. 6/17 Gender as SDH (Kaori Honjo, Osaka Medical and Pharmaceutical University) 10. 6/24 Measuring health inequalities (Maho Haseda) 11. 7/1 Multilevel thinking and multilevel analysis 12. 7/8 Built environment (Daisuke Takagi, the University of Tokyo) 13. 7/22 Managing health inequality: community building 14. 7/29 Managing health inequality: behavioral science applications 15. 8/5 Review & feedback
社会疫学【領域5】(3)へ続く ↓ ↓ ↓ ↓

社会疫学【領域5】(3)
<b>【履修要件】</b>
特になし
<b>【成績評価の方法・観点】</b>
毎回の確認小テスト+平常点 40%、レポート60% レポート課題はコース開催中に提示します。
レポートについて： *A4一枚程度とし、最大2枚まで。 *締切：各講義日の1週間後の正午 *課題名・氏名・学籍番号・提出日を明記すること *事実関係やデータ、フレーズ等引用した場合、必ず引用データの出所を示すこと。引用した資料のリストは最後に記載すること。インターネットからの長文のコピー&ペーストは禁止 (図表やデータについては、引用元を明記した上で可)。 ----- In-lecture quizzes and discussions 40%, report 60% Report assignments will be presented during the course. ----- About the report *A4 sheet of paper, maximum 2 pages. Deadline: noon one week after each lecture day. *State the name of the assignment, your name, student ID number and date of submission. When quoting facts, data, phrases, etc., be sure to indicate the source of the quoted data. A list of cited sources should be included at the end. No long-form copying and pasting from the internet is permitted (for figures and data, quotations are acceptable provided the source is clearly stated).
<b>【教科書】</b>
川上憲人・橋本英樹・近藤尚己 (編著) 『社会と健康:健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ』 (東大出版会, 2015) ISBN:978-4-13-060411-6 (各講義に関連する章を事前に読んでおくこと。)
関連する章を読んでくること。精読は不要。テキストは著者割りで購入できます。希望者はcontact@socepi.med.kyoto-u.ac.jpまでメールするか、社会疫学分野オフィス (先端棟2F)までお越しください。
講義は英語で行います。日本語の資料と補講動画を事前にリリースします。
<b>【参考書等】</b>
<b>【参考書】</b> 近藤尚己 『健康格差対策の進め方：効果をもたらす5つの視点』 (医学書院, 2016) ISBN:978-4-260-02501-0 (特に後半の講義内容に関連。) Lisa F. Berkman, Ichiro Kawachi, and M. Maria Glymour 『Social Epidemiology 2nd Edition』 (Oxford, 2014) ISBN:9780195377903 (ヘビーズですが読み応えあり。邦訳が大図書館から上下巻あり (社会疫学分野にて訳者割りで購入可)。) NHKスペシャル取材班 『健康格差 あなたの寿命は社会が決める』 (講談社現代新書) ISBN:978-4-06-288452-5 (たいへん読みやすい一般向け入門書。)
社会疫学【領域5】(4)へ続く ↓ ↓ ↓ ↓

社会疫学【領域5】(4)
近藤尚己・西村真紀ほか『実践SDH診療：できることから始める健康の社会的決定要因への取り組み』 (中外医学 ) ISBN:978-4-498-12006-8 (臨床に携わる人向け) 『健康格差対策の進め方』 『社会疫学：上・下』 は社会疫学分野にて著者割りで購入できます。希望者はcontact@socepi.med.kyoto-u.ac.jpまでメールするか、社会疫学分野オフィス (先端棟2F)までお越しください。
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b>
履修届け出後、関連する論文をまとめたコースパッケージへのオンラインアクセスを提示します。各回と関連する論文については事前にスキム・リーディングしておくことを推奨します。精読は不要。
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b>
クラス内でのディスカッションを重視します。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 2H154 LJ87				
<b>授業科目名</b> <英語>	医学基礎 I 「生理学 I」 Basic Medicine I (Physiology I)	<b>担当部署・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 近藤 尚己 医学研究科 教授 緑川 光春 医学研究科 教授 渡邊 大 医学研究科 特定助教 本多 由起子		
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2	<b>開講年度・開講期</b>	2024・前期前半
<b>曜限</b>	月3,4	<b>授業形態</b>	講義 (対面授業科目)	<b>使用言語</b>	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
医療に関わる者に必要とされる人体機能についての専門的基礎知識を習得する。本講義では、神経系、血液、循環、呼吸などの機能系の仕組みとその働きについて学ぶ。毎回の授業の内容について各自で検索・考察することによって人体機能についての理解を深め、チーム医療の一員として必要な生理学の素養を身につけることを目的とする。					
<b>【到達目標】</b>					
医療の現場で問題に直面した際に、専門職として正しい判断がとれるようになるための基盤となる人体機能についての基礎知識を習得する。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
2024.04.8 第1,2回 末梢神経・中枢神経 (緑川) 2024.04.15 第3,4回 神経興奮の発生とその伝導・伝達 (渡邊大) 2024.04.22 第5,6回 感覚 (緑川) 2024.05.02 第7,8回 筋と骨 (緑川) 2024.05.13 第9,10回 血液 (緑川) 2024.05.20 第11,12回 心臓と循環 (緑川) 2024.05.27 第13,14回 呼吸とガスの運搬 (緑川) (未定) 第15回,16回 試験/学習到達度の評価・フィードバック (緑川)					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
講義への積極的参加を通じた理解度確認 (質疑応答や発表などを評価する) 30%とレポート70%					
<b>【教科書】</b>					
岡田隆夫/鈴木敦子/渡邊マキノ 編集 『<標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野>生理学』 (医学書院) ISBN:978-4-260-05318-1 スライドと配布資料も使用する。					
医学基礎 I 「生理学 I」(2)へ続く ↓ ↓ ↓ ↓					

医学基礎 I 「生理学I」(2)
<b>[参考書等]</b> (参考書) 岡田隆夫/鈴木敦子/渡邊マキノ 編集 『<標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野>生理学』(医学書院) ISBN:978-4-260-05318-1
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b> 配布資料に示されているポイントの各項目について復習し、理解できているかどうか確認して下さい。
<b>(その他(オフィスアワー等))</b> 本講義では、予習・復習が必要です。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 2H163 LJ87		
授業科目名 <英訳>	医学基礎 I 「神経生理学」 Basic Medicine I (Neurophysiology)	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 近藤 尚己 医学研究科 教授 緑川 光春 医学研究科 特定助教 本多 由起子
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期後半		
曜時限	水1,2	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b> 医療に関わる者に必要となる人体機能のうち神経系の構造と機能について、「生理学I・II」で学んだ内容からさらに発展的な項目について、学習する。毎回の授業の内容について各自で検索・考察することによって神経系について理解を深め、医療専門職として有用となる神経機能の発展的な知識を身につけることを目的とする。			
<b>[到達目標]</b> 医療の現場で問題に直面した際に、医療専門職として正しい判断がとれるようになるために有用となるヒト神経系についての発展的な知識を習得する。			
<b>[授業計画と内容]</b> 2024.11.27 第1,2回 静止膜電位と活動電位(緑川) 2024.12.04 第3,4回 シナプス伝達(緑川) 2024.12.11 第5,6回 視覚(緑川) 2024.12.18 第7,8回 聴覚・平衡感覚(緑川) 2024.12.25 第9,10回 体性感覚、化学感覚(緑川) 2025.01.8 第11,12回 記憶・学習・シナプス可塑性(緑川) 2025.01.22 第13,14回 脳の配線・臨界期・研究の手法(緑川) (未定) 第15回,16回 試験/学習到達度の評価・フィードバック(緑川)			
<b>[履修要件]</b> 本科目は、2021年度以降カリキュラム適用学生対象の科目です。 (※2017～2020年度カリキュラム適用学生は、「神経生理学I」を履修登録してください。)			
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 講義への積極的参加を通じた理解度確認(質疑応答や発表などを評価する)30%とレポート70%			
<b>[教科書]</b> スライドと配布資料を使用する。			
<b>[参考書等]</b> (参考書) 『神経科学へ脳の探求(改訂版)』(西村書店) ISBN:978-4-86706-018-6 『スタンフォード神経生物学』(メディカル・サイエンス・インターナショナル) ISBN:978-4-89592-888-5 『<標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野>生理学』(医学書院) ISBN:978-4-260-05318-1			

医学基礎 I 「神経生理学」(2)
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b> 配布資料の内容について復習し、理解できているかどうか確認して下さい。
<b>(その他(オフィスアワー等))</b> 「生理学I・II」では簡単な紹介に留まった中枢神経系について詳しく扱う。脳の神経回路の仕組みに興味のある学生にぜひ受講してほしい。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 2H153 LJ87		
授業科目名 <英訳>	医学基礎 I 「解剖学」 Basic Medicine I (Anatomy)	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 近藤 尚己 医学研究科 教授 山田 重人 医学研究科 特定助教 本多 由起子
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・前期前半		
曜時限	水3,4	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b> 人体は様々な細胞から組織、器官が構成されており、それらが協調して働くことで一身体として機能している。人体の構造と機能に関する総合的理解を目指し、特に、その構造異常や機能異常によって起こる「疾患」を念頭において概説する。			
<b>[到達目標]</b> ・人体の構造及び機能の基本を理解する。 ・人体に関する用語を日本語および英語で理解する。 ・異常により引き起こされる疾患の病態について解剖学的に説明できる。			
<b>[授業計画と内容]</b> 第1回 (4/10) Chapter1 Introduction to the Body; Chapter2 Chemistry of Life (山田) 第2回 (4/10) Chapter3 Cells; Chapter4 Tissues (山田) 第3回 (4/17) Chapter5 Organ Systems; Chapter6 Skin and Membranes (山田) 第4回 (4/17) Chapter7 Skeletal System (山田) 第5回 (4/24) Chapter8 Muscular System (山田) 第6回 (4/24) Chapter9 Nervous System (山田) 第7回 (5/1) Chapter9 Nervous System (山田) 第8回 (5/1) Chapter10 Senses; Chapter11 Endocrine System (山田) 第9回 (5/8) Chapter12 Blood; Chapter13 Cardiovascular System (山田) 第10回 (5/8) Chapter13 Cardiovascular System (cont'd) (山田) 第11回 (5/15) Chapter14 Lymphatic System and Immunity; Chapter15 Respiratory System (山田) 第12回 (5/15) Chapter16 Digestive System (山田) 第13回 (5/22) Chapter18 Urinary System; Chapter21 Reproductive System (山田) 第14回 (5/22) Chapter22 Growth, Development, and Aging (山田)			
<b>[履修要件]</b> 特になし			
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 社会健康医学系専攻においては、「講義への積極的参加を通じた理解度確認(質疑応答や発表などを評価する)30%とレポート70%」 なお、成績評価方法の問い合わせについては、授業担当教員ではなく近藤・山田 (sphyoumu@gmail.com) へ確認すること。			
<b>[教科書]</b> K.T.Patton, G.A.Thibodeau 『Structure & Function of the Body, 16th ed., Paperback』(ELSEVIER) ISBN: 978-0323597791 (2019年11月発売の第16版を使用する。)			

医学基礎 I 「解剖学」(2)
-----
【参考書等】 (参考書) 塩田浩平『グレイ解剖学 原著第3版』(エルゼビア・ジャパン) ISBN:978-4860343064 (必要に応じて参照のこと。重いのので毎回の講義に持参しなくてもよい。解剖実習では必要か。) 藤田恒夫『入門人体解剖学 改訂第5版』(南江堂) ISBN:978-4-524-24237-5 (英語がどうしても辛くなった時に参照するのに適切。) Paulsen, Waschke『ソボット解剖学アトラス』(2021) ISBN:4621304593 (アトラス。実習と併用が可能。これは第1巻の情報で、全3巻である。)
【関連URL】 https://evolve.elsevier.com/cs/(教科書を購入すると、ウェブサイトへのアクセス方法が入手できます。)
【授業外学修(予習・復習)等】 ・講義前には、教科書の該当範囲を通読して頂くことが望ましい。 ・講義後には付録してある演習問題を解き、講義事項を確認する。
【その他(オフィスアワー等)】 初回講義より教科書を使用するので購入して持参すること。 なお、成績評価方法の問い合わせについては、授業担当教員ではなく近藤・上田 (sphyoumu@gmail.com) へ確認すること。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H164 LJ90				
授業科目名 <英訳>	医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」 Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics)	担当者所属・ 職名・氏名	附属病院 医学研究科 医学研究科 医学研究科	特定准教授 小川 昌宣 特定講師 川崎 秀徳 特定助教 鳥嶋 雅子 特定助教 吉田 晶子	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時間	水・その他開講日注	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
【基本情報】 授業日時:水曜日 3時限を原則とする(例外予定にご注意ください) 教室:G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル:基礎 担当教員:小川昌宣(科目責任者)・和田敬仁・小杉真司・中島健・川崎秀徳					
【コースの概要】 遺伝カウンセラーとしてあるいは遺伝医学・遺伝医療を志す者として最も基本的な事項について理解するための講義である。今後、遺伝情報を治療に役立てていく精密医療のためにも重要である。細胞遺伝学、分子遺伝学、メンデル遺伝学、非メンデル遺伝、集団遺伝学などについて系統的な講義を行う。					
【到達目標】 ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、専門家でない人にもわかりやすく説明できる。					
【授業計画と内容】					
【第1回】4月10日4限<和田>「メンデル遺伝総論」メンデル遺伝総論; 遺伝形式、ヒトゲノム構造、標準的家系図の記載法 【第2回】4月10日5限<小杉>「常染色体顕性遺伝/潜性遺伝」常染色体顕性遺伝 疾患の概念・特徴・浸透度・表現度・遺伝性と新生突然変異・anticipation(次世代の表現促進現象)/常染色体潜性遺伝 疾患の概念・特徴・保因者の概念 【第3回】4月17日4限<小杉>「X連鎖性遺伝」X連鎖性遺伝の概念・X染色体とY染色体の特異性・性の決定機構・X連鎖性遺伝を示す具体的疾患 【第4回】4月17日4限<小川>「細胞遺伝学(1)」染色体と細胞分裂・分染法による染色体分析・染色体の核型記載方法・染色体異常概論 【第5回】4月17日5限<小川>「細胞遺伝学(2)」染色体数異常の概念と発生機構・染色体構造異常の概念と発生機構・保因者の概念と次世代への影響 【第6回】4月24日<和田>「分子遺伝学の基礎」遺伝子発現調節と分子病理学 【第7回】5月1日<小杉>「薬理遺伝学」遺伝薬理学とゲノム薬理学の基本を正確に理解する 【第8回】5月8日<和田>「遺伝的リスクの推定」再発率の推定、ベイズの定理 【第9回】5月15日<川崎>「遺伝学的検査(1)」PCR法、シーケンス法、サザンブロット法、CGHマイクロアレイ法 【第10回】5月22日<和田>「多因子遺伝、集団遺伝」多因子遺伝の概念、量的形質と質的形質、ハーディー・ワインバークの法則、アレル頻度、近親交配 【第11回】5月29日<中島>「腫瘍遺伝学の基礎」体細胞バリエントと生殖細胞系列バリエント、がん遺伝子とがん抑制遺伝子、遺伝性がん症候群					
----- 医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」(2)
-----
【第12回】6月5日<川崎>「遺伝学的検査(2)」バリエントのスクリーニング方法、正常多型、バリエントの種類 【第13回】6月12日<和田>「非メンデル遺伝(1)」ミトコンドリア遺伝を学ぶ; 母系遺伝、ヘテロプラスミー、ホモプラスミー、ミトコンドリア病 【第14回】6月19日<中島>遺伝的多様性とDNA修復遺伝的多様性、遺伝継承されるDNAのバリエーションと多型、DNA修復 【第15回】6月26日<和田>「非メンデル遺伝(2)」エピジェネティクスを学ぶ; 刷り込み遺伝子、DNAメチル化、ヒストン修飾、クロマチンリモデリング、片親性ダイソミー 【第16回】7月3日<鳥嶋>「本試験」筆記試験 【第17回】7月24日<小川>「再試験」筆記試験
【履修要件】 遺伝カウンセラーコース1年生(非医療系出身者)必修科目、医療系出身者は「基礎人類遺伝学」(H040000)を履修下さい。 選択科目として履修する場合は、「遺伝医療と倫理・社会」とも履修することをお勧めします 人間健康科学系専攻学生の受講可否:要事前連絡
【成績評価の方法・観点】 試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価する
【教科書】 トンブソン&トンブソン『遺伝医学(第2版)』(メディカルサイエンスインターナショナル) ISBN:978-4-89592-875-5 (2017年4月発行) 福嶋義光編『遺伝カウンセリングマニュアル(改定第3版)』(南江堂 2016) ISBN:978-4-524-26667-8 978-4-815-70166-6『新 遺伝医学やさしい系統講義19講』(メディカルサイエンスインターナショナル 2019) 臨床遺伝専門医制度委員会『臨床遺伝専門医テキスト1 臨床遺伝学総論』(診断と治療社 2021) ISBN:978-4-787-82367-0
【参考書等】 (参考書) 新川詔夫『遺伝医学への招待(改定6版)』(南江堂 2020) ISBN:978-4-524-24931-2 戸田達史『臨床遺伝専門医制度委員会』(MEDSI 2021) ISBN:978-4815730321
【関連URL】 http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)
【授業外学修(予習・復習)等】 適宜指示する
----- 医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」(2)へ続く ↓ ↓ ↓

医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」(3)
-----
【その他(オフィスアワー等)】 講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8H007 LB87			
授業科目名 -英訳-	医学基礎 II Basic Medicine II	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 近藤 尚己 医学研究科 教授 尾野 亘 附属病院 准教授 加藤 貴雄 附属病院 助教 塩見 紘樹 京都府立医科大学 教育センター 河田 光博 附属病院 助教 山地 杏平 医学研究科 特定助教 本多 由起子		
	配当学年		専門職	単位数	2
曜時間	木2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
尾野 亘(京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 教授) 加藤 貴雄(京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構 臨床研究支援部 准教授) 山地 杏平(京都大学医学部附属病院 循環器内科学 助教) 塩見 紘樹(京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 助教) 河田 光博(京都府立医科大学顧問・京都府立医科大学名誉教授) 神経内分泌学、脳科学、解剖学 コースの概要 生活習慣病などの疾病を学ぶために必要な医学的基礎知識として、循環系の器官・器系の生理機能と調節機構に加えて、医学基礎I(前期)で扱わなかった運動器系(骨と筋)、神経系の基本的な構造と機能、およびその病態形成のメカニズムなどについて講義を行う。 学習到達目標(このコース終了時点で習得が期待できること) ・循環系について理解する ・運動器系の構成と正常機能および頻度の高い疾患の病態について理解する ・神経系と感覚器系の正常機能と形態および頻度の高い疾患の病態について理解する 教育・学習方法 講義形式(一部、解剖センターでの脳、骨格標本の見学を予定)					
[到達目標]					
医療系学部等での該当する教育を受けていない学生向けに開講している科目である。社会健康医学系専攻における多様な研究活動を行っていくための基盤的な学びを得る。					
[授業計画と内容]					
第1回 10月3日 循環器総論 ポンプとしての構造と機能を知る 第2回 10月10日 循環器各論1 構造的異常を知る:弁膜症・先天性心疾患と血管疾患の理解のために 第3回 10月17日 循環器各論2 構造的異常を知る:虚血性心疾患・救急医療の理解のために 第4回 10月24日 循環器各論3 機能的異常を知る:高血圧・不整脈の理解のために 第5回 10月31日 運動器系:骨格系1(骨・軟骨組織の構造と軸骨格)について 第6回 11月7日 運動器系:骨格系2(上肢・下肢の骨、関節)について 第7回 11月14日 運動器系:筋系1(筋組織の構造と運動)について 第8回 11月28日 運動器系:筋系2(上肢・下肢・体幹)について 第9回 12月5日 神経系1:神経系の研究の歴史、神経細胞の構造と機能について 第10回 12月12日 神経系2:脳と脊髄標本の見学(日程は仮で、調整次第で通知する)					
医学基礎 II(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

医学基礎 II(2)	
第11回 12月19日 神経系3:中枢神経系(大脳皮質、大脳の各葉)の構造と機能について 第12回 12月26日 神経系4:中枢神経系(基底核、辺縁系、間脳)の構造と機能について 第13回 1月9日 神経系5:中枢神経系(脳幹、脊髄)の構造と機能について 第14回 1月16日 神経系6:末梢神経系、自律神経系、血管系について 第15回 1月23日 神経系7:代表的な脳・脊髄疾患の病態についてと総まとめ	
*1回~4回:塩見 紘樹・加藤 貴雄・山地 杏平・尾野 亘、5回~15回:河田 光博	
[履修要件]	
特になし	
[成績評価の方法・観点]	
講義への積極的参加を通じた理解度確認(質疑応答や発表などを評価する)30%とレポート70%	
[教科書]	
・カラーで学ぶ解剖生理学(第2版)(コメディカルサポート研究会)メディカル・サイエンス・インターナショナル(ELSEVIER)2017 ・神経科学 脳の探求 改訂版 マーク・F・ペアー(著),バリー・W・コノーズ(著),マイケル・A・ブラディーン(著),藤井 聡(監修,翻訳) 西村書店 2021	
[参考書等]	
(参考書) (参考書) ・カンデル神経科学 第2版 宮下保司(監修),Eric R. Kandel・John D. Koester・Sarah H. Mack・Steven A. Siegelbaum(編集) メディカルサイエンスインターナショナル 2022 ・人体の正常構造と機能(改訂第3版)全10巻縮刷版、日本医事新報社、2017 ・プロメテウス解剖学コアトラス 第2版、医学書院、2014 ・病気が見えるvol.2 循環器 医療情報科学研究所 2017	
[授業外学修(予習・復習)等]	
適宜予習復習を求める。	
[その他(オフィスアワー等)]	
人間健康科学系専攻学生の受講可否:可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H008 LB87			
授業科目名 -英訳-	臨床医学概論 Introduction to Clinical Medicine	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 近藤 尚己 非常勤講師 千葉 勉 附属病院 助教 錦織 達人 非常勤講師 岩波 将博 附属病院 特定講師 星野 伸晃 医学研究科 特定講師 高田 大輔 医学研究科 特定助教 本多 由起子		
	配当学年		専門職	単位数	2
曜時間	水4	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
担当教員 千葉 勉(関西電力病院 特任院長、京都大学名誉教授) 高田 大輔(京都大学大学院医学研究科 医療経済学教室 特定講師) 錦織 達人(京都大学医学部附属病院医療安全管理部/消化管外科 助教) 岩波 将博(京都府立医科大学大学院医学研究科呼吸器内科学 助教) 星野 伸晃(京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構(iACT) 臨床研究支援部/消化管外科 特定講師) コースの概要 医学は今日まで多くの疾病の原因を解明し、その予防法と治療法を発見し人間社会に貢献してきた。しかし、現代社会は人口問題、環境問題、高齢者問題などが相まって、人間の疾病と関連する多くの課題に直面している。本講義では、保健、医療、福祉に携わる保健医療従事者(医師、看護師、その他のコメディカルスタッフ)が連携していく上で不可欠な医学に関する基礎知識と今日の課題について講義する。 教育・学習方法 ・講義					
[到達目標]					
・現代医学・医療の基本的な内容や方向性を理解できる。 ・社会における臨床医学の役割や抱える問題点とその背景を、様々な立場から理解できる。					
[授業計画と内容]					
第1回 10月2日 「腎臓の解剖・生理学と臨床医学の橋渡し」 第2回 10月9日 「高血圧・腎疾患を中心とした臨床医学と臨床研究の橋渡し」 第3回 10月16日 医療と安全管理 第4回 10月23日 臨床栄養とPRO 第5回 10月30日 がん診療における患者・医療と社会 第6回 11月6日 がんゲノム医療における臨床的課題 第7回 11月13日 臨床研究と法・指針 第8回 11月27日 保険外併用療養費制度 第9回 12月4日 がんの基礎と臨床 第10回 12月11日 遺伝子と遺伝病					
臨床医学概論(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

臨床医学概論(2)	
第11回 12月18日 免疫と疾患 第12回 12月25日 感染症 第13回 1月8日 栄養と代謝性疾患 第14回 1月15日 消化器疾患 第15回 1月22日 循環器疾患と腎疾患 *1回・2回:高田講師、3回・4回:錦織講師、5回・6回:岩波講師、7回・8回:星野講師 9回~15回:千葉講師	
[履修要件]	
特になし	
[成績評価の方法・観点]	
講義への積極的参加を通じた理解度確認(質疑応答や発表などを評価する)50%とレポート50%	
[教科書]	
推薦テキスト(購入は必須ではない) ・河田光博、武田英二編、臨床医学入門人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 第2版(栄養科学シリーズNEXT) 講談社サイエンティフィク、2009。	
[参考書等]	
(参考書等) ・Harrison's Internal Medicine 19th edition, McGraw Hill Education ・Goldman-Cecil, Medicine, 25th edition, Elsevier ・ガイトン 生理学、エルセヴィアジャパン ・ハーバー 生化学、丸善 ・日本麻酔科学会 麻酔を受けられる方へ: https://anesth.or.jp/users/common/receive_anesthesia?page=1 ・厚生労働省 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針: https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyoku/i-kenkyu/index.html ・厚生労働省 臨床研究法について: https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html ・厚生労働省 先進医療の概要について: https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryu/iryuhoken/sensinryo/index.html ・厚生労働省 患者申出療養制度: https://www.mhlw.go.jp/moushideryouyou/professional.html	
[授業外学修(予習・復習)等]	
適宜予習復習を求める。	
臨床医学概論(3)へ続く ↓ ↓ ↓	

<b>臨床医学概論(3)</b>	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
必修である非医療系学部出身者はもちろん、医師はじめ医療系学部出身者の受講も歓迎します。	
人間健康科学系専攻学生：可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>科目ナンバリング</b>		P-PUB01 8H011 P190	
<b>授業科目名</b>	医療統計学実習	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 助教 大宮 将義
<b>&lt;英訳&gt;</b>	Introduction to Statistical Computing and Data Management		
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2
<b>開講年度・開講期</b>	2024・前期		
<b>曜時間</b>	火3,4	<b>授業形態</b>	実習(対面授業科目)
<b>使用言語</b>	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
医療統計学実習では、医療統計学講義で学んだ医療統計の考え方を実際に目で見、体験することを目的とします。医療統計学の理解を深めるためにはお勉めの実習です。統計ソフトJMPによる簡単な集計、解析、プログラミングを実習します。実習のレポートはワープロソフトWordで作成してもらいます。図表などは表計算ソフトExcelを使って作成します。プレゼンテーションはプレゼンテーションソフトPowerPointを用いて行います。これらのソフトの使い方も学びます。 統計ソフトJMPは京都大学でライセンス契約しています。医学研究科の学生さんは医学研究科ホームページの、 <a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/</a> から、実習で使用するノートパソコンにJMPをダウンロード・インストールしてください。みなさんの個人のパソコンにもインストールできますので、ノートパソコンなどにインストールして実習に持ってきてください。			
【グループ実習】			
<b>[到達目標]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>データチェック、データマネジメントの重要性を理解する。</li> <li>ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを使って、理解しやすい図表を作成し、発表し、レポートを作成する。</li> <li>統計ソフトを使って集計と簡単な統計計算を行うことで、医療統計の基礎的な考え方の理解を深める。</li> </ul>			
<b>[授業計画と内容]</b>			
第1回 4月9日 イントロダクション、表計算ソフトを使う 第2回 4月16日 統計ソフトJMPを使う 第3回 4月23日 グループ実習1: テーマ選択・データ収集 第4回 4月30日 グループ実習2: データ収集 第5回 5月7日 グループ実習3: 集計、解析 第6回 5月14日 グループ実習4: プレゼンテーション 第7回 5月21日 ランダムにわけてみる 第8回 5月28日 リスク比、リスク差、オッズ比を計算してみる 第9回 6月4日 割合の差の検定と帰無仮説の意味を考える 第10回 6月11日 割合の差の95%信頼区間の意味を考える 6月18日 創立記念日 第11回 6月25日 サンプルサイズを計算してみる 第12回 7月2日 ランダムサンプリングを行ってみる 第13回 7月9日 データフォームの設計と収集したデータの管理を考える 第14回 7月16日 バイアスがある解析結果を考える			
医療統計学実習(2)へ続く ↓↓↓			

<b>医療統計学実習(2)</b>	
<b>[履修要件]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>履修者は40名を上限としますので、社会健康医学系専攻の履修者を優先します。</li> <li>毎年上限以上の履修希望者がいて、希望通りに受け入れられない状況ですが、例年、途中から「参加できなくなった」という学生さんがいます。参加できなくなる可能性のある場合は受講を遠慮してください。</li> <li>人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません。</li> <li>医学修士、医学博士課程の受講希望者は事前に連絡してください。</li> </ul>	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
毎回の個人レポートと班によるプレゼンテーションと質疑応答を評価します。(毎回レポート80%、班によるプレゼンテーションと質疑応答20%)	
<b>[教科書]</b>	
必須ソフト：JMP 毎回「実習の手引き」を配布します。	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書)	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
毎回レポート提出があります。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
途中からの参加は認めません、必ず初回から出席してください。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>科目ナンバリング</b>		P-PUB01 8H093 LB90	
<b>授業科目名</b>	文献検索法	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 准教授 高橋 由光 医学研究科 教授 中山 健夫
<b>&lt;英訳&gt;</b>	Literature Search		
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	1
<b>開講年度・開講期</b>	2024・前期前半		
<b>曜時間</b>	月4	<b>授業形態</b>	講義(対面授業科目)
<b>使用言語</b>	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
臨床研究を含む社会健康医学(パブリックヘルス)領域において、基本的なスキルの一つである文献検索の方法論について講義を行います。 疫学・EBM(根拠に基づく医療)の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索する方法を学習します。 PubMed、コクラン・ライブラリー、医学中央雑誌など代表的な医学文献データベース、有用なWebサイト、本学で利用可能な情報リソースの基礎的事項を紹介し、その活用法の習得を目指します。 EBMや疫学の基礎知識を学びながら、社会健康医学の学習・研究を進める基礎として、系統的な情報検索法の習得を目指します。 教育・学習方法：パワーポイントスライドによる講義と実習			
<b>[到達目標]</b>			
各種文献データベースを活用して、社会健康医学に関する情報を検索するスキルを習得する。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
原則対面授業ですが、一部メディア活用を行います。 文献検索のハンズオン(対面またはオンライン)も行います。 各自、パソコンおよびインターネットアクセス環境の準備をよろしくお願いします。			
第1回 4月8日 オリエンテーション(中山・高橋) 第2回 4月15日 医中誌Web入門(医学中央雑誌) 第3回 4月22日 PubMed入門(医学図書館)【オンデマンド型】 第4回 5月13日 PubMed応用・インターネット検索(高橋) 第5回 5月20日 クリニカル・クエスト、診療ガイドライン、システマティック・レビュー(中山) 第6回 5月27日 コクラン・ライブラリー入門(フリー)【同時双方向型】 第7回 6月3日 文献管理入門・Mendeley演習(エルゼビア・ジャパン)【同時双方向型】 第8回 6月10日 文献評価の基本&各種声明(高橋)			
<b>[履修要件]</b>			
特になし			
文献検索法(2)へ続く ↓↓↓			

文献検索法(2)
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
毎回の小レポート (30%) および課題レポート提出 (70%)
<b>[教科書]</b>
使用しない
<b>[参考書等]</b>
(参考書) 授業中に紹介する
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>
講義で行った検索方法を、自らできるように復習してください。予習が必要な場合は、事前にPandAにて指示します。
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b>
人間健康科学系専攻学生の受講可否：受講可 PandAを通して連絡を行いますので、初回講義の前に、余裕をもってKULASISにて履修登録 (仮で可) を行ってください。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H094 LB90		
授業科目名 <英訳>	文献評価法 Critical Appraisal	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 高橋 由光 豊田地域医療センター 野口 善令 学術教育顧問 四方 哲 京都府立医科大学 教授 四方 優 奈良県立医科大学 センター長 田中 達郎 東京都健康長寿医療センター 石崎 達郎 研究部長 佐々木 八十子 静岡社会健康医学大学院大学 佐々木 八十子
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・前期集中		
曜時限	前期後半：月4	授業形態	講義 (対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
・臨床研究を含む社会健康医学 (パブリックヘルス) 領域において、基本的なスキルの1つである文献の評価方法について講義を行います。 ・疫学・EBM (根拠に基づく医療) の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索し、適切に評価した上で利用する方法を学習します。			
教育・学習方法 ・パワーポイントスライドによる講義と実習 ・一部グループワークあり			
<b>[到達目標]</b>			
得られた文献・情報を批判的に吟味し、主体的に活用する能力を習得する。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
第1回 4月8日オリエンテーション (中山・高橋) 第2回 6月17日CASPによる臨床試験論文の評価 (中山) 第3回 6月24日CASPによるメタアナリシス論文の評価 (中山) 第4回 7月1日ケースを用いたバイアスの評価 (1) (石崎) 第5回 7月8日ケースを用いたバイアスの評価 (2) (石崎) 第6回 7月22日AGREE法による診療ガイドラインの評価 (中山) 第7回 7月29日コクラン・レビューを通して (中山・佐々木) 第8回 8月5日全体を振り返って (中山)			
特別講義予定あり (野口・四方・田中)			
<b>[履修要件]</b>			
特になし			
-----文献評価法(2)へ続く↓↓↓-----			

文献評価法(2)
<b>[成績評価の方法・観点]</b>
毎回の小レポート (30%)、課題レポート提出 (70%)
<b>[教科書]</b>
講義資料は配布
<b>[参考書等]</b>
(参考書) 中山健夫, 津谷喜一郎編著 『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』 (ライフサイエンス出版)
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>
予習より復習に時間を取ること
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b>
EBMや疫学の基礎知識を学びながら、社会健康医学の学習・研究を進める基礎として、系統的な文献評価法の習得を目指します。  人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H115 LB90		
授業科目名 <英訳>	ヘルスサイエンス研究の進め方 Methods of Health Sciences Research	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 スタッコム株式会社 植谷 可恵 情報環境機構 助教 小野 英理
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・前期集中		
曜時限	金3・4 開講日注意	授業形態	講義 (対面授業科目)
使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
・医療・ヘルスサイエンス研究を進めるにあたって必要な、明確で正確なコミュニケーションの基本的知識を学びます。 ・研究者として「知らなかった」ではつまらない研究と出版の倫理について学びます。 ・研究成果公表にあたって分かりやすい、科学的・論理的な文章、図表、スライドやポスターの作成法を学びます。			
<b>[到達目標]</b>			
・ヘルスサイエンス研究をする意味への理解を深める。 ・研究者として遵守すべき研究と出版の倫理について理解する。 ・研究を進めるにあたって必要な学会発表、論文出版の進め方、助成金申請の準備について基本的な手順を理解する。 ・研究成果を公表するにあたって必要な科学的な文章作成方法と、一般的な文章表現方法の違いを理解する。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
第1回 5月31日3限 研究倫理：公正な学術情報を発信するために (中山) 第2回 5月31日4限 利益相反 (COI) を考える (中山) 第3回 6月21日3限 研究と出版の倫理 (中山) 第4回 6月21日4限 論理的な文書の作成：論文と抄録の書き方 (植谷) 第5回 6月28日3限 研究資金の概要と研究資金獲得に向けた申請書作成のポイント (協力・下重 幸則 学術研究展開センター (KURA) ) 第6回 6月28日4限 訴求力のあるプレゼンテーション、ポスターの作成 (小野) 第7回 7月5日3限 論理的な文書の作成：パラグラフ構造 (植谷) 第8回 7月5日4限 京都大学における医学研究の歴史 (中山)			
<b>[履修要件]</b>			
特になし			
<b>[成績評価の方法・観点]</b>			
毎回の小レポート (80%) レポート (20%)			
-----ヘルスサイエンス研究の進め方(2)へ続く↓↓↓-----			

ヘルスサイエンス研究の進め方(2)	
-----	
【教科書】	
講義資料は配布	
【参考書等】	
(参考書)	
Thomas Lang 『トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド』(シナジー)	
Thomas Lang 『わかりやすい医学統計の報告：医学論文作成のためのガイドライン』(中山書店)	
中山健夫 ほか 『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』(ライフサイエンス社)	
購入は必須ではありません。	
【授業外学修(予習・復習)等】	
・各回授業につき1時間程度。	
【その他(オフィスアワー等)】	
・授業中は自分の表現で意見表明できるように常に考えてください。	
・開講日と時限に注意してください。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H162 LB90	
授業科目名 <英訳>	毒性科学 Toxicological Sciences	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 原田 浩二 京都大学 医学研究科 研究員 藤谷 倫子 非常勤講師 原田 真理子 非常勤講師 藤井 由希子 非常勤講師 武田 美都里
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・前期		
曜時限	水4	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】			
化学物質の健康影響を考えると、「正」の面である薬と「負」の面である毒がある。本コースでは、環境汚染物質や身近にある金属、有機物質の毒性を有名な事件を題材として考察し、毒性学の概論を学ぶ。現代科学文明の獲得した利便性とヒト健康に及ぼす負の作用を考えます。ケーススタディをもとに、薬物、毒物の影響を教授しますが、自らも考え、積極的に意見発表を行ってください。			
【到達目標】			
・環境保健での事例を説明できる。 ・化学物質の毒性を説明できる。 ・毒物に関して、性質、影響を類推、文献検索ができる。 ・中毒事例について症状と経過から毒物を予想できる。			
【授業計画と内容】			
第1回 オリエンテーション(環境保健と毒性学) Orientation			
第2回～3回 水銀中毒 Mercury poisonings			
第4回 ネオニコチノイド農薬 Neonicotinoid pesticide			
第5回～6回 砒素中毒 Arsenic poisonings			
第7回 インドの小児の神経障害事例 Cause of Chirethren's Death in India during summer			
第8回 インスリン発見百周年を超えてー概論と毒性学的话题 Beyond the 100th anniversary of Insulin-overview and toxicological issues			
第9回 フグ毒とイオンチャネル Tetrodotoxin			
第10回 植物性エストロゲン Phytoestrogens			
第11回 残留性有機汚染物質 Persistent organic pollutants			
第12回 麻薬の毒性 Opioid and cannabinoid			
第13回 温熱環境 温泉って体に良いの？-これまでの研究と今後- Thermal environment: Are hot springs good for your health? -Past and future research-			
第14回～15回 グループワーク Group work			
【履修要件】			
特になし			
【成績評価の方法・観点】			
平常点(出席と質問等の積極性を含む)30%、レポートと発表70%			
-----			
毒性科学(2)へ続く↓↓↓			

毒性科学(2)	
-----	
【教科書】	
講義中の配布資料	
【参考書等】	
(参考書)	
授業中に紹介する	
【授業外学修(予習・復習)等】	
予習の必要はありませんが、化学の知識については、若干必要ですので復習してください。グループワークについては授業時間外で準備してください。	
【その他(オフィスアワー等)】	
留学生が受講している場合は英語での説明も同時に行う。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 上限10人まで可能	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H103 LB90	
授業科目名 <英訳>	医療社会学・基礎 Medical Sociology	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 岩隈 美穂
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・前期集中		
曜時限	前期後半 火5	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】			
コースの概要 本コースは、SPHのみならず、医学部で履修できる数少ない社会科学系科目です。医療社会学とは「健康・病気と保健・医療に関わる世界の問題を、行動や生活、家族や集団、地域や社会、文化などに関する社会学の理論と方法を用いて解明する学問分野」です(山崎善比古(編)、2001、「健康と医療の社会学」まえがきより) このクラスの射程として、社会学だけでなく人類学、コミュニケーション学、歴史、哲学、倫理学なども含めた「人文学・社会科学」から医学を考えます。 座学に加えて、講師によるナラティブ・アプローチ・ワークショップを行います(2コマ、3時間)。			
【到達目標】			
学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できること) 医療社会学とは何か、を説明できる。 医療社会学の概念、理論、方法論を理解する。 基本的概念である「患者役割」「医療化」「エンハンスメント」「SDH」「ナラティブペースト・メディスン(NBM)」などについて理解する。 「人文学・社会科学」の視点から医療・医学を理解する。 NBMを臨床で実践できる。			
【授業計画と内容】			
1)6/4 イントロダクション			
2)6/11 医療社会学の基礎、社会学から見た医学			
3)4/6/25 ナラティブ・アプローチ・ワークショップ(中川晶氏 京都看護大学) [3時間]			
5)7/2 IPE/IPWについて(酒井郁子氏 千葉大学)			
6)7/9 病人役割ほか			
7)7/16 SDH、エンハンスメントほか			
8)7/23 まとめ			
【履修要件】			
特になし			
-----			
医療社会学「基礎」へ続く↓↓↓			

<b>医療社会学・基礎(2)</b>	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
授業での積極的・主体的参加 40% クイズ 10% レポート 50% タイトル 15% + 最終版 35%	
<b>[教科書]</b>	
ハンドアウトを配布する ナラティブ・アプローチ・ワークショップは、3時間(2コマ)です。	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書)	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
各自の興味関心に関連した医療社会学のリーディングを読むことを薦める	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
「授業参加・貢献」を重視しているため、自発的発言を求める。 医療・医学への社会的科学的アプローチに興味のある学生向け。 障害があり、授業あるいは課題への取り組みに配慮(Accommodation)が必要な場合、早めに相談に来ること。 講師の都合によって、内容や日程が変わることもある。 ナラティブ・アプローチ・ワークショップの使用言語は日本語で、2コマ続けて行う(3時間)。 人間健康科学系専攻学生の受講可否: 10名まで可  * 今学期は、対面での授業を予定しています。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>科目ナンバリング</b>		P-PUB01 8H112 LB90	
<b>授業科目名</b> <英訳>	臨床試験 Clinical Trial	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 特定教授 田中 司朗 医学研究科 准教授 西山 知佳 京都府立医科大学 教授 手良向 聡 名古屋医薬センター臨床疫学研究室 齋藤 明子
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2
<b>開講年度・開講期</b>	2024・前期		
<b>曜時間</b>	水5	<b>授業形態</b>	講義(対面授業科目) <b>使用言語</b> 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>			
臨床試験の方法論について、海外の標準的教科書「クリニカルトライアル よりよい臨床試験を志す人たちへ」の3章、5章、6章、9章、10章、12-15章に沿って講義する。循環器、がん、Translational Research領域の医師主導型臨床試験に実績のある講師3人により、臨床試験の実際について講義する。また、仮想的な臨床試験のプロトコル作成を小グループで行う。MCR必修、CB必修、MPH選択。			
<b>[到達目標]</b>			
・臨床試験の方法論を理解する。 ・臨床試験プロトコルの記載内容を理解し、プロトコル作成の考え方について、実習を通じて身につける。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
・第1回は先端科学研究棟1階大セミナー室にて対面で行うので、出席すること ・事前学習+講義形式と、実習形式 ・事前学習の詳細については第1回講義で案内する ・実習はプロトコル作成など			
第1回 4月10日 イントロダクション(田中) 第2回 4月17日 エンドポイント(田中) 第3回 4月24日 検定の多重性・中間解析・試験経過の把握(田中) 第4回 5月1日 組織作りと計画・非劣性試験(田中) 第5回 5月8日 プロトコルの逸脱・中間事象・費用対効果分析(田中) 第6回 5月15日 プロトコルの統計学的考慮点(手良向) 第7回 5月22日 がん臨床試験実施上の問題とその対策(齋藤) 第8回 5月29日 循環器領域の教育介入試験の実際(西山) 第9回 6月5日 RCTからメタアナリシスへ:信頼できるエビデンスはどこに?(講師未定) 第10回 6月12日 実習(プロトコルコンセプト作成、田中) 第11回 6月19日 実習(プロトコルコンセプト作成、田中) 第12回 6月26日 実習(プロトコルコンセプト作成、田中) 第13回 7月3日 実習(プロトコルコンセプト作成、田中) 第14回 7月10日 実習(プロトコル検討会、西山、田中)			
臨床試験(2)へ続く↓↓↓			

<b>臨床試験(2)</b>	
<b>[履修要件]</b>	
特になし	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
平常点(50%)、レポート(50%)	
<b>[教科書]</b>	
S.J.ボコック『クリニカルトライアル よりよい臨床試験を志す人たちへ』(篠原出版) 教科書の入手については第1回でアナウンスする。	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書)	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
教科書「クリニカルトライアル よりよい臨床試験を志す人たちへ」を適宜読むこと。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 可  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>科目ナンバリング</b>		P-PUB01 8H134 LJ90	
<b>授業科目名</b> <英訳>	統計家の行動基準 Statisticians Standard of Conducts	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 特任准教授 佐藤 恵子 医学研究科 助教 大宮 将義
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	1
<b>開講年度・開講期</b>	2024・前期集中		
<b>曜時間</b>	金3限※開講日注意	<b>授業形態</b>	講義(対面授業科目) <b>使用言語</b> 日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>			
19世紀の英国の首相ディズレーリは「嘘には、「嘘」、「大きな嘘」、「統計」がある」としていますが、統計はさまざまな領域で政策や意思決定するための基礎情報として用いられ、人間の福利や環境を保持・向上させるために必要なものです。統計が嘘ばりざれにならないためには、統計に関わる業務や研究を行う専門家である統計家は、相応の知識や技能はもちろんのこと、プロフェッショナルリズムを有してはなりません。 と言われると、なにやら堅苦しい感じがして、とくに最近では研究不正のおかげで、規範を守れだの研究倫理セミナーを受けるなど、外からの縛りがきつくなるばかりですが、本講義は、「自分を縛るのは自分しかない」を基本コンセプトに、統計家はどうかあるべきかを自ら考えて心に持つことを目的とします。 人間を対象にした臨床試験をデザインする際には、科学性だけでなく心が必要であること、健康を願って作ったはずの薬が悲劇を招き、それに統計家が負担する可能性があることなどの事例を学びます。そして、統計家はどうかあるべきか、自分はどうありたいのかについて、討議やグループワークを通じて考えます。			
【7月5日、12日、19日(金)の集中講義】 第3・4回(7月12日)は佐藤嗣道先生(東京理科大学)、第5・6・7回(7月19日)は安藤友紀先生(PMDA)による講義とディスカッションがあります。			
<b>[到達目標]</b>			
・臨床研究における科学性と倫理性の相克を理解する。 ・薬の評価において過去に統計家してきたことを理解する。 ・臨床研究における統計家の役割を説明できる。 ・統計家としての行動基準を考えて身の内に持つ。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
集中講義 7月5日(金、3,4限)、12日(金、3,4限)、19日(金、3,4,5限)			
第1回 7月5日 3限 正当な臨床試験を計画する1 第2回 7月5日 4限 正当な臨床試験を計画する2			
第3回 7月12日 3限 サリドマイド裁判と統計家の関わり1 第4回 7月12日 4限 サリドマイド裁判と統計家の関わり2			
第5回 7月19日 3限 ICH統計ガイドラインのこころ 第6回 7月19日 4限 統計家のプロフェッショナルリズム涵養の 第7回 7月19日 5限 グループワーク			
統計家の行動基準(2)へ続く↓↓↓			



<b>統計家の行動基準(2)</b>
<b>[履修要件]</b> 統計家でない学生さんも歓迎です。
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 課題レポートで評価します。
<b>[教科書]</b> 講義資料などをPandAにアップします。
<b>[参考書等]</b> (参考書) Friedman LM, Furberg CD, DeMets DL, Reboussin DM, Granger CB 『Fundamentals of Clinical Trials, 5th ed.』 (Springer, 2015) 國頭英男, 佐藤恵子, 吉村健一 『誰も教えてくれなかった臨床試験の正しい作法』 (中外医薬社, 2016)
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b> 日本計量生物学会「統計家の行動基準」、ICH E9「臨床試験における統計的原則」を読んでおくこと。 <a href="http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf">http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf</a> <a href="https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html">https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html</a> そのほかは講義で指示します。
<b>(その他(オフィスアワー等))</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

<b>科目ナンバリング</b>	P-PUB01 8H143 LJ90		
<b>授業科目名</b> <英訳>	健康デザイン論 Designing Health communication	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 中山 健夫
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	1
<b>開講年度・開講期</b>	2024・通年集中		
<b>曜時間</b>	集中講義	<b>授業形態</b>	講義(対面授業科目)
<b>使用言語</b>	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ヘルスケアにおけるコミュニケーション・デザインアプローチ」のコンセプトと基本的枠組みを理解する。</li> <li>・当該アプローチを手かりに、メッセージの受け手を「期待する成果」に誘うための「理解」「行動」を促進するコミュニケーション・デザインの考え方について学ぶ。</li> <li>・「講義+ワークショップ」形式を基本とする。</li> </ul> 教育・学習方法 講義・演習 ※アクションラーニング形式(双方向型)な授業を想定。			
<b>[到達目標]</b>			
・健康アウトカムの最大化を果たすための「ヘルスコミュニケーション」の在り方について「インサイト」「理解/行動促進」「共創・協働」等の概念とアプローチ方法の理解を図る。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
(前期)			
第1回	9月12日3限	イントロダクション	～健康デザイン概論
第2回	9月12日4限	コミュニケーション	～コミュニケーションをデザインすること
第3回	9月13日2限	生活者インサイト	～ターゲットインサイトの考え方・向き合い方
第4回	9月13日3限	ブランニング	～健康に誘うための「仕掛けを企てる」ということ
(後期)			
第5回	2月20日3限	「私」のプロジェクト発表会	
第6回	2月20日4限	クリエイターに学ぶ「価値」の育て方	
第7回	2月21日2限	Public Relationというアプローチ	
第8回	2月21日3限	グループワーク	
(※日程は予定のため、変更の可能性あり)			
<b>[履修要件]</b>			
特になし			
<b>[成績評価の方法・観点]</b>			
課題レポート(50%)、発表(50%)			
<b>[教科書]</b>			
講義の際に指定予定			
健康デザイン論(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>健康デザイン論(2)</b>
<b>[参考書等]</b> (参考書) 講義の際に指定予定
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b> 講義内容の復習と課題への取り組み
<b>(その他(オフィスアワー等))</b> プロジェクト研究員(ヘルスコミュニケーションに関する研究【株式会社電通】)の協力を得る予定 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

<b>科目ナンバリング</b>	P-PUB01 8H136 LJ90		
<b>授業科目名</b> <英訳>	統計的推測の基礎 Fundamentals of Statistical Inference	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 特定教授 大森 崇 統計数理研究所 逸見 昌之 医学研究科 助教 大宮 将義
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2
<b>開講年度・開講期</b>	2024・前期		
<b>曜時間</b>	木4	<b>授業形態</b>	講義・演習(対面授業科目)
<b>使用言語</b>	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
この授業では、統計関連科目を学ぶ上でその基礎となる事項について学習する。具体的には、前半で統計的推測法の土台となる確率論の基礎事項について取り扱い、後半では統計的推定・仮説検定・信頼区間などの統計的推測の基礎概念について取り扱う。 前半の確率論では、数学的に厳密な測度論に基づくものではなく、微積分や線形代数(大学学部教養レベルの数学)を用いる範囲で、統計的推測法の理解に必要な確率に関する基本事項の習得を目指す。後半の統計的推測では、基礎概念に対する原理的な考え方と理論的な側面に重点を置く。この授業は、他の統計関連科目の授業ではなかなか立ち止まってじっくりと考える余裕のない基礎的な部分に焦点を当て、準備と足固めをするのが目的である。 受講生のバックグラウンドは様々であると想定されるため、可能な限りその事情を考慮しながら授業を進める。 【パワーポイントスライドと板書による講義形式】			
<b>[到達目標]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・確率と統計に関する基礎概念の意味や考え方をしっかり理解し、自分の言葉で説明することができる。</li> <li>・統計量や確率分布などに関する計算を、必要に応じて自分で考えながら実行できる。</li> <li>・他の統計関連科目を学ぶ際に、各種の統計手法をブラックボックスとはせずに、自ら考えながら学んで、その仕組みを理解することができる。</li> </ul>			
<b>[授業計画と内容]</b>			
第1回	4月11日	講義の概要と確率・確率変数の概念	
第2回	4月18日	離散型確率変数の確率分布とその性質	
第3回	4月25日	連続型確率変数の確率分布とその性質	
第4回	5月9日	複数の確率変数の取り扱いI	
第5回	5月16日	複数の確率変数の取り扱いII	
第6回	5月23日	正規標本に関連する確率分布	
第7回	5月30日	統計的推定の基本事項	
第8回	6月6日	統計的仮説検定の基本事項I	
第9回	6月13日	統計的仮説検定の基本事項II	
第10回	6月20日	線形回帰分析の基礎I	
第11回	6月27日	線形回帰分析の基礎II	
第12回	7月4日	休講	
第12回	7月11日	漸近的方法の基本事項I	
第13回	7月18日	漸近的方法の基本事項II	
第14回	7月25日	漸近的方法の基本事項III	
統計的推測の基礎(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>統計的推測の基礎(2)</b>	
<b>[履修要件]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・微積分と線形代数の基本的な知識があること。</li> <li>・人間健康科学系専攻の学生さんの受け入れはしていません。</li> </ul>	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
レポート試験	
<b>[教科書]</b>	
講義資料を配布します。	
<b>[参考書等]</b>	
<b>(参考書)</b>	
必要に応じて講義中に紹介します。	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生のこの授業の内容の習得状況は様々だと思いますが、この授業を利用しながら、自分が良く理解できていない部分について重点的に学習してください。</li> <li>・この講義に限らず、数理的な講義の内容を理解し習得するためには、講義に出席するだけでは不十分で、自ら講義後に手を動かして計算や論理を丁寧に確かめる必要があります。特にこの講義で扱う内容は、数理的な要素が絡む他の統計関連の講義の理解のために非常に重要であるため、復習には必ずじっくり取り組んでください。</li> <li>・臨床統計家育成コースには、この授業の他に演習が用意されています。基礎に不安のある方や、自分で演習等が困難な方は特に、演習も利用してください。</li> </ul>	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>科目ナンバリング</b>		P-PUB01 8H137 LJ90	
<b>授業科目名</b>	生存時間解析	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 特定教授 大森 崇 大阪大学大学院医学系研究科 服部 聡 医学研究科 助教 大宮 将義
<b>&lt;英訳&gt;</b>	Survival Analysis		
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	1
<b>開講年度・開講期</b>			2024・後期集中
<b>曜時間</b>	金3-4	<b>授業形態</b>	講義(対面授業科目)
		<b>使用言語</b>	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>			
生存時間解析は関心のある事象が生じるまでの期間(生存時間)の統計的分析をする方法であり、抗悪性腫瘍薬の臨床試験など、様々な医学研究において重要な役割を果たしています。研究の実施上の制約から生存時間がすべての被験者で観察されないことが通常で、そのような打ち切りデータに基づいて推測を行うための独特の方法論が発達しています。本講義では、生存時間解析の基本的な考え方を学習し、統計解析用プログラム言語であるSASによる実習を通じて理解の定着を図ります。			
【11月8日、15日、29日、12月6日(金)の集中講義】			
<b>[到達目標]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・打ち切りを伴う生存時間解析における尤度とパラメトリックモデルに対する最尤推定法を理解する。</li> <li>・Kaplan-Meier法、logrank検定の考え方を理解する。</li> <li>・ハザードの概念を理解し、Cox比例ハザードモデルを理解する。</li> <li>・生存時間解析の方法をSASにより適用できる。</li> </ul>			
<b>[授業計画と内容]</b>			
第1回	11月8日 3限	生存時間データの事例と特徴	
第2回	11月8日 4限	パラメトリック推定	
第3回	11月15日 3限	ノンパラメトリック推定	
第4回	11月15日 2限	Logrank検定	
第5回	11月29日 3限	Cox比例ハザードモデル	
第6回	11月29日 4限	生存時間解析における残差解析	
第7回	12月6日 3限	ランダム化試験におけるサンプルサイズ設計	
<b>[履修要件]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること。</li> <li>・微積分の基本的な計算に慣れていること。</li> </ul>			
<b>[成績評価の方法・観点]</b>			
レポート試験により評価する。			
生存時間解析(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>生存時間解析(2)</b>	
<b>[教科書]</b>	
毎回講義資料を配布します。	
<b>[参考書等]</b>	
<b>(参考書)</b>	
大橋靖雄、浜田知久馬『生存時間解析-SASによる生物統計』(東京大学出版会) ISBN:978-4130602006 Collett D (宮岡悦良 監訳)『医業統計のための生存時間データ解析 原著第2版』(共立出版) ISBN:978-4320110359 Klein J, Moeschberger ML (打波守訳)『生存時間解析』(丸善出版) ISBN:978-4621061886 Therneau TM, Grambsch PM『Modeling Survival Data: Extending the Cox Model』(Springer) ISBN:978-1-4419-3161-0 大橋靖雄、浜田知久馬、魚住龍史『生存時間解析 応用編-SASによる生物統計』(東京大学出版会) ISBN:978-4130623179	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
前回の復習を行うこと。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>科目ナンバリング</b>		P-PUB01 8H138 LJ90	
<b>授業科目名</b>	統計モデルとその応用	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 特定教授 大森 崇 岩手医科大学 高橋 史朗 医学研究科 助教 大宮 将義
<b>&lt;英訳&gt;</b>	Statistical Modeling and Applications		
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	1
<b>開講年度・開講期</b>			2024・後期集中
<b>曜時間</b>	金3-4	<b>授業形態</b>	講義(対面授業科目)
		<b>使用言語</b>	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>			
「交絡」を調整する方法の一つに回帰モデルがある。代表的な回帰モデルは、1つの連続的な結果変数に対するものである。しかし医学研究では、リスクの有無に興味がある場合や興味のある結果がくり返し測定される場合もあり、結果の特徴に応じたより複雑なモデルが必要となる場合がある。本コースでは、実例を交えながら、様々な結果変数に対する回帰モデルとその解析方法を説明する。			
【10月4日、11日、18日、25日(金)の集中講義】			
<b>[到達目標]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・回帰モデルの役割を理解する。</li> <li>・様々なデータの特徴に応じた回帰モデルと解析方法を理解する。</li> <li>・統計解析ソフトを用いて解析を実施し、結果を解釈できる。</li> </ul>			
<b>[授業計画と内容]</b>			
第1回	10月4日 3限	経時測定データの事例と特徴	
第2回	10月4日 4限	相関する連続データに対する一般線形モデル(1) 平均構造と共分散構造のモデリング	
第3回	10月11日 3限	相関する連続データに対する一般線形モデル(2) 変量効果モデル	
第4回	10月11日 4限	欠測値がある経時測定データの解析	
第5回	10月18日 3限	相関するカテゴリカルデータに対する一般線形モデル(1) 周辺モデルとGEE	
第6回	10月18日 4限	相関するカテゴリカルデータに対する一般線形モデル(2) 変量効果モデル	
第7回	10月25日 3限	経時測定データ解析の復習とSASによる演習	
<b>[履修要件]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期「統計的推測の基礎」を履修済みであること。</li> <li>・線形代数の基本的な知識を有すること。</li> <li>・SASとRのプログラムが提示されるのでSASとRをインストールしておくこと。</li> </ul>			
統計モデルとその応用(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>統計モデルとその応用(2)</b>
<b>【成績評価の方法・観点】</b> レポート試験により評価します。
<b>【教科書】</b> 毎回講義資料を配布します。
<b>【参考書等】</b> (参考書) Dobson A.J. 『一般化線形モデル入門 原著第2版』(共立出版) ISBN:978-4320018679 McCulloch C., Searle S., and Neuhaus J. 『Generalized, Linear, and Mixed Models』(Wiley) ISBN:978-0-470-07371-1 船渡川伊久子, 船渡川隆 『経時データ解析』(朝倉書店) ISBN:978-4254128550
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b> 前回の復習をすること。
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

<b>科目ナンバリング</b>	P-PUB01 8H142 LJ90		
<b>授業科目名</b> <英訳>	行政医学・産業医学 Medical Doctors in Government and Occupational Settings	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 今中 雄一 非常勤講師 川村 孝昭 非常勤講師 小泉 昭夫 環境安全保健機構 教授 阪上 優
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2
<b>開講年度・開講期</b>	2024・前期集中		
<b>曜日限</b>	集中講義	<b>授業形態</b>	講義(対面授業科目)
<b>使用言語</b>	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b> 労働医学の実践、行政医学の実践について、集中的に学ぶ。 1) 実践現場での問題解決および社会的な問題解決への展開を志向する。 2) 行政の場における医師(行政医師)の専門的実務について概要を学ぶ。 3) 労働の場における医師(産業医)の専門的実務について概要を学ぶ。  外部講師:奥田 司先生(京都府健康福祉部保健医療対策監 京都府立医科大学名誉教授)、和田 安彦先生(新宮保健所長)、藤田 直久先生(京都府保健環境研究所)、丹藤 昌治先生(岐阜県健康福祉部長 厚生労働省医系技官)、波床 将村先生(京都市こころの健康増進センター)、森口 次郎先生(京都工場保健会)、林朝 茂先生(大阪公立大学大学院 医学研究科 産業医学)			
<b>【到達目標】</b> ・課題と対策について深い理解と知識を有し、他者に説明できるようになること。 ・何が問題なのか洞察できるようになること。 ・課題の解決に向けて必要に応じ専門家の支援を得ることができるようになること。			
<b>【授業計画と内容】</b> ・8月5日(月)、8月6日(火) 各日1~5限を予定 ・加えて、「行政医学・産業医学エクステンション」のオンデマンド講義を5コマ以上聴講することを推奨する。  【行政医学】8月5日(月) ・1限 奥田 司 先生「行政医学序論 ~京都府における行政医師の使命とキャリア~」 ・2限 和田 安彦 先生「保健環境行政における医療者、科学者の役割」 ・3限 藤田 直久 先生「京都府保健環境研究所から健康危機管理ほか」 ・4限 丹藤 昌治 先生「我が国の医療政策と厚生労働省医系技官 ~がんだ対策を中心に」 ・5限 波床 将村 先生「地域精神保健:依存症と関連問題&自殺対策の実際」  【産業医学】8月6日(火) ・1限 森口 次郎 先生「職場での健康診断事後措置の実際」 ・2限 小泉 昭夫 先生「化学物質によるリスク評価」 ・3限 林 朝茂 先生「産業医に役立つ生活習慣病の疫学」 ・4限 阪上 優 先生「産業精神保健と総括管理」 ・5限 川村 孝先生「産業医の職務」  *産業厚生医学分野の教員は、京都大学全体の産業衛生を担当する専任産業医です。講義で産業医学の要諦や職場巡視の実際について、理論に基づく実践を分かりやすく伝えるとともに <b>行政医学・産業医学(2)へ続く↓↓↓</b>			

<b>行政医学・産業医学(2)</b>
に、「職場巡視」への参加機会を設けます。「職場巡視」への参加希望の方は、当科目のTA連絡先等に連絡してください。  *外部講師他の諸状況により変更の可能性あり。初回に予定表を配布する。
<b>【履修要件】</b> 社会健康医学系専攻院生 他専攻院生(人間健康科学系専攻等含む)の受講可否:若干名 (社会医学系専門医制度研修プログラムの副分野科目となっている為、外部からの参加者有)  8割程度以上、一定の参加・コミットメントの高さが必須である。
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 講義・討論・グループワーク・発表等におけるコミットメント(配分60%)、レポート(配分40%)により、総合的に評価する。
<b>【教科書】</b> 適宜、資料を講義にて配布する。
<b>【参考書等】</b> (参考書) 『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック:地域共生社会に向けた15の視点(共著)』(学芸出版社:2023) 『病院の教科書第2版』(医学書院) 適宜、講義中に紹介する。 ・「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」(編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂、2018.
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b> 初回に説明する
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b> 社会医学系専門医制度研修プログラムの副分野「行政・地域」、「産業・環境」の研修(各々10時間相当)にもみなすことができる。職場巡視への参加は社会医学系専門医制度・専攻医の副分野研修として重要である。  ※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。  問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp> へご連絡ください。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

<b>科目ナンバリング</b>	P-PUB01 8H172 SB90		
<b>授業科目名</b> <英訳>	健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ Disaster Healthcare Management Workshop	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 今中 雄一
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	1
<b>開講年度・開講期</b>	2024・前期集中		
<b>曜日限</b>	集中講義	<b>授業形態</b>	演習(対面授業科目)
<b>使用言語</b>	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b> 新興感染症流行、自然災害などが増えるなか、健康危機への対応は益々大きな社会的課題となっています。危機突発時の健康危機管理・災害医療においては、情報の収集把握、情報共有、計画・立案・決断・実行、関係者間の協働、資源の配備・調整などのマネジメント面が重要となってきます。 健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ(通称:災害医療ワークショップ)では、我が国のDMAT総本山のリーダー陣が実例ベースでワークショップを行い、健康危機管理、特に災害医療でのマネジメントの側面を、基本概念の理解の上、いくつかの事例の検討、グループワークなどを通じ、体験的に学びます。 医療や災害医療の知識がない、経験がないと思っても、大丈夫です。職種も関係なく参加可能です。  <b>【到達目標】</b> 健康危機管理、特に特に災害医療でのマネジメントのしくみを理解し説明できるようになる。			
<b>【授業計画と内容】</b> 集中講義形式 単位数:1単位 【日時】2024年8-9月頃 事前の4講義の視聴とレポート・質問作成 ワークショップ当日:朝~夕 1限~5限相当 【場所】京都大学 医学研究科 G棟 セミナー室A 【外部講師】近藤久禎先生、若井聡智先生 ほか  <アクティヴラーニング用e-ラーニング講義> 講義1 DMATの意義について 講義2 CSCATTTについて 講義3 広域災害におけるDMAT活動と広域災害救急医療情報システム(EMIS) 講義4 病院の災害対応と受援  <講義> 講義5 e-ラーニング講義の内容に関する質疑応答・ディスカッション ※講師:厚生労働省DMAT事務局/国立病院機構本部近藤久禎/若井 聡智  講義6 「近年の災害対応とDMAT(自然災害)」 ※講師:厚生労働省DMAT事務局/国立病院機構本部近藤久禎/若井 聡智  机上演習1  <b>健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップへ続く↓↓↓</b>			

健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ(2)
<p>※講師：厚生労働省DMAT事務局/国立病院機構本部 近藤 久禎/若井 聡智 ※ファシリテーター 佐々木 佳恵/黒田 愛実/堀田 舞/川野 聡美</p> <p>机上演習2 ※講師：厚生労働省DMAT事務局/国立病院機構本部 近藤 久禎/若井 聡智 ※ファシリテーター 佐々木 佳恵/黒田 愛実/堀田 舞/川野 聡美</p> <p>机上演習3 「COVID-19事例紹介と机上演習」 ※講師：厚生労働省DMAT事務局/国立病院機構本部 近藤 久禎/若井 聡智 ※ファシリテーター 佐々木 佳恵/黒田 愛実/堀田 舞/川野 聡美</p>
<b>【履修要件】</b>
健康危機管理、災害医療のマネジメント側面に、関心を持つ者
<b>【成績評価の方法・観点】</b>
ワークショップへのコミットメント
<b>【教科書】</b>
<p>&lt;資料&gt; 講義資料1 DMATの意義について 講義資料2 CSCATTについて 講義資料3 広域災害におけるDMAT活動と広域災害救急医療情報システム(EMIS) 講義資料4 病院の災害対応と受援 講義資料や机上演習の資料は、ワークショップ中に適宜追加。</p>
<b>【参考書等】</b>
(参考書) 特に指定無し
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>
履修登録者は、ワークショップの事前に、4講義を視聴し、A4 1枚以内で、学んだことのキーポイントと質問を記すレポートをPandAにて提出すること。
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b>
京都大学の大学院生であれば専門領域を問わず受講可
問い合わせ等は、 医療経済学教室教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp> へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H145 LB90		
授業科目名 <英訳>	多重性の考え方 Multiplicity in clinical trials	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇 横浜市立大学 坂巻 顕太郎 医学研究科 助教 大宮 将義
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・前期前半		
曜日	金2	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>【授業の概要・目的】</b>			
<p>検証的な臨床試験において、試験薬に関するいくつかの用量のそれぞれをプラセボと対比較する場合のように、1つの臨床試験で検証を目的とする検定が複数行われることがあります。このような場合、第一種の過誤確率 (type I error rate) に関する多重性を考慮した解析が必要です。本講義では、複数回の検定が行われるいくつかの状況設定において、試験計画、解析、結果の解釈で検定の多重性をどう考慮するかの理解を目指します。一部SASによる実習も行います。 第4回は北海道大学 横田勲先生に、第5回は東京大学 上村鋼平先生、第6回は東京理科大学 寒水孝司先生にご講義いただきます。</p> <p>【パワーポイントスライドによる講義形式】</p>			
<b>【到達目標】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床試験における検定の多重性に関する問題を理解する。</li> <li>仮説の構造に対応する適切な統計手法を説明できる。</li> <li>用量-反応関係、中間解析、サブグループ解析などにおける多重性について理解する。</li> </ul>			
<b>【授業計画と内容】</b>			
<p>第1回 4月12日 検定の多重性の基礎(坂巻) 第2回 4月19日 分散分析に関連する多重比較の問題(坂巻) 第3回 4月26日 閉検定手順とその発展(坂巻) 第4回 5月17日 中間解析におけるアルファ消費関数法(横田) 第5回 5月24日 最近の事例を中心に(上村) 第6回 5月31日 複数の主要評価変数を用いる臨床試験の実際(寒水) 第7回 6月7日 SASによる実習(大森、大宮)</p>			
<b>【履修要件】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>「統計的推測の基礎」を履修済みであること。</li> <li>SAS が使用可能であること。</li> </ul>			
<b>【成績評価の方法・観点】</b>			
レポート試験			
多重性の考え方(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

多重性の考え方(2)
<b>【教科書】</b>
講義資料を事前にPandAにアップします。
<b>【参考書等】</b>
(参考書) 坂巻 顕太郎, 寒水 孝司, 濱崎 俊光 『多重比較法』(朝倉書店, 2009) ISBN:978-4254128628 永田靖 『統計的多重比較法の基礎』(サイエンティスト社, 2007) ISBN:978-4914903466 Dmitrienko A, Molenberghs G, Chuang-Stein C, Offen WW. 『森川・田崎監訳. 試験の統計解析 理論とSASによる実践』(講談社, 2009) ISBN:978-4061557772 Dmitrienko A, Tamhane AC, Bretz F, eds. 『Multiple testing problems in pharmaceutical statistics』(CRC Press, 2009) ISBN:978-1584889847
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>
「統計的推測の基礎」や(CBコースの学生は)「臨床統計家の実務スキル」の内容を十分に復習してください。 毎回の講義の復習が必要です。
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b>
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8N015 LJ90		
授業科目名 <英訳>	遺伝医療と倫理・社会 Genetic Medicine, Ethics and Society	担当者所属・ 職名・氏名	附属病院 特定准教授 小川 昌宣 医学研究科 特定講師 川崎 秀徳 医学研究科 特定助教 鳥嶋 雅子 医学研究科 特定助教 吉田 晶子
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・前期		
曜日	水2・その他開講日注記	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b>			
<p>【基本情報】 授業日時：水曜2限を原則とする(例外予定にご注意ください) 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：基礎 担当者：小川昌宣(科目責任者)・小杉真司・和田敬仁・川崎秀徳・中島健</p>			
<b>【コースの概要】</b>			
<p>遺伝医療・先端医療においては、倫理的な配慮は不可欠である。遺伝医療を中心とした医療倫理の基本について学ぶ。特に種々のガイドラインの理解は極めて重要である。また、社会的な基盤を含む日本の遺伝医療の現状について理解する。</p>			
<b>【到達目標】</b>			
遺伝医療・医学に関する倫理指針、遺伝学的検査、小児・産婦人科遺伝医療における倫理問題の基本、社会基盤について理解する。			
<b>【授業計画と内容】</b>			
<p>【第1回】4月10日&lt;小杉&gt;「遺伝医療総論」遺伝カウンセラーコースの必修科目の最初のものとして、必ずしも「倫理」にかかわらず、全般的なイントロダクションを行う。また、遺伝医療における倫理問題の特性、遺伝情報の共有、意図しない遺伝情報の開示などについて考える 【第2回】4月10日3限目&lt;和田&gt;「生命倫理観の多様性」患者やクライエントの持つさまざまな生命倫理観を理解し、対応する方法を考える 【第3回】4月17日&lt;小杉&gt;「遺伝医療に関するガイドライン」関連する種々のガイドラインについて考える 【第4回】4月24日&lt;和田&gt;「小児遺伝性疾患の診断・告知と代諾」小児期発症の遺伝性疾患に対する倫理的問題を考える 【第5回】5月1日&lt;小杉&gt;「遺伝学的検査と遺伝子解析」臨床検査として行われる遺伝学的検査と研究として行われるヒト遺伝子解析における倫理的問題点、研究と臨床の境界と区別について考える 【第6回】5月8日&lt;小杉&gt;「発症前遺伝子診断、発症前遺伝子診断・易罹患性診断の意味とその問題点について、神経変性疾患、家族性腫瘍など疾患における違いを明確にしながら考える 【第7回】5月15日&lt;小川&gt;「治療法・予防法のある疾患の発症前診断・易罹患性診断」いわゆる Actionable な遺伝性疾患、特に遺伝性腫瘍における血縁者のパリアント保持診断の意義について考える 【第8回】5月22日&lt;小杉&gt;「キャリア診断・保因者診断・遺伝子例外主義」常染色体・X連鎖性劣性遺伝性疾患・均衡型染色体相互転座などにおける保因者診断の意味と問題点について考える。遺伝情報を特別に秘匿する必要があるとする遺伝子例外主義の問題点を考える</p>			
遺伝医療と倫理・社会(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

遺伝医療と倫理・社会(2)	
<p>【第9回】5月29日&lt;小川&gt;「人工妊娠中絶」本邦における人工妊娠中絶について、その倫理問題について考える  【第10回】5月29日  4限&lt;中島&gt;「ゲノム医療における二次的所見の取り扱い」網羅的ゲノム解析が実臨床に導入されて来たことにより得られた本来の目的とは別の二次的所見に対応する際の倫理的問題を考える  【第11回】6月5日&lt;川崎&gt;「新生児医療と倫理」新生児医療における倫理的問題について考える  【第12回】6月12日&lt;小川&gt;「出生前診断・生殖補助医療」出生前診断の倫理的問題について理解する。不妊・不育症治療としての生殖補助医療の倫理的問題について詳細に検討する  【第13回】6月19日&lt;中島&gt;「遺伝子検査ビジネス」Direct-to-Consumer (DTC)遺伝子検査についてその意義・問題点を考える  【第14回】6月26日&lt;和田&gt;「障がい」と生命倫理」「障がい」から生命倫理を考える  【第15回】7月3日&lt;川崎&gt;「少子化」年々出生数は減少し、少子化の進行が止まらない。少子化の何が問題であるのか、その対策の必要性を考える  【第16回】7月10日&lt;吉田&gt;本試験筆記試験  【第17回】7月31日&lt;小川&gt;再試験筆記試験</p>	
<b>履修要件</b>	
遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡	
<b>成績評価の方法・観点</b>	
試験、レポート、授業への積極的な参加、発表、出席等を総合的に評価する	
<b>教科書</b>	
随時配布する	
<b>参考書等</b>	
(参考書)	
<b>授業外学修(予習・復習)等</b>	
適宜指示する	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

基礎人類遺伝学(2)	
<p>【第12回】6月5日&lt;川崎&gt;「遺伝学的検査(2)」バリエーションのスクリーニング方法、正常多型、バリエーションの種類  【第13回】6月12日&lt;和田&gt;「非メンデル遺伝(1)」ミトコンドリア遺伝を学ぶ；母系遺伝、ヘテロプラスミー、ホモプラスミー、ミトコンドリア病  【第14回】6月19日&lt;中島&gt;遺伝的多様性とDNA修復遺伝的多様性、遺伝継承されるDNAのバリエーションと多型、DNA修復  【第15回】6月26日&lt;和田&gt;「非メンデル遺伝(2)」エピジェネティクスを学ぶ；刷り込み遺伝子、DNAメチル化、ヒストン修飾、クロマチンリモデリング、片親性ダイソミー  【第16回】7月3日&lt;鳥嶋&gt;「本試験」筆記試験  【第17回】7月24日&lt;小川&gt;「再試験」筆記試験</p>	
<b>履修要件</b>	
遺伝カウンセラーコース1回生(医療系出身者)必修科目、非医療系出身者は医学基礎Ⅰ「基礎人類遺伝学」(H164000)を履修下さい。 選択科目として履修する場合は、「遺伝医療と倫理・社会」とも履修することをお勧めします 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡	
<b>成績評価の方法・観点</b>	
試験、レポート、発表、出席等を総合的に評価する	
<b>教科書</b>	
トンプソン&トンプソン『遺伝医学(第2版)』(メディカルサイエンスインターナショナル) ISBN:978-4-89592-875-5 (2017年4月発行) 福岡義光編『遺伝カウンセリングマニュアル(改定第3版)』(南江堂 2016) ISBN:978-4-524-26667-8 978-4-815-70166-6『新 遺伝医学やさしい系統講義19講』(メディカルサイエンスインターナショナル 2019) 臨床遺伝専門医制度委員会『臨床遺伝専門医テキスト1 臨床遺伝学総論』(診断と治療社 2021) ISBN:978-4-787-82367-0	
<b>参考書等</b>	
(参考書) 新川詔夫『遺伝医学への招待(改定6版)』(南江堂 2020) ISBN:978-4-524-24931-2 戸田達史『臨床遺伝専門医制度委員会』(MEDSI 2021) ISBN:978-4815730321	
<b>(関連URL)</b>	
http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)	
<b>授業外学修(予習・復習)等</b>	
適宜指示する	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H040 LJ90	
<b>授業科目名</b>	基礎人類遺伝学 Introduction to Human Genetics	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	附属病院 特定准教授 小川 昌宣 医学研究科 特定講師 川崎 秀徳 医学研究科 特定助教 鳥嶋 雅子 医学研究科 特定助教 吉田 晶子
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2
<b>開講年度・開講期</b>			2024・前期
<b>曜時間</b>	水3・その他開講日注連	<b>授業形態</b>	講義(対面授業科目)
<b>使用言語</b>			日本語
<b>授業の概要・目的</b>			
<p>【基本情報】            授業日時：水曜日 3時限を原則とする(例外予定にご注意ください)            教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある            レベル：基礎            担当教員：小川昌宣(科目責任者)・和田敬仁・小杉真司・中島健・川崎秀徳</p>			
<p>【コースの概要】            遺伝カウンセラーとしてあるいは遺伝医学・遺伝医療を志す者として最も基本的な事項について理解するための講義である。今後、遺伝情報を治療に役立てていく精密医療のためにも重要である。細胞遺伝学、分子遺伝学、メンデル遺伝学、非メンデル遺伝、集団遺伝学などについて系統的な講義を行う。</p>			
<b>到達目標</b>			
ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、専門家でない人にもわかりやすく説明できる。			
<b>授業計画と内容</b>			
<p>【第1回】4月10日4限&lt;和田&gt;「メンデル遺伝総論」メンデル遺伝総論；遺伝形式、ヒトゲノム構造、標準的家系図の記載法  【第2回】4月10日5限&lt;小杉&gt;「常染色体顕性遺伝/潜性遺伝」常染色体顕性遺伝 疾患の概念・特徴・浸透度・表現度・遺伝性と新生突然変異・anticipation(次世代の表現促進現象)/常染色体潜性遺伝 疾患の概念・特徴・保因者の概念  【第3回】4月17日&lt;小杉&gt;「X連鎖性遺伝」X連鎖性遺伝の概念・X染色体とY染色体の特異性・性の決定機構・X連鎖性遺伝を示す具体的疾患  【第4回】4月17日4限&lt;小川&gt;「細胞遺伝学(1)」染色体と細胞分裂・分染法による染色体分析・染色体の核型記載方法・染色体異常概論  【第5回】4月17日5限&lt;小川&gt;「細胞遺伝学(2)」染色体数異常の概念と発生機構・染色体構造異常の概念と発生機構・保因者の概念と次世代への影響  【第6回】4月24日&lt;和田&gt;「分子遺伝学の基礎」遺伝子発現調節と分子病理学  【第7回】5月1日&lt;小杉&gt;「薬理遺伝学」遺伝薬理学とゲノム薬理学の基本を正確に理解する  【第8回】5月8日&lt;和田&gt;「遺伝的リスクの推定」再発率の推定、ベイズの定理  【第9回】5月15日&lt;川崎&gt;「遺伝学的検査(1)」PCR法、シーケンス法、サザンブロット法、CGHマイクロアレイ法  【第10回】5月22日&lt;和田&gt;「多因子遺伝、集団遺伝」多因子遺伝の概念、量的形質と質的形質、ハーディー・ワインバークの法則、アレル頻度、近親交配  【第11回】5月29日&lt;中島&gt;「腫瘍遺伝学の基礎」体細胞バリエーションと生殖細胞系列バリエーション、がん遺伝子とがん抑制遺伝子、遺伝性がん症候群</p>			
基礎人類遺伝学(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

基礎人類遺伝学(3)	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	P-PUB01 8N021 LJ90				
授業科目名 <英訳>	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	担当者所属・ 職名・氏名	附属病院	特定准教授	小川 昌宣
	Clinical Genetics and Genetic Counseling		医学研究科	特定講師	川崎 秀徳
配当学年	専門職	単位数	3	開講年度・開講期	2024・前期
曜時間	水4-5-6	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
【基本情報】授業日時：水曜4限、5限を原則とする(例外予定にご注意ください) 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある。レベル：基礎 担当者：小川昌宣(科目責任者)・和田敬仁・中島健・川崎秀徳・小杉眞司・高橋政代・山崎博司 【コースの概要】遺伝カウンセリングの基本的な考え方、モデル、現状などの総論的な講義を行う。 また、代表的な疾患について、チーム医療としての遺伝医療に参加することのできるレベルの知識 と考え方を身につけ、遺伝医療の現場で行われている問題を解決するため、臨床遺伝学の講義を行 うとともに家族関係やチーム医療としての遺伝カウンセリングにもフォーカスをおく。各論として、 単一遺伝性疾患、染色体異常、多発奇形、習慣性流産、家族性腫瘍、神経変性疾患、多因子疾患な どについて講義する。					
<b>[到達目標]</b>					
主要な遺伝性疾患の病態、原因、遺伝形式、遺伝の問題について説明できる。また、それらの疾患 に関わる遺伝カウンセリングの基本的な考え方、主な留意点について説明できる。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
【第1回】4月24日4限<中島>「遺伝性腫瘍(1)総論」遺伝性腫瘍の概念・体細胞系列変異 と生殖細胞系列変異、癌抑制遺伝子と癌遺伝子、発症前診断について学ぶ 【第2回】4月24日5限<中島>「遺伝性腫瘍(2)：家族性大腸がん」家族性腫瘍の代表疾患 としての家族性大腸ポリポージスとLynch症候群、それらの遺伝カウンセリングについて学ぶ 【第3回】5月1日4限<小杉>「遺伝性腫瘍(3)：多発性内分泌腫瘍症他」遺伝性腫瘍の具 体的疾患として、多発性内分泌腫瘍1型、2型およびフォン・ヒッペル・リンドウ病を中心にとりあ げ、概念・病態・遺伝形式・診断・治療、及び遺伝カウンセリングについて概説する 【第4回】5月1日5限<小川>「不妊症・生殖補助医療」不妊の原因と治療、加齢による影響、 生殖補助医療の手法とその特徴、社会的意義や遺伝カウンセリングについて学ぶ 【第5回】5月8日4限<和田>「先天異常症候群」先天奇形症候群の診断・療育や遺伝カウンセ リングを学ぶ 【第6回】5月8日5限<和田>「常染色体異常(1)」常染色体の数的異常と構造異常による疾 患の遺伝カウンセリングを学ぶ 【第7回】5月15日4限<中島>「遺伝性腫瘍(4)：家族性乳がん・卵巣がん」最も頻度の高 い遺伝性乳癌卵巣癌の遺伝医療について知る。保険医療と自費医療の区別。リスク低減手術、サー ベイランスについて学ぶ 【第8回】5月15日5限<中島>「遺伝性腫瘍(5)：リー・フラウメニ症候群」最もがんの浸 透率の高いリー・フラウメニ症候群について、古典的診断基準、遺伝学的検査推奨基準、ガイド ラインについて学ぶ 【第9回】5月22日4限<和田>「常染色体異常(2)」微細欠失症候群やクロマチン病の診断 ・治療と療育を学ぶ 【第10回】5月22日5限<和田>「性染色体異常」ターナー症候群やクラインフェルター症候 群について学ぶ					

科目ナンバリング	P-PUB01 8N017 LJ90				
授業科目名 <英訳>	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2)	担当者所属・ 職名・氏名	附属病院	特定准教授	小川 昌宣
	Clinical Genetics and Genetic Counseling		医学研究科	特定講師	川崎 秀徳
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時間	集中講義	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
【基本情報】授業日時：前期集中(開講日時にご注意ください) 教室：臨床第一講義室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：応用 担当者：川崎秀徳(科目責任者) 小川昌宣・島崎雅子・吉田晶子・小杉眞司・和田敬仁・中島健 【コースの概要】 遺伝カウンセラーとして1年次に学んだ基礎的事項を確認し、医師と同レベルの高度な理解を得る ための講義である					
<b>[到達目標]</b>					
ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、医師とも正確な議論ができる。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
【第1回】4月10日水1限<中島>「臨床遺伝学と遺伝カウンセリング・メンデル遺伝の基礎」遺伝 形式、遺伝用語について学ぶ 【第2回】4月10日水2限<中島>「遺伝学的検査について」遺伝性疾患の遺伝子検査について学ぶ 【第3回】4月11日木1限<和田>「家系図の書き方・遺伝的リスクの推定」家系図の標準的記載法 と遺伝的リスクの推定法を学ぶ 【第4回】4月11日木2限<和田>「先天奇形症候群の遺伝カウンセリング」主要な先天奇形症候群 の遺伝カウンセリングを学ぶ 【第5回】4月12日金1限<小川>「細胞遺伝学と染色体異常の遺伝カウンセリング」細胞遺伝学の 基礎を知り、染色体異常症についての遺伝カウンセリングを学ぶ 【第6回】4月12日金2限<小川>「出生前医療と遺伝カウンセリング」出生前遺伝学的検査の実際 と遺伝カウンセリングを学ぶ 【第7回】4月15日月1限<小杉>「遺伝医療に関するガイドラインについて」 【第8回】4月15日月2限<小杉>「薬理遺伝学」 【第9回】4月16日火1限<和田>「遺伝性神経疾患の遺伝カウンセリング」主要な遺伝性神経疾患 の遺伝カウンセリングを学ぶ 【第10回】4月16日火2限<小川>「生殖補助医療と遺伝カウンセリング」不妊症・不妊症を含む疾 患を対象とした生殖補助医療と遺伝カウンセリングを学ぶ 【第11回】4月18日木1限<中島>「遺伝性腫瘍の遺伝カウンセリング」主な遺伝性腫瘍とその遺伝 カウンセリングについて学ぶ 【第12回】4月18日木2限<島崎>「遺伝カウンセリングの場での医療コミュニケーション(1)」 「共感的理解」、「対人援助職に最低限必要な態度」、「コミュニケーションを阻害する態度や言 葉」など医療コミュニケーションの基本を学ぶ					

科目ナンバリング	P-PUB01 8N021 LJ90				
授業科目名 <英訳>	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	担当者所属・ 職名・氏名	附属病院	特定准教授	小川 昌宣
	Clinical Genetics and Genetic Counseling		医学研究科	特定講師	川崎 秀徳
配当学年	専門職	単位数	3	開講年度・開講期	2024・前期
曜時間	水4-5-6	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
【基本情報】授業日時：水曜4限、5限を原則とする(例外予定にご注意ください) 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある。レベル：基礎 担当者：小川昌宣(科目責任者)・和田敬仁・中島健・川崎秀徳・小杉眞司・高橋政代・山崎博司 【コースの概要】遺伝カウンセリングの基本的な考え方、モデル、現状などの総論的な講義を行う。 また、代表的な疾患について、チーム医療としての遺伝医療に参加することのできるレベルの知識 と考え方を身につけ、遺伝医療の現場で行われている問題を解決するため、臨床遺伝学の講義を行 うとともに家族関係やチーム医療としての遺伝カウンセリングにもフォーカスをおく。各論として、 単一遺伝性疾患、染色体異常、多発奇形、習慣性流産、家族性腫瘍、神経変性疾患、多因子疾患な どについて講義する。					
<b>[到達目標]</b>					
主要な遺伝性疾患の病態、原因、遺伝形式、遺伝の問題について説明できる。また、それらの疾患 に関わる遺伝カウンセリングの基本的な考え方、主な留意点について説明できる。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
【第1回】4月24日4限<中島>「遺伝性腫瘍(1)総論」遺伝性腫瘍の概念・体細胞系列変異 と生殖細胞系列変異、癌抑制遺伝子と癌遺伝子、発症前診断について学ぶ 【第2回】4月24日5限<中島>「遺伝性腫瘍(2)：家族性大腸がん」家族性腫瘍の代表疾患 としての家族性大腸ポリポージスとLynch症候群、それらの遺伝カウンセリングについて学ぶ 【第3回】5月1日4限<小杉>「遺伝性腫瘍(3)：多発性内分泌腫瘍症他」遺伝性腫瘍の具 体的疾患として、多発性内分泌腫瘍1型、2型およびフォン・ヒッペル・リンドウ病を中心にとりあ げ、概念・病態・遺伝形式・診断・治療、及び遺伝カウンセリングについて概説する 【第4回】5月1日5限<小川>「不妊症・生殖補助医療」不妊の原因と治療、加齢による影響、 生殖補助医療の手法とその特徴、社会的意義や遺伝カウンセリングについて学ぶ 【第5回】5月8日4限<和田>「先天異常症候群」先天奇形症候群の診断・療育や遺伝カウンセ リングを学ぶ 【第6回】5月8日5限<和田>「常染色体異常(1)」常染色体の数的異常と構造異常による疾 患の遺伝カウンセリングを学ぶ 【第7回】5月15日4限<中島>「遺伝性腫瘍(4)：家族性乳がん・卵巣がん」最も頻度の高 い遺伝性乳癌卵巣癌の遺伝医療について知る。保険医療と自費医療の区別。リスク低減手術、サー ベイランスについて学ぶ 【第8回】5月15日5限<中島>「遺伝性腫瘍(5)：リー・フラウメニ症候群」最もがんの浸 透率の高いリー・フラウメニ症候群について、古典的診断基準、遺伝学的検査推奨基準、ガイド ラインについて学ぶ 【第9回】5月22日4限<和田>「常染色体異常(2)」微細欠失症候群やクロマチン病の診断 ・治療と療育を学ぶ 【第10回】5月22日5限<和田>「性染色体異常」ターナー症候群やクラインフェルター症候 群について学ぶ					

科目ナンバリング	P-PUB01 8N017 LJ90				
授業科目名 <英訳>	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2)	担当者所属・ 職名・氏名	附属病院	特定准教授	小川 昌宣
	Clinical Genetics and Genetic Counseling		医学研究科	特定講師	川崎 秀徳
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時間	集中講義	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
【基本情報】授業日時：前期集中(開講日時にご注意ください) 教室：臨床第一講義室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：応用 担当者：川崎秀徳(科目責任者) 小川昌宣・島崎雅子・吉田晶子・小杉眞司・和田敬仁・中島健 【コースの概要】 遺伝カウンセラーとして1年次に学んだ基礎的事項を確認し、医師と同レベルの高度な理解を得る ための講義である					
<b>[到達目標]</b>					
ヒト遺伝学の基本的事項について完全に理解し、医師とも正確な議論ができる。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
【第1回】4月10日水1限<中島>「臨床遺伝学と遺伝カウンセリング・メンデル遺伝の基礎」遺伝 形式、遺伝用語について学ぶ 【第2回】4月10日水2限<中島>「遺伝学的検査について」遺伝性疾患の遺伝子検査について学ぶ 【第3回】4月11日木1限<和田>「家系図の書き方・遺伝的リスクの推定」家系図の標準的記載法 と遺伝的リスクの推定法を学ぶ 【第4回】4月11日木2限<和田>「先天奇形症候群の遺伝カウンセリング」主要な先天奇形症候群 の遺伝カウンセリングを学ぶ 【第5回】4月12日金1限<小川>「細胞遺伝学と染色体異常の遺伝カウンセリング」細胞遺伝学の 基礎を知り、染色体異常症についての遺伝カウンセリングを学ぶ 【第6回】4月12日金2限<小川>「出生前医療と遺伝カウンセリング」出生前遺伝学的検査の実際 と遺伝カウンセリングを学ぶ 【第7回】4月15日月1限<小杉>「遺伝医療に関するガイドラインについて」 【第8回】4月15日月2限<小杉>「薬理遺伝学」 【第9回】4月16日火1限<和田>「遺伝性神経疾患の遺伝カウンセリング」主要な遺伝性神経疾患 の遺伝カウンセリングを学ぶ 【第10回】4月16日火2限<小川>「生殖補助医療と遺伝カウンセリング」不妊症・不妊症を含む疾 患を対象とした生殖補助医療と遺伝カウンセリングを学ぶ 【第11回】4月18日木1限<中島>「遺伝性腫瘍の遺伝カウンセリング」主な遺伝性腫瘍とその遺伝 カウンセリングについて学ぶ 【第12回】4月18日木2限<島崎>「遺伝カウンセリングの場での医療コミュニケーション(1)」 「共感的理解」、「対人援助職に最低限必要な態度」、「コミュニケーションを阻害する態度や言 葉」など医療コミュニケーションの基本を学ぶ					

遺伝医学特論（集中講義）(2)	
<p>【第13回】 4月22日2限&lt;吉田&gt;「遺伝カウンセリングの場面での医療コミュニケーション(2)」            遺伝カウンセリング場面の具体的なコミュニケーション方法について学ぶ            【第14回】 4月22日3限&lt;川崎&gt;「当事者と共に歩む遺伝医療」遺伝性疾患である神経線維腫症1型の当事者の状況について学ぶ            【第15回】 4月22日4限&lt;川崎&gt;「遺伝カウンセリングの実際」医療現場で行われている遺伝カウンセリングを学ぶ            【第16回】 5月13日2限「本試験」筆記試験</p>	
<p><b>【履修要件】</b>            社会健康医学系専攻（専門職学位過程）            分子生物学・分子遺伝学の基本的理解を前提とする。</p>	
<p><b>【成績評価の方法・観点】</b>            試験、レポート、出席等を総合的に評価</p> <p><b>【合格基準】</b>            1回の記述式試験において、100点満点中、60点以上となること            60点以上：合格            59点以下：不合格</p>	
<p><b>【教科書】</b>            『トンプソン&amp;トンプソン遺伝医学第2版』（メディカルサイエンスインターナショナル）ISBN: 978-4-89592-875-5            『遺伝カウンセリングマニュアル 改定第3版』（南江堂）ISBN:978-4-524-26667-8            日本人類遺伝学会編集『臨床遺伝学テキストノート』（診断と治療社）ISBN:978-4-787-82316-8            認定遺伝カウンセラー制度委員会監修『遺伝カウンセリング標準テキスト』（診断と治療社）ISBN:978-4-787-82596-4</p>	
<p><b>【参考書等】</b>            （参考書）            『遺伝医学への招待 改訂第6版』（南江堂）ISBN:978-4-524-24931-2</p>	
<p><b>【関連URL】</b>  <a href="http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)">http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)</a></p>	
<p><b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>            適宜指示する</p>	
<p>----- 遺伝医学特論（集中講義）(3)へ続く ↓ ↓ ↓ -----</p>	

遺伝医学特論（集中講義）(3)	
<p><b>（その他（オフィスアワー等））</b>            講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります。            ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H158 LB90	
授業科目名 <英訳>	地域保健活動論 Public health intervention strategies	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 教授 近藤 尚己
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期前半		
曜時限	木3.4	授業形態	講義（対面授業科目）
使用言語	日本語及び英語		
<p><b>【授業の概要・目的】</b>            国際社会・国・地域・職域・SNSコミュニティといった「場」におけるヘルスプロモーション活動の実践に関する理論や技術について、講義と演習の形式で実践的に学びます。            とりわけ「健康の社会的決定要因」と「健康格差」に着目し、そのメカニズムの解明や実態把握のための研究の進め方や格差の評価・測定法、健康格差野制御方法について学びます。関連する理論のうち、疾病予防におけるRoseのhigh risk strategy と population strategyの類型をさらに分類し、特にpopulation strategyの亜型であるvulnerable population approach, proportionate universalism, redistributive policy等の理解と、これらのアプローチに基づく具体的な実践をテーマに、公正なヘルスプロモーション推進の方法について学びます。            ヘルスプロモーションでは多様な利害関係者との合意形成と協創的活動が求められます。地域社会での実践に関連する概念として、community empowerment, community organizing, social prescribing（社会的処方）、地域包括ケアcommunity-based integrated care、地域共生社会inclusive societyなどを扱います。こども食堂や生活困窮世帯の子どもへの学習支援など、市民による社会包摂の取り組みとの関連やその在り方について検討します。            最終日にグループで課題発表をしてもらいます。            The course provides practical training in the form of lectures and exercises on theories and techniques related to the practice of health promotion activities in 'places' such as the international community, countries, regions, workplaces and SNS communities.            Particular attention is paid to 'social determinants of health' and 'health inequalities', and students learn how to conduct research to clarify the mechanisms and understand the actual situation, how to evaluate and measure inequalities, and how to control health inequalities. Among the relevant theories, Rose's high-risk strategy and population strategy typologies in disease prevention are further classified, particularly the vulnerable population approach, which is a subtype of the population strategy. The course focuses on understanding proportionate universalism, redistributive policy, etc., which are subtypes of population strategy, and on specific practices based on these approaches to learn how to promote equitable health promotion.            Health promotion requires consensus-building and collaborative activities with diverse stakeholders. Concepts relevant to community practice include community empowerment, community organizing, social prescribing, community-based integrated care, and inclusive society. The course examines the relationship with and the nature of social inclusion initiatives by citizens, such as children's cafeterias and learning support for children from needy households.            On the last day of the course, students will be asked to make a group presentation on their assignment.</p>			
<p>----- 地域保健活動論(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----</p>			

地域保健活動論(2)	
<p><b>【到達目標】</b>            ・地域保健活動の考え方についての歴史の変遷を理解する            ・コミュニティにおける健康格差の制御手法の基本を理解する            ・現在実施されている地域保健の取り組みを批判的に評価できる            ・多様な主体との合意形成を行う手法を実践的に学ぶ            ・受講生が関心を持つテーマを掘り下げ、発表形式で議論し、理解を深める</p> <p>Understand the historical evolution of the concept of community health action.            Understand the basics of methods to control health inequalities in the community.            Critically evaluate current community health initiatives.            Practical learning of methods for consensus building with diverse actors.            To deepen understanding by delving into themes of interest to the students and discussing them in the form of presentations.</p>	
<p><b>【授業計画と内容】</b>            下記の予定は変更する場合があります。            1. 10/3 地域保健活動の概念とその変遷・ポピュレーションアプローチの類型            2. 10/10 健康なまちを創る：ソーシャルキャピタルの醸成とコミュニティの組織化            3. 10/17 データを基盤にまちづくり：地域診断データを活用したコミュニティでのヘルスプロモーション            4. 10/24 多様な組織との連携を進める：保健外のセクターとの合意形成と活動推進            5. 11/14 健康影響予測評価（Health Impact Assessment）を体験する：HIA演習（産業医科大学/藤野善久）            6. 11/21 ソーシャルマーケティングと10/10戦略による健康行動の普及（東京大学/鎌田真光）            7. ゆるスポーツから学ぶアイデア発想法（世界ゆるスポーツ協会代表理事/澤田智洋）            8. 12/5 課題発表！</p> <p>The schedule below is subject to change.            1. 10/3 Concepts of community health activities and their evolution/types of population approaches            2. 10/10 Creating healthy communities: fostering social capital and community organization            3. 10/17 Data-based community development: health promotion in communities using local diagnostic data            4. 10/24 Promoting partnerships with diverse organizations: building consensus and promoting activities with sectors outside of health            5. 11/14 Experiencing Health Impact Assessment (HIA): HIA exercise (Yoshihisa Fujino, University of Occupational and Environmental Health)            6. 11/21 Social marketing and network intervention applied to community-wide promotion of health behaviors (Masamitsu Kamada, The University of Tokyo)            7. Idea generation methods learned from 'Yuru Sports' (Tomohiro Sawada, World Yuru Sports Association)            8. 12/5 Students' Presentation!</p>	
<p><b>【履修要件】</b>            聴講は可能ですが、レポート提出と課題発表は原則として履修生のみとします。            Auditing is allowed, but as a rule only students taking the course are allowed to submit reports and present</p>	
<p>----- 地域保健活動論(3)へ続く ↓ ↓ ↓ -----</p>	

<b>地域保健活動論(3)</b>	
assignments.	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
講義中のディスカッション(30%)・レポート(30%)・課題発表(40%) 初回講義、最終発表にはレポート提出を求めます。 In-class discussions (30%), report (30%), assignment presentation (40%) Students are required to submit a report for the first lecture and final presentation.	
<b>[教科書]</b>	
参考書「健康格差対策の進め方：効果をもたらす5つの視点」を講義の進捗に合わせて通読することを推奨する。  日本語を母語としない受講生が1名でもいる場合、講義は英語で行い、配布資料は日本語と英語の両方を配布します。ただし外部講師の講義は日本語で行い、スタッフによる逐次英語通訳を付けます。	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 近藤尚己『健康格差対策の進め方：効果をもたらす5つの視点』(医学書院, 2016) ISBN:978-4-260-02501-0 Lisa F. Berkman, Ichiro Kawachi, and M. Maria Glymour『Social Epidemiology 2nd Edition』(Oxford, 2014) ISBN:9780195377903 (ヘビーですが読み応えあり。邦訳が大塚館から上下巻あり(社会学分野にて訳者割引で購入化)) NHKスペシャル取材班『健康格差 あなたの寿命は社会が決める』(講談社現代新書) ISBN:978-4-06-288452-5 (たいへん読みやすい一般むけ入門書) Meredith Minkler『Community Organizing and Community Building for Health and Welfare』(2012) ISBN:9780813553009 澤田智洋『マイノリティデザイン—弱さを生かせる社会をつくらう』(ライツ社) ISBN:978-4-909044-29-7 近藤尚己, 五十嵐歩(編集)『認知症plus地域共生社会 つながり支え合うまちづくりのために私たちができること』(日本看護協会出版会, 2022) ISBN:9784818023994 近藤尚己・西村真紀『実践 SDH診療 できることから始める健康の社会的決定要因への取り組み』(中外医学社 2023) ISBN:978-4-498-12006-8 (臨床向け) 下記書籍は以下から無料ダウンロード可能 <a href="https://www.jages.net/library/regional-medical/">https://www.jages.net/library/regional-medical/</a>  近藤尚己編 「付き添い」のちから 生活困窮者の医療サービス利用の実態および受診同行支援の効果に関する調査研究  黒谷佳代編 生活困窮世帯の子どもに対する支援ってどんな方法があるの? 国内外の取り組みとその効果に関するレビューおよび調査  近藤尚己編 介護予防のための地域診断データの活用と組織連携ガイド	
-----地域保健活動論(4)へ続く↓↓↓-----	

<b>地域保健活動論(4)</b>	
近藤尚己編 地域包括ケアの推進に向けたまちづくり支援ガイド	
<b>(関連URL)</b>	
<a href="https://www.jages.net/library/regional-medical/">https://www.jages.net/library/regional-medical/</a> (地域保健に役立つ資料格納サイト (JAGES))	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
最終日に課題発表をしてもらいます。準備については講義中にアナウンスします。You will be asked to present your assignment on the last day. Preparation will be announced during the lecture.	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>科目ナンバリング</b> P-PUB01 8H020 LB90	
<b>授業科目名</b> <英訳> Field Medicine	<b>担当者所属・職名・氏名</b> 藤727地域研究部 准教授 坂本 龍太
<b>配当学年</b> 専門職	<b>単位数</b> 2 <b>開講年度・開講期</b> 2024・後期
<b>曜時間</b> 月4	<b>授業形態</b> 講義(対面授業科目) <b>使用言語</b> 日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>	
フィールド医学は、疾病、老化のありさまを、自然環境、文化背景との関連でもう一度、捉えなおそうとする研究領域である。本授業では、フィールド医学の系譜をたどるとともに我が国及びヒマラヤ地域などで行ってきた研究活動を紹介する。病院から地域に出て生活の場を重んじるフィールド医学のよりよい実践を目指し、世界の中で我々が抱えている課題を共有し、今後のあり方をともに議論していきたい。	
<b>[到達目標]</b>	
先人たちが同時代を生きる人々のバイオニアスピリッツや哲学を学び、自身で課題を発見し、自主的に物事に取り組む能力を育む。	
<b>[授業計画と内容]</b>	
第1回 自己紹介及び講座紹介 第2回 フィールド医学 第3回 自由とバイオニアスピリッツ 第4回 目の前の一人の患者からはじまる研究 第5回 傍らに棲むレジオナラ 第6回 高所環境における老い 第7回 内なる地球環境問題 第8回 ドムカル谷における高齢者の健康としあわせ 第9回 地域研究における友好の意義 第10回 ブータンにおける地域在住高齢者ケア計画 第11回 診療所から学ぶ人々の暮らし 第12回 医療の限界と役割 第13回 死生観と医療の意義 第14回 ヒマラヤの長寿者からの伝言 第15回 総合討論 試験 実施しない	
教室：東南アジア地域研究研究所 2階会議室 (E202号室)	
<b>[履修要件]</b>	
特になし	
-----人間生態学(2)へ続く↓↓↓-----	

<b>人間生態学(2)</b>	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
出席による発表、討論、ならびにレポートによって行う。	
<b>[教科書]</b>	
授業中に指示する	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 坂本龍太『ブータンの小さな診療所』(ナカニシヤ出版) ISBN:978-4779508974 奥宮清人『生老病死のエコロジー』(昭和堂) ISBN:978-4812210673	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
授業中に感じた疑問や課題を大切に、それに関することについて調べたり、自分自身の頭でよく考える。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
坂本龍太 京都大学東南アジア研究所 606-8501 京都市左京区吉田下阿達町4 6 TEL:075-753-7368 FAX:075-753-7168 E-mail:sakamoto65@cseas.kyoto-u.ac.jp  面会希望者は、メールでアポイントをとってください。  人間健康科学専攻学生への受講可否：可能(5名程度)  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	



科目ナンバリング		P-PUB01 8H021 LJ90			
授業科目名 <英訳>	交絡調整の方法 Intermediate Biostatistics	担当者所属 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇		
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時間	火2	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>前期コア科目である「医療統計学」で学んだ医療統計学の考え方を実践するための具体的な統計的方法について講義します。</p> <p>本講義では、疫学研究などの観察研究において因果関係を調べる際に妨げとなる「交絡」を調整する方法として、層別解析、回帰モデルなどの解析方法を説明するとともに、解析計画を立てる上で必須である「研究計画書」での医療統計的なポイント、データ解析を実施する上で必要となる「解析計画書」作成のポイントをとり上げます。「医療統計学」よりも専門的な内容が増えますが、具体例を示しながら基本的な考え方を中心に講義します。</p> <p>履修条件に注意してください。</p> <p>【パワーポイントスライドによる講義形式】</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交絡について理解し、正しく説明できる。</li> <li>・交絡調整における層別解析と回帰モデルの意義を理解し、説明できる。</li> <li>・層別解析と回帰モデルの利点・欠点を説明できる。</li> <li>・研究計画書、解析計画書の重要性を理解し、説明できる。</li> </ul>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
第1回 10月1日 交絡の復習と標準化 第2回 10月8日 共通効果の推定 第3回 10月22日 平均値の比較 第4回 10月29日 回帰モデル入門、第1回ミニテスト 11月5日 休講(博士入試) 第5回 11月12日 一般化線形モデル 第6回 11月19日 生存時間解析1 第7回 11月26日 生存時間解析2 第8回 12月3日 データの欠測・estimand、第2回ミニテスト 第9回 12月10日 研究計画書の作成 第10回 12月17日 解析計画書の作成 第11回 12月24日 医薬品の審査と市販後安全対策(13:15~14:45 森先生(セミナー室A)) 第12回 1月7日 変数選択、第3回ミニテスト 第13回 1月14日 上級者の交絡調整の方法 第14回 1月21日 解析計画ディスカッション(セミナー室A)					
<b>[履修要件]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期コア科目「医療統計学」を履修済みであること。</li> </ul>					
交絡調整の方法(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

<b>交絡調整の方法(2)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間健康科学系専攻の学生の受け入れはしていません。</li> </ul>	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
3回のミニテストで評価します。	
<b>[教科書]</b>	
前期「医療統計学」配布資料。 講義スライド資料を配布します。	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) Rothman KJ. 監訳 矢野栄二・橋本英樹・大脇和浩 『ロスマンの疫学 科学的思考への誘い 第2版』(篠原出版社, 2013) ISBN:978-4884123727 Lash TL, VanderWeele TJ, Haneuse S, Rothman KJ. 『Modern Epidemiology, 4th ed.』(Wolters Kluwer, 2021) ISBN:978-1451193282	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
前期コア科目「医療統計学」の資料を復習してください。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H022 PJ90			
授業科目名 <英訳>	解析計画実習 Health Data Processing Laboratory	担当者所属 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇 日本製薬工業協会 森 和彦 医薬品医療機器総合機構 安藤 友紀 医学研究科 助教 大宮 将義		
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時間	火3,4	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
疫学研究・臨床研究を実施する上で必要となる研究計画書や解析計画書を作成するために必要な内容を実習を通じて身につけます。この実習は、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究ガイドラインや倫理指針の内容を批判的に吟味しグループでディスカッションする臨床研究ガイドライン実習</li> <li>・「交絡調整の方法」で学んだ方法をJMPを使って実践する統計解析実習</li> <li>・公開されている医薬品承認申請・審査資料を用いて医薬品の承認審査を体験する審査実習</li> <li>・自身の研究の解析計画を作成する解析計画実習</li> </ul> の4つのパートからなっています。 <p>履修条件に注意してください。</p> <p>【少人数の班に分かれた実習】</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種研究ガイドライン、倫理指針の内容を理解できる。</li> <li>・統計ソフトJMPを用いて層別解析、回帰モデルが実行でき、適切な結果を報告し、結果を解釈できる。</li> <li>・医薬品承認申請の資料を読み、医薬品の審査を体験する。</li> <li>・課題研究の解析計画書を作成できる。</li> </ul>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
第1回 10月1日 ガイドライン・倫理指針実習1 第2回 10月8日 ガイドライン・倫理指針実習2 第3回 10月22日 ガイドライン・倫理指針実習発表会 第4回 10月29日 層別解析 11月5日 休講(博士入試) 第5回 11月12日 平均値の比較 第6回 11月19日 回帰分析 第7回 11月26日 一般化線形モデル 第8回 12月3日 生存時間解析 第9回 12月10日 新医薬品の審査実習1 第10回 12月17日 新医薬品の審査実習2 第11回 12月24日 新医薬品の審査実習発表会(15:00~ セミナー室A) 第12回 1月7日 解析計画書作成1 第13回 1月14日 解析計画書作成2					
解析計画実習(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

<b>解析計画実習(2)</b>	
第14・15回1月21日 解析計画書発表会(9:00~16:30 セミナー室A)	
<b>[履修要件]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期コア科目「医療統計学実習」を履修済みであること。</li> <li>・人間健康科学系専攻の学生の受け入れはしていません。</li> </ul>	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の班または個人のレポート、班での発表と質疑を評価します。(各回の班または個人のレポート(80%)、班での発表と質疑(20%))</li> </ul>	
<b>[教科書]</b>	
前期「医療統計学」、「医療統計学実習」資料。 毎回、実習の手引きを配布します。	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書)	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
前期選択科目「医療統計学実習」を復習してください。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
統計ソフトJMPがインストールされたノートパソコンを持参してください。JMPは医学研究科の大学院生であれば利用できます(個人のパソコンにインストールできます)。 JMPの利用については、 <a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/</a> を参照してください。(11月ごろライセンスの更新が必要となります。) ※途中からの参加は認めません、必ず初回から出席してください ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H159 LB90	
授業科目名 <英訳>	環境曝露・リスク評価 Environmental exposures and their risk assessments	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 原田 浩二 京都大学 医学研究科 研究員 藤谷 倫子 非常勤講師 原田 真理子 非常勤講師 藤井 由希子
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期		
曜時間	金5	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
環境要因の健康影響を評価するための方法論について講義する。種々の環境要因の概略を説明し、それぞれについての曝露評価手法を紹介する。環境要因による健康アウトカムへの影響を解析した事例を紹介し、その特徴を講義する。環境要因の影響に基づいて、定められた集団におけるリスクを評価するための枠組みについて紹介し、事例を検討する。最後に、リスク評価結果を社会で実装するリスク管理の実際と課題について紹介する。講義においては学生自身による事例の検討も課題とし、発表、討論の機会を提供する。			
<b>[到達目標]</b>			
種々の環境要因を説明できる 環境要因の曝露評価の手法の概要を説明できる 健康影響の評価、リスク評価の枠組みを理解できる 環境研究の論文について批判的に吟味できる。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
1st Orientation 2nd Exposure assessment 1 Chemical factors 3rd Exposure assessment 2 Biological monitoring 4th Exposure assessment 3 Chemical analysis 5th Toxicology 1 General principle 6th Toxicology 2 Testing methods 7th Toxicology 3 Toxicokinetics 8th Toxicology 4 Neurotoxicity 9th Environmental epidemiology 1 Phytoestrogens 10th Environmental epidemiology 2 Chemical exposures and metabolic disorders 11th Risk assessment 1 Critical review 12th Risk assessment 2 Critical review 13th Toxicology 5 Gene and environment interactions 14th Risk management 15th Presentation and discussion			
<b>[履修要件]</b>			
特になし			
<b>[成績評価の方法・観点]</b>			
・ Attendance and active participation 50%			
----- 環境曝露・リスク評価 (2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>環境曝露・リスク評価 (2)</b>	
-----	
・ Presentation 50%	
<b>[教科書]</b>	
使用しない Handouts	
<b>[参考書等]</b>	
<b>(参考書)</b> 授業中に紹介する	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
Revision is recommended to follow biological mechanisms in target toxicities.	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 上限3人まで可能  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H032 LB90	
授業科目名 <英訳>	ベンチトレーニングコース On the Bench Training Course	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 原田 浩二 武庫川女子大学食物栄養科学部 土生 敏行 准教授 昭和大学医学部 講師 森戸 大介
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期集中		
曜時間	集中講義	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
I. コースの概要 環境保健・毒性評価・化学工業における専門職として必要な調査、実験の実践を行いません。Gas Chromatography/Mass Spectrometry を使用した化学分析法、フィールドでの環境汚染物質調査、細胞などを利用した毒性評価、ヒトへの曝露、リスク評価のprotocol writing, protocol meeting, sample collecting, sample measurement, audit, paper writing, review, presentation を実習します。			
<b>[到達目標]</b>			
・ 文献等を調べて研究テーマの背景を説明できる ・ 明らかにすべき事柄に対する研究手段を選択することができる ・ 分析機器を使用することができる ・ プロトコルを書くことができる ・ プロトコルをpresentationすることができる ・ 実験結果をまとめることができる ・ 研究結果をpresentationすることができる ・ 研究成果を論文にまとめることができる			
<b>[授業計画と内容]</b>			
Course Schedule 1 Orientation 2 Gas Chromatography 3 Mass Spectrometry 4 Biochemical analysis 5 Molecular analysis 6 Sample preparation 7 Discussion of theme and presentation of background 8 Protocol Writing 9 Protocol Presentation 10 Sample collecting 11 Sample measurement (1) 12 Sample measurement (2) 13 Summarizing the data 14 Presentation of the data 15 Writing Paper			
----- ベンチトレーニングコース(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>ベンチトレーニングコース(2)</b>	
-----	
<b>[履修要件]</b>	
特になし	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
Active participation 50%, Presentation 50%	
<b>[教科書]</b>	
授業中に指示する	
<b>[参考書等]</b>	
<b>(参考書)</b> 授業中に紹介する	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
実習の課題によっては1日の講義時間が変わります。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
本科目は集中講義ですので、科目登録者に対して、実習実施のスケジュールを連絡し、受講者とスケジュールを調整します。 人間健康科学系専攻学生の受講可否： 上限2人まで可能  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H099 LB90	
授業科目名 <英訳>	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査 Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期		
曜時間	水3,4	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
<p>【講義担当者】川上浩司(薬剤疫学・教授)、田中司朗(臨床統計学・特定教授)、佐々木まどか(近畿大学大学院・特任准教授)、山田弘(国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所)、笠井宏志(東北大学病院 臨床研究推進センター)、山本晴子(国立循環器病研究センター・データサイエンス部長)、所哲哉(サナメディカ株式会社)、藤原康弘(独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)・理事長)、脇谷滋之(武庫川女子大学・教授)、瓜生原菜子(同志社大学・教授)、Christian Elze (Catenion社・シニアパートナー)、大西佳恵 (CreativCeutical社・日本代表)、寺島 玄(株式会社JMDC)、漆原尚巳(慶應義塾大学・教授)、深澤俊貴(デジタルヘルス学・特定助教)</p> <p>コースの概要 本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の選択科目の一つです。 医薬品開発の全体戦略、新薬創出や毒性への対処、標準治療確立のための臨床試験のプロトコル作成、臨床試験の計画と実施中のプロジェクトマネジメントの基礎と実際、PRO研究の実際、薬価の交渉、市販後臨床試験の考え方について学びます。また、医薬品や医療機器の開発と行政当局における開発の考え方と審査の考え方と薬事対応方法について、行政当局の元審査官の講師陣により理化学試験と製造、非臨床試験、臨床審査、および承認の考え方につき網羅的に講義と実習を通して学びます。</p> <p>学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品、バイオ医薬品(生物製剤)、医療機器の開発の戦略、臨床試験の立案、実施時のプロジェクトマネジメント、安全性・有効性の評価について、開発者の薬事業務と行政当局(審査側)の業務と考え方を理解する。</li> <li>・ヘルステック/ロジアーセメントの観点から、費用対効果、薬価についての実施を学ぶ。</li> </ul> <p>教育・学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義、審査・開発実習、討議</li> </ul>			
<b>[到達目標]</b>			
<p>学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品、バイオ医薬品(生物製剤)、医療機器の開発の戦略、臨床試験の立案、実施時のプロジェクトマネジメント、安全性・有効性の評価について、開発者の薬事業務と行政当局(審査側)の業務と考え方を理解する。</li> <li>・ヘルステック/ロジアーセメントの観点から、費用対効果、薬価についての実施を学ぶ。</li> </ul>			
<b>[授業計画と内容]</b>			
第1回 10月2日 アカデミアにおける医薬品開発とトランスレーショナルリサーチ (田中)			
第2回 10月9日 臨床試験 開発と審査: 臨床評価 (藤原)			
第3回 10月16日 臨床試験 開発と審査: CMC (川上)			

<b>医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2)</b>	
<p>第4回 10月23日 臨床試験 開発と審査: 非臨床試験 (佐々木)</p> <p>第5回 10月30日 臨床試験のプロジェクトマネジメントの基礎と実習 (笠井)</p> <p>第6回 11月6日 臨床試験 開発と審査: 医療機器(1) (山本)</p> <p>第7回 11月13日 The Changing Dynamics of Bio-pharmaceutical Innovation (Elze)</p> <p>第8回 11月27日 医薬品開発における安全性データ評価とAI (山田)</p> <p>第9回 12月4日 臨床試験 開発と審査: 再生医療 (脇谷)</p> <p>第10回 12月11日 医療品のライフサイクルマネジメントと行動科学 (瓜生原)</p> <p>第11回 12月18日 薬剤疫学方法論実習 (深澤)</p> <p>第12回 12月25日 医薬経済評価: 費用対効果研究実習 (大西)</p> <p>第13回 1月8日 臨床試験 開発と審査: 医療機器(2) (所)</p> <p>第14回 1月22日 臨床試験 開発と審査: 製造販売承認後 (漆原)</p> <p>第15回 1月29日 医療系データベースを用いた医療・健康評価の実績 (寺島)</p>	
<b>[履修要件]</b>	
臨床試験の実施や審査、医薬品や医療機器の事業戦略、開発やアウトカム研究トピックの方々に講師にお迎えしています。後期2限に開講されるH109「医薬政策・行政」H079「医薬品の開発と評価」を受講していることを必須とします。本科目のみの受講は認めません。	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
実習への参加(50%)、レポート(50%)	
<b>[教科書]</b>	
使用しない	
<b>[参考書等]</b>	
<p>(参考書)</p> <p>安生紗枝子ら『新薬創製への招待: 開発から市販後の監視まで』(共立出版, 2006.) 川上浩司, 漆原尚巳, 田中司朗(監修)『ストロムの薬剤疫学』(南山堂, 2019.)</p>	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
適宜予習復習を求める。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H079 LB90	
授業科目名 <英訳>	医薬品の開発と評価 Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・後期集中		
曜時間	後期後半 水2	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
<p>前週までの「医薬政策・行政」に引き続いて、医薬品、バイオ医薬品、医療機器の研究開発の過程について、前臨床研究、試験物の理化学試験と製造、動物を用いた非臨床試験、そして人を対象とした臨床試験、行政当局による承認、薬価の決定(費用対効果)、市販後評価というすべてのステップにおける安全性と有効性、経済性の評価について学びます。また、トランスレーショナルリサーチの実際、製薬産業の国際動向についても学びます。</p> <p>【講義担当者】川上浩司(薬剤疫学・教授)、白沢博満(MSD株式会社・副社長)、堀井郁夫(英国ケンブリッジ大学・客員教授)、佐藤泉美(長崎大学・教授)、Christian Elze (Catenion社・シニアパートナー)、大西佳恵 (CreativCeutical社・日本代表)、榊原晴(財務省主計局)、漆原尚巳(慶應義塾大学・教授)、田中佐智子(神戸薬科大学・教授)</p> <p><b>[到達目標]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品、医療機器、生物製剤の開発と評価の基本的考え方、方法論を理解している。</li> <li>・費用対効果、薬価とは何かについての基本的考え方、方法論を理解している。</li> <li>・薬剤疫学と市販後の基本的考え方、方法論を理解している。</li> </ul>			
<b>[授業計画と内容]</b>			
第1回 11月13日 Healthcare Systems - Challenges and Reform(Elze)			
第2回 11月27日 医薬品の創製、毒性と安全性 (堀井)			
第3回 12月4日 医療リアルワールドデータと医薬品評価 (川上)			
第4回 12月11日 グローバル製薬企業の動向と開発薬事 (白沢)			
第5回 12月18日 薬剤疫学概論 (佐藤)			
第6回 12月25日 医薬経済概論: 費用対効果と薬価の考え方 (大西)			
第7回 1月8日 日本の財政状況と医療・福祉 (榊)			
第8回 1月22日 市販後調査、市販後臨床試験 (漆原)			
第9回 1月29日 デジタルヘルスの現状と疫学 (田中)			

<b>医薬品の開発と評価(2)</b>	
<b>[履修要件]</b>	
本コースの前週まで講義が行われるH109「医薬政策・行政」と連続、一括した内容となっており、原則として通して受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日3・4限のH099「医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
講義の場への参加(50%)、レポート(50%)	
<b>[教科書]</b>	
使用しない	
<b>[参考書等]</b>	
<p>(参考書)</p> <p>安生紗枝子ら『新薬創製への招待: 開発から市販後の監視まで』(共立出版, 2006.) 川上浩司, 漆原尚巳, 田中司朗(監修)『ストロムの薬剤疫学』(南山堂, 2019.)</p>	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
予習は特に不要であるが、復習については十分に行うことを期待する。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
川上浩司 G 棟3 階・内線: 9469(代表) 面談希望は必ずメールでご連絡下さい。 kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8M022 LB90			
授業科目名 ＜英訳＞	ゲノム科学と医療 Genome Science and Medicine	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 松田 文彦 医学研究科 特任教授 長崎 正朗 医学研究科 准教授 川口 修治		
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時間	木3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	英語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
ゲノム科学技術が発展し、DNAシーケンス実験を比較的安価に実現できる時代となった。本講義の目的は、ゲノム科学の発展が21世紀の医療に及ぼすインパクトを与えるのかを理解することにある。本講義では、ゲノム科学に携わっている研究者の最新の研究成果とその臨床医学における実践的な応用ならびに応用の可能性についての授業を、各分野の専門家による講義として行う。					
<b>【到達目標】</b>					
・ゲノム医学の概念を理解する。 ・実際に行われている、あるいは近い将来に行われるようになる可能性のある臨床医学へのゲノム科学の応用について、実情並びに展望を学ぶ。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
第1回	ゲノム医学①(村川泰裕 教授)	調節因子と疾患「Multi-layered gene expression regulation」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
第2回	ゲノム医学②(村川泰裕 教授)	調節因子と疾患「Multi-layered gene expression regulation」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
第3回	疾患とAI①(川口修治 准教授)	「Introduction to medical AI」「Elucidation of causative genes of Mendelian disorders」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
第4回	疾患とAI②(川口修治 准教授)	「Redefinition of rare diseases by image analysis」「Correction of fluctuated metabolome data」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
第5回	AI platform for rare disease analysis (Hung Hung 教授 台湾大学)	「AI platform for rare disease analysis」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
第6回	疾患の遺伝学 量的形質と構造多型(長崎正朗 特任教授)	「Structural Variation and Genetic Disorder SV-1」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
第7回	疾患の遺伝学②(長崎正朗 特任教授)	量的形質と構造多型 「Reference Assembly using long-read sequencer SV-2」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
ゲノム科学と医療(2)へ続く↓↓↓↓					

科目ナンバリング		P-PUB01 8M022 LB90			
授業科目名 ＜英訳＞	ゲノム科学と医療 Genome Science and Medicine	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 松田 文彦 医学研究科 特任教授 長崎 正朗 医学研究科 准教授 川口 修治		
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時間	木3	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	英語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
ゲノム科学技術が発展し、DNAシーケンス実験を比較的安価に実現できる時代となった。本講義の目的は、ゲノム科学の発展が21世紀の医療に及ぼすインパクトを与えるのかを理解することにある。本講義では、ゲノム科学に携わっている研究者の最新の研究成果とその臨床医学における実践的な応用ならびに応用の可能性についての授業を、各分野の専門家による講義として行う。					
<b>【到達目標】</b>					
・ゲノム医学の概念を理解する。 ・実際に行われている、あるいは近い将来に行われるようになる可能性のある臨床医学へのゲノム科学の応用について、実情並びに展望を学ぶ。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
第8回	Genomic Database Resources for Rare Diseases (長崎正朗 特任教授)	「Genomic Database Resources for Rare Diseases (DR1)」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
第9回	ゲノム医学①(長崎正朗 特任教授)	COVID-19の感染拡大のゲノム解析によるアプローチ 「SARS-CoV-2 and sequencing technology CV-1」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
第10回	ゲノム医学②	COVID-19の感染拡大とゲノム進化(長崎正朗 特任教授) 「SARS-CoV-2 and evolution CV-2」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
第11回	ゲノム医学①(岡田随象 教授 東京大学)	ゲノム創薬「Genomics for drug discovery」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
第12回	ゲノム医学②(岡田随象 教授 東京大学)	ゲノム創薬「Genomics for drug discovery」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
第13回	ゲノム医学①(葦田泰誠 博士 理化学研究所 グループリーダー)	薬理遺伝学「Pharmacogenomics Basic course in pharmacogenomics」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
第14回	ゲノム医学②(葦田泰誠 博士 理化学研究所 グループリーダー)	薬理遺伝学「Pharmacogenomics Basic course in pharmacogenomics」について解説する。【メディア授業：オンデマンド型】			
第15回	科学研究の成果をいかに伝えるか(村中璃子 非常勤講師)	(予定)実習をしながら科学研究の現状を解説する。【メディア授業：同時双方型】			
授業は原則、オンライン配信にて英語で行われます。					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
・講義における授業参加の状況 ・各授業に対するレポート提出					
<b>【教科書】</b>					
授業中に指示する 参考資料は講義の中で適時配布					
<b>【参考書等】</b>					
(参考書) 授業中に紹介する					
ゲノム科学と医療(3)へ続く↓↓↓↓					

科目ナンバリング		P-PUB01 8N018 LJ90			
授業科目名 ＜英訳＞	医療倫理学各論 Practicum for Clinical Genetics	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 井上 悠輔		
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時間	金5・6:開講日注	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
【基本情報】 授業日時：金曜5/6限(原則隔週) 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：応用 担当者：井上悠輔(科目責任者)、小川昌宣、川崎秀徳、竹之内沙弥香、浅井篤、山崎康仁					
【コースの概要】 医療・研究・公衆衛生におけるELSI(Ethical, Legal and Social Issues)の検討・動向について学ぶ。 事実の見方は一通りではないかも知れない。各回、講師から提示された状況について、基本的な知識を身につけて、あるいは従来の議論の限界を確認しつつ、倫理面での葛藤に取り組む。					
<b>【到達目標】</b>					
1)社会健康医学における倫理の基礎を理解する ・医療・研究・公衆衛生における倫理的検討の基本的な知識を理解する(基礎の再確認)。 2)倫理的問題の対処方法を習得する ・自身で倫理的な論点について、提示できるようになる ・実践や解決に向けた道筋を考える					
<b>【授業計画と内容】</b>					
【第1/2回】10月4日「撤回論文から考える研究倫理」(井上) 【第3/4回】10月18日「法と倫理」(山崎) 【第5/6回】11月15日「終末期医療」(竹之内) 【第7/8回】11月29日「医療資源配分の問題」(浅井) 【第9/10回】12月6日「産婦人科医療と倫理」(小川) 【第11/12回】12月20日「小児科医療と倫理」(川崎) 【第13/14回】1月17日「二次的(偶発的)所見の問題」(川崎) 【第15/16回】1月31日「自主研究発表」(井上) 履修生による自己テーマについての研究発表					
<b>【履修要件】</b>					
遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 SPH選択科目 先修科目として「基礎医療倫理学」の履修を原則とする 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡					
医療倫理学各論(2)へ続く↓↓↓↓					

科目ナンバリング		P-PUB01 8N018 LJ90			
授業科目名 ＜英訳＞	医療倫理学各論 Practicum for Clinical Genetics	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 井上 悠輔		
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時間	金5・6:開講日注	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
【基本情報】 授業日時：金曜5/6限(原則隔週) 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：応用 担当者：井上悠輔(科目責任者)、小川昌宣、川崎秀徳、竹之内沙弥香、浅井篤、山崎康仁					
【コースの概要】 医療・研究・公衆衛生におけるELSI(Ethical, Legal and Social Issues)の検討・動向について学ぶ。 事実の見方は一通りではないかも知れない。各回、講師から提示された状況について、基本的な知識を身につけて、あるいは従来の議論の限界を確認しつつ、倫理面での葛藤に取り組む。					
<b>【到達目標】</b>					
1)社会健康医学における倫理の基礎を理解する ・医療・研究・公衆衛生における倫理的検討の基本的な知識を理解する(基礎の再確認)。 2)倫理的問題の対処方法を習得する ・自身で倫理的な論点について、提示できるようになる ・実践や解決に向けた道筋を考える					
<b>【授業計画と内容】</b>					
【第1/2回】10月4日「撤回論文から考える研究倫理」(井上) 【第3/4回】10月18日「法と倫理」(山崎) 【第5/6回】11月15日「終末期医療」(竹之内) 【第7/8回】11月29日「医療資源配分の問題」(浅井) 【第9/10回】12月6日「産婦人科医療と倫理」(小川) 【第11/12回】12月20日「小児科医療と倫理」(川崎) 【第13/14回】1月17日「二次的(偶発的)所見の問題」(川崎) 【第15/16回】1月31日「自主研究発表」(井上) 履修生による自己テーマについての研究発表					
<b>【履修要件】</b>					
遺伝カウンセラーコース1回生必修科目 SPH選択科目 先修科目として「基礎医療倫理学」の履修を原則とする 人間健康科学系専攻学生の受講可否：要事前連絡					
医療倫理学各論(2)へ続く↓↓↓↓					

医療倫理学各論(2)	
【成績評価の方法・観点】	
研究発表、議論への参加の積極性、レポート、出席等を総合的に判定します。自主研究発表(最後に実施)：医療倫理に関するどのようなテーマでも良いので、自ら問題点を探し、それについて調べたり、検討した結果を発表し、全体でディスカッションします。割り当て時間(発表+ディスカッション)は、発表者の数に依存しますが、15-20分程度です。(原則としてパワーポイントを用いて発表し、ハンドアウト配布もお願いします)。他の専攻や研究科からの受講、聴講の場合も必須です。	
【教科書】	
配布するハンドアウトなど	
【参考書等】	
井上悠輔、一家網邦編『医学研究・臨床試験の倫理 わが国の事例に学ぶ』(日本評論社、2018年) ISBN:4535984530 赤林 朗、児玉 聡編『入門・医療倫理III: 公衆衛生倫理』(勁草書房、2015年) ISBN:4326102500 神里 彩子、武藤 香織編『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』(東京大学出版会、2015年) ISBN:413062413X	
【授業外学修(予習・復習)等】	
適宜指示する	
【その他(オフィスアワー等)】	
その他メッセージ 事例検討は、ビデオ、漫画を用いることがあります 講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性があります かならず、正式な受講届を提出すること。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H130 LB90	
授業科目名 <英訳>	健康情報学 I	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 准教授 高橋 由光 大東文化大学 教授 杉森 裕樹 代表取締役/総合的副理事 日本MBTI協会 代表理事 園田 由紀 独立系研究センター/がん対策推進センター 理事 若尾 文彦 附属病院 准教授 加藤 源太 株式会社情報システムズエンジニアリング 代表取締役社長 黒田 聡 財団法人健康医学大学院大学 代表取締役教授 藤本 修平
	Health informatics I		
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期		
曜時間	金2	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語		
【授業の概要・目的】			
健康・医療情報、データや知識の収集、蓄積、伝達、検索、評価法、情報リテラシー、ヘルス・コミュニケーション(リスクコミュニケーション含む)、個人情報保護などの情報倫理の課題について講義する。疫学やEBMを基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、さまざまな情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法を考える。さらに従来の医療関係者に関心の高い性格テスト・MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)のワークショップを通して、個人の情報処理・認知の特性とコミュニケーションに関して体験的理解を深める。			
教育・学習方法 講義形式と実習			
【到達目標】			
・疫学・EBMの知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。 ・マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。 ・MBTIの視点から、個人の情報処理・認知、コミュニケーションの特性を理解する。			
【授業計画と内容】			
(※変更の可能性があるので開講日に確認して下さい)			
第1回	10月4日	疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門(1)(中山)	
第2回	10月18日	疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門(2)(中山)	
第3回	10月25日	インターネットとeヘルス(高橋)	
第4回	11月1日	ベネフィットとリスクのコミュニケーション(中山)	
第5回	11月15日	ナラティブ情報の意義と可能性(中山)	
第6回	11月22日	質の高い医療情報の集約・共有・普及：根拠に基づく診療ガイドラインを考える(中山・藤本)	
第7回	11月29日	医療におけるデータの二次利用の課題(加藤)	
第8回	12月6日	「がん」をめぐる患者・国民・医療者向け情報の整備(若尾)	
第9回	12月13日	健康情報を巡る話題：テクニカル・コミュニケーションの視点から(黒田)	
第10回	12月20日	AI時代の健康情報を考える(中山)	
第11回	1月10日	健康情報ワールドカフェ(中山)	
第12回	1月17日	ヘルス・リテラシーとリスク・コミュニケーション(杉森)	
第13回	(調整中)	個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ：MBTI(エムピーティー)	
健康情報学 I (2)へ続く ↓ ↓ ↓			

健康情報学 I (2)	
アイ:Myers-Briggs Type Indicator) セミナーワークショップ 13時30分~17時30分(園田)	
第14回(調整中) 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ：MBTI(エムピーティーアイ:Myers-Briggs Type Indicator) セミナーワークショップ 9時~12時、13時~16時(園田)	
第15回 2月7日 総合討論・個別発表 「健康情報学Iを履修して」(中山)	
※「健康情報学II」の講義と重ならないように開講します。	
【履修要件】	
疫学または根拠に基づく医療(evidence-base medicine: EBM)の基礎知識を持つことが望ましいが、必須ではない。	
【成績評価の方法・観点】	
毎回の小レポート提出80%、発表20%	
【教科書】	
講義資料は配布、MBTIワークショップのテキストは各自購入(4200円程度)	
【参考書等】	
中山健夫著『健康・医療の情報を読み解く：健康情報学への招待』(丸善書店) 中山健夫監修『ヘルスコミュニケーション実践ガイド』(日本評論社) 中山健夫・杉森裕樹監訳『FDA リスク&ベネフィットコミュニケーション』(丸善書店)	
【授業外学修(予習・復習)等】	
予習よりも復習に十分時間を取ること	
【その他(オフィスアワー等)】	
情報とは「意思決定において不確実性を減じるもの」と定義されます。社会における健康・医療に関する情報の適切なあり方、そして個人の特性理解の視点から、情報のコミュニケーションについて考えてみたいと思います。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H151 LB90	
授業科目名 <英訳>	健康情報学 II	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 高橋 由光 医学研究科 助教 西川 佳孝
	Health informatics II		
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期		
曜時間	金3,4	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語		
【授業の概要・目的】			
・健康情報とICT：インターネットの基礎知識、eヘルス、ヘルスケアにおけるICT(Information and communication technology)について講義を行います。公的統計データ、各種二次データ、レポート情報・特定健診等情報データベース(NDB)などを例に、医療ビッグデータの現状および活用について講義を行います。国民生活基礎調査匿名データを使った実習を行います。(担当：高橋)			
・地域薬局における薬局業務の拡大・患者ケア：社会の高齢化と医療の高度化により、地域の薬局が果たす役割は薬剤供給のみならず、地域住民の健康を支える業務にまで拡大しています。この薬局の役割の変化について国内外の事例を紹介いたします。また、国内薬局で糖尿病や高血圧患者を対象に実施されたCOMPASS研究で使われた患者支援の背景にある行動経済学のナッジや健康行動科学による患者支援のスキルについても紹介します。(担当：園田浩先生)			
・災害と健康情報：災害による健康影響について学習し、災害時に必要な健康情報について議論します。防災のための健康情報とその特徴について学習します。事例研究や症例報告の手法について紹介します。(担当：西川)			
【到達目標】			
・インターネットの基礎知識、eヘルス、インターネット調査の特徴(利点および欠点)を習得。 ・公的統計データ、医療ビッグデータ、個人番号制度、ライフコース疫学についての基礎知識を習得 ・世界の保健行政の中での地域薬局の役割の変化に関する知識の習得。薬局におけるプライマリケアへの関与についてのエビデンス、患者の自己決定を尊重しながら、生活習慣改善を促す手法(行動経済学、ナッジ)に関する知識の習得。 ・災害と健康についての基礎知識の習得。事例研究方法の基礎知識の習得。			
【授業計画と内容】			
10/4	4限	イントロ、ヘルスリテラシー(高橋)	
10/11	4限	地域における薬局業務の拡大(園田浩先生)	
10/18	4限	地域薬局での患者ケア(園田浩先生)	
10/25	4限	インターネットの基礎知識(高橋)	
11/1	4限	ヘルスケアとICTに関する各種ガイドライン(高橋)	
11/8	4限	インターネット調査フォーム作成(高橋)	
11/15	4限	災害と健康情報1：災害による健康影響・災害時の健康情報(西川)	
11/22	4限	災害と健康情報2：防災のための健康情報とその特徴(西川)	
11/29	4限	災害と健康情報3：事例研究の方法(西川)	
12/6	予備		
12/13	予備		
12/20	3-4限	医療ビッグデータ、二次データの活用Aグループ(高橋)	
健康情報学 II (2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>健康情報学 II (2)</b>	
1/10 3-4限 医療ビッグデータ、二次データの活用 Bグループ (高橋)	
1/17 3-4限 ヘルスケアとICTの事例紹介 (高橋)	
1/24 3-4限 社会ネットワーク分析 (高橋)、ライフコース疫学・社会疫学・まとめ (高橋)	
1/31 予備	
変更する場合がありますので、必ず初回の講義にて確認してください。 健康情報学I、EBM・診療ガイドライン特論の日程と重ならないように開講します。	
<b>履修要件</b>	
健康情報学Iを可能な限り履修するようにしてください。	
<b>成績評価の方法・観点</b>	
平常点 (出席を含む) (30%) およびレポートまたは発表 (70%)	
<b>教科書</b>	
使用しない	
<b>参考書等</b>	
(参考書) 授業中に紹介する	
<b>授業外学修 (予習・復習) 等</b>	
予習用の教材・資料を、適宜提供します。	
<b>その他 (オフィスアワー等)</b>	
PandAを通して連絡を行いますので、初回講義の前に、余裕をもってKULASISにて履修登録 (仮で可) を行ってください。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 可 ただし、履修希望者が多い場合は人数制限の可能性あり。 初回講義の前に、必ずメールをしてください。 takahashi.yoshimitsu.3m@kyoto-u.ac.jp	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>科目ナンバリング</b>		P-PUB01 8H160 SB90	
<b>授業科目名</b> <英訳>	質的研究・演習 Applied Medical Communication	<b>担当所属・職名・氏名</b>	医学研究科 准教授 岩隈 美穂
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2
<b>開講年度・開講期</b>	2024・通年集中		
<b>曜時間</b>	集中講義	<b>授業形態</b>	演習 (対面授業科目)
<b>使用言語</b>	日本語及び英語		
<b>授業の概要・目的</b>			
質的研究方法をいくつか取り上げます。質的研究にも多くの手法があり、自分が知りたいリサーチクエスチョンに合わせて、適切な方法を選ぶ必要があります。実際に研究 (例えば課題研究) が始まる前にいくつかの道具 (ツール) を試しておくほうがいいので、自分のリサーチクエスチョンを意識し方法論を模索し始める時期に受講することをお勧めします。また自学自習が比較的難しい質的研究は、一緒に受講している伴走者 (クラスメート) がいると、課題・疑問を共有しながら学びやすいです。そのため「実際にデータを分析すること」を重視し、本講義ではグループでの分析や個人での分析を経験します。			
<b>到達目標</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>質的研究方法についての概要を説明することができる。</li> <li>グループ分析・個人分析を行うことができる。</li> <li>質的研究初学者向けSCATによる分析を行うことができる。</li> <li>フォーカスグループインタビュー (FGI)を経験し、FGI実施方法を習得する。</li> <li>計量テキスト分析 (テキストマイニング) を行い、データを分析・考察することができる。</li> <li>自分のリサーチクエスチョンに合った研究方法を選択できる。</li> <li>主観を利用しつつ、独りよがりにならない分析方法を取得できる。</li> </ul>			
<b>授業計画と内容</b>			
1) 9/3 イントロ 2) 9/10 SCAT① 3) 9/17 SCAT② 4) 10/1 SCAT③ 5) 10/8 SCAT④ 6) 10/15 FGI① 7) 10/29 SCAT発表 8) 11/12 FGI② 9) 11/19 FGI③ 10) 11/26 KHコーダー① (舟木友美氏) 11) 12/3 KHコーダー② (舟木友美氏) 12) 12/10 FGI④ 13) 12/17 KHコーダー③ (舟木友美氏) 14) 1/7 分析結果発表 15) 1/14 分析結果発表			
質的研究・演習 (2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>質的研究・演習 (2)</b>	
<b>履修要件</b>	
特になし	
<b>成績評価の方法・観点</b>	
授業での積極的・主体的参加 30%	
分析発表 30%	
課題レポート 40%	
タイトル 10%	
最終レポート 30%	
<b>教科書</b>	
使用しない	
<b>参考書等</b>	
(参考書) 授業中に紹介する	
<b>授業外学修 (予習・復習) 等</b>	
グループワークでの課題があります。	
<b>その他 (オフィスアワー等)</b>	
*日本語の高度な運用能力が必要です。 *今学期は、対面授業を実施予定です。 *課題の進捗度によって、授業内容・課題が変更になる場合があります。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

<b>科目ナンバリング</b>		P-PUB01 8H156 LB90	
<b>授業科目名</b> <英訳>	質的研究入門 Introduction to Qualitative Research	<b>担当所属・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 特定講師 河野 文子
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	1
<b>開講年度・開講期</b>	2024・前期集中		
<b>曜時間</b>	水曜 1限	<b>授業形態</b>	講義 (対面授業科目)
<b>使用言語</b>	日本語及び英語		
<b>授業の概要・目的</b>			
質的研究法の基礎について概説し、様々な分析手法について講義する。			
<b>到達目標</b>			
質的研究の方法論の基礎的事項について述べるができること。 質的研究の主要な方法論を理解し、質的研究を批判的に解釈できるようになること。 質的研究の専門家の指導を受けながら、質的研究を実施する事ができるようになること。			
<b>授業計画と内容</b>			
第1回 6月12日 質的研究とは何か? 質的研究の哲学 (認識論&存在論) 質的研究における理論の役割			
第2回 6月19日 質的研究の計画とデザイン 質的研究におけるリサーチクエスチョンの立て方 (個別演習) 研究計画書の書き方			
第3回 6月26日 インタビュー、フォーカスグループ、参与観察、非干渉的データの利用 グループワーク (フォーカスグループの演習)			
第4回 7月3日 データの分析方法 (テーマ分析、内容分析) グループワーク (テーマ分析の演習)			
第5回 7月10日 質的研究における厳密性と倫理 質的研究の評価・妥当性 グループワーク (COREQガイドライン評価についての議論の演習)			
第6回 7月17日 学生プレゼンテーション 以下テーマのいずれか1つについて、学生はグループ間でPPTを使って発表を行う。 (発表時間: 履修生数により学生1名につき5~8分程度) (1) 私が質的研究入門の授業で学んだこと (2) 質的研究のリサーチクエスチョンの案 (3) 質的研究を実施するにあたって配慮すべき倫理的事項について (4) インタビューガイド案 (5) 質的研究の研究計画案			
第7回 7月24日 混合研究の基礎			
第8回 7月31日 質的研究の結果の論文執筆とコミュニケーション方法			
質的研究入門(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

質的研究入門(2)
<b>【履修要件】</b> 社会健康医学系専攻の院生。 医科学専攻、医学博士課程、人間健康の受講希望者は事前に必ずメールで連絡してください。 (kohno.ayako.8w@kyoto-u.ac.jp) 受講者は単位不要でも必ず講義への出席およびレポートを提出してください。
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 1. 2回のレポートの提出（演習のまとめ）（配点比重30%） 2. 質的研究に関するプレゼンテーションの実施（配点比重40%） 3. 日々の講義へのコミットメント（授業への出席および感想の提出）（配点比重30%）
<b>【教科書】</b> 適宜、資料を講義にて配布する。
<b>【参考書等】</b> (参考書) Liamputtong P. Qualitative research methods. Fifth edition. Melbourne: Oxford university press; 2020. Liamputtong P. Research methods in health: foundations for evidence-based practice. 3rd edition. 2017
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 講義の予習・復習に十分時間をあててください。
<b>（その他（オフィスアワー等））</b> 本授業は、対面授業として実施予定です。 オフィスアワーについては、第1回の講義で案内します。 人間健康科学系専攻学生の受講可否：上限5人まで可能。 履修登録者には、PandAから事前に授業に関する連絡を通知します。 聴講を希望する学生は、授業初日（6月12日）の1週間前（6月5日）までに、講師に聴講の希望をメールで連絡して下さい。(kohno.ayako.8w@kyoto-u.ac.jp) ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H152 LB90		
授業科目名 <英訳>	環境・感染症論 Environment and Infection	担当者所属 職名・氏名	epidemiology 教授 山崎 渉
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期		
曜時間	月3	授業形態	講義（対面授業科目）
使用言語	日本語及び英語		
<b>【授業の概要・目的】</b> 教員による講義および受講生によるプレゼンテーションとグループディスカッションを通して、感染症を総合的に理解する。特に環境・ヒト・病原体間における相互作用の理解を深める。感染症が引き起こす社会変容・歴史的な影響についても社会生態学的視点から学習する。			
<b>【到達目標】</b> 感染症を総合的に理解するために、病原体の生息する自然環境、ヒトの作り出す人為的環境、感染を受けるヒトの抵抗性などの様々な要因を社会生態学的視点から捉える能力を修得する。			
<b>【授業計画と内容】</b> 第1回～第10回は講義、第11回～第15回はプレゼンテーション・グループディスカッションになる見込みである。 第1回 総論 第2回 動物種を越える病原体の伝播 第3回 食品衛生 第4回 水と健康 第5回 蚊・マダニ媒介性感染症 第6回 プリオン病 第7回 薬剤耐性 第8回 動物福祉 第9回 生物兵器・バイオテロ・病原体の漏出事故 第10回 インフデミック 第11回 プレゼンテーション・グループディスカッションI 第12回 プレゼンテーション・グループディスカッションII 第13回 プレゼンテーション・グループディスカッションIII(参加者数によっては自習) 第14回 プレゼンテーション・グループディスカッションIV(参加者数によっては自習) 第15回 プレゼンテーション・グループディスカッションV(参加者数によっては自習)			
<b>【履修要件】</b> 特になし			
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 【評価方法】 成績評価は出席姿勢（30%）、受講生によるプレゼンテーション(50%)とそれに基づくグループディスカッション(20%)における理解度、積極性、洞察力、意思表現の能力をもとに判定する。プレゼンテーションをしない受講生は未受講扱いとし、成績は無しとする。			
環境・感染症論 (2)へ続く↓↓↓			

環境・感染症論 (2)
<b>【評価基準】</b> 100点満点中、60点以上となること（60点以上：合格 59点以下：不合格）。
<b>【教科書】</b> 教科書は使用しない。講義資料および関連する学術論文等をPandA内に共有する。
<b>【参考書等】</b> (参考書) 参考書は使用しない。講義資料および関連する学術論文等をPandA内に共有する。
<b>【関連URL】</b> <a href="https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/">https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/</a> (東南アジア地域研究研究所) <a href="http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/field/class-16/">http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/field/class-16/</a> (医学研究科 社会健康医学専攻 環境生態学)
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b> 講義資料等を活用した予習・復習を推奨する。
<b>（その他（オフィスアワー等））</b> 【連絡先】 〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46 京都大学東南アジア地域研究研究所 稲盛財団記念館215号室 山崎 渉 Tel: (075) 753-9618 Email: yamazaki@cseas.kyoto-u.ac.jp ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H135 LJ90		
授業科目名 <英訳>	臨床試験の統計的方法 Statistical Methods in Clinical Trials	担当者所属 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・後期前半		
曜時間	水5	授業形態	講義（対面授業科目）
使用言語	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b> 第II相・第III相臨床試験デザインの理解とサンプルサイズ計算の習得を目標に、講義・実習を行う。第1回の前に講義動画・課題などを配信するので、それを用いて予習・復習をすること。前期科目「臨床試験」、「統計的推測の基礎」、「統計モデルとその応用」程度の臨床試験・統計学の知識を前提とする。CB必修、MPH選択。			
<b>【到達目標】</b> ・第II相・第III相臨床試験におけるサンプルサイズの計算を習得する。 ・試験デザインにおける頻度論・Bayes流統計学の考え方の違いを理解する。			
<b>【授業計画と内容】</b> ・教室は、G棟セミナー室Bで行う ・事前学習+講義形式、実習形式 ・第1、2、5、6回の実習ではサンプルサイズの計算を行うが、ソフトウェアの知識は前提としない。 第3、4回では臨床試験の論文を読み、結果を解釈する。 ・実習のチューターは、臨床統計スタッフが行う。 第1回 10月2日 サンプルサイズ設計1 連続データ 第2回 10月9日 サンプルサイズ設計2 2値データ 第3回 10月23日 臨床試験の結果の解釈 第4回 10月30日 臨床試験の結果の解釈 第5回 11月6日 サンプルサイズ設計3 生存時間データ 第6回 11月13日 サンプルサイズ設計4 第II相臨床試験・Bayes流統計学 第7回 11月20日 予備日			
<b>【履修要件】</b> 前期科目「臨床試験」、「統計的推測の基礎」、「統計モデルとその応用」を履修済みであること			
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 平常点（50%）、レポート（50%）			
<b>【教科書】</b> 教科書の一部をまとめた公式・数表集を配布する。			
<b>【参考書等】</b> (参考書)			
臨床試験の統計的方法(2)へ続く↓↓↓			

臨床試験の統計的方法(2)
-----
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>
第1回の前に配信する講義動画・課題などを用いて、予習・復習を行う。詳細はメール等でアナウンスする。
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H061 PB90		
授業科目名 <英訳>	社会健康医学課外実習 Field Training for Public Health Practice	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 近藤 尚己
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・通年集中		
曜時間	集中講義	授業形態	実習（対面授業科目）
使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
I. コースの概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かし、応用力を高める。</li> <li>・キャリアデザイン具体化につなげる機会とする。</li> <li>・所属分野の指導教員と、場合によっては、加えて他分野の主担当教員とも、十分に相談の上、履修届を出してください。</li> </ul> (計画未確定のままに急いで、学年初め・学期初めに履修届を出す必要はありません。)			
II. 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の現場に必要な技能の向上を図る。</li> <li>・大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。</li> <li>・志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。</li> <li>・実務を通じて、社会貢献をする。</li> </ul>			
III. 教育・学習方法			
・就業体験を通じて、学んだ専門知識等を活かし、応用力を高める。			
<b>[到達目標]</b>			
学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の現場に必要な技能の向上を図る。</li> <li>・大学院で得た知識・技能を、いかにして実務に役立たせるかを確認する。</li> <li>・志望する就業の現場での雰囲気や必要な技能を知る。</li> <li>・実務を通じて、社会貢献をする。</li> </ul>			
<b>[授業計画と内容]</b>			
所属分野の指導教員等と、十分に相談の上、インターンシップの計画を立ててください。			
<b>[履修要件]</b>			
KULASISでの履修登録はできません。履修する場合は、窓口へ申し出てください。			
<b>[成績評価の方法・観点]</b>			
・終了後速やかに報告書・レポート（報告書の様式は教務掛を通じて入手すること）を作成し、かつ、インターン先の責任者と指導教員の確認を得ること。			
社会健康医学課外実習(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

社会健康医学課外実習(2)
-----
・合否のみ、判定する。
<b>[教科書]</b>
・諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。
<b>[参考書等]</b>
<b>(参考書)</b>
・諸々の学習資源は、就業体験を通じて得られる。
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>
適宜予習復習を求める
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>
その他メッセージ ・他の履修科目の日程と重複しないように計画してください。重複した場合、インターンシップを優先するわけではありません。必要な際は、該当する科目責任者に相談してください。 ・履修登録（単位取得）せずに、インターンシップを行ってもかまいません。 ・実質的な業務が計60時間以上で2単位、計30時間以上で1単位とします。 ・上記の時間の目安と、就業体験の内容と質を、主担当教員（指導教員等）が評価し、可否と単位数（1単位か2単位）を判定します。 ・報告書の様式（教務掛で受取ること）を主担当教員（指導教員等）に提出し、履修届けを同時に行ってください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8H161 LB90		
授業科目名 <英訳>	感染症数理モデル入門 Introduction to infectious disease modelling	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 西浦 博
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・前期集中		
曜時間	8/1-8/10	授業形態	講義（対面授業科目）
使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
This module welcomes students to dive into the introductory science of infectious disease modelling. We cover the fundamental idea of renewal process. Infectious disease data are very special in two critical points, (i) infection event is seldom directly observable and (ii) the risk of infection involves dependence structure. We study how these problems are handled using non-linear models and integral equations.			
<b>[到達目標]</b>			
a. Understand how the transmission potential is measured in epidemiology; b. Explain threshold phenomena in controlling infectious diseases; c. Describe technical issues associated with delay structure; d. Understand how vaccine efficacy at an individual level can be measured; e. Estimate and implement epidemic modelling in students' own laptop computer.			
<b>[授業計画と内容]</b>			
The venue is likely to be external to the campus (e.g. Campus Plaza Kyoto in the last year), spanning from 1 to 10 August. During this period, participants may have a difficulty to attend other lectures in a timely manner.			
Each session takes 90 minutes in total. The module itself will be a part of the 10-day short course of infectious disease modelling, and participants are encouraged to take other lectures too.			
1. Introduction to epidemic modelling 2. Measuring transmissibility 3. Herd immunity and SIR model 4. Capturing heterogeneity 5. Vaccine and vaccination 6. Stability analysis 7. Real time modelling 8. Case fatality risk, followed by exam			
<b>[履修要件]</b>			
Attend "infectious disease epidemiology" (MPH core) in advance 必ず「感染症疫学」に先にご出席ください			
感染症数理モデル入門(2)へ続く ↓ ↓ ↓			



<b>感染症数理モデル入門 (2)</b>
<b>【成績評価の方法・観点】</b> Attendance to a total of two-thirds of classes will be required to be eligible for final examination. Evaluation is conducted by coursework (i.e. comprehension during the class) (30%) and examination (70%).
<b>【教科書】</b> 西浦博 (編) 『感染症疫学のためのデータ分析入門』 (金芳堂、2021) ISBN:978-4-7653-1882-2 (感染症疫学の入門書。本専門職学位課程での「感染症疫学」の講義内容に準拠してまとめています。) 西浦博 (編) 『感染症疫学のためのデータ分析入門、数理モデル編』 (金芳堂、2024) (感染症数理モデルの入門書を2024年に出版することになりました。本科目の講義内容に準拠してまとめています。)
<b>【参考書等】</b> (参考書) 西浦博 (編) 『感染症流行を読み解く数理』 (日本評論社、2022) ISBN:978-4-535-78759-9 (感染症の流行データを数理的に検討したい方向け。)
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b> No specific preparation would be required. There will be math refresher sessions on Day 2 and Day 3 of the entire short course. Students who do not possess substantial mathematical expertise are encouraged to attend those lessons.
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

<b>レジリエントな社会づくりのイノベーション: 展望・自由報告</b>
<b>【履修要件】</b> 特になし
<b>【成績評価の方法・観点】</b> 日々のコミットメント50%、レポート50%
<b>【教科書】</b> 各講義で資料を配布する。
<b>【参考書等】</b> (参考書)
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b> 特になし。
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b> 京都大学の大学院生であれば専門領域を問わず受講可 問い合わせ等は、 医療経済学教室教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp> へ連絡してください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

<b>科目ナンバリング</b>	P-PUB01 8H173 LJ90		
<b>授業科目名</b> <英訳>	レジリエントな社会づくりのイノベーション: 展望・自由報告 Innovation for Resilient Healthy Society: Foresight and Proposal	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 今中 雄一
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2
<b>開講年度・開講期</b>	2024・通年		
<b>曜時間</b>	金5	<b>授業形態</b>	講義 (メディア授業科目) <b>使用言語</b> 日本語
<b>【授業の概要・目的】</b> 人口減少・超少子超高齢社会における生産年齢人口の減少や社会保障財政の逼迫、地域格差の拡大など社会の安定化への脅威、また、風水害や地震などの自然災害、大規模な人災、サイバーテロなど様々な脅威が、より露わとなってきた。また、COVID-19のパンデミックを契機に、社会、経済、医療、国民の生活や考え方は、従来のあり方とは異なってきている。並行して、遠隔会議の普及、科学技術やその応用方法、生活のあり方、思考などにもイノベーションが生まれてきている。予測しがたく変化が大きく不確実なこの時代に、どのようなイノベーションが生じており、今後、どう展開していくか、公衆衛生・医療、経済、情報、心理、社会、環境、都市・まち、行政・法制度、思想・倫理などの諸側面から包括的に考え、最新の潮流も踏まえ展望し、ポストコロナのより充実した社会の構築・展開に向けて、自由闊達に提案し議論を深める。 健康に関する知識が不十分、専門領域ではないと思っても、大丈夫です。専門領域や職種に関係なく聴講可能です。 【コ・オーガナイザー】 近藤 尚己 (医学研究科社会健康医学系専攻 社会疫学 教授)、長尾 美紀 (医学研究科医学専攻 臨床病態検査学 教授)、西浦博 (医学研究科社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授)、今中雄一 (医学研究科社会健康医学系専攻 医療経済学 教授、オーガナイザー)			
<b>【到達目標】</b> 健康・生活への脅威に強いレジリエントな社会づくりと、関連するイノベーションについて、多側面から包括的に具体的に考えることができるようになる。			
<b>【授業計画と内容】</b> 通年、金曜5限(およそ6月~12月)、単位数: 2単位 予定 (タイトルなど改訂・変更ありうる) ・第1回 6月21日 今中雄一 (医学研究科社会健康医学系専攻 医療経済学 教授) 「ポストコロナのレジリエントな保健医療・社会システム」 ・第2回 6月28日 浅利 美鈴 (総合地球環境学研究所 教授) 「ポストコロナの地球循環型社会〜京都の里山より〜」 ・第3回 7月5日 西浦博 (医学研究科社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授) 「新型コロナウイルス感染症の疫学と見通しの科学」 ・第4回 7月12日 角山雄一 (環境安全保健機構放射線管理部門 准教授) 「放射線リスク研究の立場から考えるレジリエンス社会」 ・第5回 7月19日 谷直起 (経済研究所 特定准教授) 「超高齢化時代における日本の財政とデータを活用した政策立案に向けた取り組み」 ・第6回 10月4日 黒田知宏 (医学部附属病院 医療情報企画部 教授) 「ポストコロナの医療DX」 ・第7回 10月11日 長尾 美紀 (医学研究科医学専攻 臨床病態検査学 教授) 「アカデミアとレジリエントな社会づくりのイノベーション: 展望・自由報告」			

<b>科目ナンバリング</b>	P-PUB01 8H167 LB90		
<b>授業科目名</b> <英訳>	QOL・PRO評価法 QOL/PRO assessment	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 山本 洋介 医学研究科 准教授 小川 雄右 医学研究科 助教 山田 淑恵 医学研究科 特定助教 板谷 崇央
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	1
<b>開講年度・開講期</b>	2024・後期		
<b>曜時間</b>	月3	<b>授業形態</b>	講義 (対面授業科目) <b>使用言語</b> 日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b> 医学研究を進める上で必須ともいえる、QOL (Quality of Life)、PRO (Patient Reported Outcomes) 評価の方法を学ぶ。 また、結果の解釈、さらには既存の評価法の利活用にとどまらず、新規に尺度を開発するための基本的事項について理解し、その開発プロセスの一部を体験する。			
<b>【到達目標】</b> ・QOL・PROならびにそれらの評価法について理解し、他者に説明することができる。 ・測定された結果を正しく解釈することができる。 ・測定尺度開発に求められる基本的事項を知ることができる。			
<b>【授業計画と内容】</b> ※ 状況によりオンラインで提供する場合があります 10/7 第1回 イントロダクション: QOLとPRO 10/21 第2回 包括的尺度 10/28 第3回 疾患特異的尺度・症状尺度 11/11 第4回 インデックス型尺度 11/18 第5回 測定結果の解釈 11/25 第6回 測定尺度開発に求められる基本的事項 12/2 第7回 測定尺度開発実習1 12/9 第8回 測定尺度開発実習2 (発表)			
<b>【履修要件】</b> 特になし			
<b>【成績評価の方法・観点】</b> ・平常点 (講義への主体的な参加) 50% ・発表会での発表 50%			

QOL・PRO評価法(2)へ続く ↓ ↓ ↓

<b>QOL・PRO評価法(2)</b>
<b>[教科書]</b> 授業中に指示する
<b>[参考書]</b> (参考書) 授業中に紹介する
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b> 予習は必要ないが、復習を充分行うこと。
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b> オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

<b>科目ナンバリング</b>	P-PUB01 8H169 LB90		
<b>授業科目名</b> <英訳>	公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション Risk Communication for Public Health Emergencies	<b>担当所属・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 中山 健夫 非常勤講師 梶名 玲子
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	1
<b>開講年度・開講期</b>	2024・通年集中		
<b>曜日</b>	集中講義	<b>授業形態</b>	講義(対面授業科目)
<b>使用言語</b>	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
<p>本授業は、公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーションの理解を深め、適切な実践ができる人材を育成することを目的としたもので、前期(入門編)と後期(応用編)から成る。</p> <p>まず前期に緊急事態下のリスクコミュニケーションの基本となる概念や理論を学び、危機下でコミュニケーションを難しくするリスク認知と感情の問題や対応方法、保健医療専門職個人や行政等のリスク管理組織が信頼を構築するための戦略と体制、戦略的リスクコミュニケーション計画の策定方法について、演習を交え理解を深める。</p> <p>さらに後期では情報処理能力も低下する危機下でのリスク説明と不確実性の示し方、合理的な判断へ導く方法、情報公開場面での考慮点となるマスメディアとの協力やスティグマ対策、緊急事態によるリスクに脆弱な人びととの対話、虚偽情報の処理の仕方等、より難易度の高いコミュニケーションについて学ぶ。</p> <p>講義・実習は科目責任者と非常勤講師が共同・分担して実施する。</p> <p>教育・学習方法：講義形式と演習</p>			
<b>[到達目標]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生の緊急事態に、保健医療専門職やリスク管理者に求められる多様なリスクコミュニケーションについて理解できるようになる</li> <li>戦略的リスクコミュニケーション計画の策定、ニーズのアクセスメント、実践、評価を含む、リスクコミュニケーション能力が向上する</li> <li>リスクの影響を受けた人々のリスク認知や感情、理解度(ヘルスリテラシー)等を理解した上で、相手のニーズに合った双方向のコミュニケーション・スキルが身につく</li> <li>危機管理の中での効果的にリスクコミュニケーションをとる方法を理解し、遂行能力が高まる</li> <li>スティグマや虚偽情報への対応方法がわかる</li> <li>次の緊急事態に備えるために、リスクコミュニケーションの視点から何をすべきかがわかる</li> </ul>			
<b>[授業計画と内容]</b>			
前後期、各1日(4コマ×2日)			
前期(9月10日(火)10:00~17:30予定)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>緊急事態下のリスクコミュニケーション</li> <li>リスク認知と感情</li> <li>信頼を構築するための戦略と危機対応体制</li> <li>戦略的リスクコミュニケーション計画</li> </ol>			
後期(2月12日(水)10:00~17:30予定)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>リスク説明、不確実性の示し方、合理的な判断へ導く方法</li> <li>マスメディアとの協力とスティグマへの対応</li> </ol>			

<b>公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション(2)</b>
7. リスクに脆弱な人々とのコミュニケーション 8. 虚偽情報の処理
<b>[履修要件]</b> 特になし
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 授業中行う演習70%、コース終了時の小論文30%
<b>[教科書]</b> 梶名玲子著『クライシス・緊急事態リスクコミュニケーション(CERC):危機下において人々の命と健康を守るための原則と戦略』(大修館書店、2020年)(各自購入(2,420円)) 梶名玲子著『公衆衛生の緊急事態にまちの医療者が知っておきたいリスクコミュニケーション』(医学書院、2022年)(各自購入(2,860円)) 教科書を用いるが、演習等は配布資料もあり。
<b>[参考書]</b> (参考書)
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b> 日々のニュースや保健医療福祉現場で働く同僚等との会話から、本授業から学んだことがいかに現状の改善に活かせるかを普段から考えること。
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

<b>科目ナンバリング</b>	P-PUB01 8H171 LB90		
<b>授業科目名</b> <英訳>	健康・予防医療学領域の実装科学 Implementation Research in Health and Preventive Medicine	<b>担当所属・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 石見 拓 医学研究科 特定助教 島本 大也 医学研究科 特定助教 立山 由紀子 医学研究科 特定助教 西岡 典宏
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2
<b>開講年度・開講期</b>	2024・後期		
<b>曜日</b>	火1	<b>授業形態</b>	講義(対面授業科目)
<b>使用言語</b>	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
<p>医療・医学の進歩に伴い、その成果を臨床現場や社会に効果的・効率的に導入し、普及させる重要性が高まっている。この医学研究の成果である、健康関連アウトカムに対しての有効性が実証されている介入(エビデンスに基づく介入、evidence-based intervention, EBI)を現場で実際に活かすプロセスを深く掘り下げるのがImplementation Science(実装科学)である。EBIに関する情報等を、実際に必要な対象に届くように、拡散・維持することを目指すdissemination research(普及研究)とあわせ、DAI研究とも呼ばれる。</p> <p>本科目では、予防医療学分野、蘇生科学分野において、医学研究が臨床や社会で具体的に生かされるまでのプロセスに触れながら、実装科学の基本から応用に至るまでの理論、手法、戦略を包括的に学ぶ。EBMにおける実装科学の役割、主要な理論モデル、変革を推進するリーダーシップとコミュニケーション戦略、ステークホルダーとの関係構築、さらには社会的、文化的、政治的なコンテキストにおける実装科学の実施について、講義とチュートリアル形式で実践的に学ぶ。講義は、予防医療学分野の教員陣を中心に提供するほか、外部講師として、臨床現場で活躍する専門家の生の声を直接聞く機会を提供する。</p>			
<b>[到達目標]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>予防医療学分野、蘇生科学分野における実装科学の実際を知る。</li> <li>実装科学の基本から応用に至るまでの理論、手法、戦略を包括的に学ぶ。</li> <li>医学研究と臨床現場や社会での実装の間のギャップについて考える。</li> <li>EBMにおける実装科学の役割、主要な理論モデルを学ぶ。</li> <li>変革(イノベーション)を推進するリーダーシップ、コミュニケーション戦略、ステークホルダーとの関係構築について学ぶ。</li> <li>事例研究を通じて、実装科学の理論と実践の統合を図り、研究の実装を通じて、臨床現場、社会の健康課題を解決する能力を獲得する。</li> </ul>			
<b>[授業計画と内容]</b>			
1実装科学と普及研究が求められる背景と概要(実践科学の定義と範囲、医学研究と実践のギャップ)			
2実装科学の実例(蘇生科学分野・予防医療学分野)			
3実装科学の理論、モデル、フレームワーク			
4EBMにおける実装科学の役割			
5実装科学における戦略と方法論			
6実装に向けたステークホルダーとの共同、資金獲得、リソースの確保			
7実装科学と臨床現場、社会の繋がりに(外部講師)			
8実装科学に基づく政策と実施			
9実装科学による改善のサイクル			

健康・予防医療学領域の実装科学(2)	
10実装科学とイノベーション 11スケールアップと拡散 12チュートリアル① 13チュートリアル② 14チュートリアル③	
【履修要件】 特になし	
【成績評価の方法・観点】 レポート50%、チュートリアル25%、平常点評価25%にて、60パーセント以上を合格とする。平常点評価には、授業への参加状況、2#123163回の准后ごとに課すミニテストや小レポートの評価を含む。	
【教科書】 授業中に指示する	
【参考書等】 (参考書) 授業中に紹介する	
【授業外学修(予習・復習)等】 復習に充分時間をとること。	
【その他(オフィスアワー等)】 【連絡先】 石見 拓 予防医療学分野 先端科学研究棟 3階308号室 TEL: 753-4400 (代) E-mail: info@yobou.med.kyoto-u.ac.jp ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8Z203 LB90	
授業科目名 <英訳>	グローバルヘルス通論 Global health	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫 医学研究科 助教 SAHKER, Ethan Kyle
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期		
曜時間	水3	授業形態	講義(メディア授業科目)
使用言語	英語		
【授業の概要・目的】 This course is provided in English by the Global Health Interdisciplinary Unit. The course is conducted entirely through ZOOM and accessed via PANDA. It includes a wide variety of classes to provide students with insight into global health challenges. Students will be introduced to the socio-cultural, economic, political, and environmental factors that globally affect the health of populations. A series of guest speakers will be drawn from diverse fields to share their expertise. We welcome students from all faculties and graduate schools.			
【到達目標】 To gain a wide range of perspectives and critical knowledge about current global health issues. Students will be able to understand why tackling global health issues is such an important endeavor to reduce poverty, build stronger economies, and promote peace.			
【授業計画と内容】 後期水曜日3限目 Wednesday, 13:15 to 14:45 (3rd period)  This course is simultaneous bidirectional course every time. In principle, we will cover the following topics:  1. Introduction: Why study global health? 2. Understanding the social determinants of health 3. Achieving the health-related Sustainable Development Goals 4. Sexual Reproductive Health 5. Delirium & Working Globally 6. Group Discussion 7. Environment & Health 8. Global Health & Aging 9. Role of Innovation & Technology in Changing People's lives 10. Culture & Health 11. Global Mental Health 12. Natural Disasters & Global Health Challenges 13. Term Paper Workshop 14. Ecological Model & Public Health Intervention 15. Feedback			
【履修要件】 特になし No returement			
グローバルヘルス通論(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

グローバルヘルス通論(2)	
【成績評価の方法・観点】 -The course is presented in lecture/group discussion format -Each class is provided by an expert in the field -All sessions are conducted in English -All lectures will be conducted as live lectures through Zoom. -Attendance is mandatory for all lectures except for exceptional circumstances. -Grading is based on Term Paper (100%). -See the course homepage on PandA for details of attendance, term paper, and course contact information.	
【教科書】 使用しない There is no official textbook for this course	
【参考書等】 (参考書) Skolnik, Richard 『Global Health 101 (3rd ed.)』 (Jones and Bartlett Publisher) Skolnik R (著), 木原正 (監訳), 木原雅 (監訳) 『グローバルヘルス: 世界の健康と対戦戦略の最新動向』 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) Additional readings may be suggested when necessary	
【授業外学修(予習・復習)等】 Require preparation and review for each class. Significant time dedicated to writing the term paper, the 1 course assignment.	
【その他(オフィスアワー等)】 The course is a media class and will be conducted entirely through ZOOM. Students may contact the instructor by email (sahker.ethan.2e@kyoto-u.ac.jp) ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H082 LB90	
授業科目名 <英訳>	医療経営特別カリキュラム I Healthcare management Special Curriculum I	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定助教 後藤 悦 医学研究科 特定講師 高田 大輔
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・前期集中		
曜時間	集中講義	授業形態	実習(対面授業科目)
使用言語	日本語		
【授業の概要・目的】 急速に変遷する医療制度の中で経営環境は困難化し、経営の力の差がますます大きくものを言う今日、医療の質・安全性を高めながら堅実に経営を向上させることのできる専門性高く実力のある医療経営者が強く求められている。 当コースは、『医療経営ヤングリーダー・プログラム』(1学年約2名まで)に限定した科目であり、その院生には必修である。当コースは、社会健康医学系専攻修士課程専門職大学院の一環として提供され、同様の要件を満たさねばならない。面接、審査の上、若手医師ならびに経営の素養のある若手を対象に開講する。 座学にとどまらず、例えば、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、活動などを進める。自らの情報収集、分析、環境適応、創造の能力をたかめるべく訓練を行う。			
【到達目標】 現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。			
【授業計画と内容】 当コースは高度専門職である経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムである。  財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて、インターンシップ、実習、演習、調査等を行う。既存の教材や教育方法を学びながら、新たな教材や教育方法の創造に参加する。  例えば、プロジェクト形式で以下のようなことも行う。 ○病院経営の実態に関する調査の実施と分析、改善策の立案 ○経営の取材、関係情報収集の実務 ○経営事例研究 ○診療圏・潜在市場に関するデータ収集と分析 ○診療情報、診療報酬、医療費・原価に関する分析 ○経営関連指標の多施設間比較 ○病院経営の支援ニーズの把握と実現			
医療経営特別カリキュラム I(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

医療経営特別カリキュラム I (2)	
○プロジェクトのマネジメント、など。	
これらを通じて、現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において、将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。	
プロジェクト遂行型学習、問題解決型実習、小グループ演習	
教室：医療経済学教室ほか	
<b>【履修要件】</b>	
医療経営ヤングリーダー・プログラム限定必修	
<b>【成績評価の方法・観点】</b>	
1) プロジェクト成果、研究成果 2) コースワークへのコミットメント	
<b>【教科書】</b>	
資料は適宜配布する。	
<b>【参考書等】</b>	
<b>（参考書）</b> 『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社：2023） 『病院の教科書第2版』（医学書院）	
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>	
授業中に指示する場合があるが、自発的かつ積極的な取り組みを期待する。	
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>	
※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否	
問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp> へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

医療経営特別カリキュラム II (2)	
これらを通じて、現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において、将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。	
プロジェクト遂行型学習、問題解決型実習、小グループ演習	
教室：医療経済学教室ほか	
<b>【履修要件】</b>	
医療経営ヤングリーダー・プログラム限定必修	
<b>【成績評価の方法・観点】</b>	
1) プロジェクト成果、研究成果 2) コースワークへのコミットメント	
<b>【教科書】</b>	
資料は適宜配布する。	
<b>【参考書等】</b>	
<b>（参考書）</b> 『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社：2023） 『病院の教科書第2版』（医学書院）	
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>	
授業中に指示する場合があるが、自発的かつ積極的な取り組みを期待する。	
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>	
※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否	
問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp> へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H083 LB90					
授業科目名 <英訳>	医療経営特別カリキュラム II	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一	医学研究科 特准教授 佐々木 典子	医学研究科 准教授 國澤 進	医学研究科 特任助教 後藤 悦	医学研究科 特任講師 高田 大輔
	Healthcare management Special Curriculum II						
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期中		
曜時限	集中講義	授業形態	実習（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b>							
急速に変遷する医療制度の中で経営環境は困難化し、経営の力の差がますます大きくなることを言う今日、医療の質・安全性を高めながら堅実に経営を向上させることのできる専門性高く実力のある医療経営者が強く求められている。 当コースは、『医療経営ヤングリーダー・プログラム』（1学年約2名まで）に限定した科目であり、その院生には必修である。当コースは、社会健康医学系専攻修士課程専門職大学院の一環として提供され、同様の要件を満たさねばならない。面接、審査の上、若手医師ならびに経営の素養のある若手を対象に開講する。 座学にとどまらず、例えば、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、活動などを進める。自らの情報収集、分析、環境適応、創造の能力をたかめるべく訓練を行う。							
<b>【到達目標】</b>							
現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。							
<b>【授業計画と内容】</b>							
当コースは高度専門職である経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムである。  財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて、インターンシップ、実習、演習、調査等を行う。既存の教材や教育方法を学びながら、新たな教材や教育方法の創造に参加する。  例えば、プロジェクト形式で以下のようなことも行う。 ○病院経営の実態に関する調査の実施と分析、改善策の立案 ○経営の取材、関係情報収集の実務 ○経営事例研究 ○診療圏・潜在市場に関するデータ収集と分析 ○診療情報、診療報酬、医療費・原価に関する分析 ○経営関連指標の多施設間比較 ○病院経営の支援ニーズの把握と実現 ○プロジェクトのマネジメント、など。							
医療経営特別カリキュラム II(2)へ続く↓↓↓							

科目ナンバリング		P-PUB01 8H053 LB90					
授業科目名 <英訳>	医療経営ケーススタディ	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一	医学研究科 特准教授 佐々木 典子	医学研究科 准教授 國澤 進	医学研究科 特任助教 後藤 悦	医学研究科 特任講師 高田 大輔
	Case Studies in Healthcare Management						
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年集中		
曜時限	集中講義	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b>							
急速に変遷する医療制度の中で経営環境は困難化し、経営の力の差がますます大きくなることを言う今日、医療の質・安全性を高めながら堅実に経営を向上させることのできる専門性高く実力のある医療経営者が強く求められている。 当コースは、社会健康医学系専攻修士課程専門職大学院の一環として提供される中において『医療経営ヤングリーダー・プログラム』に限定した科目であり、そのプログラム上、必修である。面接、審査の上、経営の素養のある人材を対象に開講する。  ケーススタディに加えて、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、活動などを進める。これらを通じて、自らの情報収集、分析、妥当な計画立案、環境適応、創造の能力、行動力を高めるべく訓練を行う。							
<b>【到達目標】</b>							
現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。							
<b>【授業計画と内容】</b>							
『医療経営ヤングリーダー・コース』は高度専門職である医療経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムであり、財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、新たな教材や教育方法の創造にも参加し、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて演習、調査、ケーススタディ等を行う。  当ケーススタディ・コースでは、以下の課題（例）を扱う。 ○診療圏分析と病院機能の設計 ○新病院組織の立ち上げ ○病院の建替えと健全財務 ○資金調達 ○人事制度改革 ○経営戦略立案 ○原価計算の導入と活用 ○BSCの導入 ○電子カルテ導入と業務プロセスの見直し・改善							
医療経営ケーススタディ(2)へ続く↓↓↓							

<p><b>医療経営ケーススタディ(2)</b></p> <p>○ 組織変革のリーダーシップ ○ 地域レベル医療経営の見直しと改革 ○ 組織文化の醸成、など</p> <p>これらを通じて、現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担う人材の養成をめざす。</p>
<p><b>【履修要件】</b></p> <p>医療経営ヤングリーダー・プログラム限定必修</p>
<p><b>【成績評価の方法・観点】</b></p> <p>ケーススタディ等、クラスへのコミットメント</p>
<p><b>【教科書】</b></p> <p>資料は適宜配布する。</p>
<p><b>【参考書等】</b></p> <p>(参考書) 『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社：2023） 『病院の教科書第2版』（医学書院）</p>
<p><b>【授業外学修（予習・復習）等】</b></p> <p>授業中に指示する場合があるが、自発的かつ積極的な取り組みを期待する。</p>
<p><b>【その他（オフィスアワー等）】</b></p> <p>※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。</p> <p>人間健康科学系専攻学生の受講可否： 否</p> <p>問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 &lt;heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp&gt; へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>









## 臨床研究者養成(MCR)コース

科目ナンバリング		P-PUB01 8K026 LB90			
授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法 I (MCR限定) Seminar in Study Design I	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	教授	川上 浩司
			医学研究科	特定准教授	中尾 葉子
			医学研究科	特定助教	水野 佳世子
			医学研究科	特定助教	高山 厚
			医学研究科	特定助教	矢内 貴憲
			医学研究科	教授	今中 雄一
			医学研究科	特定准教授	佐々木 典子
			医学研究科	教授	中山 健夫
			医学研究科	准教授	高橋 由光
			医学研究科	助教	富山 まゆみ
			医学研究科	助教	西川 佳孝
			医学研究科	准教授	田近 亜蘭
			医学研究科	教授	石見 拓
			医学研究科	特定助教	西岡 典宏
			医学研究科	教授	近藤 尚己
			医学研究科	特定准教授	井上 浩輔
			医学研究科	教授	山本 洋介
			医学研究科	准教授	小川 雄右
			医学研究科	助教	山田 淑恵
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時間	月5	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
(本講義の通称：プロマネI)					
1. 講義					
・MCR修了者が行ってきた臨床研究を素材として、					
①プロトコル作成と研究の運営において必要な手法を学ぶ。					
②臨床研究プロトコルを作成および実施・運営する上で必要な実践的知識・技能を学ぶ。					
③臨床研究を実際に運営する際に必要な研究マネジメント方略に関する知識・技能を習得する。					
2. プロトコル発表検討会					
・MCR担当教員とMCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。					
・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン (RQ) にもとづいた研究計画を発表し、院生や教員による形成的な検討、評価、フィードバックを通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。					
・院生はRQの背景や意義の説明を中心に発表する。スライドは英語で作成し、発表は日本語を可とする。ディスカッションは日本語とする。					
臨床研究計画法 I (MCR限定)へ続く ↓ ↓ ↓					

臨床研究計画法 I (MCR限定)(2)					
[到達目標]					
・研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを指導者からの助言を得て作成できる。					
・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を指導者からの助言を得て考案できる。					
・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を指導者からの助言を得て認識できる。					
[授業計画と内容]					
第1回 4月8日オリエンテーション (川上教授・全担当教員)					
第2回 5月13日プロトコル発表検討会					
第3回 5月20日プロトコル発表検討会					
第4回 5月27日プロトコル発表検討会					
第5回 6月3日プロトコル発表検討会					
第6回 6月10日プロトコル発表検討会					
第7回 6月17日プロトコル発表検討会					
第8回 6月24日プロトコル発表検討会					
第9回 7月1日プロトコル発表検討会					
第10回 7月8日プロトコル発表検討会					
第11回 7月15日プロトコル発表検討会					
第12回 7月22日プロトコル発表検討会					
第13回 7月29日プロトコル発表検討会					
予備日 4月22日,8月5日					
[履修要件]					
MCR限定必修科目					
[成績評価の方法・観点]					
・講義への積極的な参加 (30%)					
・プロトコル発表 (70%)					
[教科書]					
使用しない					
オリエンテーション時、および演習時に必要文献を適宜指示する。					
[参考書等]					
(参考書)					
授業中に紹介する					
[授業外学修 (予習・復習) 等]					
教育・学習方法					
・課題作業 (プロトコル作成を含む)					
・学生によるプロトコル発表・出席者全員による検討。					
臨床研究計画法 I (MCR限定)(3)へ続く ↓ ↓ ↓					

臨床研究計画法 I (MCR限定)(3)					
[その他 (オフィスアワー等)]					
専科生が研究課題発表会においてプロトコルの発表を行う場合には、研究課題レポートに加えてフルプロトコルの提出が必要である。フルプロトコルは、倫理委員会に提出できるレベルのものとし、より詳細な記載 (実施手順等)、調査票や説明書・同意書等の添付を要する。提出期限は2月上旬を予定。電子ファイルによりMCR事務局に送付する (詳細は追って指示する)。なお、課題研究発表会において解析結果まで発表する場合には、フルプロトコルの提出は不要。					
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可					
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					
[授業の概要・目的]					
(本講義の通称：プレプロマネI)					
◆プロトコル発表検討会					
・MCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。					
・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン (RQ) にもとづいた研究計画を発表し、院生相互の意見交換を通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。					
・院生はRQの背景や意義の説明を中心に発表する。					
[到達目標]					
・研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを指導者からの助言を得て作成できる。					
・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を指導者からの助言を得て考案できる。					
・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を指導者からの助言を得て認識できる。					
[授業計画と内容]					
※ 状況によりオンラインで提供する場合があります。					
1) 4/18オリエンテーション/プロトコル発表検討会					
2) 4/25プロトコル発表検討会					
3) 5/2プロトコル発表検討会					
4) 5/9プロトコル発表検討会					
5) 5/16プロトコル発表検討会					
6) 5/23プロトコル発表検討会					
7) 5/30プロトコル発表検討会					
8) 6/6プロトコル発表検討会					
9) 6/13プロトコル発表検討会					
臨床研究計画法演習 I (MCR限定)へ続く ↓ ↓ ↓					

科目ナンバリング		P-PUB01 8K028 SB90			
授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法演習 I (MCR限定) Special Seminar in Study Design I	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	教授	山本 洋介
			医学研究科	准教授	小川 雄右
			医学研究科	特定准教授	佐々木 典子
			医学研究科	准教授	高橋 由光
			医学研究科	特定助教	中尾 葉子
			医学研究科	特定准教授	井上 浩輔
			医学研究科	特定助教	高山 厚
			医学研究科	助教	富山 まゆみ
			医学研究科	特定助教	西岡 典宏
			医学研究科	特定助教	水野 佳世子
			医学研究科	助教	山田 淑恵
			医学研究科	助教	西川 佳孝
			医学研究科	特定助教	矢内 貴憲
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期
曜時間	木4	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
(本講義の通称：プレプロマネI)					
◆プロトコル発表検討会					
・MCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。					
・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン (RQ) にもとづいた研究計画を発表し、院生相互の意見交換を通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。					
・院生はRQの背景や意義の説明を中心に発表する。					
[到達目標]					
・研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを指導者からの助言を得て作成できる。					
・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を指導者からの助言を得て考案できる。					
・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を指導者からの助言を得て認識できる。					
[授業計画と内容]					
※ 状況によりオンラインで提供する場合があります。					
1) 4/18オリエンテーション/プロトコル発表検討会					
2) 4/25プロトコル発表検討会					
3) 5/2プロトコル発表検討会					
4) 5/9プロトコル発表検討会					
5) 5/16プロトコル発表検討会					
6) 5/23プロトコル発表検討会					
7) 5/30プロトコル発表検討会					
8) 6/6プロトコル発表検討会					
9) 6/13プロトコル発表検討会					
臨床研究計画法演習 I (MCR限定)へ続く ↓ ↓ ↓					

臨床研究計画法演習 I (MCR限定)(2)	
10) 6/207プロトコル発表検討会 11) 6/277プロトコル発表検討会 12) 7/47プロトコル発表検討会 13) 7/11予備日 14) 7/18予備日	
【履修要件】 MCR限定必修科目	
【成績評価の方法・観点】 ・講義への積極的な参加 (100%)	
【教科書】 使用しない オリエンテーション時、および演習時に必要文献を適宜指示する。	
【参考書等】 【参考書】 授業中に紹介する	
【授業外学修(予習・復習)等】 教育・学習方法 ・課題作業(プロトコル作成を含む) ・学生によるプロトコル発表・出席者全員による検討。	
【その他(オフィスアワー等)】 人間健康科学専攻学生の受講可否: 不可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8K030 LB90	
授業科目名 <英訳>	医療技術の経済評価 (MCR限定) Economic Evaluation of Medical Technologies	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一 医学研究科 特定准教授 佐々木 典子 医学研究科 准教授 國澤 進 医学研究科 特定助教 後藤 悦 医学研究科 特定講師 高田 大輔
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・前期前半		
曜年限	水3	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語		
【授業の概要・目的】 ・医療技術における経済評価を支える理論・フレームワークについての講義を行い、医療技術・医薬品等の経済性評価のための主な研究手法を学習します。 ・医療技術の経済評価は、通常、現実的な制約の中で評価をすることになりますが、その際の研究のあり方についても学習します。 ・医療技術・医薬品等、臨床的な事例・テーマを中心に検討を行います。			
【到達目標】 ・医療技術における経済評価を支える理論・フレームワークや研究方法等について、重要事項を説明できる。 ・医療技術の経済評価に関するバイアスについて理解している。 ・治療技術・薬剤・医療材料などに関する経済分析に用いられる主な研究手法として、費用分析・費用効果分析・費用効用分析・費用便益分析の違いやそれぞれの適応、費用算定・アウトカム測定・時間の概念・割引率・感度分析、増分費用効果比といった中心的な概念を理解して説明でき、分析結果の適切な解釈ができる。 ・上記を踏まえてこの領域の研究文献を批判的にレビューし、その意義を説明できる。研究プロトコルの作成や研究実施時に、習得した知識・技術を活用できる。			
【授業計画と内容】 第1回 4月10日 医療技術の経済性評価(1) 第2回 4月17日 医療技術の経済性評価(2) 第3回 4月24日 医療経済評価研究の評価法 第4回 5月1日 経済評価のモデリング 第5回 5月8日 費用効果/効用分析の方法論1 第6回 5月15日 費用効果/効用分析の方法論2 第7回 5月22日 医療技術の経済評価: 論文レビュー&討議1 第8回 5月29日 医療技術の経済評価: 論文レビュー&討議2  * 初回に予定を説明します。			
【履修要件】 MCR限定必修 原則、出席80%以上を前提とする			
医療技術の経済評価 (MCR限定) (2)へ続く↓ ↓ ↓			

医療技術の経済評価 (MCR限定) (2)	
-----	
【成績評価の方法・観点】 講義・討論・グループワーク・発表等におけるコミットメント(配分40%)、レポート(配分60%)により、総合的に評価する。	
【教科書】 適宜、資料を講義にて配布する	
【参考書等】 【参考書】 『今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック: 地域共生社会に向けた15の視点(共著)』(学芸出版社; 2023) 『病院の教科書第2版』(医学書院) ・ Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 4th Ed. Oxford, 2015. ・ Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001. ・ 医療制度・医療政策・医療経済(丸善出版, 2013) ・ Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media) ・ 「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」(編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂, 2018.	
【授業外学修(予習・復習)等】 予習・復習は必要	
【その他(オフィスアワー等)】 ※やむを得ず相当の理由等により、対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。  ・経済学の学習経験は問いません。 ・当分野では医療の経済性、質・安全・原価の実証研究政策研究、医療の政策や経営に深く関わりたい人を募っています。(医療経済学分野: <a href="http://med-econ.umin.ac.jp">http://med-econ.umin.ac.jp</a> ) 注)医療のプロセス、アウトカム等の質指標、診療のばらつき、医療の質の評価・改善、医療機能評価、医療の質・安全に係わる制度・政策については、水曜3限「医療の質評価」(前期後半)(1単位)(MCR推奨選択・コア選択必修)を選択してください。	
医療技術の経済評価 (MCR限定) (2)へ続く↓ ↓ ↓	

医療技術の経済評価 (MCR限定) (3)	
-----	
問い合わせ等は、 医療経済学教室 教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp> へご連絡ください。 面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8K027 LB90			
授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法 I I (MCR限定) Seminar in Study Design II	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	教授	川上 浩司
			医学研究科	特定准教授	中尾 葉子
			医学研究科	特定助教	水野 佳世子
			医学研究科	特定助教	高山 厚
			医学研究科	特定助教	矢内 貴憲
			医学研究科	教授	今中 雄一
			医学研究科	特定准教授	佐々木 典子
			医学研究科	教授	中山 健夫
			医学研究科	准教授	高橋 由光
			医学研究科	助教	富山 まゆみ
			医学研究科	助教	西川 佳孝
			医学研究科	准教授	田近 亜蘭
			医学研究科	教授	石見 拓
			医学研究科	特定助教	西岡 典宏
			医学研究科	教授	近藤 尚己
			医学研究科	特定准教授	井上 浩輔
			医学研究科	教授	山本 洋介
			医学研究科	准教授	小川 雄右
			医学研究科	助教	山田 淑恵
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時間	月5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
(本講義の通称：プロマネII)					
1. 講義					
・MCR修了者が行ってきた臨床研究を素材として、					
①プロトコル作成と研究の運営において必要な手法を学ぶ。					
②臨床研究プロトコルを作成および実施・運営する上で必要な実践的知識・技能を学ぶ。					
③臨床研究を実際に運営する際に必要な研究マネジメント方略に関する知識・技能を習得する。					
2. プロトコル発表検討会					
・MCR担当教員とMCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。					
・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン(RQ)にもとづいた研究計画を発表し、院生や教員による形成的な検討、評価、フィードバックを通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。					
・院生は英語でスライドを作成し、英語で発表する。ディスカッションは英語および日本語で行う。					
臨床研究計画法 I I (MCR限定)(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

科目ナンバリング		P-PUB01 8K029 SB90			
授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法演習 I I (MCR限定) Special Seminar in Study Design II	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	教授	山本 洋介
			医学研究科	准教授	小川 雄右
			医学研究科	特定准教授	佐々木 典子
			医学研究科	准教授	高橋 由光
			医学研究科	准教授	田近 亜蘭
			医学研究科	特定准教授	中尾 葉子
			医学研究科	特定准教授	井上 浩輔
			医学研究科	特定助教	高山 厚
			医学研究科	助教	富山 まゆみ
			医学研究科	特定助教	西岡 典宏
			医学研究科	特定助教	水野 佳世子
			医学研究科	助教	山田 淑恵
			医学研究科	助教	西川 佳孝
			医学研究科	特定助教	矢内 貴憲
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時間	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
(本講義の通称：プレプロマネII)					
◆プロトコル発表検討会					
・MCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。					
・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン(RQ)にもとづいた研究計画を発表し、院生相互の意見交換を通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。					
・院生は、研究実施に際しての問題点を明らかにする。結果が出ている場合は結果の解釈を明らかにする。					
[到達目標]					
・研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを作成できる。					
・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を考案できる。					
・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を認識できる。					
[授業計画と内容]					
※ 状況によりオンラインで提供する場合があります。					
1) 9/30 プロトコル発表検討会 ※この日のみ演習室で実施					
2) 10/7 プロトコル発表検討会					
3) 10/21 プロトコル発表検討会					
4) 10/28 プロトコル発表検討会					
5) 11/11 プロトコル発表検討会					
6) 11/18 プロトコル発表検討会					
7) 11/25 プロトコル発表検討会					
8) 12/2 プロトコル発表検討会					
臨床研究計画法演習 I I (MCR限定)(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

科目ナンバリング		P-PUB01 8K027 LB90			
授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法 I I (MCR限定)	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	教授	川上 浩司
			医学研究科	特定准教授	中尾 葉子
			医学研究科	特定助教	水野 佳世子
			医学研究科	特定助教	高山 厚
			医学研究科	特定助教	矢内 貴憲
			医学研究科	教授	今中 雄一
			医学研究科	特定准教授	佐々木 典子
			医学研究科	教授	中山 健夫
			医学研究科	准教授	高橋 由光
			医学研究科	助教	富山 まゆみ
			医学研究科	助教	西川 佳孝
			医学研究科	准教授	田近 亜蘭
			医学研究科	教授	石見 拓
			医学研究科	特定助教	西岡 典宏
			医学研究科	教授	近藤 尚己
			医学研究科	特定准教授	井上 浩輔
			医学研究科	教授	山本 洋介
			医学研究科	准教授	小川 雄右
			医学研究科	助教	山田 淑恵
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時間	月5	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
(本講義の通称：プロマネII)					
1. 講義					
・MCR修了者が行ってきた臨床研究を素材として、					
①プロトコル作成と研究の運営において必要な手法を学ぶ。					
②臨床研究プロトコルを作成および実施・運営する上で必要な実践的知識・技能を学ぶ。					
③臨床研究を実際に運営する際に必要な研究マネジメント方略に関する知識・技能を習得する。					
2. プロトコル発表検討会					
・MCR担当教員とMCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。					
・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン(RQ)にもとづいた研究計画を発表し、院生や教員による形成的な検討、評価、フィードバックを通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。					
・院生は英語でスライドを作成し、英語で発表する。ディスカッションは英語および日本語で行う。					
臨床研究計画法 I I (MCR限定)(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

科目ナンバリング		P-PUB01 8K029 SB90			
授業科目名 <英訳>	臨床研究計画法演習 I I (MCR限定) Special Seminar in Study Design II	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	教授	山本 洋介
			医学研究科	准教授	小川 雄右
			医学研究科	特定准教授	佐々木 典子
			医学研究科	准教授	高橋 由光
			医学研究科	准教授	田近 亜蘭
			医学研究科	特定准教授	中尾 葉子
			医学研究科	特定准教授	井上 浩輔
			医学研究科	特定助教	高山 厚
			医学研究科	助教	富山 まゆみ
			医学研究科	特定助教	西岡 典宏
			医学研究科	特定助教	水野 佳世子
			医学研究科	助教	山田 淑恵
			医学研究科	助教	西川 佳孝
			医学研究科	特定助教	矢内 貴憲
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時間	月4	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]					
(本講義の通称：プレプロマネII)					
◆プロトコル発表検討会					
・MCR専科生および受講生全員が、毎回参加することを原則とする。					
・個々の院生が、自身のリサーチ・クエスチョン(RQ)にもとづいた研究計画を発表し、院生相互の意見交換を通じて質の高い研究プロトコルを作成にむけて学習する。					
・院生は、研究実施に際しての問題点を明らかにする。結果が出ている場合は結果の解釈を明らかにする。					
[到達目標]					
・研究の目的に適合した臨床研究プロトコルを作成できる。					
・研究の目的に適合した研究のマネジメントの具体的方略を考案できる。					
・研究の方法や場に応じた研究運営上の留意点を認識できる。					
[授業計画と内容]					
※ 状況によりオンラインで提供する場合があります。					
1) 9/30 プロトコル発表検討会 ※この日のみ演習室で実施					
2) 10/7 プロトコル発表検討会					
3) 10/21 プロトコル発表検討会					
4) 10/28 プロトコル発表検討会					
5) 11/11 プロトコル発表検討会					
6) 11/18 プロトコル発表検討会					
7) 11/25 プロトコル発表検討会					
8) 12/2 プロトコル発表検討会					
臨床研究計画法演習 I I (MCR限定)(2)へ続く ↓ ↓ ↓					

臨床研究計画法演習 ⅠⅠ (MCR限定)(2)	
9) 12/9 プロトコル発表検討会	
10) 12/16 プロトコル発表検討会	
11) 12/23 プロトコル発表検討会	
12) 1/6 プロトコル発表検討会	
13) 1/20 プロトコル発表検討会	
14) 1/27 予備日	
<b>[履修要件]</b>	
MCR限定選択科目	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
・講義への積極的な参加 (100%)	
<b>[教科書]</b>	
使用しない 臨床研究計画法演習Ⅰのオリエンテーション時、および、演習時に必要文献を適宜指示する。	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 授業中に紹介する	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
教育・学習方法 ・課題作業(プロトコル作成を含む) ・学生によるプロトコル発表・出席者全員による検討。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8K020 LB90	
授業科目名 <英訳>	EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定)	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 中山 健夫
	Special Lectures on EBM and clinical practice guidelines		大阪地方裁判所 裁判官 西岡 繁治 徳島社会健康医学大学院大学 藤本 修平 難病学国際大学大学院 准教授 増澤 祐子
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・後期		
曜時間	金3	授業形態	特論(対面授業科目)
使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
・臨床医療の基盤となりつつあるEBM(根拠に基づく診療)と、EBMを用いた診療ガイドラインの歴史、国内外の動向と展望を学びます。 ・実習を通して、近年大きく進歩しつつある診療ガイドラインの評価・作成の方法の実際を経験します。 ・患者・家族とのコミュニケーション、法的な意味合い、医療資源の配置など社会的な視点から診療ガイドラインの可能性と課題を考えます。			
教育・学習方法 ・パワーポイントスライドによる講義と実習 ・一部グループワークあり			
<b>[到達目標]</b>			
・EBMと診療ガイドラインの関係を説明できる。 ・EBMを用いた診療ガイドラインの作成・評価の概要を理解し、実施できる。 ・社会的な視点から診療ガイドラインの可能性と課題を説明できる。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
(※変更の可能性があるので開講日に確認して下さい)			
第1回 10月4日 EBMと診療ガイドライン(中山)			
第2回 10月11日 診療ガイドラインの評価(中山)			
第3回 10月18日 診療ガイドラインの作成(中山・増澤)			
第4回 11月1日 診療ガイドラインからQuality Indicator(QI)へ(中山)			
第5回 11月8日 診療ガイドラインからShared decision-making(SDM)へ(中山・藤本)			
第6回 11月15日 診療ガイドラインと患者の視点(中山)			
第7回 11月29日 診療ガイドラインの法的位置づけ(西岡)			
第8回 12月6日 総合討論(中山)			
※「健康情報学Ⅱ」の講義と重ならないように開講します。			
EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓			

EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) (2)	
<b>[履修要件]</b>	
MCRコースの履修生と受講生に限定 (MCR限定)	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
毎回の小レポート提出100%	
<b>[教科書]</b>	
講義資料は配布	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 中山健夫, 津谷喜一郎編著『臨床研究と疫学研究のための国際ルール集』(ライフサイエンス出版) 『Minds診療ガイドライン作成の手引き2014年版』(医学書院)	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
予習より復習に十分時間を取ること。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
受講生には診療ガイドラインを適切に利用するだけでなく、近い将来、各領域の診療ガイドラインを作る立場になって頂くことを期待しています。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 否	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8K025 LJ90	
授業科目名 <英訳>	臨床研究データ管理学 (MCR・CB限定)	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特准教授 中尾 葉子
	Data management for Clinical Research		
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・後期前半		
曜時間	金1	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
データベース研究を含めた観察研究、レジストリ研究や臨床試験において必要なデータ管理に関して、実例を用いて講義および演習を行う。MCRおよび臨床統計教育養成コース限定。			
<b>[到達目標]</b>			
臨床研究で必要なデータ管理の方法を取得し、自らの研究に活かすことができる。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
第一回: データ管理学とは(中尾)			
第二回: DPCデータを含めた臨床研究におけるデータベース選択と限界(高山)			
第三回: 臨床試験におけるデータ管理Ⅰ(高田)			
第四回: 臨床試験におけるデータ管理Ⅱ(多田)			
第五回: 臨床試験における品質管理(高田)			
第六回: 電子カルテ情報におけるデータ管理の役割(木村)			
第七回: レセプトデータの構造と管理(深澤)			
<b>[履修要件]</b>			
特になし			
<b>[成績評価の方法・観点]</b>			
授業態度: 授業への取り組み姿勢(授業中の発言やレスポンスカードの記載内容等)により、授業への関心や意欲の測定を行う(30%) レポート(70%)			
<b>[教科書]</b>			
使用しない			
臨床研究データ管理学 (MCR・CB限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓			

臨床研究データ管理学 (MCR・CB限定) (2)	
【参考書等】	
(参考書) 授業中に紹介する	
【授業外学修(予習・復習)等】	
課題研究でデータを扱う際に復習すること。	
【その他(オフィスアワー等)】	
実習でノートパソコンを使用する必要があるため、必要に応じて持参すること(事前に指示を行う)。また、上記授業予定は受講生の理解度・興味により若干の変更を伴う場合もある。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8K034 LB90	
授業科目名 <英訳>	臨床研究特論 (MCR限定) Clinical research advanced	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 石見 拓 医学研究科 特定助教 西岡 典宏
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期		
曜時間	月6	授業形態	(対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究の立案から体制の構築、研究費の獲得、論文投稿、成果の社会還元まで、一連のプロセスを学ぶ。</li> <li>スモールグループに分かれて、研究計画の作成、研究費申請の実験を体験する。</li> <li>臨床研究計画法I・IIで履修した研究方法について掘り下げる。</li> <li>学生から質問を提示し、教員と参加学生で検討する。</li> <li>教員から研究方法上の問題点を提示し、学生が検討する。</li> </ul>			
【到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床疑問の解決に向け、適切な研究方法を選択する過程、その具体化、実践と結果の活用などについて具体的な研究事例に照らして深く理解する。</li> <li>仮説形成、研究計画立案のプロセスを理解し、自身の研究計画に反映できるようになる。</li> <li>研究費の獲得方法の具体例を知り、自身の研究推進に生かす。</li> <li>論文作成・査読への対応の具体例を知り、自身の研究に反映する。</li> <li>研究チームの構築、研究成果のフィードバック、社会還元の実験を知り、自身の研究活動に反映することができるようになる。</li> </ul>			
【授業計画と内容】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>仮説形成、研究計画立案のプロセス</li> <li>研究費の獲得方法の具体例</li> <li>査読への対応方法</li> <li>研究チームの作り方、フィードバックの仕方</li> <li>研究成果の社会還元</li> </ul>			
【履修要件】			
MCR限定(選択)			
【成績評価の方法・観点】			
授業参加の姿勢、グループワークでの積極性、説明の明快さ			
臨床研究特論 (MCR限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓			

臨床研究特論 (MCR限定) (2)	
【教科書】	
使用しない	
【参考書等】	
(参考書) 川村 孝 『臨床研究の教科書』 (医学書院) 川村 孝 『エビデンスをつくる: 陥りやすい臨床研究のピットフォール』 (医学書院)	
【授業外学修(予習・復習)等】	
自らの研究に反映し、同僚の研究を支援する	
【その他(オフィスアワー等)】	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8K036 LE90	
授業科目名 <英訳>	系統的レビュー (MCR限定) Systematic Reviews	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 准教授 小川 雄右 医学研究科 助教 山田 淑恵 医学研究科 特定助教 板谷 崇央
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・後期		
曜時間	月2	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】			
【基本情報】 MCR限定選択科目 授業日時: 後期月曜2限、場所: G棟セミナー室A (第1回のみ演習室)			
【コースの概要】 各参加者が興味を持つ、介入に関するテーマについて、系統的レビュー・メタアナリシスの英文プロトコルを完成させる。実際に系統的レビューのプロトコルを完成させたい人が受講すること。Handbookを読んでサマリーをプレゼンするのと、毎週プロトコルを書き進め洗練させていくため、授業前後に多くの時間が必要になるので注意されたい。 教員が添削するのにかかるのサポートを要するため、一定の人数以上の受講希望者がいる場合、英語で受講希望理由・計画しているテーマに関するエッセイを提出してもらい、一定人数を選考し、もれた人は聴講のみ(宿題添削、発表、評価なし)とする。			
【教育・学習方法】 講義は以下の手順で進行する。 1. 受講者は下記Handbookを分担して通読し、分担箇所をサマリーを講義でプレゼンする。 2. 自分のプロトコルについて、講義の部分を各講義後に宿題として追記し、提出する。 3. これに対し教員からコメントをもらい、次回の宿題時に改訂する。 4. つまり、各講義後の宿題では、追記と改訂の2つの作業を行う。これにより、プロトコルを洗練させていく。			
【到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者はHandbookを理解して要約し、発表する。</li> <li>各参加者が興味を持つ臨床疑問についての系統的レビューのプロトコルを完成させる。</li> <li>希望者には、最終的に系統的レビュー論文を完成させるまで本講義終了後も指導する。</li> </ul>			
【授業計画と内容】			
1 9/30 イントロダクション 小川 (この日のみ演習室) 2 10/7 PICO発表 全受講者 3 10/21 Handbook第1章~第3章 発表者 4 10/28 Inclusion criteriaの発表 全受講者 5 11/11 Handbook第4章~第5章 発表者 6 11/18 検索方法の発表 全受講者 7 11/25 Handbook第7章、8章、13章 発表者 8 12/2 Handbook第6章、第9章、第10章 発表者 9 12/9 まとめ			
系統的レビュー (MCR限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓			

系統的レビュー (MCR限定) (2)
12/16、12/23予備日
<b>[履修要件]</b> MCR限定選択
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 講義への積極的な参加 (30%) 毎回提出する系統的レビューのプロトコル (70%)
<b>[教科書]</b> Julian P. T. Higgins et al 『Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions』 (Wiley) このHandbookに則って講義を行う。
<b>[参考書等]</b> (参考書)
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b> 授業の前後にかなりの自習時間が必要になるので注意してください。
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b> 人間健康科学系専攻学生の受講可否：不可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8K033 LJ90		
授業科目名 <英訳>	データ解析法特論 (MCR限定) Special Seminar of Data Analysis	担当所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 山本 洋介 医学研究科 助教 山田 淑恵 医学研究科 特定助教 板谷 崇央
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・前期後半		
曜日限	月6	授業形態	特論 (対面授業科目)
使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>この講義では、統計解析ソフトウェアstataを用いて臨床研究のデータ解析を行う。</li> <li>実習の教材として用いる臨床研究データは、臨床研究の実例のデータを可能な限り用いる。</li> <li>学習の習熟度の確認のために、学習課題を課している。</li> <li>開講期間中は講習会コードを提供し、無償でstataの試用が可能である (ただし開講期間終了後も継続して使用を希望する場合には各自購入する必要があります)</li> </ul>			
<b>[到達目標]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>統計解析ソフトを用いて基礎的な臨床研究データの解析ができる。</li> <li>解析ソフトの出力結果を正確に解釈することができる。</li> </ul>			
<b>[授業計画と内容]</b>			
※ 状況によっては、この講義はオンラインで提供する場合があります			
第1回 5月20日統計ソフトの基本的な使い方 第2回 5月27日連続変数の検定と推定 第3回 6月3日カテゴリ変数の検定と推定 第4回 6月10日相関と回帰 第5回 6月17日重回帰分析 第6回 6月24日ロジスティック回帰分析 第7回 7月1日生存時間解析 第8回 7月8日サンプルサイズの推定・その他の解析 第9回 7月22日予備日 第10回 7月29日予備日			
<b>[履修要件]</b>			
stataを用いて解析する予定のある人の履修をおすすめします。			
<b>[成績評価の方法・観点]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義への積極的な参加 (60%)</li> <li>課題に対するレポート (40%)</li> </ul>			

データ解析法特論 (MCR限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓

データ解析法特論 (MCR限定) (2)
<b>[教科書]</b> 使用しない 基本的な学習資源は配布。
<b>[参考書等]</b> (参考書) 東 尚弘、中村文明、林野泰明、杉岡 隆、山本洋介 『臨床研究のためのstataマニュアル』 (健康医療評価研究機構 (iHope))
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b> ・予習：不要 ・復習：次回講義までに当該回の復習を行うこと。課題がある場合には次回講義までにレポートを提出すること。
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b> 面談希望はまずメールでご連絡下さい。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8K035 LB90		
授業科目名 <英訳>	社会疫学研究法 (MCR限定) Methods in social epidemiology	担当所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 近藤 尚己
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・前期集中		
曜日限	火1	授業形態	講義 (対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
経済危機や大規模災害、感染症パンデミックなど、危機は健康格差を拡大させることが知られています。臨床現場においても、貧困や孤立など、社会的な課題を抱えた患者に出会うことはよくあり、危機の時はその頻度が高まります。患者の社会的課題や居住環境をふまえた医療を提供することで、治療や予防の効果が高まることを期待できます。			
本コースでは、臨床現場における社会疫学研究の実践について、実践的に学びます。具体的には、社会経済状況による患者の健康格差、医療サービスアクセス格差、治療効果の格差を評価するための研究や、こういった課題の解決のための介入手法の開発とその評価方法などについて学びます。「せっかく治療した患者を病気にした環境に戻さない」ために必要なエビデンス構築のための基礎的な知識とスキルを身につけます。			
<b>[到達目標]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>患者の社会的課題の評価法を学びます。</li> <li>主に臨床現場で進める社会疫学研究の主要テーマやその実践法を学びます。</li> <li>社会疫学で汎用される、マルチレベル分析や反事実モデル、Directed Acyclic Graphsなどを活用した因果推論の基礎を学びます。</li> <li>関心を持ったテーマを調べるための簡易な研究計画を立てるワークを行います。</li> </ul>			
<b>[授業計画と内容]</b>			
以下の日程は変更する場合があります。			
1. 6/11 現場の社会疫学研究テーマ 2. 6/18 記述疫学：健康格差の分布とデータの見方 (大阪医科薬科大学/伊藤ゆり) 3. 6/25 観察研究：個人の社会要因・社会環境要因と健康の関係性を推論する 4. 7/2 実験研究・準実験研究：社会・制度への介入効果を検証する 5. 7/9 社会疫学の因果推論 (井上浩輔) 6. 7/16 応用：社会的処方研究 (大阪医科薬科大学/西岡大輔) 7. 7/23 マルチレベル混合効果分析入門 (佐藤豪竜) 8. 7/30 レポート作成実習：研究計画作成演習			
The following dates are subject to change.			
1. 6/11 Topics of social epidemiologic research in clinical settings 2. 6/18 Descriptive epidemiology: Describing the distribution of health inequalities (Yuri Ito, Osaka Medical and Pharmaceutical University) 3. 6/25 Observational study: Inferring the relationship between individual social factors and health 4. 7/2 Experimental and quasi-experimental research on the effects of societal/political interventions 5. 7/9 Causal inference in social epidemiology (Kosuke Inoue) 6. 7/16 Research on social prescribing (Daisuke Nishioka, Osaka Medical and Pharmaceutical University)			

社会疫学研究法 (MCR限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓

社会疫学研究法 (MCR限定)(2)
7. 7/23 Introduction to multilevel mixed-effects analysis (Koryu Sato) 8. 7/30 Presentation
<b>[履修要件]</b> 「社会疫学」を受講するか、履修届後送られるPANDAのリンクから、社会疫学の動画や補講資料で事前学習をして臨むこと。
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 講義内のディスカッション40% レポート60%
<b>[教科書]</b> 授業中に指示する
<b>[参考書等]</b> <b>(参考書)</b> 藤野 善久 (著), 近藤 尚己 (著), 竹内 文乃 (著) 『保健医療従事者のためのマルチレベル分析活用ナビ 繰り返しのある実験データ 多施設研究 地域・職域データの扱い方』 (2013) ISBN:978-4-7878-2053-2 (URL: <a href="https://honto.jp/netstore/pd-book_25912440.html">https://honto.jp/netstore/pd-book_25912440.html</a> ) 近藤尚己 『健康格差対策の進め方 効果をもたらす5つの視点』 (2016) ISBN:978-4-260-02501-0 (著者割引あり URL: <a href="https://www.jgaku-shoin.co.jp/book/detail/89440">https://www.jgaku-shoin.co.jp/book/detail/89440</a> ) 西智弘 『社会的処方 孤立という病を地域のつながりで治す方法』 (学芸出版社, 2020) ISBN:978-4-7615-2731-0 (URL: <a href="https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761527310/">https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761527310/</a> ) 近藤尚己・西村真紀ほか 『実践SDH診療：できることから始める健康の社会的決定要因への取り組み』 (中外医学 ) ISBN:978-4-498-12006-8 (臨床に携わる人向け) その他、下記総説が参考になります。  西岡大輔, 近藤尚己. 社会的処方の事例と効果に関する文献レビュー. 医療と社会 2020;29:527-44.  西岡大輔, 上野恵子, 舟越光彦, et al. 医療機関で用いる患者の生活困窮評価尺度の開発. 日本公衆衛生雑誌 2020;67:461-70.  黒谷佳代 (監修・著者), 上野恵子 (編) 近藤尚己 (編著), 小貫美幸 (編著), et al. 生活困窮世帯の子どもに対する支援ってどんな方法があるの? 国内外の取り組みとその効果に関するレビューおよび調査 (平成30年度厚生労働省社会福祉推進事業「社会的弱者への透き添い支援等社会的処方の効果の検証および生活困窮家庭の子どもへの支援に関する調査研究」報告書). 東京: 日本老年学的評価研究機構 (代表・近藤克則) 2019.  近藤尚己 (編著), 西岡大輔 (編著), 高木大資, et al. 「付き添い」のちから 生活困窮者の医療サービス利用の実態及び受診同行支援の効果に関する調査研究 (平成30年度厚生労働省社会福祉推進事業「社会的弱者への透き添い支援等社会的処方の効果の検証および生活困窮家庭の子どもへの支援に関する調査研究」報告書). 東京: 日本老年学的評価研究機構 (代表・近藤克則) 2019.
社会疫学研究法 (MCR限定)(3)へ続く↓ ↓ ↓

社会疫学研究法 (MCR限定)(3)
近藤尚己. 環境改善による健康格差対策の類型とその実践—医療に求められる“社会的処方”. 医学のあゆみ 2019;271:1165-70.
西岡大輔, 近藤尚己. 医療機関における患者の社会的リスクへの対応: social prescribingの動向を参考にした課題整理. 医療経済研究 2019;30:5-19.
近藤尚己. 健康格差対策の進め方 社会疫学の知見を踏まえて. 日本健康教育学会誌 2018;26:398-403.
澤憲明, 堀田聰子. 英国における社会的処方. In: 横林健一, イチロー・カワチ, eds. 社会疫学と総合診療(ジェネラリスト教育コンソーシアム vol10): カイ書林 2017:138-44.
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b> 研究課題を具体的に考える演習をします。作成する研究計画を実際に進めることを希望する場合、アドバイスを研究チーム構築の支援等については、コース担当教員 (近藤) に相談してください。
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。







## 遺伝カウンセラーコース

科目ナンバリング	P-PUB01 8N022 SJ90				
授業科目名 ＜英訳＞	基礎人類遺伝学演習 (GC限定) Fundamental Human Genetics, exercise	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定講師 川崎 秀徳 附属病院 特定准教授 小川 昌宣 医学研究科 特定助教 吉田 晶子 医学研究科 特定助教 鳥嶋 雅子		
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時間	木5	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
【基本情報】 授業日時：後期木曜5限 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル：応用 担当者：川崎秀徳 (科目責任者)、小川昌宣、山田重人、中島健、吉田晶子、鳥嶋雅子					
【コースの概要】 遺伝カウンセラーとして必須である家系図の作成、遺伝医療情報の収集、説明資料や記録の作成、染色体検査・遺伝学的検査の結果解釈などについて、演習を通じて体験することにより、具体的に理解することを目的とする。また、臨床の現場で行われる出生前診断、遺伝性腫瘍の画像診断やサバイランスの実践についても学習する。					
<b>【到達目標】</b>					
・家系図作成、遺伝形式推定、再発確率計算を正確に行うことができる ・エビデンスレベルの高い遺伝医療情報を確実に収集し、クライアントに分かりやすく伝えることができる ・チーム医療の一員として医療情報を正しく他の医療スタッフに伝えることができる ・染色体検査・遺伝学的検査それぞれの特性と適応を理解し、結果の解釈を行うことができる ・出生前診断、遺伝性腫瘍の画像診断やサバイランスについて理解できる					
<b>【授業計画と内容】</b>					
【第1回】10月3日 <吉田・鳥嶋> 「家系図作成演習」 標準的家系図記載法を学び、遺伝形式および遺伝的リスク推定を学ぶ 【第2回】10月17日 <川崎1> 「診療録からの情報収集・医療情報の収集」 診療録からの情報収集のコツを学ぶ。一般的な医療情報の収集に関して整理する 【第3回】10月24日 <小川1> 「生殖補助医療」 生殖補助医療における問題点について、事例を通して検討する 【第4回】10月31日 <小川2> 「加齢による妊娠・出産への影響」 女性の加齢に伴う妊娠・出産への影響について、総合的に学ぶ 【第5回】11月7日 <川崎2> 「診療録の書き方、説明資料の作り方」 医療者に対する診療録の作成ならびにクライアントに対する説明資料の作成のコツを学ぶ 【第6回】11月14日 <川崎3> 「染色体検査G分染法・FISH法」 染色体検査G分染法・FISH法の適応と特徴について理解し、結果を解釈できる 【第7回】11月21日 <小川3> 「バリエーションの診断1」 IRUDなどで新規に同定されたバリエーションの診断について、事例をもとに学ぶ 【第8回】11月28日 <中島1> 「がん検診」 がんの検診と遺伝性腫瘍のサバイランスの相違について理解する					

基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓

科目ナンバリング	P-PUB01 8N006 SJ90				
授業科目名 ＜英訳＞	臨床遺伝学演習 (GC限定) Clinical Genetics, Exercise	担当者所属・ 職名・氏名	附属病院 特定准教授 小川 昌宣 医学研究科 特定講師 川崎 秀徳 医学研究科 特定助教 鳥嶋 雅子 医学研究科 特定助教 吉田 晶子		
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2024・後期
曜時間	水5・6	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
【基本情報】 別称：「遺伝カウンセリングロールプレイ演習」 授業日時：後期水曜5限 (例外予定にご注意ください) 教室：G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある、レベル：応用 担当者：川崎秀徳 (科目責任者)、小川昌宣、吉田晶子、鳥嶋雅子、村上裕美、本田明夏、源明理、春山睦子 【コースの概要】 ・演習開始4週間前に、オリエンテーションを行う (2023年度は9/4とする)。 ・基本設定は担当教員がオリエンテーション時に関係者全員に通知する。検討過程で基本設定に変更がある場合は、関係者全員に事前に必ず知らせる。 ・実際の遺伝カウンセリングは、臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーで役割分担しながら、チーム医療として行う。通常、遺伝学的検査の結果開示など、臨床遺伝専門医が実際には主に行っていることについて、ロールプレイでは「遺伝カウンセリング担当者」として実施する。これは遺伝カウンセラーとして貴重な経験になるだけでなく、臨床遺伝専門医の立場を理解するのにも役立つ。また、頻度の高い疾患については認定遺伝カウンセラーとして十分な知識を有しておくことは、クライアントから再度質問された場合などにも対応できる力となる。 ・第1回～第8回は1名のクライアントを対象に、第9回～第16回は2名のクライアントを対象にロールプレイを行う。全体を通じて、遺伝カウンセリングの構造・流れを適切につかみ、主訴・経緯の確認からアジェンダセッティング、疾患の説明および意思決定支援と、全体を通じてカウンセリングマインドをもって対応できることを目指す。また、クライアントが2名のテーマでは、クライアント間のパワーバランスや意見の違いへの対応や配慮を学ぶ。 ・ロールプレイ実施の2週間前までに遺伝カウンセリング担当者 (M1) ・CGCメンター・担当教員での事前打合せを実施する。その他、適宜打ち合わせを行う。 ・クライアント役も必要に応じてシナリオ設定者と打ち合わせを行う。尚、クライアント役の1回はM1が担当する。 ・前日までに遺伝カウンセリング担当者 (M1) は遺伝カウンセリングで使用する資料を配布する。 ・ロールプレイ当日も、担当教員やメンター、およびオブザーバーから活発かつ建設的なフィードバックを求めるが、フィードバックシートでのコメントも収集する。 ・遺伝カウンセリング担当者 (M1) ・CGCメンター、担当教員での当日の振り返りを行う。また、後日、遺伝カウンセリング担当者 (M1) とCGCメンターの一部の逐語録やフィードバックシートを用いた振り返りを行い、1週間後を目安に担当教員レポートを提出する。また、全ロールプレイ終了後、全体を通じての振り返りレポートを鳥嶋・吉田へ提出する。 ・履修学生の人数により、予定を変更する可能性がある。					
臨床遺伝学演習 (GC限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓					

<b>基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (2)</b>					
いて理解する 【第9回】12月5日 <川崎4> 「CGHマイクロアレイの結果解釈の基礎」 UCSC Genome Browser, ClinGen, Decipherなどを利用して、CGHマイクロアレイの結果解釈の基礎を学ぶ 【第10回】12月12日 <川崎5> 「CGHマイクロアレイの結果解釈の実践」 実際の症例を通して、CGHマイクロアレイの結果解釈を学ぶ 【第11回】12月19日 <小川4> 「放射線・環境因子・感染症の胎児への影響」 先天異常の原因において5%程度を占める環境因子について理解する 【第12回】12月26日 <山田重人> 「胎児の形態異常の発生と診断」 超音波で診断される形態異常について、その発生学的な発症メカニズムに触れつつ理解を深める 【第13回】1月9日 <川崎6> 「バリエーションの診断2」 ACMGガイドラインに基づいたバリエーションの評価法を、実際の症例をもとに学ぶ 【第14回】1月16日 <小川5> 「流産絨毛検査、羊水染色体検査」 周産期領域における染色体検査の特徴、注意点について、特に流産や羊水検査を事例として検討し、説明にあたって注意すべき点などを学ぶ 【第15回】1月23日 <中島2> 「遺伝性腫瘍に關係する画像診断」 上部下部内視鏡検査、腹部超音波検査、CT、MRI、PET等の画像診断の特性・意義について学ぶ					
<b>【履修要件】</b>					
遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目 (事前確定科目) 先修科目として「基礎人類遺伝学」の履修を原則とする					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
積極的な演習への参加、レポート、発表等を総合的に評価する					
<b>【教科書】</b>					
適宜ハンドアウトを配布					
<b>【参考書等】</b>					
【参考書】 授業中に紹介する					
<b>【授業外学修 (予習・復習) 等】</b>					
適宜指示する					
<b>【その他 (オフィスアワー等)】</b>					
講義日程、講師、内容については、多少の変更がある可能性がある ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

<b>臨床遺伝学演習 (GC限定) (2)</b>					
<b>【到達目標】</b>					
遺伝カウンセラーとしての実践的な技術を身に付け、現場での実践的な対応能力を獲得する。臨床遺伝学の知識と遺伝カウンセリングの基本的技術を習得する。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
【第0回】9月4日5限<全員> 「ロールプレイの行い方とオリエンテーション、遺伝カウンセリング実習」 ロールプレイの目的、方法と意義について。遺伝カウンセリング実習についてのオリエンテーション 【第1回】10月2日 / 【第2回】10月16日 <小川・吉田> 「遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC)」 乳がん患者が多数いる家系での遺伝性乳がんのリスクの評価および遺伝学的検査の適応。血縁者への情報共有や発症前診断について学ぶ。また、乳がん患者が多数いる家系での血縁者への情報共有や発症前診断について学ぶ。 【第3回】10月23日 / 【第4回】10月30日 <川崎・村上> 「Marfan症候群」 比較的頻度が高く、生命予後に関わる合併症をきたしうるMFSに関して、疾患概要・サバイランスの必要性・遺伝学的検査の意義を説明でき、at risk血縁者の受診につなげることを目指す。 【第5回】11月6日 / 【第6回】11月13日 <小川・鳥嶋> 「Duchenne型筋ジストロフィー (DMD)」 DMDと診断された孤発例のケースを通して、遺伝学的診断の進め方、X連鎖性疾患における母親あるいは女性同胞の保因者診断の進め方を学ぶ。 【第7回】11月20日 / 【第8回】11月27日 <川崎・吉田> 「脆弱X症候群」 脆弱X症候群の症状、トリプレットリピート病や表現促進、女性保因者発症の説明を学ぶ。X連鎖性遺伝での母親の疾患の受け入れや心理社会的支援を検討する。 【第9回】12月4日 / 【第10回】12月11日 <小川・本田> 「習慣流産」 習慣流産症例において、原因の産婦人科的評価に加えて遺伝学的検査に基づく評価と次回妊娠に向けて着床前診断も含めた提案に関する遺伝カウンセリングを学ぶ。 【第11回】12月18日 / 【第12回】12月25日 <川崎・春山> 「ミトコンドリア病 (MELAS)」 MELASと診断された小児のケースを通して、母系遺伝、表現の多様性、確定できない情報の伝え方等のミトコンドリア病における遺伝カウンセリングを学ぶ。 【第13回】1月8日 / 【第14回】1月15日 <小川・鳥嶋> 「Turner症候群 (モザイク・小児)」 Turner症候群と診断された小児のケースを通して、染色体数異常の理解を深めるとともに、クライアントの心情に配慮しながら、疾患概要ならびに今後の対応に関する情報提供できることを目指す。 【第15回】1月22日 / 【第16回】1月29日 <川崎・源> 「遺伝性難聴」 多くの原因遺伝子があり、遺伝形式も多様な遺伝性難聴をテーマに、遺伝形式の説明やAt risk者の評価を学ぶ。夫婦で意見が異なる際の配慮についても検討し、実践する。 参加者：担当、関係全教員、遺伝カウンセリング担当者院生 (M1)、オブザーバー (M1、M2、博士院生)、CGCメンター 記録：オブザーバーのM1 (ビデオ撮影およびファイルサーバに保存・復習用)					
<b>【履修要件】</b>					
遺伝カウンセラーコース1回生限定必修科目 (事前確定科目)					
臨床遺伝学演習 (GC限定) (3)へ続く ↓ ↓ ↓					

臨床遺伝学演習 (GC限定) (3)	
[成績評価の方法・観点]	
演習における積極性、実践的能力、出席、レポート等を総合的に評価する	
[教科書]	
使用しない	
[参考書等]	
(参考書)	
[授業外学修(予習・復習)等]	
適宜指示する	
[その他(オフィスアワー等)]	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	P-PUB01 8N020 LJ90				
授業科目名 -英訳-	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) Counselling for Genetic Counselors	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 附属病院 医学研究科 医学研究科	特定助教 鳥嶋 雅子 特定准教授 小川 昌宣 特定講師 川崎 秀徳 特定助教 吉田 晶子	
配当学年	専門職	単位数	3	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜制限	木1:開講日注意	授業形態	講義・演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
【基本情報】授業日時: 前期木曜1限を毎週実施、後期木曜1限を隔週実施を原則とする(例外予定にご注意ください) 教室: G棟3階演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル: 基礎 担当者: 鳥嶋雅子・吉田晶子・浦野真理・隈村綾子・村上裕美・秋山奈々・本田明夏・松川愛未・春山悠依子・源明理 【コースの概要】本講義では、コミュニケーションという観点から、遺伝カウンセリングの重要なテーマについて、院生自身が主体となってディスカッションを行い、互いの学びを共有していく。遺伝カウンセラーとして、クライアント・家族の支援のためのコミュニケーションは勿論のこと、チーム医療のメンバーとして、異なった専門性を持つチームメンバーとのコミュニケーションのあり方についても学ぶ。また、本講義は、『遺伝カウンセリングロールプレイ演習』『遺伝カウンセリング実習(病院での臨床実習)』で必要な基礎知識・理論を学ぶという役割も担っており、これらの講義・演習・実習を通して遺伝カウンセリング、そして遺伝カウンセラーについて学びを深めることを総合的な目標として掲げている。演習については、授業の進行状況に応じて、ロールプレイ、ビデオ学習など様々な方法を用いる予定である。 【教育・学習方法】・ テキストを予習し、レポート提出 ・ 講義内でのディスカッションおよび演習 ・ 時間外に以下の学習も併せて行う。 ビデオ学習-「グロリア」と3人のセラピスト みなさまの積極的な参加を希望します。授業内容に関する質問も随時歓迎です。メールで問い合わせてください。					
[到達目標]					
1. 遺伝カウンセラーとして、クライアント・家族をどのように支援していくのか最低限必要と考えられる知識及び態度を身につける。 2. 医療チームのメンバーとしてどのような動きをすることが望ましいか最低限必要な知識及び態度を身につける。					
[授業計画と内容]					
<前期> 【第1回】 4/11 <吉田> 「イントロ・基本的な考え方」 「遺伝カウンセリングの定義・歴史」 基礎編1日目: 遺伝カウンセラーのコミュニケーション: はじめに(自己紹介・授業・宿題について) 基本的な考え方。 遺伝カウンセリングの定義・歴史 【第2回】 4/18 <鳥嶋> 「遺伝カウンセラーの基本的態度」 「共感的理解」 基礎編2日目: 遺伝カウンセリングの基本的態度と内側(内的照合枠)からの理解、基礎編3日目: 共感的理解を理解する 【第3回】 4/25 <吉田> 「ラポール形成」 「受付・来談経緯・主訴の確認」 「最初の段階のコミュニケーション」 基礎編4日目: 遺伝カウンセリングの流れ及び信頼関係(ラポール)の形成、					

遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (2)	
基礎編6日目: 電話受付の留意点 【第4回】 5/2<村上> 「ノンバーバルコミュニケーション」 基礎編5日目: ノンバーバルコミュニケーションの重要性 【第5回】 5/9<吉田> 「情報提供」 基礎編8日目: 遺伝カウンセリングにおける情報提供 【第6回】 5/16<吉田> 「情報提供」 基礎編8日目: 遺伝カウンセリングにおける情報提供 【第7回】 5/23<鳥嶋> 「意思決定」 基礎編9日目: 遺伝カウンセリングにおける意思決定 【第8回】 6/6<鳥嶋> 「意思決定」 「アンティシパトリーガイダンス」 実践編9日目: 進行性で治療法のない遺伝性疾患に関する発症前検査を希望して来談した人との遺伝カウンセリング 【第9回】 6/13 <鳥嶋> 「家族面接」 「家族力動」 「家族システム理論」 基礎編13日目: 家族面接における遺伝カウンセラーの役割 【第10回】 6/20<秋山, 鳥嶋> 「親から子に「遺伝」について伝える」 小児の遺伝カウンセリング 実践10日目: 親から子に「遺伝」について伝える 【第11回】 6/27<本田> 「障害観」 「出生前検査」 基礎編16日目: 障害と社会の理解 実践編8日目: 出生前検査に伴う遺伝カウンセリング 【第12回】 7/4<吉田, 鳥嶋> 「ミニロールプレイ」 主訴の確認・家系図聴取・情報取得時のアセスメント 【第13回】 7/11<吉田, 鳥嶋> 「ミニロールプレイ」 遺伝形式の説明(AD/AR) 情報提供時のアセスメント 【第14回】 7/18<吉田, 鳥嶋> 「ミニロールプレイ」 遺伝形式の説明(XL)・情報提供時のアセスメント 【第15回】 7/25<吉田> 「症例検討」 遺伝カウンセリングの構成、クライアントのアセスメント <後期> 【第16回】 10/3<吉田> 「倫理部綱領」 「倫理分析」 基礎編15日目: 遺伝カウンセリングにおける倫理 【第17回】 10/24<松川, 鳥嶋> 「日本人のコミュニケーションと遺伝カウンセリング」 夏休みの宿題(1): 日本人のコミュニケーション 【第18回】 11/7<源> 「フォローアップ」 「マネージメント」 基礎編14日目: 遺伝カウンセリングの終了とフォローアップ 【第19回】 11/21<春山> 「当事者団体と関係機関との連携」 実践編5日目: 当事者団体と関係機関との連携 【第20回】 12/5 <隈村, 本田> 「医療ソーシャルワーカーから学ぶ」 基礎編10日目: 医療ソーシャルワーカーの事例から学ぶ〜クライアント支援のためのコミュニケーション〜 【第21回】 12/19 <浦野, 鳥嶋> 「心理的防衛機制」 「病気に対する心理学的理論」 「対処モデル」 基礎編17日目: 遺伝カウンセリングと防衛機制、病気に対する心理学的理論、心理的防衛機制、対処モデル 【第22回】 1/16 <浦野, 鳥嶋> 「悲嘆のプロセス」 「クライシスカウンセリング」 「グリーフカウンセリング」 基礎編11日目: 喪失体験の理解、悲嘆のプロセス、クライシスカウンセリング、グリーフカウンセリング 【第23回】 1/23 <鳥嶋> 「病とともに生きる・まとめ」 基礎編18日目: 遺伝性の病とともに生きる。評価とまとめ	
[履修要件]	
遺伝カウンセラーコース1 回生限定必修科目(事前確定科目)	

遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (3)	
[成績評価の方法・観点]	
前期・後期あわせて終了時に評価する。学習目標の到達度40% レポート30% 授業中のディスカッション30%	
[教科書]	
・遺伝カウンセリングのためのコミュニケーション論-京都大学大学院医学研究科遺伝カウンセラーコース講義(メディカルドゥ) 978-4-944157-66-2 ・遺伝カウンセリング標準テキスト(診断と治療社) 978-4-7878-2596-4	
[参考書等]	
(参考書)	
[授業外学修(予習・復習)等]	
適宜予習復習を求める	
[その他(オフィスアワー等)]	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	P-PUB01 8N007 SJ90				
授業科目名 ＜英訳＞	遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) Genetic Counselling, Exercise 1	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定講師 川崎 秀徳 附属病院 特定准教授 小川 昌宣 医学研究科 特定助教 鳥嶋 雅子 医学研究科 特定助教 吉田 晶子		
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	2・4週:金5・6限	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
【基本情報】 授業日時:金曜日(原則隔週)5・6時限 教室:G棟セミナー室Aまたは演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル:遺伝カウンセリング演習1(基礎)・遺伝カウンセリング演習2(応用) 担当者:川崎秀徳(科目責任者)、小川昌宣、吉田晶子、鳥嶋雅子、村上裕美、本田明夏、源明理、春山瑛依子 田村和朗、巽純子、西郷和真、福岡伸之、川下理日人、木下善仁、仲間美奈 レクチャー担当者					
【コースの概要】 実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝的問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的问题、倫理的問題、心理的問題などについて、他の学内からのカンファレンス参加者とともに、徹底的な討論を行う。1年次学生も後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について、自ら提示を行い、カンファレンスを中心的に運営する。これは、京都大学と近畿大学の遺伝カウンセラーコースのカリキュラムの中で最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。実習期の院生(1回生11月頃～年度末、2回生4月～10月頃。移行期は各コースの実情による)が症例提示を行う。16:45～17:45頃:京大・近大遺伝カウンセラーコースの修了者による遺伝カウンセラーとしての活動などに関するプレゼン、あるいは合同カンファレンス出席者・招聘演者等によるレクチャー(カンファレンスレクチャー)。18:00頃～20:00頃:合同カンファレンス症例提示・検討会(1回4例～5例となるように調整し、進行は司会がタイムキーピングを行う)。 なお、講演者の予定により、レクチャーと症例検討の順番を変えることがある。					
【教育・学習方法】 症例提示・討論、カンファレンス記録の作成(症例ごとに順番で担当)。					
<b>【到達目標】</b> 症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる。					
<b>【授業計画と内容】</b> ＜司会＞カンファレンスレクチャー担当者 【第1回】4月12日＜小杉＞小杉眞司「合同カンファレンスのイントロダクション」 【第2回】4月26日＜本田＞平岡弓枝「がんゲノム医療と遺伝カウンセリング」 【第3回】5月10日 近大 【第4回】5月24日＜村上＞渡邊瑞希「造血器疾患患者にみられる遺伝性疾患とその課題」 【第5回】6月14日＜吉田＞森貞直哉「遺伝性腎疾患の診断と遺伝カウンセリング」					
遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓					

遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (3)					
<b>【教科書】</b> 使用しない ハンドアウトの配布は、原則としてありません。					
<b>【参考書等】</b> (参考書)					
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b> 適宜指示する。					
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b> ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (2)					
【第6回】6月28日 近大 【第7回】7月12日＜川崎＞吉田健司「京都大学小児科神経グループにおける網羅的遺伝子解析の取り組み」 【第8回】7月26日＜小川＞泰健一郎「エピソード異常と疾患」 【第9回】10月25日 近大 【第10回】11月8日＜川崎＞朝野仁裕「循環器疾患における遺伝医療の進展と今後の課題」 【第11回】11月22日＜源＞山崎博司「耳鼻科臨床から見た遺伝性難聴」 【第12回】12月13日 近大 【第13回】12月27日＜鳥嶋＞終中智恵子「成人期発症神経難病の遺伝カウンセリングー遺伝性ATTRアミロイドーシスを中心にー」 【第14回】1月10日＜春山＞新年懇談会 【第15回】1月24日＜小川＞田村智英子「どんどん遅れる日本のゲノム医療ー遺伝カウンセラーは何を目指すべきか」					
＜合同カンファレンスの具体的進行方針＞ 1) 合同カンファレンスの目的: 合同カンファレンスは実習報告会ではない、同席者としての感想などは原則として除外する。症例としての検討を主題とし、適切な遺伝カウンセリングがなされたかどうか、誤った点や不足する点はなかったかなど、内外の専門家の意見、討論を聞き、それに参加する。できるだけ多くの人の意見を聞けるよう、結果として今後の遺伝カウンセリングに実質的に生かせるように討論の時間を確保する。 2) プレゼンテーション: プレゼンテーションは客観的な事実を端的にまとめる。まず、ケースの背景と相談点参加者に理解してもらう。相談経過、問題点・討議点も同様に端的に示す。発表時間は12分程度、議論を13分程度とする。 3) スライド: 議論が整理しやすいように論点を整理する。タイトル(日付・発表者・担当医名を含む)、疾患理解のための説明、クライアント来談の背景・主訴、家系図、遺伝カウンセリングの具体的な内容、課題・問題点の考察といった構成を原則とする。 4) 進行: プレゼンテーション終了後、司会者が質問や意見を参加者から受け付ける。質問に対しての返答は原則プレゼンテーションを行った院生が行うが、実習を担当した教員ならびに認定遺伝カウンセラーも必要に応じて対応する。(カンファレンス終了1週間以内に) *個人情報に接することがあるため、初回参加時には「誓約書」を提出する。カウンセリング内容についての会話は、他者のいるところではしないこと、内容を記したノートは、他者の目にふれないようにすること、ノートの貸し借りは禁止する。					
<b>【履修要件】</b> 遺伝カウンセラーコース限定必修科目(事前確定科目)1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」					
<b>【成績評価の方法・観点】</b> プレゼンテーション、討論への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。					
遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (3)へ続く ↓ ↓ ↓					

科目ナンバリング	P-PUB01 8N008 SJ90				
授業科目名 ＜英訳＞	遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) Genetic Counselling, Exercise 2	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定講師 川崎 秀徳 附属病院 特定准教授 小川 昌宣 医学研究科 特定助教 鳥嶋 雅子 医学研究科 特定助教 吉田 晶子		
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	2・4週:金5・6限	授業形態	演習(対面授業科目)	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
【基本情報】 授業日時:金曜日(原則隔週)5・6時限 教室:G棟セミナー室Aまたは演習室・状況によりオンライン授業を実施することがある レベル:遺伝カウンセリング演習1(基礎)・遺伝カウンセリング演習2(応用) 担当者:川崎秀徳(科目責任者)、小川昌宣、吉田晶子、鳥嶋雅子、村上裕美、本田明夏、源明理、春山瑛依子 田村和朗、巽純子、西郷和真、福岡伸之、川下理日人、木下善仁、仲間美奈 レクチャー担当者					
【コースの概要】 実際の遺伝カウンセリング症例を提示し、遺伝的問題、医学的問題、療養問題、社会的問題、法的问题、倫理的問題、心理的問題などについて、他の学内からのカンファレンス参加者とともに、徹底的な討論を行う。1年次学生も後期からは、実際の遺伝カウンセリング実習で体験した症例について、自ら提示を行い、カンファレンスを中心的に運営する。これは、京都大学と近畿大学の遺伝カウンセラーコースのカリキュラムの中で最も重要なものであり、両大学の院生が積極的に参加するものである。実習期の院生(1回生11月頃～年度末、2回生4月～10月頃。移行期は各コースの実情による)が症例提示を行う。16:45～17:45頃:京大・近大遺伝カウンセラーコースの修了者による遺伝カウンセラーとしての活動などに関するプレゼン、あるいは合同カンファレンス出席者・招聘演者等によるレクチャー(カンファレンスレクチャー)。18:00頃～20:00頃:合同カンファレンス症例提示・検討会(1回4例～5例となるように調整し、進行は司会がタイムキーピングを行う)。 なお、講演者の予定により、レクチャーと症例検討の順番を変えることがある。					
【教育・学習方法】 症例提示・討論、カンファレンス記録の作成(症例ごとに順番で担当)。					
<b>【到達目標】</b> 症例の適切なプレゼンテーション、種々の問題点の整理と今後の対応方針の決定、討論への参加と論理的な主張、適切なカンファレンス記録の作成ができる。					
<b>【授業計画と内容】</b> ＜司会＞カンファレンスレクチャー担当者 【第1回】4月12日＜小杉＞小杉眞司「合同カンファレンスのイントロダクション」 【第2回】4月26日＜本田＞平岡弓枝「がんゲノム医療と遺伝カウンセリング」 【第3回】5月10日 近大 【第4回】5月24日＜村上＞渡邊瑞希「造血器疾患患者にみられる遺伝性疾患とその課題」 【第5回】6月14日＜吉田＞森貞直哉「遺伝性腎疾患の診断と遺伝カウンセリング」					
遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓					

遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2)	
<p>【第6回】6月28日 近大  【第7回】7月12日 &lt;川崎&gt; 吉田健司「京都大学小児科神経グループにおける網羅的遺伝子解析の取り組み」  【第8回】7月26日 &lt;小川&gt; 泰健一郎「エピソード異常と疾患」  【第9回】10月25日 近大  【第10回】11月8日 &lt;川崎&gt; 朝野仁裕「循環器疾患における遺伝医療の進展と今後の課題」  【第11回】11月22日 &lt;源&gt; 山崎博司「耳鼻科臨床から見た遺伝性難聴」  【第12回】12月13日 近大  【第13回】12月27日 &lt;島嶋&gt; 終中智恵子「成人期発症神経難病の遺伝カウンセリングー遺伝性ATTRアミロイドーシスを中心にー」  【第14回】1月10日 &lt;春山&gt; 新年懇談会  【第15回】1月24日 &lt;小川&gt; 田村智英子「どんどん遅れる日本のゲノム医療ー遺伝カウンセラーは何を目指すべきか」</p> <p>&lt;合同カンファレンスの具体的進行方針&gt;  1) 合同カンファレンスの目的: 合同カンファレンスは実習報告会ではない、同席者としての感想などは原則として除外する。症例としての検討を主題とし、適切な遺伝カウンセリングがなされたかどうか、誤った点や不足する点はなかったかなど、内外の専門家の意見、討議を聞き、それに参加する。できるだけ多くの人の意見を聞けるよう、結果として今後の遺伝カウンセリングに実質的に生かせるように討議の時間を確保する。  2) プレゼンテーション・プレゼンテーションは客観的な事実を端的にまとめる。まず、ケースの背景と相談点参加者に理解してもらう。相談経過、問題点・討議点も同様に端的に示す。発表時間は12分程度、議論を13分程度とする。  3) スライド: 議論が整理しやすいように論点を整理する。タイトル(日付・発表者・担当医名を含む)、疾患理解のための説明、クライアント来談の背景・主訴、家系図、遺伝カウンセリングの具体的な内容、課題・問題点の考察といった構成を原則とする。  4) 進行: プレゼンテーション終了後、司会者が質問や意見を参加者から受け付ける。質問に対しての返答は原則プレゼンテーションを行った院生が行うが、実習を担当した教員ならびに認定遺伝カウンセラーも必要に応じて対応する。  5) 終了後: ディスカッションの内容を含んだスライドを1枚追加する。担当医ならびに認定遺伝カウンセラーの確認後、「カウンセリング記録」および「カンファレンス記録」の2箇所に保存する。(カンファレンス終了1週間以内に)  *個人情報に接することがあるため、初回参加時には「誓約書」を提出する。カウンセリング内容についての会話は、他者のいるところではないこと、内容を記したノートは、他者の目にふれないようにすること、ノートの貸し借りは禁止する。</p>	
【履修要件】	
遺伝カウンセラーコース限定必修科目(事前確定科目) 1回生は「遺伝カウンセリング演習1」、2回生は「遺伝カウンセリング演習2」	
【成績評価の方法・観点】	
プレゼンテーション、討論への積極的な参加、カンファレンス記録の作成などを総合的に評価する。	
遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2)へ戻る	

遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (3)	
【教科書】	
使用しない ハンドアウトの配布は、原則としてありません。	
【参考書等】	
(参考書)	
【授業外学修(予習・復習)等】	
適宜指示する。	
【その他(オフィスアワー等)】	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8N009 PJ90	
授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 1	担当者所属 職名・氏名	医学研究科 特定講師 川崎 秀徳 附属病院 特定准教授 小川 昌宣 医学研究科 特定助教 島嶋 雅子 医学研究科 特定助教 吉田 晶子
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度	開講期	2024	通年不定
曜時間	その他	授業形態	実習(対面授業科目)
使用言語	日本語		
【授業の概要・目的】			
【基本情報】 授業日時: 随時 場所: 京都大学医学部附属病院 遺伝子診療部・外来がん診療部・小児科、関西医科大学附属病院 女性診療科・臨床遺伝センター、高槻病院 下記学会・研修会会場など。オンラインでの実習も経験する。 レベル: 応用 担当: 川崎秀徳(科目責任者)、小川昌宣、山崎博司、山田重人、島嶋雅子、吉田晶子、村上裕美、本田明夏、源明理、春山聡依子、佐藤智佳、四本由郁			
【コースの概要】 遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験するとともに、予診の聴取(プレカウンセリング)、家系図の作成、電話フォローアップなどを実際のクライアントに対して行う。			
【教育・学習方法】 実習(準備・プレカウンセリング・同席実習・症例記録作成・カンファレンスでの症例報告・討議・電話フォローアップ)。関連学会・セミナーに出席、積極的に参加し、レポートをまとめる。 1月~3月、「遺伝カウンセラー業務実習」として遺伝カウンセリング電話予約対応などの認定遺伝カウンセラー業務の実践についても実習する。			
【到達目標】 クライアントへの適切な接し方を体得する。予診の聴取、家系図の作成が適切に可能となる。症例の問題点について、担当医と討議できる。症例をまとめ、医学的・心理社会的・倫理的問題について文献を検索し、最新情報を入手できる。カンファレンスで、症例を提示し、討論を行うことができる。関連する部局と適切な情報交換、連携が可能であり、チーム医療を實踐できる。			
【授業計画と内容】			
【遺伝カウンセリング実習】 1年次の10月から遺伝カウンセリング実習を開始する。学生個人個人の知識・到達度や実習のavailabilityから判断して、実習の頻度を決定する。2年間で60症例程度を経験する。遺伝カウンセリング実習への参加にあたっては、疾患について十分に予習を行い、担当の教員ならびに認定遺伝カウンセラーと事前打ち合わせを綿密に行い、疑問点を解消するとともに、遺伝カウンセリング当日のそれぞれの役割を決めておく。ごく初期は同席のみであるが、できるだけ実際の遺伝カウンセリングに積極的に参加することが望まれる。具体的には情報提供資料の作成、主訴の確認、病歴や家系図の聴取、疾患概要や遺伝形式に関する情報提供、遺伝学的検査の説明、電話フォローアップなど、個々のケースに応じて積極的に参加する。個々のケースについて症例記録・サマリーを作成し、担当の認定遺伝カウンセラーならびに教員に確認の上、できるだけ早く確定し、所定の場所に保存する。また、経験した症例をカンファレンスで発表し、討論する。1ケースあたり、(準備や検索			
遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2)へ戻る			

遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2)	
<p>を含めると)かなり多くの時間が必要となる。遺伝性腫瘍、神経変性疾患、出生前診断、染色体異常、遺伝性難聴、遺伝性循環器疾患、眼科疾患、先天奇形、その他、できるだけパラエディに富んだ疾患の症例の経験をするようにつとめる。  ・京都大学医学部附属病院: 月~金(コース全員で交代)。遺伝子診療部の他、外来がん診療部、小児科  ・関西医科大学附属病院: 月曜(1名)  ・高槻病院: 月曜と同一週の水曜(1名)  また、実習期間中の一定の時期(1月~3月を予定)に認定遺伝カウンセラーの業務実習として、実際の電話予約や他診療科連携等の業務に立ち会う。遺伝カウンセリング後の電話フォローアップについては原則として遺伝カウンセラーコース院生が対応し、実質的なOJT(on the job training)、インターンシップを行う。  &lt;症例記録の書き方の注意: 抜粋&gt;  1. ファイル名: カルテ番号+短い疾患名+受診日とする(例)999FAP120915  再診のときは、前回のものに追記したものに再診日と回数を記載。(例)999FAP1261013-2  2. 本文のタイトルの前にカルテ番号を入れる。  3. クライアント氏名は記載しないが、診療施設の名前などは全て実名記載する。  4. 時間(終了時間、所要時間)も入れる。  5. 家系図はパワーポイントで、別ファイルに。ファイル名は、上記のワードファイルと同じ。</p>	
【学会・研修会への参加】 より幅広い知識・経験を積むため、下記の学会・研修会等への参加は原則として2年間必修または推奨とする(経費はできるだけサポートする)。学会発表、セミナーでの積極的な活動が奨励される。下記以外の学会・セミナーについても遺伝カウンセリングに関係の深いものについては参加を推奨する、また、これらの機会を利用し積極的な人脈作りを行うべきである。また、患者会・サポートグループなどへ積極的に参加することが勧められる。適宜情報を提供する。	
【履修要件】	
遺伝カウンセラーコース限定必修(事前確定科目) 1回生は「遺伝カウンセリング実習1」、2回生は「遺伝カウンセリング実習2」	
【成績評価の方法・観点】	
実習への積極的な参加などを総合的に評価する。	
【教科書】	
実際のクライアントに接した経験ほど重要な資源はない。	
【参考書等】	
(参考書) 実際のクライアントに接した経験ほど重要な資源はない。	
遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2)へ戻る	

遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (3)	
【授業外学修(予習・復習)等】	
【2024年度の必須参加予定】(変更ある場合はその都度連絡する) 5/31-6/1 日本遺伝性腫瘍学会*(推奨) 仙台 8/2-4 日本遺伝カウンセリング学会* 東京 9/6-7 日本遺伝子診療学会*(推奨) 高崎 (未定) 遺伝医学セミナー WEB 10/10-12 日本人類遺伝学会* 札幌 11/23 全国遺伝子医療部門連絡会議 WEB	
(2023年度入学者が2回生になった際の参加学会・研修会は上記と同一ではない。) 経費補助を受けて学会・セミナー等へ参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加日数枚数分を目安とし、速やかに提出すること(最大1ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。2回生は*のいずれかの学会で一度は研究発表をおこなうことが望ましい。	
【(その他(オフィスアワー等))】	
クライアントのいかなる情報についても守秘を徹底すること。遺伝カウンセリング内容についての会話は、部外者のいるところではしないこと、内容を記したノート類は、部外者の目にふれないようにすること。ノートの貸し借りは禁止。守秘できない場合は、退学処分とする。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	P-PUB01 8N010 P190		
授業科目名 <英訳>	遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 2	担当者所属・職名・氏名	医学研究科 特定講師 川崎 秀徳 附属病院 特定准教授 小川 昌宣 医学研究科 特定助教 鳥嶋 雅子 医学研究科 特定助教 吉田 晶子
担当学年	専門職	単位数	4
開講年度・開講期	2024・通年不定		
曜時間	その他	授業形態	実習(対面授業科目)
使用言語	日本語		
【授業の概要・目的】			
【基本情報】 授業日時: 随時 場所: 京都大学医学部附属病院 遺伝子診療部・外来がん診療部・小児科、関西医科大学附属病院 女性診療科・臨床遺伝センター、高槻病院 下記学会・研修会会場など。オンラインでの実習も経験する。 レベル: 応用 担当者: 川崎秀徳(科目責任者)、小川昌宣、山崎博司、山田重人、鳥嶋雅子、吉田晶子、村上裕美、本田明夏、源明理、春山聡依子、佐藤智佳、四本由都			
【コースの概要】 遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験するとともに、予診の聴取(プレカウンセリング)、家系図の作成、電話フォローアップなどを実際のクライアントに対して行う。			
【教育・学習方法】 実習(準備・プレカウンセリング・同席実習・症例記録作成・カンファレンスでの症例報告・討議・電話フォローアップ)。関連学会・セミナーに出席、積極的に参加し、レポートをまとめる。1月~3月は、「遺伝カウンセラー業務実習」として遺伝カウンセリング電話予約対応などの認定遺伝カウンセラー業務の実践についても実習する。			
【到達目標】 クライアントへの適切な接し方を体得する。予診の聴取、家系図の作成が適切に可能となる。症例の問題点について、担当医らと討議できる。症例をまとめ、医学的・心理社会的・倫理的問題について文献を検索し、最新情報を手入できる。カンファレンスで、症例を提示し、討議を行うことができる。関連する部局と適切な情報交換、連携が可能であり、チーム医療実践できる。			
【授業計画と内容】			
【遺伝カウンセリング実習】 1年次の10月から遺伝カウンセリング実習を開始する。学生個人個人の知識・到達度や実習のavailabilityから判断して、実習の頻度を決定する。2年間で60症例程度を経験する。遺伝カウンセリング実習への参加にあたっては、疾患について十分に予習を行い、担当の教員ならびに認定遺伝カウンセラーと事前打ち合わせを綿密に行い、疑問点を解消するとともに、遺伝カウンセリング当日のそれぞれの役割を決めておく。ごく初期は同席のみであるが、できるだけ実際の遺伝カウンセリングに積極的に参加することが望まれる。具体的には情報提供資料の作成、主訴の確認、病歴や家系図の聴取、疾患概要や遺伝形式に関する情報提供、遺伝学的検査の説明、電話フォローアップなど、個々のケースに応じて積極的に参加する。個々のケースについて症例記録・サマリーを作成し、担当の認定遺伝カウンセラーならびに教員に確認の上、できるだけ早く確定し、所定の場所に保存する。また、経験した症例をカンファレンスで発表し、討論する。1ケースあたり、(準備や検索			

遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (2)	
【2024年度の必須参加予定】(変更ある場合はその都度連絡する) 5/31-6/1 日本遺伝性腫瘍学会*(推奨) 仙台 8/2-4 日本遺伝カウンセリング学会* 東京 9/6-7 日本遺伝子診療学会*(推奨) 高崎 (未定) 遺伝医学セミナー WEB 10/10-12 日本人類遺伝学会* 札幌 11/23 全国遺伝子医療部門連絡会議 WEB	
(2023年度入学者が2回生になった際の参加学会・研修会は上記と同一ではない。) 経費補助を受けて学会・セミナー等へ参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加日数枚数分を目安とし、速やかに提出すること(最大1ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。2回生は*のいずれかの学会で一度は研究発表をおこなうことが望ましい。	
【(その他(オフィスアワー等))】	
クライアントのいかなる情報についても守秘を徹底すること。遺伝カウンセリング内容についての会話は、部外者のいるところではしないこと、内容を記したノート類は、部外者の目にふれないようにすること。ノートの貸し借りは禁止。守秘できない場合は、退学処分とする。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (3)	
【授業外学修(予習・復習)等】	
【2024年度の必須参加予定】(変更ある場合はその都度連絡する) 5/31-6/1 日本遺伝性腫瘍学会*(推奨) 仙台 8/2-4 日本遺伝カウンセリング学会* 東京 9/6-7 日本遺伝子診療学会*(推奨) 高崎 (未定) 遺伝医学セミナー WEB 10/10-12 日本人類遺伝学会* 札幌 11/23 全国遺伝子医療部門連絡会議 WEB	
(2023年度入学者が2回生になった際の参加学会・研修会は上記と同一ではない。) 経費補助を受けて学会・セミナー等へ参加した場合は、レポートを提出すること。レポートはA4用紙で参加日数枚数分を目安とし、速やかに提出すること(最大1ヶ月以内)。また、これらのレポートについては、報告書として冊子化されることがあることを了解すること。2回生は*のいずれかの学会で一度は研究発表をおこなうことが望ましい。	
【(その他(オフィスアワー等))】	
クライアントのいかなる情報についても守秘を徹底すること。遺伝カウンセリング内容についての会話は、部外者のいるところではしないこと、内容を記したノート類は、部外者の目にふれないようにすること。ノートの貸し借りは禁止。守秘できない場合は、退学処分とする。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	



科目ナンバリング		P-PUB01 8H168 LB90	
授業科目名 <英訳>	遺伝サービス情報学 Genetic service informatics	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定講師 川崎 秀徳 附属病院 特定准教授 小川 昌宣 医学研究科 特定助教 鳥嶋 雅子 医学研究科 特定助教 吉田 晶子
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・前期集中		
曜時間	水・6	授業形態	講義(対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>【授業の概要・目的】</b>			
【基本情報】 遺伝医療に従事する者にとって、遺伝関連情報の収集・評価は必要不可欠な技術に現在なっている。本コースでは、一般的な医療情報のデータベースならびにガイドライン検索に加えて、遺伝子と遺伝性疾患に関連するデータベースの利用方法、バリエーションの評価方法を体系的に学習し、遺伝医療におけるEBM(根拠に基づく医療)の実践のために必要な知識・技術を学ぶ。			
【コースの概要】 遺伝医療に従事する者にとって、遺伝関連情報の収集・評価は必要不可欠な技術に現在なっている。本コースでは、一般的な医療情報のデータベースならびにガイドライン検索に加えて、遺伝子と遺伝性疾患に関連するデータベースの利用方法、バリエーションの評価方法を体系的に学習し、遺伝医療におけるEBM(根拠に基づく医療)の実践のために必要な知識・技術を学ぶ。			
【到達目標】			
・EBMの考え方を理解した上で、臨床的疑問に即した文献を適切に検索・管理できる技術を身につける ・遺伝性疾患や遺伝情報のデータベースをその目的に応じて適切に使い分けるとともに、必要な情報を収集することができる ・希少疾患の診断支援システムの概要を知る			
<b>【授業計画と内容】</b>			
【第1回】5月8日<川崎1> 「文献管理法」 EndNoteやMendeley、Zotero、RefWorks等の文献管理ツールについて学ぶ			
【第2回】5月15日<小川1> 「文献検索法」 PubMedや医中誌等を用いた文献検索の概要に関して学ぶ			
【第3回】5月22日<和田1> 「遺伝性疾患の情報検索」 OMIMやGeneReviews等の遺伝性疾患のデータベースの使い方について学ぶ			
【第4回】5月29日<川崎2> 「EBMの実践」 EBMの基本的な考え方を学び、その実践のために必要なプロセスを整理する			
【第5回】6月5日<小川2> 「診療ガイドライン、システマティック・レビュー」 診療ガイドラインやシステマティック・レビューの概要について学び、活用の仕方を知る			
【第6回】6月12日<和田2> 「Genome Browser」 UCSC Genome Browserを用いて、ゲノム情報の検索を行う			
【第7回】6月19日<川崎3> 「バリエーションの評価」 ACMGガイドラインをもとにしたバリエーションの評価方法について学ぶ			
【第8回】6月26日<川崎4> 「疾患支援システム」 希少疾患の診断支援システムの利活用について学ぶ			
遺伝サービス情報学(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

<b>遺伝サービス情報学(2)</b>	
<b>【履修要件】</b>	
遺伝医療と倫理・社会、基礎人類遺伝学の先修が推奨される	
<b>【成績評価の方法・観点】</b>	
レポート、発表、出席等を総合的に評価する。	
<b>【教科書】</b>	
福嶋義光 『トンプソン&トンプソン遺伝医学第2版』 (メディカルサイエンスインターナショナル, 2017) ISBN:978-4-89592-875-5 中山智祥 『医療に役立つ遺伝子関連Web情報検索 第2版 手とり足とり教えますガイド』 (メディカルサイエンスインターナショナル, 2020) ISBN:978-4815701970	
<b>【参考書等】</b>	
(参考書) 坊農秀雅 『バリエーションデータ検索&活用 変異・多型情報を使いこなす達人レシピ』 (羊土社, 2020) ISBN:978-4758122450 水谷修紀 『症例でわかる新しい臨床遺伝学』 (MEDSI, 2008) ISBN:978-4-89592-574-7	
<b>【関連URL】</b>	
<a href="https://togotv.dbcls.jp/(TogoTV)">https://togotv.dbcls.jp/(TogoTV)</a> <a href="https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/(PubMed)">https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/(PubMed)</a> <a href="https://www.ncbi.nlm.nih.gov/omim/(OMIM)">https://www.ncbi.nlm.nih.gov/omim/(OMIM)</a> <a href="http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)">http://www.geneclinics.org/(GeneReviews)</a> <a href="https://genome.ucsc.edu/(UCSC Genome Browser)">https://genome.ucsc.edu/(UCSC Genome Browser)</a>	
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>	
講義・演習形式	
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b>	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	







## 臨床統計家育成(CB)コース

科目ナンバリング		P-PUB01 8H140 LB90					
授業科目名 <英訳>	臨床研究実地研修 I (CB限定) Clinical Research Training I	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗 附属病院 教授 森田 智視 国立循環器病研究センター 朝倉 こう子 附属病院 講師 日高 優 附属病院 助教 上野 健太郎				
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年集中		
曜時限	集中講義	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
本研修の目的は、病院での実地研修を通して、臨床統計家育成コースの座学で習得した統計的考え方が現場でどのように応用されているかを実際に学ぶことです。そして、実際の体験・経験から、臨床試験における試験統計家の責務と役割を理解し、臨床試験の計画・実施・報告で試験統計家として必要とされる基本的な能力(態度、技能、知識)を習得することを目指します。							
研修は、京都大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターの2箇所で行われます。京都大学医学部附属病院での研修は、革新的な新医療技術(医薬品など)開発のための臨床試験の計画と実施に関する内容で主に構成されます。国立循環器病研究センターでの研修は、循環器疾患の医薬品や医療機器の臨床試験の計画と実施を中心とした内容で構成されます。							
<b>[到達目標]</b>							
* 臨床試験の計画と実施の過程、臨床試験の運営・実施体制、研究者・研究支援者、試験統計家などの責任範囲と役割などを理解する。							
* 臨床試験実施計画書に記載すべき統計的事項を理解し、臨床試験実施計画書の作成に貢献するための基本的知識と技術を習得する。							
* 統計解析を適切に計画し、それらを実行し、結果を纏めることができるための基本的知識と技術を習得する。							
* 臨床試験における研究倫理、利益相反、臨床試験における個人情報保護の基本的事項を理解し、信頼性の高い臨床試験の計画と実施に貢献できる。							
* さまざまな説明の方法や手段を駆使し、臨床試験における統計的考え方を人にわかりやすく伝えることができるような態度と方法を身につける。							
<b>[授業計画と内容]</b>							
京都大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターにて、7月から9月に集中講義実習を実施します。京都大学医学部附属病院に4日間(1限~6限, 8:45~19:45)、国立循環器病研究センターに1日間(9:30~11:00/11:15~12:45/13:45~15:00/15:15~17:00)訪問します。							
京都大学医学部附属病院の講義実習の内容							
・臨床統計家としての心構え							
・統計コンサルティング業務							
・プロジェクトマネジメント業務について							
・規制当局対応業務について							
・モニタリング業務について							
・データマネジメント業務について							
・臨床試験コーディネータ(CRC)の役割について							
臨床研究実地研修 I (CB限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓							

臨床研究実地研修 I (CB限定) (2)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療イノベーションと知的財産</li> <li>医学研究における倫理</li> <li>治験薬の管理体制の現場</li> <li>臨床検査データと検査部見学</li> <li>先端医療研究の現場(CIRA見学)</li> <li>放射線診断と現場見学</li> </ul>	
国立循環器病研究センターの講義実習の内容(今年度は1日で一部を実施します)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修概要説明・病院見学</li> <li>循環器疾患基礎</li> <li>臨床試験立案</li> <li>ランダム化割付</li> <li>標本サイズ設計</li> <li>統計解析計画書</li> <li>グループワーク:ランダム化割付システム演習</li> <li>グループワーク:標本サイズ設計演習</li> <li>医療機器研究開発:動物実験施設見学</li> <li>CRC患者対応同伴</li> </ul>	
<b>[履修要件]</b>	
特になし	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
実習にて作成する報告書または発表の内容に基づいて評価する。平常点(出席状況など)も考慮する。	
<b>[教科書]</b>	
使用しない	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書)	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
実習中に指示する。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H147 PB90					
授業科目名 <英訳>	臨床研究実地研修II (CB限定) Clinical Research Training II	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗 附属病院 教授 森田 智視 国立循環器病研究センター 朝倉 こう子 附属病院 講師 日高 優 附属病院 助教 上野 健太郎				
配当学年	1年生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年集中		
曜時限	集中講義	授業形態	実習(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
本研修の目的は、病院での実地研修を通して、臨床統計家育成コースの座学で習得した統計的考え方が現場でどのように応用されているかを実際に学ぶことです。そして、実際の体験・経験から、臨床試験における試験統計家の責務と役割を理解し、臨床試験の計画・実施・報告で試験統計家として必要とされる基本的な能力(態度、技能、知識)を習得することを目指します。なお臨床研究実地研修IIは、Iに続いて、より高度な内容を扱います。							
研修は、京都大学医学部附属病院と国立循環器病研究センターの2箇所で行われます。京都大学医学部附属病院での研修は、革新的な新医療技術(医薬品など)開発のための臨床試験の計画と実施に関する内容で主に構成されます。国立循環器病研究センターでの研修は、循環器疾患の医薬品や医療機器の臨床試験の計画と実施を中心とした内容で構成されます。							
<b>[到達目標]</b>							
* 臨床試験の計画と実施の過程、臨床試験の運営・実施体制、研究者・研究支援者、試験統計家などの責任範囲と役割などを理解する。							
* 臨床試験実施計画書に記載すべき統計的事項を理解し、臨床試験実施計画書の作成に貢献するための基本的知識と技術を習得する。							
* 統計解析を適切に計画し、それらを実行し、結果を纏めることができるための基本的知識と技術を習得する。							
* 臨床試験における研究倫理、利益相反、臨床試験における個人情報保護の基本的事項を理解し、信頼性の高い臨床試験の計画と実施に貢献できる。							
* さまざまな説明の方法や手段を駆使し、臨床試験における統計的考え方を人にわかりやすく伝えることができるような態度と方法を身につける。							
<b>[授業計画と内容]</b>							
国立循環器病研究センターにて、7月から9月に集中講義実習を実施します。国立循環器病研究センターに6日間(9:30~11:00/11:15~12:45/13:45~15:00/15:15~17:00)訪問します。							
国立循環器病研究センターの講義実習の内容							
・研修概要説明・病院見学							
・循環器疾患基礎							
・倫理・患者同意							
・統計解析							
・統計解析報告書・総括報告書・論文公表							
・統計解析相談・臨床研究相談							
・臨床試験のデータマネジメント							
・臨床試験のモニタリング							
・グループワーク:データマネジメント演習							
臨床研究実地研修 II (CB限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓							

臨床研究実地研修II (CB限定) (2)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワーク:統計解析演習</li> <li>臨床試験のモニタリング見学</li> </ul>	
京都大学医学部附属病院の講義実習の内容(今年度は実習対象ではありませんので参考情報です)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>事前課題発表・ディスカッション</li> <li>プロトコル作成とデータベース構築実習・ディスカッション</li> <li>統計解析計画実習</li> <li>SASプログラム実習</li> <li>統計解析実習・ディスカッション</li> <li>臨床試験の論文報告実習</li> <li>統計解析報告発表・ディスカッション</li> <li>臨床家による実際の臨床試験紹介</li> <li>標準業務手順書について</li> <li>統計解析結果の品質保証</li> <li>総括報告書について</li> </ul>	
<b>[履修要件]</b>	
臨床研究実地研修Iを修了していること	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
実習にて作成する報告書または発表の内容に基づいて評価する。平常点(出席状況など)も考慮する。	
<b>[教科書]</b>	
使用しない	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書)	
実習中に指示する。	
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>	
実習中に指示する。	
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>	
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 不可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H139 LJ90					
授業科目名 <英訳>	臨床統計家の実務スキル (CB限定)	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇 医学研究科 助教 大宮 将義				
	Practical Skills for Clinical Biostatisticians						
配当学年	専門職	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期		
曜時間	月5	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
臨床研究を行う中での統計家の役割を意識し、実務において必要となるドキュメント、統計解析ソフトSASとRのプログラミング、統計コンサルテーションの行い方を学びます。また、実際の臨床試験を意識した解析プログラムと統計解析の報告書を作成し、発表するとともに、統計コンサルテーションを実施します。							
【パワーポイントによる講義と統計ソフトによる実習】							
<b>[到達目標]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研究の実務における統計ソフトのプログラミングの必要性を説明できる。</li> <li>集計・グラフ・統計解析のためのプログラムを作成できる。</li> <li>データを読み込み、解析に適したデータセットに加工できる。</li> <li>表・リスト・図を作成し、出力できる。</li> <li>統計コンサルテーションを行うことができる。</li> </ul>							
<b>[授業計画と内容]</b>							
第1回 4月8日 ガイダンス、SASとR入門、標準業務手順書							
第2回 4月15日 外部データの読み込みとプログラムの保存							
第3回 4月22日 研究計画書、データセットの加工 (その1)							
第4回 5月13日 表とグラフ							
第5回 5月20日 データセットの加工 (その2)							
第6回 5月27日 統計解析計画書、簡単な集計							
第7回 6月3日 表・図・リスト、データセットの加工 (その3)							
第8回 6月10日 回帰モデルを用いた解析の基礎							
第9回 6月17日 統計コンサルテーション (その1)							
第10回 6月24日 統計コンサルテーション (その2)							
第11回 7月1日 SASのマクロとRの関数							
第12回 7月8日 交差検証法							
第13回 7月22日 シミュレーション							
第14回 7月29日 課題の発表とクラスディスカッション (実務における統計家の役割)							
<b>[履修要件]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床統計家育成コースの学生さんに限定します。</li> <li>統計ソフトウェア SAS、R、RStudio をインストールしたノートパソコンを持参してください。</li> </ul>							
臨床統計家の実務スキル (CB限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓							

<b>臨床統計家の実務スキル (CB限定) (2)</b>	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
レポート、作成するSAS、Rのプログラム、最終課題のプレゼンテーションと報告 ・各回のレポートまたはプログラミングの課題を評価します (各回の課題のレポートまたはプログラム50%)。 ・グループワークでのレポートとプレゼンテーションも評価します (グループワークのレポートとプレゼンテーション10%、最終課題レポート40%)。	
<b>[教科書]</b>	
講義資料等をPandAにアップします。	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 宮岡悦良, 吉澤敦子 『SASプログラミング』 (共立出版, 2013) ISBN:978-4320110557 船尾暢男 『The R Tips 第3版: データ解析環境Rの基本技・グラフィックス活用集』 (オーム社, 2016) ISBN:978-4274219580 Kleinman K, Horton NJ 『SAS and R: Data Management, Statistical Analysis, and Graphics, Second Edition』 (Chapman and Hall/CRC, 2014) ISBN:978-1466584495	
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>	
授業中に終わらなかったプログラミングは次の回までに終わるようにしてください。授業中に提示される課題を期日までに提出するようにしてください。	
<b>[その他 (オフィスアワー等)]</b>	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H144 SB90					
授業科目名 <英訳>	統計的推測の基礎・演習 (CB限定)	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 大森 崇 統計数理研究所 逸見 昌之 医学研究科 助教 大宮 将義				
	Practicum in Fundamentals of Statistical Inference						
配当学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期		
曜時間	前:木/後:木	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>							
この授業では、「統計的推測の基礎」の講義進捗に合わせて、前半では統計的推測全般に係る基礎事項の演習問題に取り組み、後半では統計的推測 (推定・仮説検定・信頼区間) の具体的な演習問題に取り組む。							
この授業の全体を通じての目的は、「統計的推測の基礎」で扱う各テーマの具体的な問題を通じての理解および定着と、それらを通じて得られる統計的推測の基本的な考え方を身に付けることである。前半の演習では、統計関連科目を学ぶ上で必要な計算能力を身につけ、後半の演習では、臨床統計学が応用される現実的問題に近い問題設定に取り組むことで、統計的推測がどのように用いられるかを知り、その有用性を理解する。							
【演習形式】 (6月6日まで6限、13日からは5限に開講)							
<b>[到達目標]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>統計的推測および関連する統計手法に必要な技術を理解し、応用することができる。</li> <li>基本的な統計量の意味や性質を理解し、それらを自らの手で計算することができる。</li> <li>統計的推測の基本事項が、実際の臨床研究等のどのような場面で必要になるかを理解し、応用上重要な基本的問題を解くことができる。</li> </ul>							
<b>[授業計画と内容]</b>							
第1回 4月11日 講義の概要と確率・確率変数の概念							
第2回 4月18日 離散型確率変数の確率分布とその性質							
第3回 4月25日 連続型確率変数の確率分布とその性質							
第4回 5月9日 複数の確率変数の取り扱いI							
第5回 5月16日 複数の確率変数の取り扱いII							
第6回 5月23日 正規標本に関連する確率分布							
第7回 5月30日 統計的推測の基本事項							
第8回 6月6日 統計的仮説検定の基本事項I							
第9回 6月13日 統計的仮説検定の基本事項II							
第10回 6月20日 線形回帰分析の基礎I							
第11回 6月27日 線形回帰分析の基礎II							
7月4日 休講							
第12回 7月11日 漸近的方法の基本事項I							
第13回 7月18日 漸近的方法の基本事項II							
第14回 7月25日 漸近的方法の基本事項III							
統計的推測の基礎・演習 (CB限定) (2)へ続く ↓ ↓ ↓							

<b>統計的推測の基礎・演習 (CB限定) (2)</b>	
<b>[履修要件]</b>	
臨床統計家育成コース限定科目です。	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
毎回のレポートで評価します。	
<b>[教科書]</b>	
演習の資料を配布します。	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 個々の進捗に合わせて、授業中に紹介します。	
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>	
・同日に開講される「統計的推測の基礎」と合わせて履修することで、予習は必要ありません。ただし、微積分や線形代数等の基本的な計算技術に不安があるときは、教員と相談しながら、各自勉強を進めてください。	
<b>[その他 (オフィスアワー等)]</b>	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8H146 LB90			
授業科目名 <英訳>	メタアナリシス (CB・MCR限定) Meta-analysis	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 田中 司朗		
配当学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時間	集中講義	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
系統的レビューのための統計手法であるメタアナリシスについて、教科書「新版メタ・アナリシス入門」に沿って講義・実習を行う。CB選択、MPH選択。					
<b>[到達目標]</b>					
・STATAを用いてメタアナリシスを行う技術を身につける。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義形式と実習形式、実習は統計ソフトウェアSTATAを用いたデータ解析を行うため、各自でPCを用意すること</li> <li>実習のアシスタントは、臨床統計スタッフが行う</li> </ul>					
第1回 8月26日 (月) 3限 13:15-14:45 メタアナリシスの代表的な方法 (3～6章) (丸尾) 第2回 8月26日 (月) 4限 15:00-16:30 メタアナリシスの代表的な方法 (3～6章) (田中) 第3回 8月27日 (火) 3限 13:15-14:45 メタアナリシスの代表的な方法 (3～6章) (田中) 第4回 8月27日 (火) 4限 15:00-16:30 多変量・ネットワークメタアナリシス (7章、9～10章) (田中) 第5回 8月28日 (水) 3限 13:15-14:45 多変量・ネットワークメタアナリシス (7章、9～10章) (野間) 第6回 8月28日 (水) 4限 15:00-16:30 多変量・ネットワークメタアナリシス (7章、9～10章) (田中)					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
平常点 (50%)、レポート (50%)					
-----メタアナリシス (CB・MCR限定)(2)へ続く↓↓↓					

<b>メタアナリシス (CB・MCR限定)(2)</b>	
<b>[教科書]</b>	
丹後俊郎『新版メタ・アナリシス入門—エビデンスの統合をめざす統計手法—』(朝倉書店) ISBN:425412760X	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書)	
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>	
STATAの基本的な使用方法を理解しておくこととスムーズに実習に取り組める。	
<b>(その他 (オフィスアワー等))</b>	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 不可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	







## 知的財産経営学プログラム

科目ナンバリング		P-PUB01 8M001 LJ90				
授業科目名 <英訳>	アントレプレナーシップ Entrepreneurship		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	非常勤講師 寺西 豊	
				医学研究科	特定教授 鈴木 忍 特定講師 山口 太郎 非常勤講師 高山 幸次郎 非常勤講師 吉川 友貞 非常勤講師 内海 潤	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期不定	
曜時間	月6	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語	
<b>【授業の概要・目的】</b>						
【目的】 主に研究者の起業家精神を育成し、起業を志す際に不可欠な知識とスキルを提供することを目的とする。						
【対象】 本科目の主な対象者は、起業に関心を持ちつつも、どのような手順を踏めば良いのかが明確でない起業初心者である。既に具体的なビジネスアイデアを持ち、起業の準備段階にある、あるいは起業済みで、先輩起業家や投資家との壁打ちなどを希望する学生には、外部のアクセラレーターやピッチイベントをお薦めする。						
【概要】 本科目は、医療ヘルスケア領域に特化した起業に関するものである。この科目では、受講生に起業を身近に感じてもらうために、多数の起業家からの講演を聞いてもらう。これらの起業家は創業、再生医療、医療機器など多種多様な医療ヘルスケアスタートアップに携わっている。本科目では、医療ヘルスケア領域での起業に必要な基本的な知識とツールを提供する。具体的には、デザイン思考、リーン・スタートアップ、財務諸表、知的財産(特許)、ファイナンス、業事規制など、起業に必要な重要な要素を学ぶ。これらの講義やワークショップは、医療ヘルスケア領域の第一線で活躍する専門家が話し、実践的な知見を共有する。 また、講義・ワークショップと並行して、受講生はチームを組み、医療ヘルスケア領域のニーズを解決するビジネスモデルを作り上げる。このプロセスを通じて、医療ヘルスケア領域における臨床ニーズに基づいたビジネスモデルの構築を体験してもらう。チーム作業、中間発表では、受講生、教員と壁打ちを行う。最終日には、受講生が教員や外部投資家の前でビジネスモデルを発表し、実践的なフィードバックを受ける機会が設けられている。この科目を通じて、医療ヘルスケア分野での起業家精神を育み、実践的なスキルと知識を身に付けることができる。						
<b>【到達目標】</b> 起業に必要な基本的な知識の習得および臨床ニーズに基づく起業プロセスの理解を目指す。						
<b>【授業計画と内容】</b>						
第1回	4月8日	ガイダンス/ビジネスツール				
第2回	4月15日	デザイン思考(ミニワークショップ)				
第3回	4月22日	起業家講演(医療介護共創基盤株式会社 代表取締役 藤本 大士)				
第4回	5月13日	アイデアソン				
第5回	5月20日	ベンチャー・ファイナンス(三菱UFJ FJキャピタル株式会社 長谷川 宏之)				
第6回	5月27日	財務諸表の読み方(KPMG FAS 関 清)				
アントレプレナーシップ(2)へ続く↓ ↓ ↓						

科目ナンバリング		P-PUB01 8M119 LJ90				
授業科目名 <英訳>	医療ビジネス・イノベーション概論 Introduction to Medical Innovation and Businesses		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	特定教授 早乙女 周子	
				医学研究科	特任教授 山本 博一 非常勤講師 高山 幸次郎	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期	
曜時間	木6	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語	
<b>【授業の概要・目的】</b>						
COVID-19ワクチンなどの医療イノベーションは、人類の健康向上に資するとともに、経済の発展のためにも重要である。現在、医療ビジネスは革新的な医薬品、医療機器の他にも、再生医療やデジタルヘルスなど多様化している。また近年、これらの医療イノベーションの担い手としてスタートアップ(ベンチャー)の貢献が高くなっている。一方で、医療ビジネスは、臨床試験費用などの多額の研究開発費が必要であること、及び業事規制に則って事業化する必要があることから、事業化に至るまでのハードルが高い。 このように、革新的な医薬品等の開発には、医学、生物学の研究者のみならず、ビジネス、法律、知的財産など様々な専門家の総合力が必要とされている。 本講義の前半では、近年の医療技術の進展、ビジネスモデル及び市場の変遷等の医療ビジネスの概要に触れたのち、医薬品、医療機器、再生医療、デジタルヘルスそれぞれの研究開発、及び業事の基礎について学習する。後半は、医療イノベーションに取り組んでいる企業(スタートアップを含む)及びアカデミアの関係者より、具体的な研究開発事例やビジネス戦略(オープンイノベーション等)について講義する。						
<b>【到達目標】</b> 医薬品、医療機器、再生医療等製品、デジタルヘルスの研究開発及びビジネス戦略の基礎及び特徴について理解する。このことにより、新規技術を医療ビジネスに応用するための事業化戦略を理解することができる。						
<b>【授業計画と内容】</b>						
第1回	4月11日	イントロダクション、医療ビジネスの現状(早乙女)				
第2回	4月18日	医療産業とモダリティI(山本)				
第3回	4月25日	医療産業とモダリティII(山本)				
第4回	5月 9日	医薬品開発プロセス(山本)				
第5回	5月16日	抗体医薬概論(早乙女)				
第6回	5月23日	再生医療等製品基礎(早乙女)				
第7回	5月30日	業事(早乙女)				
第8回	6月 6日	医療機器概論(高山)				
第9回	6月13日	デジタルヘルス概論(山本)				
第10回	6月20日	第一三共における創業(山本)				
第11回	6月27日	薬物送達技術(DDS)概論(早乙女)				
第12回	7月 4日	細胞医療事例(山本)				
第13回	7月11日	ベンチャーによる医療AIの開発(山本)				
第14回	7月18日	ベンチャーによる治療機器の開発(高山)				
第15回	7月25日	医療機器ソフトウェア開発・業事(高山)				
医療ビジネス・イノベーション(2)へ続く↓ ↓ ↓						

科目ナンバリング		P-PUB01 8M119 LJ90				
授業科目名 <英訳>	医療ビジネス・イノベーション概論 Introduction to Medical Innovation and Businesses		担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科	特定教授 早乙女 周子	
				医学研究科	特任教授 山本 博一 非常勤講師 高山 幸次郎	
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期	
曜時間	木6	授業形態	講義(対面授業科目)	使用言語	日本語	
<b>【授業の概要・目的】</b>						
このコースの受講生は、夏期集中講義「アントレプレナーシップ特論」(ビジネスゲーム)を受講できる。このコースに続くプログラムとして、HIDEP(毎年7~9月)がある。 HIDEP: <a href="https://ku-med-device.jp/hrd/hidep/">https://ku-med-device.jp/hrd/hidep/</a> 人間健康科学系専攻学生の受講可否: 可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。						
<b>【到達目標】</b> このコースに続くプログラムとして、HIDEP(毎年7~9月)がある。						
<b>【授業計画と内容】</b>						
第1回	4月11日	イントロダクション、医療ビジネスの現状(早乙女)				
第2回	4月18日	医療産業とモダリティI(山本)				
第3回	4月25日	医療産業とモダリティII(山本)				
第4回	5月 9日	医薬品開発プロセス(山本)				
第5回	5月16日	抗体医薬概論(早乙女)				
第6回	5月23日	再生医療等製品基礎(早乙女)				
第7回	5月30日	業事(早乙女)				
第8回	6月 6日	医療機器概論(高山)				
第9回	6月13日	デジタルヘルス概論(山本)				
第10回	6月20日	第一三共における創業(山本)				
第11回	6月27日	薬物送達技術(DDS)概論(早乙女)				
第12回	7月 4日	細胞医療事例(山本)				
第13回	7月11日	ベンチャーによる医療AIの開発(山本)				
第14回	7月18日	ベンチャーによる治療機器の開発(高山)				
第15回	7月25日	医療機器ソフトウェア開発・業事(高山)				
医療ビジネス・イノベーション(2)へ続く↓ ↓ ↓						

医療ビジネス・イノベーション概論(2)
<b>[履修要件]</b> 特になし
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 平常点(講義中の質問、講義内容の理解度、講義に対する積極性)、課題の内容により総合的に評価する。
<b>[教科書]</b> 使用しない
<b>[参考書等]</b> (参考書) 授業中に紹介する
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b> 特になし
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b> 講義の一部は「創業医学概論」(医科学専攻開講科目)と共通の講義となるため、当該講義を履修後、「創業医学概論」を履修した場合は、「創業医学概論」は増加単位となります。 講義は毎週木曜日6限、医学研究科メディカルイノベーションセンター棟1階セミナー室で行います。  人間健康科学系専攻学生の受講可否:可  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8M024 SJ90		
授業科目名 <英訳>	特許法特論・演習(前期) Special Lecture and Practicum for the Patent Law I	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 高山 周子 非常勤講師 東田 進弘
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・前期不定		
曜時間	水6	授業形態	特論(対面授業科目)
使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
I. コースの概要 本講義では、特許法の概略を学ぶと共に、化学・ライフサイエンスの分野における特許実務のポイントと特有の点を理解する。 基本事項の講義を中心に行う。 具体例に基づいた説明を中心に理解を深める。			
II. 教育・学習方法 ・パワーポイント資料を中心にした講義			
<b>[到達目標]</b>			
1. 特許法の基礎を学ぶ。 2. 一般的な特許実務に加え、化学・ライフサイエンス分野に特有の考え方を理解する。 3. 1と2を通じて、弁理士、特許庁審査官・審判官、その他知財専門家と円滑な意思疎通を図るために必要なレベルの知識を習得する。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
1. 4月10日 高山 特許実務総論(1) 特許制度の概略、化学・ライフサイエンス分野における特許出願戦略のあり方(事例紹介)			
2. 4月17日 高山 特許実務総論(2) 発明の定義とカテゴリ			
3. 4月24日 東田 特許権 特許権の効力、先使用权、消尽論、実施権等			
4. 5月8日 高山 発明の新規性 発明の新規性、産業上利用可能性			
5. 5月15日 東田 先願 特許法39条、29条の2、上位概念・下位概念の考え方等			
6. 5月22日 東田 特許侵害訴訟等(1) 特許侵害訴訟概要、無効の抗弁、損害額等			
7. 5月29日 東田 特許侵害訴訟等(2) クレーム解釈、均等論、間接侵害等			
特許法特論・演習(前期)(2)へ続く ↓ ↓ ↓			

特許法特論・演習(前期)(2)
8. 6月5日 東田 記載要件(1) 実施可能要件、サポート要件等
9. 6月12日 東田 記載要件(2) 明確性要件、明細書・実施例の記載等
10. 6月19日 高山 発明の進歩性(1) 実務における発明の進歩性の考え方
11. 6月26日 高山 発明の進歩性(2) 発明の効果の顕著性と異質性、数値限定発明や選択発明の考え方
12. 7月3日 東田 実務上重要な手続き(1) 審査手続き、手続補正と新規事項、分割・国内優先権主張出願、化学・ライフサイエンス分野に特有の実務上の重要事項等
13. 7月10日 高山 実務上重要な手続き(2) 早期審査、情報提供、審判、特許異議申立て制度、特許の存続期間と延長登録制度
14. 7月17日 高山 条約及び外国特許出願 パリ条約による保護、特許協力条約による保護、外国出願実務
15. 7月24日 高山(問題作成:東田) 確認試験
<b>[履修要件]</b> 知財必修・MPH選択
<b>[成績評価の方法・観点]</b> 平常点(出席を含む)、および効果確認試験(最終日)
<b>[教科書]</b> テキストとして講義ごとにプリントを配布します。
<b>[参考書等]</b> (参考書) 参考書は、特に指定はありません。例えば、下記のような資料を参考にしてください。 (参考書等) 1. 標準特許法 第8版(高林 龍著 有斐閣)
特許法特論・演習(前期)(3)へ続く ↓ ↓ ↓

特許法特論・演習(前期)(3)
2. リーガルクエスト知的財産法 第2版(愛知 靖之著 有斐閣) 3. 産業財産権標準テキスト特許編(発明協会) 4. 知的財産権法文集(発明協会)
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b> 特許庁のHPから入手できる初心者向けのテキストなどをご参照ください。
<b>[その他(オフィスアワー等)]</b> ・本講座と併せて知的財産経営学基礎を受講することを推奨します。  人間健康科学系専攻学生の受講可否:可  原則対面での講義ですが、やむを得ない事情によりオンライン講義を実施する場合があります。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8M004 SJ90		
授業科目名 ＜英訳＞	契約実務演習 Business Contract Practice	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定准教授 鈴木 裕史 医学研究科 特定教授 早乙女 周子
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期		
曜時間	火5	授業形態	演習（対面授業科目）
使用言語	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b>			
<p>コースの概要</p> <p>研究成果を活用してビジネスを行うためには、多くの場合において他者と連携することとなる。研究開始から商業化に至る各段階の連携において、研究成果やその知的財産の価値最大化や、他者との紛争の予防、回避、解決のためには、契約についての知識や実行能力が必要である。</p> <p>本演習では、契約についての基礎知識を学ぶ他、秘密保持契約、共同研究契約、特許ライセンス契約など研究の実施や研究成果の活用の際に関係する契約について、契約書サンプルを用い、契約締結における注意点について学ぶ。また、リーガルリサーチの方法や交渉の基礎的技術等を主に創業分野の事例に基づいて学ぶ。</p> <p>教育・学習方法 講義および演習参加</p>			
<b>【到達目標】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約の基礎を理解し法的な考え方を習得する。</li> <li>・研究開発関連契約を締結するプロセス、注意点を理解する</li> <li>・研究開発関連契約書をチェックすることができる</li> </ul>			
<b>【授業計画と内容】</b>			
第1回（鈴木） 10月 1日 契約概説 第2回（早乙女） 10月 8日 リーガル・サーチ 第3回（早乙女） 10月 22日 交渉術 第4回（鈴木） 10月 29日 契約書について（1） 第5回（鈴木） 11月 5日 契約書について（2） 第6回（鈴木） 11月 12日 秘密保持契約 第7回（鈴木） 11月 19日 MTA（Material Transfer Agreement） 第8回（鈴木） 11月 26日 共同研究契約 第9回（鈴木） 12月 3日 共同研究契約 第10回（鈴木） 12月 10日 研究開発関連契約各論 第11回（鈴木） 12月 17日 研究開発関連契約各論 第12回（鈴木） 12月 24日 研究開発関連契約各論 第13回（鈴木） 1月 7日 研究開発関連契約各論 第14回（鈴木） 1月 14日 研究開発関連契約各論 第15回（鈴木） 1月 28日 研究開発関連契約各論			
※第10回～第15回の研究開発関連契約各論では、業務委託契約、共同出願契約、特許ライセンス <b>契約実務演習(2)へ続く↓↓↓</b>			

<b>契約実務演習(2)</b>
ス契約、データ取扱い契約などの契約を取り上げる予定。また、受講生の志向を考慮しいずれかの回で企業等で契約を担当している外部講師による講義や模擬交渉を行う可能性あり。
<b>【履修要件】</b>
知財必修・MPH選択 事前或いは同時に履修することが推奨される科目：知的財産経営学基礎、特許法特論・演習
<b>【成績評価の方法・観点】</b>
平常点（出席を含む）、課題の提出、演習への参加、発表
<b>【教科書】</b>
必須テキスト：なし。資料等は教員より提供する
<b>【参考書等】</b>
（参考書） 知っておきたい知的財産契約の基礎知識 https://www.inpit.go.jp/katsuyo/ip-contract.html
その他は講義中に紹介する
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>
適宜指示する
<b>【その他（オフィスアワー等）】</b>
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可（事前に連絡してください） ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	P-PUB01 8M017 LJ90		
授業科目名 ＜英訳＞	知的財産経営学 基礎 Intellectual Property Management in Medical Science	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 早乙女 周子 非常勤講師 藤井 淳 非常勤講師 田中 順也
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・前期不定		
曜時間	火6	授業形態	講義（対面授業科目）
使用言語	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b>			
<p>オープンイノベーションが推進される中、企業研究者のみならずアカデミアの研究者も知的財産に関する知識を持ち、円滑な産学連携活動を行うスキルが求められている。本講義では、ライフサイエンス分野の研究成果を社会に還元するために必要な、産学連携に関する知識と知的財産マネジメントについて学習する。</p> <p>具体的には、ライフサイエンス企業のニーズとオープンイノベーションモデル、特許制度の概要、契約について学習する。内容は創業や医学が中心になるが、受講者のバックグラウンドを考慮し、食品や医療機器等のライフサイエンス産業も入れて講義する。</p> <p>最終的には、ライフサイエンス系の研究者が各自の研究生活において、他者権利の侵害回避、自身の研究成果の権利確保と活用に関して自己の判断で問題点を整理し、専門家の助言を適時に得ながら、産学連携を通じて円滑に事業化に進めて行く能力が獲得できる。</p>			
<b>【到達目標】</b>			
知的財産権の基礎知識を習得し、自身の研究成果の権利確保とその活用について理解することができる。 連携の形態及び契約についての基礎知識を習得し、他者との連携を円滑に進める能力が習得できる。			
<b>【授業計画と内容】</b>			
第1回 4月9日イントロダクション（早乙女）：講義の内容、ねらいの確認 第2回 4月16日知的財産とは（藤井）：知的財産権・特許制度の概要、特許戦略の基本、職務発明の基礎知識 第3回 4月23日特許の実務ポイント（藤井）：発明と発見、作用機序の取扱い、医療関連発明、実験データの取扱い 第4回 4月30日特許明細書の基礎（田中）：特許明細書の構成、内容 第5回 5月7日先行技術調査の手法（早乙女）：特許出願の検索方法 第6回 5月14日外国特許戦略（藤井）：外国出願の方法・コスト、出願国の決め方 第7回 5月21日権利侵害（早乙女）：先行技術調査課題の解説、他者の権利侵害回避、試験研究の例外について 第8回 5月28日MTAについて（早乙女）：研究マテリアルの価値、入手、提供、管理システム 第9回 6月4日共同研究（早乙女）：共同研究契約のポイント、各種研究開発契約の基礎 第10回 6月11日実験ノート（早乙女）：実験ノートの扱い、研究発表と特許出願 第11回 6月25日 大学の知的権利化ケース研究【1】（早乙女）：医学発明の例を用いて、小グループで発明概要書を作成 第12回 7月2日 ライフサイエンス特許に関するトピックスI（早乙女） 第13回 7月9日 ライフサイエンス特許に関するトピックスII（早乙女） 第14回 7月16日大学の知的権利化ケース研究【2】（田中）：グループ発表、解説 第15回 7月23日技術移転（早乙女）：技術移転、特許のライセンス、TLの機能、利益相反			
知的財産経営学 基礎(2)へ続く↓↓↓			

<b>知的財産経営学 基礎(2)</b>
<b>【履修要件】</b>
知財選択・MPH選択
<b>【成績評価の方法・観点】</b>
平常点（講義中の質問、講義内容の理解度、講義に対する積極性）、課題の内容により、総合的に評価する。
<b>【教科書】</b>
特に無し。必要な資料は講義にて配布する。
<b>【参考書等】</b>
（参考書） 角田政芳/辰巳直彦『知的財産法 第9版』（有斐閣, 2020）ISBN:9784641221666（Maruzen eBook Libraryにて閲覧可能） 高林龍『標準特許法 第7版』（有斐閣, 2020）ISBN:9784641243453（Maruzen eBook Libraryにて閲覧可能）
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>
特になし
<b>【その他（オフィスアワー等）】</b>
・知的財産について興味がある学生ならどなたでも受講できます。 ・講義は毎週火曜日6限、医学研究科メディカルイノベーションセンター棟1階セミナー室で行います。
人間健康科学系専攻学生の受講可否：可 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		P-PUB01 8M021 LJ90	
授業科目名 ＜英訳＞	アントレプレナーシップ特論 Special Lecture for Entrepreneurship	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 特定教授 早乙女 周子 医学研究科 特定講師 山口 太郎 非常勤講師 高山 幸次郎
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・前期集中		
曜時間	夏季集中	授業形態	特論(対面授業科目)
使用言語	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b>			
<p>・製造業のビジネスゲームを通じて、管理会計の基礎について学習する。</p> <p>・ビジネスゲームでは製造設備(工場)、原材料の購入、従業員の雇用、商品の生産、販売までを行う。各行動の費用、売上を記載し、12ヶ月が経過したところで貸借対照表(B/S)及び損益計算書(P/L)を作成し経常利益を算出する。</p> <p>・経営の疑似体験を通じて、経営戦略の検討、ビジネスモデルの構築及び会計の基礎知識を習得する。</p> <p>・経済の専門知識がなくても作成できる財務諸表作成シートを使用することにより、学生のバックグラウンドによらず、会計の基礎知識を習得することができる。さらに、ゲームを通じた演習により、実践的な会計の知識を習得することができる。</p>			
<b>【到達目標】</b>			
経営の疑似体験を通じて、ビジネスに必要な会計の知識を実践的に習得する。そのことにより、実際にアントレプレナーとして起業する際に、事業を成功に導くことができるようなビジネスモデルの構築、予算管理を行うことができる。			
<b>【授業計画と内容】</b>			
<p>第1回 8月1日 導入講義</p> <p>第2回 8月1日 ビジネスゲームルールの説明</p> <p>第3回 8月1日 ビジネスゲームデモ</p> <p>第4-6回 8月2日 ビジネスゲーム I-III</p> <p>第7回 8月2日 管理会計</p> <p>第8回 8月2日 投資と企業経営</p> <p>第9-12回 8月5日 ビジネスゲームIV-VII</p> <p>第13回 8月5日 ビジネスゲーム発表資料作成</p> <p>第14回 8月6日 ペンチャー 経営の実際</p> <p>第15回 8月6日 ビジネスゲーム経営結果の発表と振り返り</p>			
<b>【履修要件】</b>			
<p>知財選択・MPH選択</p> <p>全講義出席可能であることを必須条件とします。</p> <p>本講義は演習科目ですので、講義で必要な管理会計の知識はアントレプレナーシップを受講して、予め習得しておいてください。</p>			
<b>【成績評価の方法・観点】</b>			
平常点(講義中の質問、講義内容の理解度、講義に対する積極性)、経営結果発表とレポートにより、総合的に評価する。			

<b>アントレプレナーシップ特論(2)</b>	
-----	
<b>【教科書】</b>	
必須テキスト：無し。必要な資料は講義にて配布する。	
<b>【参考書等】</b>	
<p>(参考書)</p> <p>浅田幸幸 他 『管理会計・入門―戦略経営のためのマネジリアル・アカウンティング第4版』 (有斐閣, 2017) ISBN:978461220966 (Maruzen eBook Libraryにて閲覧可能)</p>	
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>	
事前に配布するルールブック及びゲームに関する動画で、講義の前にゲームの概要を理解しておくこと。	
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b>	
場所は医学研究科 メディカルイノベーションセンター棟 1階セミナー室です。	
人間健康科学専攻学生への受講可否：可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8M025 SJ90	
授業科目名 ＜英訳＞	特許法特論・演習(後期) Special lecture and practicum for the Patent Law II	担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 田中 順也
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期不定		
曜時間	水 6	授業形態	特論(対面授業科目)
使用言語	日本語		
<b>【授業の概要・目的】</b>			
<p>授業の概要</p> <p>・化学・バイオ系(ライフサイエンス)の分野を中心として、研究成果である発明の抽出から特許出願、さらには特許権取得に至るまでの特許実務について演習を交えて学習する。特に、特許調査及び特許性の判断、実験データ等に基づく明細書(発明説明書)の作成、事例研究について具体例を題材として特許戦略の実務について理解する。</p> <p>教育・学習方法</p> <p>・パワーポイント資料を中心とした講義ならびに実例を使った演習</p> <p>・各自の事前学習を含む事例資料を使用したケース研究講義</p>			
<b>【到達目標】</b>			
<p>学習到達目標(このコース終了時までに習得が期待できること)</p> <p>個人学習・研究を含む演習を通じて、特許戦略の実務について理解を深め、その実務に最低限必要な基礎知識・能力を身に付ける。</p>			
<b>【授業計画と内容】</b>			
<p>第1回 10月2日 特許明細書の読み方と書き方(1): 実際の特許明細書を参照して特許明細書の読み方と書き方を解説</p> <p>第2回 10月9日 特許明細書の読み方と書き方(2): 実際の特許明細書を参照して特許明細書の読み方と書き方を解説</p> <p>第3回 10月16日 特許明細書(発明説明書)の作成(1): 模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理</p> <p>第4回 10月23日 特許明細書(発明説明書)の作成(2): 模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理</p> <p>第5回 10月30日 特許明細書(発明説明書)の作成(3): 模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理</p> <p>第6回 11月6日 特許明細書(発明説明書)の作成(4): 模擬的な実験データ及び発明完成までのシナリオに基づく発明の本質部分の抽出と整理</p> <p>第7回 11月13日 ライフサイエンス分野における特許のポイント(1)</p> <p>第8回 11月20日 特許明細書の分析(1): 特許明細書を分析し、プレゼンテーション・議論する。</p> <p>第9回 11月27日 特許調査及び特許性の判断(1): 1つの特許公開公報を選び、特許調査及び特許性の判断を行い、プレゼンテーション・議論する。</p> <p>第10回 12月4日 特許調査及び特許性の判断(2): 1つの特許公開公報を選び、特許調査及び特許性の判断を行い、プレゼンテーション・議論する。</p> <p>第11回 12月11日 ライフサイエンス分野における特許のポイント(2)</p> <p>第12回 12月18日 事例研究(1): バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・特許法特論・演習(後期)(2)へ続く↓↓</p>			

<b>特許法特論・演習(後期)(2)</b>	
-----	
<p>プレゼンテーションを踏まえて議論する。</p> <p>第13回 1月8日 事例研究(2): バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。</p> <p>第14回 1月15日 ライフサイエンス分野における特許戦略上の実務ポイント(2)</p> <p>第15回 1月22日 事例研究(3): バイオ・化学関連の審決取消訴訟の事例を題材として、個人学習・プレゼンテーションを踏まえて議論する。</p>	
<b>【履修要件】</b>	
<p>知財必修・MPH選択</p> <p>事前に履修することが推奨される科目：「特許法特論・演習(前期)」</p>	
<b>【成績評価の方法・観点】</b>	
レポート(課題に対するプレゼンテーション)、ケース研究への参加を総合的に評価する。	
<b>【教科書】</b>	
<p>必須テキスト：なし。最低限必要な資料は講義にて配布する。</p> <p>推奨テキスト：・特許の知識(竹田和彦著 ダイアモンド社)</p> <p>・産業財産権標準テキスト特許編(発明協会)</p> <p>・知的財産権法文集(発明協会)</p>	
<b>【参考書等】</b>	
(参考書)	
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>	
<p>特許公報、裁判例等を題材とした課題について、授業で発表してもらうため、授業前に事例研究を十分に行うことが必要となる。</p>	
<b>【その他(オフィスアワー等)】</b>	
<p>・特許実務について演習を交えて学習します。不安な方は初回に相談して下さい。</p> <p>・特許に関する基礎的知識がない方は、事前に特許法特論・演習(前期)を履修して下さい。</p> <p>人間健康科学専攻学生への受講可否：可</p> <p>原則対面だが、やむを得ない事情によりオンライン講義を実施する場合がある。</p> <p>※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>	

科目ナンバリング		P-PUB01 8M007 SJ90	
授業科目名 <英訳>	知的財産法演習 Practicum for Intellectual Properties Protection Law	担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 富麻 博文 非常勤講師 宗定 勇
配当学年	専門職	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期不定		
曜時間	月6	授業形態	講義（対面授業科目）
使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
I. コースの概要 ・化学・バイオ系（ライフサイエンス）分野における知的財産が我が国において、どのように保護、活用されているのかを裁判例等を踏まえつつ概観し、その現状、論点等について学習する。 ・過去の判決例からそのエッセンスや傾向を分析し、知的財産を適切に保護および活用するために必要な基本的な方法論を学ぶ。 ・ライフサイエンス分野における知的財産を取り巻く現状についても、併せて学習する。			
<b>[到達目標]</b>			
II. 学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること） ・過去の重要判決例の主要論点を分析し、論理的にその意義を理解すると共に、具体的な事例演習を通して知的財産を適切に保護する実務能力を身に付ける。 ・判決例からそのエッセンスや近時の傾向を学ぶことにより、ライフサイエンス分野特有の知的財産の保護および活用方法についての実践力を身に付ける。 ・ライフサイエンス分野に関する知的財産を取り巻く現状について理解を深める。			
III. 教育・学習方法 ・パワーポイント資料を中心にした講義、および事例資料を使用した討議や演習を通じて理解を深める。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
第1回 10月7日ガイダンス、総論 第2回 10月7日発明者認定の重要性について 第3回 10月21日審決・判決の読み方、審判制度 第4回 10月21日審決取消訴訟（新規性、進歩性） 第5回 10月28日宗定先生：知的資本経営を指して 第6回 11月11日熊谷先生：審判の役割について 第7回 11月18日審決取消訴訟（進歩性） 第8回 11月18日審決取消訴訟（記載要件、補正、訂正） 第9回 11月25日事例研究（進歩性）（発表、討論） 第10回 12月2日審決取消訴訟（存続期間延長登録出願） 第11回 12月9日特許権侵害訴訟（1）：特許権の効力、特許発明の技術的範囲 第12回 12月16日特許権侵害訴訟（2）：均等論、抗弁等 第13回 12月16日特許権侵害訴訟（3）：間接侵害等 第14回 1月20日事例研究（侵害訴訟）（発表、討論） 第15回 1月27日熊谷先生：国際的な知的財産保護の現状と課題－特許制度を中心に－ 試験なし			
※外部講師の都合等で日程変更等の可能性あり。			
知的財産法演習(2)へ続く ↓↓↓			

<b>知的財産法演習(2)</b>	
<b>[履修要件]</b>	
知財必修・MPH選択 特許法上の実務に関する基礎知識（特許要件、審査基準等）を有していることが望ましい。 事前あるいは同時に履修することが推奨される科目：「特許法特論・演習（前期、後期）」	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
平常点（出席を含む）、および課題発表、レポートの提出により、総合的に評価する。	
<b>[教科書]</b>	
必須テキスト：なし。必要な資料等は講義にて配布する。 推奨テキスト：別冊ジュリスト 特許判例百選 第5版（No.244）（2019年8月発行）	
<b>[参考書等]</b>	
授業中に紹介する	
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>	
講義で紹介する予定の判決例を予習し、争点を把握しておく。	
<b>[その他（オフィスアワー等）]</b>	
・化学、バイオ等についての高度な専門知識は要しない（技術内容については必要に応じて適宜説明する。） ・講義予定は、暫定的なものであり、変更があり得るため、注意のこと。 ・講義は原則対面で開催するが、やむを得ない事情によりオンライン講義を実施する場合もある。 ・10月7日、10月21日、11月18日、及び12月16日は、5限及び6限の連続講義となる予定である。	
人間健康科学系専攻学生の受講可否： 可	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8M120 LJ90	
授業科目名 <英訳>	創薬医学特論 Special Lecture for Drug Discovery	担当者所属 職名・氏名	医学研究科 特定教授 早乙女 周子
配当学年	専門職	単位数	1
開講年度・開講期	2024・後期不定		
曜時間	その他	授業形態	講義（対面授業科目）
使用言語	日本語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
現在の創薬は、従来の低分子医薬品の他、抗体、核酸医薬などモダリティが多様となってきた。また、薬物送達技術やAIによる創薬など、創薬に関する基盤技術も発展してきている。更に、製薬企業のみならず、ベンチャー企業も革新的医薬品の創出に貢献している。これらの創薬研究を行っている製薬企業やベンチャー、またベンチャーに投資を行うベンチャーキャピタルから講師を招聘し、実例を交えて講義を行う。このことにより、最先端の創薬活動に関して理解をすることができると期待される。			
<b>[到達目標]</b>			
創薬事例を学ぶことにより、創薬戦略、研究開発、ビジネスモデルを理解することができる。創薬基盤技術とその応用について理解することができる。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
第1回 10月3日 5限（MIC棟1階セミナー室） ガイダンス／創薬の基礎 第2回 10月10日 5限（MIC棟1階セミナー室） DDS 第3回 10月25日 5限（MIC棟1階セミナー室） JCRファーマの創薬研究 第4回-8回 調整中			
*外部講師の都合により日程変更の可能性有			
<b>[履修要件]</b>			
MPH: 選択 医療ビジネス・イノベーション概論を受講していることが望ましい。			
<b>[成績評価の方法・観点]</b>			
平常点（講義中の質問、講義内容の理解度、講義に対する積極性）、課題の内容により総合的に評価する。			
<b>[教科書]</b>			
使用しない			
<b>[参考書等]</b>			
（参考書）			
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>			
適宜予習、復習を求める。			
<b>[その他（オフィスアワー等）]</b>			
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。			







# **FY2024 Syllabi for Master Course**

## **Kyoto University School of Public Health**

**NB. The English translation is a courtesy translation and please always refer to the Japanese version, which remains the official version.**

# Mission and educational program of the Kyoto University School of Public Health

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/>)

## 1. Mission of the school

The mission of the Kyoto University School of Public Health (KUSPH) is to improve people's health and welfare through the following activities and through their interactions between medical science and healthcare, as well as society and the environment.

### ○ Teaching

Providing education of broad disciplines to help students to be specialists and/or leaders in healthcare, policy making, research, and education of public health.

### ○ Research

Creating new knowledge and skills through deep understanding of the economic, environmental, behavioral, and social factors affecting people's health.

### ○ Translating Research into Practice and Policy

Disseminating research outputs to practical programs and policies related to the health and medical care in society.

### ○ Professional Practice

Contributing to improving health at multiple levels (individual, organizational, regional, national, and global) through specialized knowledge and skills.

Health-related problems cover broad issues. In order to face the challenges in health and to meet students' diverse interests, the school offers a wide range of classes promoting education and research taught by faculty with diverse background including biostatistics, epidemiology, genome epidemiology, healthcare economics and quality management, health promotion and behavioral science, social determinants of health, health disparities, global health, epidemic risk analysis, environmental health studies including climate change, health communication and qualitative research.

## 2. Educational Programs

The school consists of a two-year Professional Degree Course (=Master Course) for practitioners and a three-year Doctoral Course for researchers and educators. Students should take the classes of the Core Area 1 (2 classes) and 2 (1 class), and at least one class from the Core Area 3-5 depending on the credit requirement of core educational program for each Course (Master course 10 credits and doctor course 7 credits).

Categories	Code	Title	Organizer	Credits	Remarks
Core Area 1	H118000	Epidemiology I	Prof. Nakayama	1	Required
	H119000	Epidemiology II	Prof. Yamamoto	1	Required
Core Area 2	H001000	Biostatistics	Prof. Kondo and Part-time Lec. Sato	2	Required
Core Area 3	H070000	Infectious Disease Epidemiology	Prof. Nishiura	1	
	H124000	Occupational health and environmental health sciences	Prof. Nishiura	1	
Core Area 4	H166000	Healthcare System, Policy and Economics	Prof. Imanaka	2	
	H126000	Economic Evaluation in Health Care	Prof. Imanaka	1	
	H127000	Health Policy and Academia	HPA steering committee	2	
	H170000	Healthcare crisis management	Prof. Imanaka	1	
	H109000	Drug Policy and Regulation	Prof. Kawakami	1	2nd semester
Core Area 5	H075000	Behavioral Science	Assoc. Prof. Tajika	1	
	H076000	Basic Medical Ethics	Prof. Inoue	1	
	H077000	Medical Communication (Basic)	Assoc. Prof. Iwakuma	1	
	H157000	Social epidemiology	Prof. Kondo	2	

- Please refer to URL: <http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/syllabus.html> for additional classes available from other schools within Kyoto University. These courses cannot be counted towards credits necessary for completion of the Master's program.

## 2-1. Standard educational program for the MPH (Professional Degree) Course

For the “Masters of Public Health (MPH [Professional Degree])” be awarded, students are required to enroll for at least two years in the MPH Course, earning 30 of the below-listed credits, and complete the determined educational curriculum for this course. However, the maximum number of classes can be registered in one year or in one semester in principle is 42 credits.

Category of classes	For students with medical background <sup>a</sup>	For students without medical background
Core Areas (All 5 areas should be included) <sup>a</sup>	10	10
Mandatory (Basic Medicine I <sup>b</sup> , II, Introduction to Clinical Medicine) <sup>c</sup>	—	6
Task research <sup>**</sup>	4	4
Elective	16	10
Total	30	30

<sup>a</sup> Earning more than 10 credit hours from Core Area classes will be counted toward 'elective' category credits.

<sup>b</sup> Students without medical background must take one of the following courses as the credit of Basic Medicine I; Basic Medicine I (Anatomy), Basic Medicine I (Physiology I), Basic Medicine I (Neurophysiology), or Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics).

° The credit earned by students with medical background will not be counted towards the requirement of 30 credits for the completion of an MPH degree.

- \* Students with medical background including graduates of medicine, nursing, dentistry, pharmacy, public health and other medical departments. Students who are graduates of the departments that can be obtained national medical qualifications other than the above are recognized as those with medical background may be eligible for it in bulk. If students who were not certified in bulk and wish to be recognized, must obtain a permission authorized by the school.
- \*\* **Task research:** Students will choose the most appropriate department for their research topic, receive mentoring for developing a research question and research protocol, data collection and analysis, and interpretation of the results. At the end of the program, students are required to present their research projects completed. Students are allowed to deliver such presentation only if they are expected to complete their graduate course in the same academic year as the one in which the said presentations are planned to be conducted.
- \*\*\* Accreditation of completed credits: Up to 10 credits can be accredited if you have completed courses in other graduate schools which correspond with Core Areas 1 through 5. If you want accreditation, you need to submit the necessary papers upon entrance into MPH.

### **Special courses and programs**

The following special courses and programs are available in the MPH course. Due to the differences in admission examination system, course changes are not allowed.

#### Special courses

- Master of Public Health 1-Year Course
- Master of Clinical Research Course
- Genetic Counselor Course
- Clinical Biostatistics Course

#### Special programs

- Management of Technology and Intellectual Property Program
- Young Leader Program for Healthcare Management

### **2-2. MPH-DrPH Course**

This is a special program which starts from 2010 that allows students to proceed to the DrPH Course after graduating from MPH Course in one year. Applicants should meet one of the following criteria; 1. have a master degree other than MPH from this school, 2. Medical or dental doctor with clinical practice experience of 2 years or more.

Applicants who wish to proceed to the Doctor Course immediately after the Master Course, meet the above criteria, AND exhibit excellent performance in the entrance exam and course work, are reviewed by the Education Affair Committee for qualification and accepted for this Course if they fulfill the credit requirement for Master Course AND pass the entrance exam to the Doctor Course.

Students who wish to be reviewed for qualification should get (or expected to get) 8 or more credits of the Core Area classes AND submit an application form, form stating the reasons for application, and recommendation letter from the potential mentor. Applicants having a master degree other than MPH from this school should show a copy of the master degree diploma and the applicants who are medical or dental

doctors should show the documents certifying the clinical practice experience of 2 years or more. Application should be submitted to the Registration Office by Friday, August 2<sup>th</sup> (Applicants should contact the Office of Student Affairs before submitting the application.)

If the applicant does not proceed to the Doctor Course after passing the exam, MPH degree will not be provided.

Note: Research protocol is not mandatory but could be attached to the recommendation letter.

### 2-3. Educational program for Doctoral Course

For a “Doctorate in Public Health (DrPH or PhD)” be awarded, students are required to enroll for the course for three years or more, receive mentoring for research, meet the following credit requirement, submit a doctoral paper, and pass the review and examination.

However, the maximum number of classes can be registered in one year or in one semester in principle is 42 credits.

Graduate education course "Public Health and Clinical Epidemiology Research" will be implementing midterm hearing and tutor system from 2022 academic year, in order to check the progress of graduate students' research and give advice as necessary, to strengthen the support system of improving students' research level. In the second or third year, tutors will check the progress of the students' research at the mid-term hearing and confirm whether the students conduct their research with an appropriate research policy and whether their research is progressing smoothly. Passing the mid-term hearing is required to earn two credits for " Public Health and Clinical Epidemiology Research (Practice)".

【Students enrolled before FY2021】

Categories		For students who are not the graduates of KUSPH		For KUSPH graduates
		For students with medical background*	For students without medical background	
Seminar for doctor course students		6	6	6
Master course program	Core (5 areas)	7 The classes of Core Area 1 (2 classes) and 2, and at least one class from the Core Area 3-5	7 The classes of Core Area 1 (2 classes) and 2, and at least one class from the Core Area 3-5	—
	Mandatory (3 classes**)	—	6	—
Total		13	19	6

【Students enrolled after FY2022】

Categories		For students who are not the graduates of KUSPH		For KUSPH graduates
		For students with medical background*	For students without medical background	
Seminar for doctor course students		6	6	6
Graduate education course: " Public Health and Clinical Epidemiology Research (Seminar)" (in the first year~)		4	4	4
Graduate education course: " Public Health and Clinical Epidemiology Research (Practice)" (in the second year~)		2	2	2
Master course program	Core (5 areas)	7 The classes of Core Area 1 (2 classes) and 2, and at least one class from the Core Area 3-5	7 The classes of Core Area 1 (2 classes) and 2, and at least one class from the Core Area 3-5	—
	Mandatory (3 classes**)	—	6	—
Total		19	25	12

\* Students with medical background include graduates of medicine, nursing, dentistry, pharmacy, public health and other medical departments. Students who are graduates of the departments that can be obtained national medical qualifications other than above are recognized as those with medical background may be eligible for it in bulk.  
If students who were not certified in bulk and wish to be recognized, must obtain a permission authorized by the school.

\*\* After FY2022, students without medical background must take one of the following courses as the credit of Basic Medicine I; Basic Medicine I (Anatomy), Basic Medicine I (Physiology I), Basic Medicine I (Neurophysiology), or Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics).

Accreditation of completed credits: Up to 7 credits can be accredited if you have completed courses in other graduate schools which correspond with Core Areas 1 through 5. If you want accreditation, you need to submit the necessary papers upon entrance into DrPH.



**Curriculum for Master degree program in the fiscal year 2024**

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus	Level
			1st	2nd					
Core Area 1 (mandatory)	H118	Epidemiology I	●*		Prof. Nakayama	1	Required	●	B
	H119	Epidemiology II	●1		Prof. Yamamoto	1	Required	●	B
Core Area 2 (mandatory)	H001	Fundamentals of Biostatistics	●		Prof. Kondo and Part-time Lec. Sato	2	Required	●	B
Core Area 3 (at least one class)	H070	Infectious Disease Epidemiology	●2		Prof. Nishiura	1		●	B
	H124	Occupational health and environmental health sciences	●1		Prof. Nishiura	1		●	B
Core Area 4 (at least one class)	H166	Healthcare System, Policy, and Economics	●		Prof. Imanaka	2			I
	H127	Health Policy and Academia	●		Prof. Imanaka	2		●	B
	H109	Drug Policy and Regulation		●1	Prof. Kawakami	1		●	I
	H126	Economic Evaluation in Health Care	●1		Prof. Imanaka	1		●	I
	H170	Healthcare crisis management		●	Prof. Imanaka	1			A
Core Area 5 (at least one class)	H075	Behavioral Science	●1		Assoc. Prof. Tajika	1		●	B
	H076	Basic Medical Ethics	●1		Prof. Inoue	1		●	B
	H077	Medical Communication: Introduction	●1		Assoc. Prof. Iwakuma	1		●	B
	H157	Social epidemiology	●		Prof. Kondo	2		●	B
Mandatory	H153	Basic Medicine I (Anatomy)	●1		Prof. Kondo	2		●	B
	H154	Basic Medicine I (Physiology I)	●1		Prof. Kondo	2	Choose one of them: mandatory for students without medical background. Elective for those with medical background.	●	B
	H163	Basic Medicine I (Neurophysiology)		●2	Prof. Kondo	2		●	B
	H164	Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics)	●*		Program-Specific Associate Prof. Ogawa	2		●	B
H007	Basic Medicine II			Prof. Ono, Assoc. Prof. Kato, Assist. Prof. Shiomi, Assist. Prof. Yamaji and Lec. Kawata	2		●	B	
	H008	Introduction to Clinical Medicine		●	Program-Specific Assistant Prof. Takada, Assistant Prof. Nishikiori, Lec. Iwasaku, Lec. Hoshino, Part-time Lec. Chiba	2	Mandatory for students without medical background. Elective for those with medical background.	●	B

	Task Research	2nd year	Mentors in each Department	4	See annex table	-
Elective	H1011	●	Program-Specific Prof. Omori	2		●
	H1093	●1	Assoc. Prof. Takahashi	1		●
	H1094	●2	Prof. Nakayama	1		●
	H115	●*	Prof. Nakayama	1		●

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus	Level
			1st	2nd					
Elective	H129	Evaluation of Quality in Health Care	-	-	-	1	Not offered in FY 2024		I
	H162	Toxicological Sciences	●		Assoc. Prof. Harada	2		●	B
	H103	Medical Sociology	●2		Assoc. Prof. Iwakuma	1		●	B
	S004	Statistical Genetics I	-	-	-	2	Not offered in FY2024		I
	H112	Clinical Trial	●		Program-Specific Prof. S. Tanaka	2		●	I
	H134	Statisticians Standard of Conducts	●		Program-Specific Prof. Omori	1		●	A
	H143	Designing Health communication		Int*	Prof. Nakayama	1		●	A
	H136	Fundamentals of Statistical Inference	●		Program-Specific Prof. Omori	2		●	I
	H137	Survival Analysis		Int	Program-Specific Prof. Omori	1		●	I
	H138	Statistical Modeling and Applications		Int	Program-Specific Prof. Omori	1		●	I
	H142	Medical Doctors in Government and Occupational Settings	Int			2		●	A
	H172	Disaster Healthcare Management Workshop	Int		Prof. Imanaka	1			A
	H145	Multiplicity in clinical trials	●1		Program-Specific Prof. Omori	1		●	I
	M001	Entrepreneurship	●		Part-time Lec. Teranishi	2	TMMS	●	B
	M119	Introduction to Medical Innovation and Business	●		Program-Specific Prof. Saotome	2	TMMS	●	B
	M017	Intellectual Property Management in Medical Science	●		Program-Specific Prof. Saotome	2	TMMS	●	B
	M021	Special Lecture for Entrepreneurship	Int		Program-Specific Prof. Saotome	2	TMMS	●	A
	M024	Special Lecture and Practicum for the Patent Law I	●		Part-time Lec. Takayama, Part-time Lec. Higashida	2	TMMS	●	B

N015	Genetic Medicine, Ethics and Society	●*		Program-Specific Associate Prof. Ogawa	2	GC	●	B
H040	Introduction to Human Genetics	●*		Program-Specific Associate Prof. Ogawa	2	GC	●	B
N021	Clinical Genetics and Genetic Counseling	●*		Program-Specific Associate Prof. Ogawa	3	GC	●	B
N017	Special Seminar for Genetic Medicine	Int		Program-Specific Lec. Kawasaki	2	GC, 2nd year students	●	A
H158	Public health intervention strategies		●1	Prof. Kondo	2		●	A
H020	Field Medicine		●	Assoc. Prof. Sakamoto	2		●	B
H021	Intermediate Biostatistics		●	Program-Specific Prof. Omori	2		●	I
H022	Health Data Processing Laboratory		●	Program-Specific Prof. Omori	2		●	A

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus	Level
			1st	2nd					
Elective	H159	Environmental exposures and their risk assessments		●	Assoc. Prof. Harada	2		●	I
	H032	On the Bench Training Course		Int	Assoc. Prof. Harada	2		●	A
	H099	Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices		●	Prof. Kawakami	2		●	A
	H079	Drug Development, Evaluation and Regulatory Science		●2	Prof. Kawakami	1		●	I
	M004	Business Contract Practice		●	Program-Specific Assoc. Prof. Suzuki	2	TMMS	●	B
	M007	Practicum for Intellectual Properties Protection Law		●	Lec. Toma	2	TMMS	●	I
	M025	Special lecture and practicum for the Patent Law II		●	Lec. J. Tanaka	2	TMMS	●	I
	M120	Special lecture for Drug Discovery		●	Program-Specific Prof. Saotome	1	TMMS	●	A
	M022	Genome Science and Medicine		●	Prof. Matsuda	2		●	A
	N018	Practicum for Clinical Genetics		●	Prof. Inoue	2	GC	●	A
	S005	Statistical Genetics II		-	-	2	Not offered in FY2024		I
	H130	Health informatics I		●	Prof. Nakayama	2		●	I
	H151	Health informatics II		●*	Assoc. Prof. Takahashi	2		●	I
	H160	Applied Medical Communication		Int	Assoc. Prof. Iwakuma	2		●	I
	H152	Environment and Infection		●	Prof. Yamazaki	2		●	I
	H156	Introduction to Qualitative Research		●2	Prof. Nakayama, Program-Specific Senior Lec. Kohno	1		●	B
	H135	Statistical Methods in Clinical Trials		●1	Program-Specific Prof. S. Tanaka	1		●	A
	H063	Fieldwork		-	-	2	Not offered in FY2024		I
	H061	Field Training for Public Health Practice		Int	Mentors in each Department	1-2	Internship		-
Z203	Global health		●	Prof. Nakayama	2		●	I	
H161	Introduction to infectious disease modelling		Int	Prof. Nishiura	2		●	A	
H173	Innovation for Resilient Healthy Society: Foresight and Proposal		●	Prof. Imanaka	2			A	
H167	QOL/PRO assessment		●*	Prof. Yamamoto	1		●	I	
H169	Risk Communication for Public Health Emergencies		Int*	Prof. Nakayama	1		●	A	

	H171	Implementation Research in Health and Preventive Medicine		●	Prof. Iwami	2			I
Restricted for special programs	H082	Healthcare Management Special Curriculum I	Int		Prof. Imanaka	2	YLP	●	A
	H083	Healthcare Management Special Curriculum II		Int	Prof. Imanaka	2	YLP	●	A
	H053	Case Studies in Healthcare Management		Int	Prof. Imanaka	2	YLP	●	A

Category of classes	Code	Title	Semester		Organizer	Credits	Remarks	English syllabus	Level
			1st	2nd					
Restricted for special programs	K026	Seminar in Study Design I	●*		Prof. Kawakami	1	MCR	●	A
	K028	Special Seminar in Study Design I	●	1*	Prof. Yamamoto	1	MCR	●	A
	K030	Economic Evaluation of Medical Technologies	●	1*	Prof. Imanaka	1	MCR	●	A
	K027	Seminar in Study Design II		●	Prof. Kawakami	1	MCR	●	A
	K029	Special Seminar in Study Design II		●	Prof. Yamamoto	1	MCR	●	A
	K020	Special lectures on EBM and clinical practice guidelines		●	Prof. Nakayama	1	MCR	●	A
	K025	Data management for Clinical Research		●	Program-Specific Associate Prof. Nakao	1	MCR and CB	●	A
	K034	Clinical research advanced		●	Prof. Iwami	2	MCR		A
	K036	Systematic Reviews		●	Associate Prof. Ogawa	1	MCR	●	A
	K033	Special Seminar of Data Analysis		●	Prof. Yamamoto	1	MCR	●	I
	K035	Methods in social epidemiology		●	Prof. Kondo	1	MCR	●	A
	N022	Fundamental Human Genetics, exercise		●	Program-Specific Lec. Kawasaki	1	GC	●	A
	N006	Clinical Genetics, Exercise		●*	Program-Specific Lec. Kawasaki	1	GC	●	A
	N020	Communication for Genetic Counselors		●*	Program-Specific Lec. Kawasaki	3	GC	●	B
	N007	Genetic Counselling, Exercise 1		●	Program-Specific Lec. Kawasaki	2	GC	●	B
	N008	Genetic Counselling, Exercise 2		●	Program-Specific Lec. Kawasaki	2	GC	●	A
N009	Genetic Counselling, Practice 1		●	Program-Specific Lec. Kawasaki	2	GC	●	B	
N010	Genetic Counselling, Practice 2		●	Program-Specific Lec. Kawasaki	4	GC	●	A	
H168	Genetic service informatics		●	Program-Specific Lec. Kawasaki	1	GC	●	B	

H139	Practical Skills for Clinical Biostatisticians	●	Program-Specific Prof. Omori	1	CB	●	B
H144	Practicum in Fundamentals of Statistical Inference	●*	Program-Specific Prof. Omori	1	CB	●	I
H146	Meta-analysis	Int	Program-Specific Prof. S. Tanaka	1	CB and MCR	●	A
H140	Clinical Research Training I	Int	Program-Specific Prof. S. Tanaka	2	CB	●	A
H147	Clinical Research Training II	Int	Program-Specific Prof. S. Tanaka	2	CB	●	A

Note: 1 represents the first half. 2 represents the second half.

- MCR, Master Program for Clinical Research; TMMS, Dept. of Technology Management in Medical Science; GC, Genetic Counseling Course; YLP, Young Leader Program; Global Health Interdisciplinary Unit; CB, Clinical Biostatistics; Int, Intensive.
- Be careful on class days marked with \* in the semester column.
- Level of classes means as follows. B: Basic, no prior knowledge required. I: Intermediate, some prior knowledge and experience required. A: Advanced. applicable to practice and research in society.
- Both Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics) and Introduction to Human Genetics cannot be taken.
- Students who have passed all three courses (1 credit each) "Health Care Systems and Policies," "Health Care Systems and Policies around the World," and "Behavioral Economics in Health and Care" by FY2022 cannot count "Health Care Systems, Policies, and Economics" as credits required for completion.
- Students who have completed the "Health Crisis Management " course by the 2023 academic year will have their credits counted towards the "Elective Subjects" category, whereas students who complete it in the 2024 academic year and beyond will have their credits counted towards the "MPH Core 5 Areas" category.
- Students who have completed the " Introduction to Technology Management in Medical Science" course by the 2023 academic year will not be able to count credits for " Introduction to Medical Innovation and Businesses" towards the required credits for graduation, even if they complete it.
- Students who have completed the " The Post-COVID-19 Era: Innovation in Life and Technology" course by the 2023 academic year will not be able to count credits for " Innovation for Resilient Healthy Society: Foresight and Proposal" towards the required credits for graduation, even if they complete it.

**Annex table 1. Codes for Task Research and Doctor Course Seminars**

Departments	Department code	
	Task research (for Professional Degree Course student)	Doctor Course Seminar (for Doctor course students)
Biostatistics	I001	J001
Healthcare epidemiology	I002	J002
Pharmaco-epidemiology	I003	J003
Genome epidemiology	I004	J004
Healthcare economics	I005	J005
Medical ethics	I006	J006
Health informatics	I007	J007
Medical communication	I016	J016
Health and environmental sciences	I009	J009
Health promotion and behavioral science	I010	J010
Preventive medicine	I011	J011
Social epidemiology	I020	J016
Health policy and international health	I013	J013
Ecology with Emphasis on the Environment	I014	J014
Field Medicine	I015	J015
Management of Technology and Intellectual Property	M018	
Genetic Counselor Course	N901	
Clinical Biostatistics Course (Clinical Biostatistics)	I019	

**Annex table 2. Codes for Public Health and Clinical Epidemiology Research**

Title	Code
Public Health and Clinical Epidemiology Research (Seminar)	P033
Public Health and Clinical Epidemiology Research (Practice)	P034





◇ Curriculum of MPH Course for the First Semester of FY2024

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1 8:45~10:15	[Core areas, Required and elective] [MCR Restricted (Elective)] Behavioral Science (First half of the first semester) Assoc. Prof. Tajima (A)	[MCR Restricted (Elective)] Methods in Social Epidemiology (Second half of the first semester) (Frontier)	[MPH Elective][GC Elective] Introduction to Qualitative Research (Second half of the first semester) Prof. Nakayama & Kohno (A)	[STPA Course] Research Methods for Policy A Prof. Kawakami (A, B)	[Core areas, Required] Epidemiology II (first half of the first semester) Prof. Yamamoto (A)
2 10:30~12:00	[Core areas, Required and elective] Biostatistics Prof. Kondo, Prof. Sato (A)	[Core areas, Required and Elective] Health System, Policy and Economics Prof. Imanaka (Frontier)	[MPH Elective][GC Required] Genetic Medicine, Ethics and Society Assoc. Prof. Ogawa (Practicum room)	[Core areas, Required and Elective] Infectious Disease Epidemiology (Second half of the first semester) Prof. Nishihara (A)	[MPH Elective] Multiplicities in clinical trials Prof. Omori (B)
3 13:15~14:45	[Core areas, Required and elective] Social Epidemiology (Frontier)	[Core areas, Required and Elective] Health System, Policy and Economics Prof. Imanaka (Frontier)	[MPH Elective][MCR Required] Introduction to Human Genetics (MCR Required and Elective) Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics) Assoc. Prof. Ogawa (Practicum room)	[Core areas, Required and Elective] Health Policy and Academia HPA steering committee (A)	[Core areas, Required] Epidemiology I Prof. Nakayama (A)
4 15:00~16:30	[MPH Elective][MCR Required] Literature Search (First half of the first semester) Assoc. Prof. Takehashi (A)	[Core areas, Required and Elective] Economic Evaluation of Medical Technologies (First half of the first semester) Prof. Imanaka (Frontier)	[MPH Elective][MCR Required] Introduction to Human Genetics (MCR Required and Elective) Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics) Assoc. Prof. Ogawa (Practicum room)	[MPH Elective] Fundamentals of Statistical Inference Prof. Omori (Practicum room)	[MPH Elective] Methods of Health Sciences Research Prof. Nakayama (A)
5 16:45~18:15	[Core areas, Required and elective] Medical Communication Basic (First half of the first semester) Assoc. Prof. Iwakuma (Practicum room)	[MPH Elective][MCR Required] Clinical Trial Prof. Imanaka (Frontier)	[MPH Elective] Economic Evaluation of Medical Technologies Assoc. Prof. Harada (Frontier)	[MPH Required and Elective] Healthcare oris management Prof. Imanaka (A)	[MPH Elective] Innovation for Resilient Healthy Society: Foresight Prof. Imanaka (C/D)
6 18:30~20:00	[MPH Elective][IP Required] Entrepreneurship Prof. Torimichi (IRK)	[MPH Elective][IP Required] Special Lecture and Practicum for the Patent Law I Leas. Takeyama and Higashida (MIC)	[MPH Elective][GC Required] Clinical Genetics and Genetic Counseling (Practicum room)	[MPH Required and Elective] Introduction to Medical Innovation and Business Prof. Sakuma (MIC)	[GC Restricted (Required)] Genetic Counseling, Exercise 1・2 Senior Lec. Kawasaki (A)

[A] : Seminar room A on the 2nd floor of the G Bldg.  
[B] : Seminar room B on the 2nd floor of the G Bldg.  
[C/D] : Seminar room C/D on the 2nd floor of the G Bldg.  
[Practicum room]: Practicum room on the 3rd floor of the G Bldg.  
[Frontier]: Seminar room on the 1st floor of the Frontier Bldg.  
[MIC]: Medical Innovation Center (Hospital West Campus)  
[IRK]: Med-Pharm Collaboration Building 3rd floors

Restricted for special programs:  
[CB restricted] Clinical Research Training I Program-Specific Prof. S. Tanaka  
[CB restricted] Clinical Research Training II Program-Specific Prof. S. Tanaka  
[GC restricted] Genetic Counseling, Practice 1・2 Senior Lec. Kawasaki  
[CB/MCR restricted] Meta-analysis Program-Specific Prof. S. Tanaka  
[Management Young Leaders Course] Case Studies in Healthcare Management Prof. Imanaka  
[Management Young Leaders Course] Healthcare Management Special Curriculum I Prof. Imanaka  
[STPA Course] Science, Technology and Communication Seminar Prof. Kawakami, Assoc. Prof. Koizumi, Prof. Becker  
[STPA Course] Research project Prof. Kawakami  
[STPA Course] Advanced Seminar on Science, Technology and Innovation Policy Prof. Kawakami  
[STPA Course] Science and technology policy for the innovation - advanced discussion Prof. Kawakami, Assoc. Prof. Koizumi, Prof. Becker  
[STPA Course] Research Methods for Policy Prof. Kawakami, Assoc. Prof. Koizumi, Prof. Becker

[MPH Elective] Applied Medical Communication Assoc. Prof. Iwakuma  
[MPH Elective] Special seminar for Genetic medicine Senior Lec. Kawasaki  
[MPH Elective] Field Training for Public Health Practice Mentors in each department  
[MPH Elective] Designing Health Communication Prof. Nakayama  
[MPH Elective] Medical Doctors in Government and Occupational Settings Prof. Imanaka  
[MPH Elective] Introduction to infectious disease modelling Prof. Nishihara  
[MPH Elective] Risk Communication for Public Health Emergencies Prof. Nakayama  
[MPH Elective] Disaster Healthcare Management Workshop Prof. Imanaka  
[MPH Elective] [IP Elective] Special Lecture for Entrepreneurship Program-Specific Prof. Sakuma

◇ Curriculum of MPH Course for the Second Semester of FY2024

	月	火	水	木	金
1 8:45～10:15		[MPH Elective] <b>Implementation Research in Health and Preventive Medicine</b> Prof. Iwami (A)	[Core areas, Required and Elective] <b>Basic Medicine I (Neurophysiology)</b> (second half of the second semester) (School of Human Health Sciences Room N08)	[GC required (restricted)] <b>Communication for Genetic Counselors</b> (First Year) Senior Lec. Kawasaki (Practicum room)	[MGR restricted (elective) and CB restricted (required)] <b>Data Management for Clinical Research</b> Assoc. Prof. Nishio (B)
2 10:30～12:00		[MPH Elective] <b>Intermediate Biostatistics</b> Prof. Omori (A)	[Core areas, Required and Elective] <b>Drug Policy and Regulation</b> (first half of the second semester) Prof. Aoyanami (A)	[Required for students without medical background] <b>Basic Medicine II</b> (A)	[MPH Elective] [MGR Elective] <b>Health Informatics I</b> Prof. Nakayama (A)
3 13:15～14:45		[MPH Elective] <b>Environment and Infection</b> (Seminar Room Yamazaki Foundation Memorial Hall Center for Southeast Asian Studies)	[MPH Elective] <b>Global Health</b> Prof. Nakayama (Frontier)	[MPH Elective] <b>Genome Science and Medicine</b> (South Research Bldg. And Online)	[MGR restricted (Elective)] <b>Special Lectures on EBM and Clinical Practice Guidelines</b> Prof. Nakayama (Practicum room)
4 15:00～16:30		[MPH Elective] <b>Field Medicine</b> Associate Prof. Saito (Room 202, Center for Southeast Asian Studies)	[Required for students without medical background] <b>Introduction to Clinical Medicine</b> (Frontier)	[STPs Course] <b>Research Methods for Policy B</b> Prof. Takahashi (B)	[MPH Elective] <b>Health Informatics II</b> Assoc. Prof. Takahashi (Practicum room)
5 16:45～18:15		[MPH Elective] [IP Required] <b>Practicum for Contract Business</b> Assoc. Prof. Suzuki (MIC)	[GC required (restricted)] <b>Clinical Genetics, Exercise</b> (First year, check syllabus for lecture start date) Senior Lec. Tanaka (Practicum room)	[GC required (restricted)] <b>Fundamental Human Genetics, exercise</b> (First year) Senior Lec. Kawasaki (Practicum room)	[MPH Elective] <b>Environmental Exposures and Their Risk Assessments</b> Assoc. Prof. Harada (Frontier)
6 18:30～20:00		[MGR restricted (Elective)] <b>Clinical Research Advanced</b> Prof. Iwami (A)	[MPH Elective] <b>Special Lecture and Practicum for the Patent Law II</b> Lec. J. Tanaka (MIC)	[MPH Required and Elective] <b>Healthcare oris management</b> Prof. Imanaka (A)	[MPH Elective] <b>Genetic Counselling, Exercise 1-2</b> Senior Lec. Kawasaki (A)

[A] : Seminar room A on the 2nd floor of the G Bldg.  
[B] : Seminar room B on the 2nd floor of the G Bldg.  
[C/D] : Seminar room C/D on the 2nd floor of the G Bldg.  
[Practicum room] : Practicum room on the 3rd floor of the G Bldg.  
[Frontier] : Seminar room on the 1st floor of the Frontier Bldg.  
[MIC] : Medical Innovation Center (Hospital West Campus)

**Intensive Lectures, Not offered, etc.:**  
[MPH Elective] **Applied Medical Communication** Assoc. Prof. Iwakuma  
[MPH Elective] **Designing Health communication** Prof. Nakayama  
[MPH Elective] **On the Bench Training Course** Assoc. Prof. Harada  
[MPH Elective] **Survival Analysis** Prof. Omori  
[MPH Elective] **Statistical Modeling and Applications** Prof. Omori  
[MPH Elective] **Risk Communication for Public Health Emergencies** Prof. Nakayama  
[IP Elective] **Special Lecture for Drug Discovery** Prof. Saotome

**Restricted for special program:**  
[Management Young Leaders Course] **Case Studies in Healthcare Management** Prof. Imanaka  
[Management Young Leaders Course] **Healthcare Management Special Curriculum II** Prof. Imanaka  
[STPs Course] Science, Technology and Communication Seminar Prof. Kawakami, Assoc. Prof. Koizumi, Prof. Becker  
[STPs Course] Research project Prof. Kawakami  
[CB restricted] **Clinical Research Training I** Program-Specific Prof. S. Tanaka  
[CB restricted] **Clinical Research Training II** Program-Specific Prof. S. Tanaka  
[GC Restricted] **Genetic Counselling, Practice 1-2** Senior Lec. Kawasaki

Course number		P-PUB01 8H118 LB90					
Course title (and course title in English)	疫学 I (疫学入門) 【領域1】 Epidemiology I			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Shiga Medical University, Professor MIURA KATSUYUKI Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology SHIZAKI TATSURO Sizuoka Graduate University of Public Health (Sizuoka SPH) Professor TABARA YASUOHARU		
	Target year	Professional degree students	Number of credits		1	Year/semesters	2024/Intensive, First semester
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instructor	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
This course is one of the required classes of school of public health. Epidemiology is defined as follows: the study of the distribution and determinants of health-related states or events in specified population, and the application of this study to control of health problems. Epidemiology is regarded as the basis of public health / clinical research and evidence-based practice. This is a scientific discipline that explores the cause, risk factor, prognosis of disease, and related factors. The course comprises systematic lectures on principles and methodologies of epidemiology for beginners.							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understanding basis concepts and methodologies of epidemiology</li> <li>Being familiar with terminology of epidemiology.</li> <li>Being capable of applying epidemiologic methods for clinical practice, research and health policy.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
1 April 12 3rd What is "epidemiology"? An introduction (NAKAYAMA) 2 April 12 4th cohort study / case-control study (NAKAYAMA) 3 April 19 3rd intervention study (NAKAYAMA) 4 April 19 4th Follow-up study (NAKAYAMA) 5 April 26 3rd Epidemiological research, ethical guidelines and reporting guidelines (NAKAYAMA) 6 April 26 4th Topics in epidemiology: policy and big data (NAKAYAMA) 7 May 17 3rd geriatric epidemiology (ISHIZAKI) 8 May 17 4th special topic (NAKAYAMA)  Special lecture (MIURA, TABARA)							
<b>[Course requirements]</b>							
None							
Continue to 疫学 I (疫学入門) 【領域1】 (2) ↓ ↓ ↓							

疫学 I (疫学入門) 【領域1】 (2)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Final report (Cross-reading) 80%, short reports for each lecture 20%.	
<b>[Textbooks]</b>	
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Kawamura T 『Ebidensu wo tsukuru』 (Igaku shoin) Nakayama T & Tsutani K 『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu no tameno kokusai rurushu』 (Life science shuppan) Kosei Tokei Kyokai 『Zusetsu Kokumin Eisei no doko』 (Kosei Tokei Kyokai) Yano E & Hashimoto H 『Rothman no ekigaku』 (Shinohara shuppan shinsha) Rodolfo Saracci 『Yonde wakarui Ekigakunyumon』 (Taishukan shoten)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
We hope that students will understand the importance and characteristics of epidemiology that examines "human populations".	
This course is open to graduate students with the school of human health science.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H119 LB90					
Course title (and course title in English)	疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 Epidemiology II			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, YAMAMOTO YOSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor, OGAWA YUSUKE Part-time Lecturer, HIJIKATA YASUKAZU Part-time Lecturer, MISHINA HIROKI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, ITAYA TAKAHIRO		
	Target year	Professional degree students	Number of credits		1	Year/semesters	2024/The first half of first semester
Days and periods	Fri. 1,2	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instructor	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
※ Depending on the situation, this class may be offered online.							
The aim of this course is to learn core competency and practical skills in designing almost all types of projects in the field of SPH, except qualitative research.							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Convert vague questions to structured abstracts</li> <li>Learn the basic skills to conduct a study, based on the examples of previous studies</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
1) April 26 (1st period) Introduction, Designing research (Yamamoto) 2) May 10 (1st period) Structuring your research question (Ogawa) 3) May 10 (2nd period) Structuring your research question: Groupwork (Ogawa/Itaya/Yamamoto) 4) May 24 (1st period) Survey research (Yamamoto) 5) May 24 (2nd period) Survey research using questionnaires: an example (Mishina/Yamamoto)  6) June 14 (1st period) Meta-analysis and systematic review: an overview (Ogawa) 7) June 14 (2nd period) Diagnostic research and clinical prediction rule (Hijikata) 8) June 28 (1st period) Interrupted time series analysis (Itaya) 9) June 28 (2nd period) Current topics in recent clinical epidemiological studies (Ogawa/Itaya/Yamamoto)							
<b>[Course requirements]</b>							
MPH, MCR Required You need to had taken or take "Epidemiology I".							
Continue to 疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 (2) ↓ ↓ ↓							

疫学 II (研究デザイン) 【領域1】 (2)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Attendance 50%, Report 50%	
<b>[Textbooks]</b>	
Introduced during class	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation is not needed, but you should review it after class.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

Course number		P-PUB01 8H001 LJ90					
Course title (and course title in English)	医療統計学 (コア) 【領域2】			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor.KONDO NAOKI		
	Fundamentals of Biostatistics				Part-time Lecturer.SATO TOSIYA Graduate School of Medicine Program-Specific Professor.OMORI TAKASHI		
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2024/First semester		
Days and periods	Tue.2	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instructor	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
It is widely recognized that biostatistics are essential for the practice of and research on public health. However, biostatistics textbooks are filled with mathematical formulas and are difficult to understand. All but some enthusiasts shy away from them such textbooks. However, in reality, biostatistics is interesting! To show "biostatistics is interesting," we explain the concepts of biostatistics in plain language without broaching mathematical and technical details. Review materials provided. You may feel like you understand the content during the class, but to ensure that you do understand, it is important that you check your understanding repeatedly. If you do not understand something taught in previously, please ask questions.							
The course will be held online.							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Improvement of biostatistics allergy</li> <li>Better understanding of causality and control</li> <li>Learn typical designs for epidemiologic research and clinical trials</li> <li>Able to explain fundamental concepts of biostatistics on your own words</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
Session 1, April 9: The Importance of Control 【Media class】 Session 2, April 16: Helicobacter Pylori and Stomach Cancer 【Media class】 Session 3, April 23: Introduction to Epidemiologic Study Designs 【Media class】 Session 4, April 30: Postmarketing Clinical Trial for Osteoporosis Drug 【Media class】 Session 5, May 7: Introduction to Clinical Trial Designs 【Media class】 Session 6, May 14: Measures of Exposure and Treatment Effects 【Media class】 /Mini Test 1 Session 7, May 21: Concepts in Statistical Testing 【Media class】 Session 8, May 28: The Relationship Between Statistical Test and Confidence Interval 【Media class】 Session 9, June 4: The ASA statement on p values and "The world beyond P<0.05" 【Media class】 Session 10, June 11: Sample Sizes Calculations 【Media class】 /Mini Test 2 June 18, Kyoto University Foundinf Day Session 11, June 25: Validity of Epidemiologic Studies I 【Media class】 Session 12, July 2: Validity of Epidemiologic Studies II 【Media class】 Session 13, July 9: New Designs of Epidemiological Studies 【Media class】 Session 14, July 16: What is Confounding? 【Media class】 /Mini Test 3							
Continue to 医療統計学 (コア) 【領域2】 (2) ↓ ↓ ↓							

医療統計学 (コア) 【領域2】 (2)	
<b>[Course requirements]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>We do not accept students at the Human Health Science.</li> <li>Students must take the mini-test and submit a report, even if they are not seeking credit.</li> <li>Those who are not taking this course may not attend the second semester course titled "Methods of Adjusting for Confounding."</li> </ul>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Participation in the discussion session every week (40%), and three mini tests (60%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Class materials will be uploaded on Panda.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Sato T 『Space Phenom Shimarisu Learning Biostatistics』 (Iwanami Science Library 114) ISBN:978-4-00-007454-7 (In Japanese 宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ) Sato T 『Space Phenom Shimarisu Learning Statistical Tests』 (Iwanami Science Library 194) ISBN:978-4-00-29594-9 (In Japanese 宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻) Rothman KJ 『Epidemiology: An Introduction, 2nd ed.』 (Oxford University Press) ISBN:978-0-195-13554-1	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Do not forget to review previous sessions.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H070 LB90					
Course title (and course title in English)	感染症疫学 【領域3】			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor.NISHIURA HIROSHI		
	Infectious Disease Epidemiology						
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2024/Intensive, First semester		
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instructor	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
This module clearly explains fundamental concepts of infectious disease epidemiology and sets out the analytical methods employed in public health practice. The contents of the lecture series covers the concept/definition of various epidemiological measurements, assessment of the spread and control of infectious diseases using a variety of statistical methods, statistical estimation of key epidemiological indices, and introduces mathematical modeling of infectious diseases. This vast and important area of epidemiology is described in line with recent and ongoing health concerns such as HIV/AIDS, tuberculosis, malaria, dengue, SARS and influenza.							
<b>[Course objectives]</b>							
a. Explain two special characteristics of infectious diseases, b. Explain public health importance of asymptomatic infection c. Describe and classify various epidemiological risks of infection and death, d. Describe the concept of herd immunity and its importance in public health practice and epidemiologic exercise, e. Describe the concept of early detection of outbreak in a sense of hypothesis testing, f. Describe the fundamental concept and method of using historical baseline, g. Explain how each of the following methods detects an outbreak: regression method, time series technique and scan statistic							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
Each session takes 90 minutes in total. First 60 minutes are spent for unidirectional lecture. Remaining 30 minutes are split into two parts, i.e., 15 minutes in-class assessment and 15 minutes scoring session plus Q&A. 1. Introduction: mechanisms and epidemiological measurements of infectious diseases 2. Natural history of infectious diseases 3. Measuring transmissibility and severity: Concept and definition 4. Outbreak investigation (1): active surveillance data 5. Estimating prevalence: Unobservable nature of infection event 6. Vaccine efficacy: Addressing dependent happening 7. Outbreak investigation (2): notification data 8. Tutorial, followed by exam							
Continue to 感染症疫学 【領域3】 (2) ↓ ↓ ↓							

感染症疫学 【領域3】 (2)	
<b>[Course requirements]</b>	
Have a background with basics of epidemiology (e.g. MPH core curriculum)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Attendance to a total of two-thirds of classes will be required to be eligible for final examination. Evaluation is conducted by coursework (i.e. comprehension during the class) (30%) and examination (70%).	
<b>[Textbooks]</b>	
西浦博 (編) 『感染症疫学のためのデータ分析入門』 (金芳堂、2021) ISBN:978-4-7653-1882-2 (感染症疫学の入門書。本専門職学位課程での講義内容に準拠してまとめています。) No specific requirement of textbook to be brought to this module.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> 西浦博 (編) 『感染症流行を読み解く数理』 (日本評論社、2022) ISBN:978-4-535-78759-9 (感染症の流行データを数理的に検討したい方向け。)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
No specific preparation would be required. At the end of each session, we will have in-class assessment consisting of approximately 5-8 multiple choice questions.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number	P-PUB01 8H124 LB90				
Course title (and course title in English)	産業・環境衛生学 【領域3】 Occupational health and environmental health sciences	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,NISHIURA HIROSHI		
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2024/The first half of first semester
Days and periods	Thu.2	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instructor	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
An overview of modern environmental problems and industrial health will be given to provide the basis of the risk assessment of chemicals for human health.					
<b>[Course objectives]</b>					
To have an overview of modern environmental problems and industrial health					
To understand dose-response relationship, threshold, inter-species difference and basic toxicology					
To acquire skills for risk assessment					
To acquire skills to describe the regulatory strategy to minimize the toxic effects of chemicals					
To predict major metabolism processes for representative chemicals					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Please be informed that the first lecture in 2024 is 11 April from 10:30.					
Course Schedule 1 Guidance and general principle Environmental Health Sciences 2 Climate 3 Water pollution 4 Air pollution 5 Occupational health 6 Gene and environment 7 Examination 8 Additional topic					
<b>[Course requirements]</b>					
None					
Continue to 産業・環境衛生学 【領域3】 (2) ↓ ↓ ↓					

産業・環境衛生学 【領域3】 (2)
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Attendance and active participation in the lecture 50% Examination 50 %
<b>[Textbooks]</b>
Handouts
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Knowledge on chemistry is not necessarily required, but it is recommended to review it after class.
<b>[Other information (office hours, etc.)]</b>
"Occupational health and environmental health sciences", "Introduction to Toxicology", "Toxicology" and "On the Bench Training" are in series. Those who wish to take "Toxicology" and "On the Bench Training" should take "Occupational health and environmental health sciences".
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Course number	P-PUB01 8H127 LB90				
Course title (and course title in English)	社会健康医学と健康政策 【領域4】 Health Policy and Academia	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,SAOTOME CHIKAKO Graduate School of Medicine Professor,KONDO NAOKI Graduate School of Medicine Professor,NISHIURA HIROSHI Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI Center for Southeast Asian Studies Associate Professor,SAKAMOTO RYOUTA Graduate School of Medicine Associate Professor,IWAKUMA MIHO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAJIKAWA ARAN Graduate School of Medicine Professor,YAMAMOTO YOSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,HARADA KOUJI Graduate School of Medicine Professor,IWAMI TAKU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,TAKADA DAISUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,TANAKA SHIROU Graduate School of Medicine Professor,INOUE YUSUKE		
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2024/First semester
Days and periods	Thu.3	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instructor	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Students will learn about health and healthcare-related systems and policies, as well as the supporting roles of research, human resource development, and other specialized activities.					
Lectures will be conducted by each of the departments in the School of Public Health based on their individual perspectives, insight, achievements, and research. The lectures will address the systems, policies, and social structures associated with health and health care. In addition, the lectures will examine the contributions of research, human resource development, and other specialized activities that support these systems, policies, and social structures.					
Continue to 社会健康医学と健康政策 【領域4】 (2) ↓ ↓ ↓					

社会健康医学と健康政策 【領域4】 (2)
<b>[Course objectives]</b>
Through all the lectures provided by the various departments, students will gain a multifaceted and comprehensive understanding of the systems and policies pertaining to health and health care.
<b>[Course schedule and contents]</b>
April 11 Public Health and Health Policy: Overview(Imanaka) April 18 Health policy : theory, research and reality(Imanaka) April 25 Evidence and its uncertainty(Tanaka) May 9 Public Health and Intellectual Property(Saotome) May 16 Policy actions for health equity(Kondo) May 23 Epidemiology of COVID-19(Nishiura) May 30 Preventive measures for adults : specific health guidance and cancer screening(Nakayama) June 6 Infectious disease research and ethics review(Inoue) June 13 Field-based Health Policy(Sakamoto) June 20 Infant and school health check-up for individual and health policy development(Kawakami) June 27 Health communication and health policy(Iwakuma) July 04 Community and Public Health(Imanaka) July 11 Public Health and Preventive Measures against Sudden Cardiac Death July 18 QOL evaluation and health policy(Yamamoto) July 25 Global mental health(Tajika) Aug 1 System and policy in environmental health in Japan(Harada)
Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.
<b>[Course requirements]</b>
This course is only open to Students in School of Public Health. Attendance rate 80% or more.
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
The grade will be based mainly on active participation in the class (60%) and reports (40%).
<b>[Textbooks]</b>
Reading materials will be distributed as needed.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books) Reading materials will be distributed as needed. 『NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版』(編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂, 2018.
Continue to 社会健康医学と健康政策 【領域4】 (3) ↓ ↓ ↓

社会健康医学と健康政策 【領域4】 (3)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Both good preparation and review are needed.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
This course is jointly conducted by the entire School of Public Health. *Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H109 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	医薬政策・行政 【領域4】 Drug Policy and Regulation		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI, KOJI	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2024/The first half of second semester
<b>Days and periods</b>	Wed.2	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Director and Instructors: (Director) Koji Kawakami (Professor, Pharmacoepidemiology), Hiroaki Mamiya (International University of Health and Welfare),Yasuhiro Nishijima (MHLW) , Keisuke Matsubayashi (Suita city)					
The policy and regulatory systems in Japan, EU, and the US involving healthcare, safety, science, food safety, and industry will be discussed.					
<b>[Course objectives]</b>					
To understand the ideas of drug/medical device/food policy and regulations; medical industrialization and translational research policy.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Lecture schedule : October 2 Drug policy and regulations (Kawakami) October 9 Drug regulation in the United states (Kawakami) October 16 Policy and development of medical devices (Kawakami) October 23 Health insurance system and coverage of pharmaceuticals (Matsubayashi) October 30 Drug regulation in Japan (Mamiya) November 6 Food safety regulations (Nisijima)					
<b>[Course requirements]</b>					
You must take this course along with the course H079 "Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences" otherwise the entire grasp of the drug research, development, and regulations will not be achieved.					
Continue to 医薬政策・行政 【領域4】 (2) ↓ ↓ ↓					

医薬政策・行政 【領域4】 (2)
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Participation (50%) and report (50%)
<b>[Textbooks]</b>
Not used
<b>[References, etc.]</b>
<b>(Reference books)</b> Saeko Yasuo et al. 『Invitation to new drug development.』 (Kyoritsu Press, 2006) Koji Kawakami, Hisashi Urushihara, Shiro Tanaka et al. ed. 『Strom's Textbook of Pharmacoepidemiology』 (NANZANDO Co.,Ltd., 2019.) Introduced during class
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Preparation in advance and review after lecture
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
Koji Kawakami (3F, Bldg G) appointment required by email. e-mail: kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp intermediate *Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H126 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	保健・医療の経済評価 【領域4】 Economic Evaluation in Health Care		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,GOTO ETSU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,TAKADA DAISUKE	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2024/The first half of first semester
<b>Days and periods</b>	Wed.4	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Lectures will address the theories and frameworks that support economic evaluations in health care, and students will learn the major research methods used in evaluating healthcare-related economic performance.</li> <li>Economic evaluations of health care are usually conducted under practical constraints, and students will learn the approaches to conducting research under these conditions.</li> <li>This course will examine economic evaluations in a wide range of healthcare-related topics.</li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students will be able to explain key issues in the theories, frameworks, and research methods that support economic evaluations in health care.</li> <li>Students will understand the possible biases associated with research involving economic evaluations of health care.</li> <li>Economic evaluations are conducted on various aspects of health care, including treatment techniques, pharmaceuticals, medical supplies, medical examinations, and health policy programs. Students will understand and be able to explain the differences and respective applications of the main research methods used in these evaluations, including cost analyses, cost-effectiveness analyses, cost-utility analyses, and cost-benefit analyses. Students will also learn the core concepts of cost calculations and outcome measurements, time-based concepts, discount rates, sensitivity analyses, incremental cost-effectiveness ratios, and the appropriate interpretation of analytical results.</li> <li>Based on the above, students will be able to conduct critical reviews of research articles in this field and explain their significance. Students will also be able to apply their acquired knowledge and techniques when developing research protocols and conducting research.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>April 10 Evaluating the economic performance of health care 1</li> <li>April 17 Evaluating the economic performance of health care 2</li> <li>April 24 Economic evaluation methods in health care</li> </ol>					
Continue to 保健・医療の経済評価 【領域4】 (2) ↓ ↓ ↓					

保健・医療の経済評価 【領域4】(2)	
4. May 1 Modeling in economic evaluations 5. May 8 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 1 6. May 15 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 2 7. May 22 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 1 8. May 29 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 2 Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.	
<b>[Course requirements]</b>	
This course is only open to Students in School of Public Health who are not involved in MCR course. Students in School of Human Health Sciences cannot apply for this course. Attendance rate 80% or more.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
The grade will be based mainly on active participation in the class (40%) and reports (60%).	
<b>[Textbooks]</b>	
Reading materials will be distributed as needed	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> ・ Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 4th Ed. Oxford, 2015. ・ Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001. ・ 医療制度・医療政策・医療経済 (丸善出版,2013) ・ Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media) ・ 「NEW字初医学・公衆衛生学 改訂第4版」(編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂, 2018.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Both good preparation and review are needed.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
・ Places available for students without former experiences of studying economics. ・ Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. ( <a href="http://med-econ.umin.ac.jp/int/">http://med-econ.umin.ac.jp/int/</a> )	
Note: Topics related to process and outcome measures, clinical practice variation, healthcare evaluations and	
Continue to 保健・医療の経済評価 【領域4】(3) ↓ ↓ ↓	

保健・医療の経済評価 【領域4】(3)	
assessments, hospital functional assessments, and healthcare quality & safety are included in the course "Evaluation of Quality in Health Care" (Wed.3, the last half of first semester). If you would like to learn about these topics, consider to apply for this course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H075 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	行動科学 【領域5】 Behavioral Science		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor,TAJIKI ARAN	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2024/The first half of first semester
<b>Days and periods</b>	Tue.1	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
I. Course Description This course will introduce outlines of representative behavior theories/concepts, with particular focus on those which have demonstrated effectiveness in practices.					
II. Methods of Instruction Lecture, group discussion, and report					
<b>[Course objectives]</b>					
・ To be able to explain the outlines of representative behavioral theories. ・ To be able to apply behavioral theories in the areas in which the participants are interested.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
April 9 Introduction, Health belief model April 16 Transtheoretical model, Theory of planned behavior April 23 Social Cognitive Theory April 30 Stress and coping May 7 Cognitive-behavioral model, Cognitive behavioral therapy May 14 Motivational interviewing May 21 Overview May 28 (Reserve day)					
<b>[Course requirements]</b>					
MPH Elective but Required					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Participation 50 %, Report 50 % (To get credit 60% in total will be required)					
Continue to 行動科学 【領域5】(2) ↓ ↓ ↓					

行動科学 【領域5】(2)	
<b>[Textbooks]</b>	
lecture materials	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Required text: None.  Suggested reading: ・ Glanz et al. Health behavior and health education-theory, research and practice 4th edition, Jossey-Bass, San Francisco, 2008 ・ Matsumoto et al. Basics of health behavior theories for medical and welfare personnel. (医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎)、医歯薬出版、2002	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Review lessons.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
The class is open to students from Graduate School of Human Health Science.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	



Course number		P-PUB01 8H076 LB90					
Course title (and course title in English)	基礎医療倫理学 【領域5】 Basic Medical Ethics			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Medicine Professor,INOUE YUSUKE	
	Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2024/The first half of first semester	
Days and periods	Thu.5	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Language of instructor	Japanese and English	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
[Basic information] Class date and time: 5th period of Thursday (The first half of the first semester) Classroom: Building G, 3rd Floor, Seminar room. Online classes may be conducted depending on circumstances. Level: Basic Staff in charge: Yusuke Inoue, Hidenori Kawasaki, Masanobu Ogawa, Akiko Yoshida, Norihito Wada, Sayaka Takenouchi							
[Course overview] This course is aimed to study ethical points of view for practice and research of healthcare.							
<b>[Course objectives]</b>							
Able to explain major theories for healthcare ethics. Able to write documents for one's research appropriately for the purpose of evaluation at ethics committee. Able to explain ethical problems on healthcare of children and patients on terminal stage, and research on genetics.							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
[1st lecture] 4/18 [Inoue] Healthcare ethics [2nd lecture] 4/25 [Inoue] Research ethics [3rd lecture] 5/2 [Kawasaki] History of bioethics [4th lecture] 5/9 [Ogawa] Ethics for Obstetrics and gynecology [5th lecture] 5/16 [Yoshida] Ethics for genetic counseling [6th lecture] 5/23 [Wada] Ethics for neonates and children [7th lecture] 6/6 [Takenouchi] Ethics for terminal care [8th lecture] 6/20 [Inoue] Ethics Review Board							
<b>[Course requirements]</b>							
None							
Continue to 基礎医療倫理学 【領域5】 (2) ↓ ↓ ↓							

基礎医療倫理学 【領域5】 (2)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
General attitude (including attendance): 40% Report: 60%	
<b>[Textbooks]</b>	
Instructed during class	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Report deadline • Middle report: 5/31 • Final report: 6/30 (Caution) Report submission destination: yinoue-kyt@umin.ac.jp We will not send you a receipt confirmation email.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H077 LB90					
Course title (and course title in English)	医学コミュニケーション・基礎 【領域5】 Medical Communication: Introduction			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Medicine Associate Professor,IWAKUMA MIHO	
	Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2024/The first half of first semester	
Days and periods	Tue.5	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Language of instructor	Japanese and English	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
I. Course Description The course provides an introduction to medical/health communication, both its theoretical frameworks and applications, for those from diverse interests, backgrounds, and/or disciplines. The course covers basics of medical/health communication, with an emphasis on non-verbal communication.							
<b>[Course objectives]</b>							
II. Course Goals and Objectives Understanding frameworks, theories, and concepts that are relevant to medical/health communication Understanding health communication from a micro to macro level Understanding roles and significances of non-verbal communication in the field of health communication Understanding communication with parents of sick children at hospitals Understanding the history of media and media theories. be able to write a research proposal/abstract							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
1) 4/9 Introduction: intra-personal communication to international communication 2) 4/16 What's "communication" anyway? 3) 4/23 Communication studies in health fields 4) 4/30 "Nuts and bolts" of communication studies: verbal, non-verbal, and channel 5) 5/7 Many "times & spaces" : non-verbal communication, continued 6) 5/14 Guest lecture on communicating with parents of sick children (Emiko Takaya @ Kyoto University Hospital "Nicotoma") 7) 5/21 the media, risks, and health communication 7) 5/28 Course wrap-up: medicine and culture							
<b>[Course requirements]</b>							
None							
Continue to 医学コミュニケーション・基礎 【領域5】 (2) ↓ ↓ ↓							

医学コミュニケーション・基礎 【領域5】 (2)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Course Grade In-class participation 40% in-class quizz 10% Term paper 50% ("one-word declaration" 5% + title of the paper 10% + final version 35%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
students are recommended to read readings of communication studies that are related to his or her interests. Several English research papers are required to read for the class discussion.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Message This instructor differentiates "health communication," which is mainly interested in doctor-patient communication, from "medical communication" with a broader, sociological focus; therefore, it is recommended that when interested in the aforementioned doctor-patient communication, s/he take other SPH classes. Suitable for students who are interested in social science perspectives in medicine and science Consult with me ASAP for any disability-related accommodation @ mhiwakuma@yahoo.co.jp or ext. 4668. A guest lecture is given in Japanese w/ English handouts. The class contents are subject to change.	
* The course is delivered in-class only.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

Course number		P-PUB01 8H157 LB90				
Course title (and course title in English)	社会疫学【領域5】 Social epidemiology		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KONDO NAOKI		
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Year/semesters
Days and periods	Mon.3	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instructor	Japanese and English	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
In addition to the high-risk approach to individuals at high risk of illness/diseases, the population approach to improving the social environment has become a major trend in public health. In the population approach, it is necessary to consider the differences in the social background of individuals and the resulting health inequalities. By formulating a strategy based on health inequalities, further effects and efficient resource utilization can be expected.						
This course will teach the basic theories and analytical methods of social epidemiology necessary for such activities. Social epidemiology is a field of epidemiology that describes the social distribution of health events and explores the role of the social environment and social systems as disease risk factors/health promotion factors. Social epidemiology also develops methods to reduce health inequalities and assesses their effectiveness. By doing this, we aim to contribute to the realization of a healthy society in which no one is left behind.						
After the lectures on the main themes by Prof. Naoki Kondo, Leading experts in the field provide the lectures on their specific topics.						
<b>[Course objectives]</b>						
1. Understand the perspective of social epidemiology. 2. Understand the types, evaluation methods, and actual conditions of the main social determinants of health. 3. Understand the related theories of relevant disciplines such as sociology, economics, ethics, behavioral science, and social psychology. 4. Understand the basics of health inequalities assessment methods 5. Understand the basics of how to control health inequalities 6. Have your own awareness and opinion on public health actions and clinical application of social epidemiology.						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
The following schedule is subject to change.						
1. 4/11 An introduction of social epidemiology 2. 4/18 Socio-economic status 3. 4/25 Poverty and social exclusion 4. 5/2 Social disparity 5. 5/19 Cognitive science and political philosophy of inequality						
Continue to 社会疫学【領域5】(2) ↓ ↓ ↓						

<b>社会疫学【領域5】(2)</b>					
6. 5/16 Social relationships (Daisuke Takagi, the University of Tokyo) 7. 5/20 Lifecourse epidemiology (Takeo Fujiwara, Tokyo Medical and Dental University)					
8. 5/23 Social capital 9. 5/30 Gender (Kaori Honjo, Osaka Medical and Pharmaceutical University)					
10.6/13 Measurement of health inequalities (Maho Haseda) 11.6/20 Multiple level phenomenon understanding and data analysis 12.6/27 Construction environment (Daisuke Takagi, the University of Tokyo) 13.7/4 Managing health inequalities: Approaching the community 14.7/25 Managing health inequalities: Applications of behavioral science 15.8/1 Review & feedback					
<b>[Course requirements]</b>					
None					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Attendance / lecture quiz 40%, report 60%					
Report assignments will be presented during the course.					
About the report: * Up to 2 pages(A4). * Deadline: Noon one week after each lecture day * Specify the assignment name, student ID number, and submission date. * When quoting data, phrases, etc., be sure to indicate the source of them. The list of cited materials should be listed at the end. Copying and pasting long sentences from the Internet is prohibited (for charts and data, it is possible to specify the citation source).					
<b>[Textbooks]</b>					
川上憲人・橋本英樹・近藤尚己 (編著) 『社会と健康: 健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ』 (東大出版会, 2015) ISBN:978-4-13-060411-6 (In Japanese) Reading the relevant chapters in this textbook before each lecture is recommended. Non-Japanese speakers may read alternative materials such as "Social Epidemiology 2nd edition(Oxford)" or relevant review papers, searching PubMed.					
<b>[References, etc.]</b>					
<b>(Reference books)</b> Lisa F. Berkman, Ichiro Kawachi, and M. Maria Glymour 『Social Epidemiology 2nd Edition』 (Oxford, 2014) ISBN:9780195377903					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>					
Reading course materials before the class is recommended.					
Continue to 社会疫学【領域5】(3) ↓ ↓ ↓					

<b>社会疫学【領域5】(3)</b>					
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

Course number		P-PUB01 2H153 LJ87				
Course title (and course title in English)	医学基礎 I「解剖学」 Basic Medicine I (Anatomy)		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KONDO NAOKI Graduate School of Medicine Professor, YAMADA SHIGEHITO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, HONDA YUKIKO		
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Year/semesters
Days and periods	Wed.3.4	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instructor	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
The human body is composed of various cells, tissues, and organs that work together to function as a single organism. This course is designed to provide a comprehensive understanding of the structure and function of the human body, with special emphasis on "diseases" caused by structural and functional abnormalities. While stimulating the intellectual curiosity of the student, the course will also include relevant information useful in clinical practice.						
<b>[Course objectives]</b>						
Understand the basic structure and function of the human body.  Be able to explain anatomically the pathogenesis of diseases caused by abnormalities.						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
1. (4/10) Chapter1 Introduction to the Body; Chapter2 Chemistry of Life (Prof.Yamada) 2. (4/10) Chapter3 Cells; Chapter4 Tissues (Prof.Yamada) 3. (4/17) Chapter5 Organ Systems; Chapter6 Skin and Membranes (Prof.Yamada) 4. (4/17) Chapter7 Skeletal System (Prof.Yamada) 5. (4/24) Chapter8 Muscular System (Prof.Yamada) 6. (4/24) Chapter9 Nervous System (Prof.Yamada) 7. (5/1) Chapter9 Nervous System (Prof.Yamada) 8. (5/1) Chapter10 Senses; Chapter11 Endocrine System (Prof.Yamada) 9. (5/8) Chapter12 Blood; Chapter13 Cardiovascular System (Prof.Yamada) 10. (5/8) Chapter13 Cardiovascular System (cont'd) (Prof.Yamada) 11. (5/15) Chapter14 Lymphatic System and Immunity; Chapter15 Respiratory System (Prof.Yamada) 12. (5/15) Chapter16 Digestive System (Prof.Yamada) 13. (5/22) Chapter18 Urinary System; Chapter21 Reproductive System (Prof.Yamada) 14. (5/22) Chapter22 Growth, Development, and Aging (Prof.Yamada)						
<b>[Course requirements]</b>						
None						
Continue to 医学基礎 I「解剖学」(2) ↓ ↓ ↓						

医学基礎 I 「解剖学」(2)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
30% is evaluated from active engagement and comprehension in the lecture room (via Q&A and presentation) and remaining 70% is assessed by assigned reports	
<b>[Textbooks]</b>	
K.T.Patton, G.A. Thibodeau 「Structure & Function of the Body, 16th ed., Paperback」 (ELSEVIER) ISBN:978-0323597791 (We will be using the latest version of the textbook, the November 2019 edition.)	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Gray's Anatomy: The Original 3rd Edition" by Kohei Shioda (Elsevier Japan) ISBN: 978-4860343064  This book is recommended for reference as needed. Due to its weight, it is not necessary to bring it to every lecture. However, it is essential for anatomy practical sessions.  Introduction to Human Anatomy: Revised 5th Edition" by Tsuneko Fujita (Nankodo) ISBN: 978-4-524-24237-5  This book is suitable for reference when English becomes challenging.	
<b>(Related URLs)</b>	
<a href="https://evolve.elsevier.com/cs/">https://evolve.elsevier.com/cs/</a> (教科書を購入すると、ウェブサイトへのアクセス方法が入手できます。)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
It is recommended that students read the textbook before the lecture.  After the lecture, students are expected to review the lecture material by completing the exercises provided in the appendix.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
The textbook will be used from the first class, so please purchase and bring the textbook.  Students attending from School of Public Health should contact Education Committee (sphkyoumu@gmail.com) for any queries and evaluation  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

医学基礎 I 「生理学 I」(2)	
by Takao Okada, Atsuko Suzuki and Makino Watanabe (Igaku Shoin)	
Slides and handouts will also be used.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> 978-4-260-05318-1 "<<" Hyoujun Rigaku Ryouhou Gaku/Sagyoyou Gaku Senmon Kiso Bunya" >> Seirigaku (Standard Physical Therapy/Occupational Therapy Specialized Basic Field)>> Physiology" edited by Takao Okada, Atsuko Suzuki and Makino Watanabe (Igaku Shoin)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Please review each of the points indicated on the handout to make sure you understand them.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
This lecture requires preparation and review.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 2H154 LJ87			
<b>Course title (and course title in English)</b>	医学基礎 I 「生理学 I」 Basic Medicine I (Physiology I)	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, KONDO NAOKI Graduate School of Medicine Professor, MIDORIKAWA MITSU HARU Graduate School of Medicine Professor, WATANABE DAI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, HONDA YUKIKO		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/The first half of first semester
<b>Days and periods</b>	Mon.3,4	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Students will acquire the specialized basic knowledge of human body functions required for those involved in medical care. In this lecture, students will learn about the mechanisms and functions of functional systems such as the nervous system, blood, circulation, and respiration. Students will deepen their understanding of human body functions by searching for and discussing the contents of each lesson on their own, to acquire the physiological background necessary to be a member of a team of medical professionals.					
<b>[Course objectives]</b>					
To be able to make correct decisions as a professional when faced with problems in the medical field, basic knowledge of human body functions is necessary as a foundation. This lecture will help students acquire this knowledge.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
2024.04.8 1st and 2nd: Peripheral and central nervous system(Prof. Midorikawa) 2024.04.15 3rd and 4th: Generation of neural excitation and its conduction and transmission(Prof. Watanabe) 2024.04.22 5th and 6th: Sense(Prof. Midorikawa) 2024.05.02 7th and 8th: Muscles and Bones (Prof. Midorikawa) 2024.05.13 9th and 10th: Blood (Prof. Midorikawa) 2024.05.20 11th and 12th: Heart and Circulation (Prof. Midorikawa) 2024.05.27 13th and 14th: Breathing and Gas Transportation (Prof. Midorikawa) (To be determined) 15th and 16th: Test/Learning achievement evaluation/Feedback (Prof. Midorikawa)					
<b>[Course requirements]</b>					
None					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
30% is evaluated from active engagement and comprehension in the lecture room (via Q&A and presentation) and remaining 70% is assessed by assigned reports					
<b>[Textbooks]</b>					
978-4-260-05318-1 "<<" Hyoujun Rigaku Ryouhou Gaku/Sagyoyou Gaku Senmon Kiso Bunya" >> Seirigaku (Standard Physical Therapy/Occupational Therapy Specialized Basic Field)>> Physiology" edited by Takao Okada, Atsuko Suzuki and Makino Watanabe (Igaku Shoin)					
Continue to 医学基礎 I 「生理学 I」(2) ↓ ↓ ↓					

Course number		P-PUB01 2H163 LJ87			
<b>Course title (and course title in English)</b>	医学基礎 I 「神経生理学」 Basic Medicine I (Neurophysiology)	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, KONDO NAOKI Graduate School of Medicine Professor, MIDORIKAWA MITSU HARU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, HONDA YUKIKO		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/The second half of second semester
<b>Days and periods</b>	Wed.1,2	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Students will learn about the structure and function of the nervous system, which is one of the human body functions necessary for those involved in medical care and will expand on the contents learned in Physiology I and II. The aim is for students to deepen their understanding of the nervous system by searching and considering the content of each class on their own, and to acquire advanced knowledge of neurological functions that will be useful as medical professionals.					
<b>[Course objectives]</b>					
Students will acquire advanced knowledge about the human nervous system that will be useful in enabling them to make correct decisions as medical professionals when faced with problems in the medical field.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
2024.11.27 1st and 2nd: Resting membrane potential and action potential (Prof. Midorikawa) 2024.12.04 3rd and 4th: Synaptic transmission (Prof. Midorikawa) 2024.12.11 5th and 6th: Vision (Prof. Midorikawa) 2024.12.18 7th and 8th: Hearing/Balance (Prof. Midorikawa) 2024.12.25 9th and 10th: Somatosensation, chemical senses (Prof. Midorikawa) 2025.01.8 11th and 12th: Memory, learning, and synaptic plasticity (Prof. Midorikawa) 2025.01.22 13th and 14th: Brain wiring, critical period, and research methods (Prof. Midorikawa) (To be determined) 15th and 16th: Test/Learning achievement evaluation/Feedback (Prof. Midorikawa)					
<b>[Course requirements]</b>					
This subject is for students under the curriculum from academic year 2021 onwards. (*For students under the 2017-2020 curriculum, please register for "Neurophysiology I".)					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
30% is evaluated from active engagement and comprehension in the lecture room (via Q&A and presentation) and remaining 70% is assessed by assigned reports					
Continue to 医学基礎 I 「神経生理学」(2) ↓ ↓ ↓					

医学基礎 I 「神経生理学」 (2)	
<b>[Textbooks]</b>	
Slides and handouts will be used in this class.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
"Shinkei Kagaku #8211 Nou no Tankyu (Kaitei Ban)" (Neuroscience: Exploring the Brain (Revised Edition))" (Nishimura Shoten) ISBN: 978-4-86706-018-6	
"Stanford Neurobiology" (Medical Science International) ISBN: 978-4-89592-888-5	
978-4-260-05318-1 "<<" Hyoujun Rigaku Ryouhou Gaku/Sagyo Ryouhou Gaku Senmon Kiso Bunya" >> Seirigaku (Standard Physical Therapy/Occupational Therapy Specialized Basic Field)>> Physiology" (Igaku Shoin)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Please review the content of the handout and make sure you understand it.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
In this class, the details of the central nervous system will be explained, which was only briefly introduced in "Physiology I and II" classes. It is highly recommended to take this course for students who are interested in how the neural circuits in the brain work.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H164 LJ90				
Course title (and course title in English)	医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」 Basic Medicine I (Introduction to Human Genetics)		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor, OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TORISHIMA MASAOKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO		
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Year/semesters
Days and periods	水3・その他開講日注記	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
[Basic information]						
Class date and time: 3rd period on Wednesdays (there may be exceptions)						
Classroom: Building G, 3rd floor, Seminar room						
Level: Basic						
Staff in charge: Shinji Kosugi, Takahito Wada, Ken Nakajima, Takahiro Yamada						
[Course overview]						
Lectures about the most basic matters for those who intend to work as genetic counselors or in the field of medical genetics/genetic medicine. It is also important for tailor-made treatment based on genetic information expected in the future. This course is composed of systematic lectures about cytogenetics, molecular genetics, Mendelian genetics, non-Mendelian genetics, and population genetics.						
<b>[Course objectives]</b>						
Having a complete understanding of the basics of human genetics and being able to explain it to non-specialists in a concise manner.						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
[1st lecture] 4/13 [Wada 1] General Theory of Mendelian Genetics and How to Draw Family Trees: The concept of Mendelian and non-Mendelian genetics, autosomes and sex chromosomes, the concept of alleles, the concept of hereditary diseases, and how to draw family trees.						
[2nd lecture] 4/13 4th period [Kosugi 1] Autosomal Dominant/Recessive Inheritance: The concepts of autosomal dominant diseases, their characteristics, penetrance, expressiveness, hereditary and de novo mutation, and anticipation (next-generation expression promotion phenomena); the concept and characteristics of autosomal recessive diseases; and the concept of carriers.						
[3rd lecture] 4/13 5th period [Kosugi 2] X-linked inheritance: The concept of X-linked inheritance, the specificities of the X and Y chromosomes, gender determination mechanisms, and specific diseases that show X-linked inheritance.						
[4th lecture] 4/13 6th period [Yamada 1] Cytogenetics (1) Chromosome and cell division, chromosome analysis by banding, method of karyotyping chromosomes, and an introduction to chromosome abnormalities.						
[5th lecture] 4/20 (First clinical auditorium) [Kosugi 3] Pharmacogenetics: Understanding the basics of pharmacogenetics/pharmacogenomics, the most important area of (already-starting) tailor-made treatment.						
Continue to 医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」 (2) ↓ ↓ ↓						

医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」 (2)	
[6th lecture] 4/20 5th period [Yamada 2] Cytogenetics (2) The concept of chromosome numerical abnormality and generation mechanisms; the concept of chromosomal structural abnormality and generation mechanisms; and the concept of carriers and effects on the next generation.	
[7th lecture] 4/27 6th period [Wada 2] Estimation of genetic risks: Learn about estimation recurrence and Bayes' theorem.	
[8th lecture] 5/11 [Nakajima 1] Genetic testing (1) PCR, Sequencing and Southern blotting.	
[9th lecture] 5/18 [Kosugi] Genetic testing (2) How to screen for mutations, mutations and polymorphisms, and types of mutations.	
[10th lecture] 5/25 [Wada 3] Multifactorial inheritance and population genetics: Learn about the concept of multifactorial inheritance, quantitative and qualitative traits, and the Hardy-Weinberg principle.	
[11th lecture] 6/1 [Yamada 3] The Basics of the Human Genome: Learn about human genome information, including gene structure, functions, and genetic diversity in detail.	
[12th lecture] 6/8 [Wada 4] Non-Mendelian Genetics (1) Learn about mitochondrial inheritance.	
[13th lecture] 6/15 [Nakajima 3] The Basics of Tumor Genetics: Somatic cell variants and germline variants, oncogene and anti-oncogene, and hereditary cancer syndrome.	
[14th lecture] 6/22 [Wada 5] Non-Mendelian Genetics (2) Learn about epigenetics.	
[15th lecture] 6/29 [Yamada 4] The Basics of Molecular Genetics: PCR, next generation sequencing, and microarray.	
7/6 Written test	
7/27 Retest Written test	
<b>[Course requirements]</b>	
Compulsory subject for first-year students, graduating from non-medical college/university, in the Genetic Counselor Course	
Caution; students, graduating from medical college/university, should take "Introduction to Human Genetics"	
If taken as an elective, we recommend taking it along with "Genetic Medicine and Ethics/Society"	
Availability for students majoring in Human Health Sciences: Contact us in advance	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation of tests, reports, presentations, attendance, and other activities.	
<b>[Textbooks]</b>	
Thompson & Thompson Genetics in Medicine (2nd Ed.) (Medical Science International) ISBN: 978-4-89592-875-5, April 2017, Edited by Yoshimitsu Fukuyama	
Genetic Counseling Manual (Revised 3rd Edition) (Nankodo) ISBN:978-4-524-26667-8	
Rinsyo Idenn Senmonni Text 1 Rinsyo Idengaku Soron (Shindan to Chiryō sya) ISBN: 978-4787823670	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Norio Niikawa	
Continue to 医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」 (3) ↓ ↓ ↓	

医学基礎 I 「基礎人類遺伝学」 (3)	
Iden Igaku e no Shotai (Revised 6th Edition) (Nankodo) ISBN:978-4-524-24931-2,	
<b>(Related URLs)</b>	
<a href="http://www.geneclinics.org/">http://www.geneclinics.org/</a> (GeneReviews)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Instructions will be given accordingly	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
The lecture schedule, lecturers, and content are subject to minor changes	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H007 LB87					
<b>Course title (and course title in English)</b>	医学基礎 II Basic Medicine II		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, KONDO NAOKI Graduate School of Medicine Professor, ONO KOH Kyoto University Hospital Associate Professor, KATO TAKAO Kyoto University Hospital Assistant Professor, SHIOMI HIROKI Kyoto Okamoto Memorial Hospital KAWATA MITSUHIRO Kyoto University Hospital Assistant Professor, YAMAJI KYOHEI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, HONDA YUKIKO			
	<b>Target year</b>	Professional degree students		<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester
<b>Days and periods</b>	Thu.2	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)		<b>Language of instruction</b>	Japanese and English	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
Director and Instructors: Koh Ono( Professor, Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine) Takao Kato(Associate Professor iACT, Kyoto University Hospital) Kyohei Yamaji(Assistant Professor, Cardiovascular Medicine, Kyoto University Hospital) Hiroki Shiomi(Assistant Professor, Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University) Mitsuhiro Kawata(Senior Advisor, Kyoto Okamoto Memorial Hospital・Emeritus Professor, Kyoto Prefectural University of Medicine)							
This course introduces the basics of human anatomy, physiology, endocrinology, biochemistry, immunology as a basis for the understanding of human diseases. To understand human body, practice to observe human skeleton and brains will be scheduled.							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>To understand the basics of circulatory system</li> <li>To understand the basics of the structure and function of skeletal, muscular, and nervous systems with their some disorders</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
Course Schedule (*Schedule may be changed) #1 October 3Circulatory system (Introduction) #2 October 10 Circulatory system 1 (valvular heart disease, congenital heart disease, and vascular disease) #3 October 17Circulatory system 2 (ischemic heart disease and emergency medicine) #4 October 24 Circulatory system 3 (hypertension and arrhythmia)							
Continue to 医学基礎 II(2) ↓↓↓							

<b>医学基礎 II(2)</b>	
#5 October 31 Skeletal system 1 (bone/cartilage histology and axial skeleton) #6 November 7Skeletal system 2 (upper and lower limb skeletons, joints) #7 November 14 Muscular system 1 (muscle histology and movements) #8 November 28 Muscular system 2 (upper and lower limb muscles, torso muscles) #9 December 5Nervous system 1 (history of neuroscience, neuronal structure and function) #10 December 12 Nervous system 2 ( structure and function of cerebral cortexobservation of brain and spinal cord, schedule is tentative) #11 December 19 Nervous system 3 (structure and function of cerebral cortex, each lobe of the brain) #12 December 26 Nervous system 4(structure and function of basal ganglia, limbic system, diencephalon) #13 January 9Nervous system 5 (structure and function of brainstem and spinal cord) #14 January 16 Nervous system 6 (structure and function of peripheral nerves, autonomic nervous system, blood supply ) #15 January 23 Nervous system 7 (pathophysiology of diseases of nervous system) and review)  #1 Dr. Shiomi, #2 Dr. Kato, #3 Dr. Yamaji, #4: Dr. Ono, #5 through #15: Professor Kawata	
<b>[Course requirements]</b>	
Second Semester, Required for students without medical background	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
30% is evaluated from active engagement and comprehension in the lecture room (via Q&A and presentation) and remaining 70% is assessed by assigned reports	
<b>[Textbooks]</b>	
カラーで学ぶ解剖生理学 (第2版) * (コメディカルサポート研究会) メディカル・サイエンス・インターナショナル (ELSEVIER) 2017 * Audio Chapter Summaries in English are available at the site of evolve.elsevier.com/PattonThibodeau/human body 神経科学 脳の探求 改訂版 マーク・F・ベアー(著),バリー・W・コノーズ(著),マイケル・A・ブラディーン(著),藤井聡(監修,翻訳) 西村書店 2021	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
(Reference books)	
Suggested readings: ・カンデル神経科学 第2版 宮下保司(監修), Eric R. Kandel・John D. Koester・Sarah H. Mack・Steven A. Siegelbaum(編集) メディカルサイエンスインターナショナル 2022・人体の正常構造と機能(改訂第3版)全10巻縮刷版、日本医事新報社、2017 ・プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版、医学書院、2014 ・病気が見える vol.2 循環器 医療情報科学研究所 2017	
Continue to 医学基礎 II(3) ↓↓↓	

<b>医学基礎 II(3)</b>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation in advance and review after lecture	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
※The class is open to students from Graduate School of Human Health Science.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H008 LB87					
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床医学概論 Introduction to Clinical Medicine		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, KONDO NAOKI  Part-time Lecturer, CHIBA TSUTOMU Kyoto University Hospital Assistant Professor, NISHIGORI TATSUTO  Part-time Lecturer, IWASAKU MASAHIRO Kyoto University Hospital Program-Specific Senior Lecturer, HOSHINO NOBUAKI Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, TAKADA DAIJUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, HONDA YUKIKO			
	<b>Target year</b>	Professional degree students		<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester
<b>Days and periods</b>	Wed.4	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)		<b>Language of instruction</b>	Japanese and English	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
Instructors: Daisuke Takada (Assistant Professor, Department of Healthcare Economics and Quality Management, Kyoto University School of Public Health) Tatsuto Nishigori, (Assistant Professor, Department of Patient Safety/ Department of Surgery, Kyoto University Hospital) Masahiro Iwasaku, (Assistant Professor, Department of Pulmonary Medicine, Kyoto Prefectural University of Medicine) Nobuaki Hoshino (Program-Specific Senior Lecturer, Institute for Advancement of Clinical and Translational Science (iACT) / Department of Surgery, Kyoto University Hospital) Tsutomu Chiba(Specially appointed president, Kansai Electric Power Hospital)							
This course will offer introductory level of modern clinical medicine, in order to facilitate collaboration between healthcare specialists (i.e. medical doctors, nurses, or other professionals working on healthcare, public health, or social welfare) and students without previous experience in health care field. Lectures will cover disorders of major organ systems, focused on their etiology, treatment, prevention, as well as their societal impact, to help understand recent and historical public health issues, such as population, environment, or aging society.							
Continue to 臨床医学概論(2) ↓↓↓							

臨床医学概論(2)	
<b>[Course objectives]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>To understand the roles and the problems of the clinical medicine and health care in Japan from the societal perspective.</li> <li>Can discuss the current situation and future perspectives of modern medical science and healthcare.</li> </ul>	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
[Course Schedule and Contents] Course Schedule (subject to change)	
#1 October,2 How to use renal anatomy and physiology in clinical medicine	
#2 October,9 How to utilize clinical medicine in clinical research, focusing on renal diseases	
#3 October,16 Healthcare and Patient Safety	
#4 October,23 Clinical Nutrition and Patient Reported Outcomes	
#5 October,30 Patients, Medicine and Society in Cancer Care	
#6 November,6 Clinical Issues in Cancer Genomic Medicine	
#7 November,13 Clinical Research and Laws/Guideline	
#8 November,27 Medical Expenses Combined with Treatment Outside Insurance Coverage	
#9 December,4 Cancer: its biology and clinical medicine	
#10 December,11 Genes and genetic diseases	
#11 December,18 Immunology and immune diseases	
#12 December,25 Infectious diseases	
#13 January,8 Nutrition and metabolic diseases	
#14 January,15 Digestive diseases	
#15 January,22 Heart diseases and Kidney diseases	
#1&#2 Dr.Takada,#3&#4 Dr. Nishigori ,#5&#6Dr.Iwasaku, #7&#8Dr.Hoshino, #9 through #15: Professor Chiba	
<b>[Course requirements]</b>	
Second Semester, Required for students without medical background	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
50% is evaluated from active engagement and comprehension in the lecture room (via Q&A and presentation) and remaining 50% is assessed by assigned reports	
<b>[Textbooks]</b>	
Necessary course materials will be distributed in class. Suggested readings (not mandatory): ・河田光博、武田英二編、臨床医学入門 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 第2版(栄養科学シリーズNEXT)、講談社サイエンティフィク、2009.	
Continue to 臨床医学概論(3) ↓ ↓ ↓	

臨床医学概論(3)	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> (Reference books)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Harrison's Internal Medicine 19th edition, McGraw Hill Education</li> <li>Goldman-Cecil, Medicine, 25th edition, Elsevier</li> <li>ガイドン 生理学、エルセヴィアジャパン</li> <li>ハーバー 生化学、丸善</li> <li>厚生労働省 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針：<a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html</a></li> <li>厚生労働省 臨床研究法について：<a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html</a></li> <li>厚生労働省 先進医療の概要について：<a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryohoken/sensiniryoi/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryohoken/sensiniryoi/index.html</a></li> <li>厚生労働省 患者申出療養制度：<a href="https://www.mhlw.go.jp/moushideryouyou/professional.html">https://www.mhlw.go.jp/moushideryouyou/professional.html</a></li> </ul>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation in advance and review after lecture	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
※Attendance of the students with medical background will also be welcomed. The class is open to students from Graduate School of human Health Science.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H011 PJ90			
Course title (and course title in English)	医療統計学実習 Introduction to Statistical Computing and Data Management		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, OMORI TAKASHI Graduate School of Medicine Assistant Professor, Omiya Masatomo	
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2024/First semester
Days and periods	Tue.3,4	Class style	Practical training (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
The purpose of Introduction to Statistical Computing and Data Management is to see and experience the active practice of concepts learned during lectures. This practice is recommended to further your understanding of medical statistics. We practice simple aggregation, analysis, and programming using the JMP statistical software. You will be asked to create reports on this practice using Microsoft Word. We will create figures and tables using Microsoft Excel. We will create presentations using Microsoft PowerPoint. Kyoto University has a license agreement for the JMP statistical software. Students of the Graduate School of Medicine are required to download and install JMP on the laptop they will use during the course for their exercises, from the following link: <a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/</a> on the Graduate School of Medicine homepage. Since this software can be installed on individual computers, please install it on your laptop and bring it with you to practice.  [Group practice]					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understand the importance of data checks and management.</li> <li>Create charts, presentations, and reports of excellent quality using word processing, spreadsheet, and presentation software.</li> <li>Further your understanding of the fundamental concepts of medical statistics by performing simple statistical calculations and aggregations using statistical software.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Session 1, April 9: Introduction, Using spreadsheet software Session 2, April 16: Using the JMP statistical software Session 3, April 23: Group Exercise 1: Topic Selection and Data Collection Session 4, April 30: Group Exercise 2: Data Collection Session 5, May 7: Group Exercise 3: Aggregation and Analysis Session 6, May 14: Group Exercise 4: Presentation Session 7, May 21: Let us Randomize Session 8, May 28: Risk Ratios, Risk Differences, and Odds Ratios Session 9, June 4: Testing the Difference in Ratios Session 10, June 11: What is the 95% Confidence Interval? Session 11, June 25: Sample size Determination					
Continue to 医療統計学実習(2) ↓ ↓ ↓					

医療統計学実習(2)	
Session 12, July 2: Random Sampling Session 13, July 9: Construction of Data Form and Data Management Session 14, July 16: Bias	
<b>[Course requirements]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Since the upper limit of the class is 40 people, priority is given to students at the School of Public Health.</li> <li>Each year, there are students who wish to take this course than places and therefore some will not be accepted. However, each year there are students who may no longer be able to participate during the course for that year. Please refrain from taking this course if there is any possibility of you not being able to participate.</li> <li>We do not accept students pursuing a major at the Human Health Sciences.</li> <li>Students at the Medical Science or the Doctorate in Medicine, please contact us in advance.</li> <li>If you have never written a report before, please read a book on how to write a report.</li> </ul>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Reports and presentations <ul style="list-style-type: none"> <li>Students will be asked to submit a report in each session (80%).</li> <li>Each group will make a presentation (20%).</li> </ul>	
<b>[Textbooks]</b>	
Required software: JMP "Practice guidance" will be distributed in each session.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Handouts are distributed in the practice class.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
A report is to be submitted in each session.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>If you have not taken this course, you will not be able to take the "Analysis Planning Practicum" in the second semester.</li> <li>Participation midway through the course is not permitted, so please ensure that you attend from the first session onward.</li> </ul> *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H093 LB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	文献検索法 Literature Search			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		1	<b>Year/semesters</b>	2024/The first half of first semester
<b>Days and periods</b>	Mon.4	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
Literature Search <ul style="list-style-type: none"> <li>This course is one of the elective classes of School of Public Health.</li> <li>As being based on fundamental knowledge of epidemiology and evidence-based medicine, this course provides students with skills of literature search.</li> <li>The useful databases such as PubMed, the Cochrane library, Igaku Chuo Zasshi, and the other information resources that are available on-line will be introduced.</li> <li>We hope students who attend this course will lay the foundation for promoting their own public health research by learning skills of information search.</li> <li>Lecture and practical in Japanese. I will try to offer several handouts in English.</li> </ul>							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>To acquire skills of searching medical or health information from various database or internet.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
Please prepare your PC and the Internet for hands-on practice for literature search. 1) Apr 8. Orientation 2) Apr 15. Introduction to Igaku Chuo Zasshi Web 3) Apr 22. Introduction to PubMed (1) 【On-demand media course】 4) May 13. Introduction to PubMed (2) 5) May 20. Clinical questions, clinical guidelines, and systematic review 6) May 27. Introduction to Cochrane library 【Simultaneous bidirectional course】 7) Jun 3. Introduction to software for literature management (Mendeley) 【Simultaneous bidirectional course】 8) Jun 10. Introduction to critical appraisal and statements							
<b>[Course requirements]</b>							
None							
----- Continue to 文献検索法(2) ↓ ↓ ↓							

<b>文献検索法(2)</b>							
<b>[Evaluation methods and policy]</b>							
Participation in class and discussion, short report for each lecture (30%) & Report (70%)							
<b>[Textbooks]</b>							
Instructed during class							
<b>[References, etc.]</b>							
<b>(Reference books)</b> Introduced during class							
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>							
Review how to search the literature after classes.							
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>							
This course is open to graduate students with the school of human health science. This course is basically conducted in Japanese. We will provide some information in English to international students. If you have questions, send an e-mail to takahashi.yoshimitsu.3m@kyoto-u.ac.jp.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.							

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H094 LB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	文献評価法 Critical Appraisal			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Fuyoto Regional Medical Center Academic and Educational Advisor NOGUCHI YOSHINORI Kyoto Prefectural University of Medicine Professor SHIKATA SATORU Nara Medical University Director of the Center TANAKA YU Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology SHIZAKI TATSURO Shizuoka Graduate University of Public Health (Shizuoka SPh) Senior Lecturer SASAKI HATOKO		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		1	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, First semester
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>This course is one of the elective classes of School of Public Health.</li> <li>This course provides students with skills of critical appraisal of literature or information retrieved, as being based on fundamental knowledge of epidemiology and evidence-based medicine</li> </ul>							
<b>[Course objectives]</b>							
To acquire skills of critical appraisal of literature or information retrieved.							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
1. April 8 Orientation 2. June 17 Evaluation of papers of clinical trials by CASP 3. June 24 Evaluation of papers of Meta-analysis by CASP 4. July 1 Evaluation of bias using cases (1) 5. July 8 Evaluation of bias using cases (2) 6. July 22 Evaluation of clinical guidelines by AGREE 7. July 29 Through the Cochrane Review 8. August 5 Wrapping-up  Special seminar							
<b>[Course requirements]</b>							
None							
----- Continue to 文献評価法(2) ↓ ↓ ↓							

<b>文献評価法(2)</b>							
<b>[Evaluation methods and policy]</b>							
Participation in class and discussion, short report for each lecture (30%) & Report (70%)							
<b>[Textbooks]</b>							
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers.							
<b>[References, etc.]</b>							
<b>(Reference books)</b> Nakayama T, Tsutani K 『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu notameno kokusai ruru shu』 (Lifescience shuppan)							
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>							
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.							
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>							
We hope students who attend this course will lay the foundation for promoting their own public health research by learning skills of critical appraisal.  This course is open to graduate students with the school of human health science.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.							

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H115 LB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	ヘルスサイエンス研究の進め方 Methods of Health Sciences Research			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Statcom Co. Ltd UETANI KAE Institute for Information Management and Communication Assistant Professor, ONO, Eiri		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		1	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, First semester
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Basic knowledge about how to communicate concisely and accurately.</li> <li>The ins and outs of ethics in research and publishing.</li> <li>How to create clear, scientific and logical texts, figures and tables, slides and posters for the effective publication of research results.</li> </ul>							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Obtain a thorough understanding of the significance of health sciences research.</li> <li>Obtain an understanding of and observe for the ethics in research and publishing.</li> <li>Obtain an understanding of the basic methods of preparing presentations, papers, and grant proposals.</li> <li>Obtain an understanding of the differences between academic and general writing methods.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
1. May 31 3rd Research ethics: disseminating fair scientific information (NAKAYAMA) 2. May 31 4th Considering conflicts of interest (COI) (NAKAYAMA) 3. June 21 3rd Research and publication ethics (NAKAYAMA) 4. June 21 4th Logical writing: How to write a journal article and abstract (UETANI) 5. June 28 3rd Overview of research funding and points to consider when applying for research funding (Cooperation; SHIMOSHIGE YUKINORI Research Administration Center (KURA) ) 6. June 28 4th Creating appealing presentations and posters (ONO) 7. July 5 3rd Logical writing: Paragraph structure (UETANI) 8. July 5 4th History of medical research in Kyoto University (NAKAYAMA)							
<b>[Course requirements]</b>							
This course is open to graduate students with the school of human health science. Students who want to join are expected to actively participate in class discussions.							
<b>[Evaluation methods and policy]</b>							
Short report for each lecture 80%, Report 20%							
Continue to ヘルスサイエンス研究の進め方(2) ↓ ↓ ↓							

<b>ヘルスサイエンス研究の進め方(2)</b>	
<b>[Textbooks]</b>	
Reading materials will be distributed as needed	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Lang TA 『How to Write, Publish, & Present in the Health Sciences: A Guide for Clinicians & Laboratory Researchers』 (The American College of Physicians) Lang TA, Secic M 『How to Report Statistics in Medicine: Annotated Guidelines for Authors, Editors, and Reviewers』 (The American College of Physicians) Nakayama T, Tsutani K 『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu no tameno kokusai rurushu』 (Life Science Shuppan)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
One hour for each lesson.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Please check the lecture schedule. Students are advised to develop and express their own ideas and opinions during classes.  This course is open to graduate students with the school of human health science.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H162 LB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	毒性科学 Toxicological Sciences			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, HARADA KOUJI 京都大学 医学研究科 研究員 FUJITANI TOMOKO Part-time Lecturer, HARADA MARIKO Part-time Lecturer, FUJII YUKIKO Part-time Lecturer, TAKEDA MIDORI		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		2	<b>Year/semesters</b>	2024/First semester
<b>Days and periods</b>	Wed.4	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
The effects of hazardous chemicals on human health have been investigated in toxicology while therapeutic ones have been investigated in pharmacology. In this course, selected well-known episodes of environmental pollutants, heavy metals and organic substances will be given. We will discuss the toxicities of common chemicals in our modern lives: mercury, dioxin, lead, pesticides and cannabinoids. The aim of this course is to provide a scientific basis of modern toxicology and chemical environmental health.							
<b>[Course objectives]</b>							
Introduction to basic toxicology Knowledge for the toxic effects of some environmental pollutants, metals and organic substances used in our daily lives. Knowledge for toxicological mechanisms. To explain and predict the potential effects of hazardous chemicals and conduct literature search. To discuss and explain the possible chemicals from the symptoms and time course of poisonings.							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
Course Schedule 1 Orientation 2-3 Mercury poisonings 4 Neonicotinoid pesticide 5-6 Arsenic poisonings 7 Cause of Chidren's Death in India during summer 8 Beyond the 100th anniversary of Insulin- overview and toxicological issues 9 Tetrodotoxin 10 Phytoestrogens 11 Persistent organic pollutants 12 Opioid and cannabinoid 13 Thermal environment: Are hot springs good for your health? -Past and future research- 14-15 Group work							
Continue to 毒性科学(2) ↓ ↓ ↓							

<b>毒性科学(2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Attendance and active participation in the lecture 30%; Report assignment and presentation 70 %	
<b>[Textbooks]</b>	
Handouts	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Group discussions should be performed by students in Out-of-Class.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
The lecture is held in English and Japanese language as possible.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	



<b>Course number</b>		P-PUB01 8H103 LB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療社会学・基礎 Medical Sociology			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, IWAKUMA MIHO		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, First semester		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
Course Description Medical sociology is a "scholarly discipline which investigates global issues concerning sickness, health, and medicine using sociological theories and methods." ("Sociology of health and medicine" by Yamazaki et al, 2001) This course covers, in addition to sociology, such areas as anthropology, communication studies, history, philosophy, and/or ethics. In addition to classroom lectures, we will implement a Narrative approach workshop by a guest speaker, Dr. Nakagawa Akira.							
<b>[Course objectives]</b>							
Course Goals and Objectives Understanding general ideas about medical sociology Understanding frameworks, theories, and concepts that are relevant to medical sociology Finding own research domain in medical sociology Providing perspectives and vocabularies for medicine from humanities and social sciences Through the Narrative approach workshop, we deepen an understanding of the following. • Narrative based medicine and EBM • the power of narrative on health communication							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
1) 6/4 Introduction 2) 6/11 Basics of medical sociology 3) 4) 6/25 The Narrative approach workshop [3 hours] 5) 7/2 Sick role, stigma & other concepts of medical sociology 6) 7/9 Guest lecture on IPE/IPW 7) 7/16 SDH, enhancement, and etc. 8) 7/23 Course wrap-up							
Continue to 医療社会学・基礎(2) ↓ ↓ ↓							

<b>医療社会学・基礎(2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Course Grade In-class participation 40% in-class quizz 10% Term paper 50% (title 15% + final version 35%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Lectures, group-work, and/or discussion	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Message class participation is highly valued Suitable for students who are interested in social science perspectives in medicine and science Consult with me ASAP for any disability-related accommodation @ mhiwakuma@yahoo.co.jp or ext. 4668. A guest lecture & the Narrative approach workshop are delivered in Japanese with English handouts. The workshop takes 3 hours (2 class sessions). Contents & dates are subjects to change.  * The lectures are delivered in-class.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H112 LB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床試験 Clinical Trial			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, TANAKA SHIROU Graduate School of Medicine Associate Professor, NISHIYAMA CHIKA 京都府立医科大学 教授 TERAMUKAI SATOSHI 名古屋医療センター臨床疫学研究室 室長 SAITO AKIKO		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/First semester		
<b>Days and periods</b>	Wed.5	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
This course consists of lectures on methodology of clinical trials in accordance with Chapter 3, 5, 6, 9, 10 and 12 to 15 of "Clinical Trials: A Practical Approach". In addition, 3 lecturers who experienced in investigator-initiated clinical trials in cardiovascular disease, cancer, and translational research areas provide lectures on the practical aspects of clinical trials based on their experience. This course also includes a workshop of developing study protocols of hypothetical clinical trials with small-sized groups. MCR required, CB required, MPH elective.							
<b>[Course objectives]</b>							
To understand methodology of clinical trials To understand contents of study protocol and learn how to develop a study protocol through a workshop of protocol development							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
This class is a hybrid of homework and lecture/workshop sessions. The first session is a face-to-face lecture at Seminar Room on the ground floor of Science Frontier Laboratory.  April 10 Introduction (Tanaka) April 17 Endpoints (Tanaka) April 24 Multiplicity in hypothesis testing, interim analysis and monitoring (Tanaka) May 1 Organization and planning, non-inferiority trial (Tanaka) May 8 Protocol deviation, Intercurrent events, cost-effectiveness analysis (Tanaka) May 15 Statistical Consideration in Protocol Development (Teramukat) May 22 Issues in Conducting Cancer Clinical Trials and Their Solutions (Saito) May 29 Experience in Education Intervention Trials in Cardiovascular Disease (Nishiyama) June 5 From RCT to meta-analysis June 12 Workshop (protocol development, Tanaka) June 19 Workshop (protocol development, Tanaka) June 26 Workshop (protocol development, Tanaka) July 3 Workshop (protocol development, Tanaka) July 10 Workshop (presentation, Nishiyama, Tanaka)							
Continue to 臨床試験(2) ↓ ↓ ↓							

<b>臨床試験(2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Attendance 50%, Report 50%	
<b>[Textbooks]</b>	
Stuart J. Pocock 『Clinical Trials: A Practical Approach』 (Wiley) A copy of the textbook will be provided.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Please read the textbook "Clinical Trials: A Practical Approach".	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H134 LJ90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	統計家の行動基準 Statisticians Standard of Conducts			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor.OMORI TAKASHI Graduate School of Medicine Project Associate Professor.SATOU KEIKO Graduate School of Medicine Assistant Professor.Omiva Masatomo		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		1	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, First semester
<b>Days and periods</b>	Friday:3-5	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)		<b>Language of instructor</b>	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
According to the 19th Century British Prime Minister Benjamin Disraeli, "There are lies, damned lies and statistics." However, statistics are used in various fields as fundamental information for decision-making and policy, and are vital to maintaining and improving human well-being and the environment. For statistics to not devolve into lies, statisticians, experts who perform research and tasks involving statistics, must not only have the appropriate knowledge and skills, but also professionalism. Saying this feels somewhat rigid, but as a result of recent instances of misconduct related to research, external regulations have only become stricter, such as mandatory attendance at research ethics seminars on standards adherence. This course aims to have students think for themselves about what statisticians should be, based on the basic premise that the only person who can ensure one's adherence is oneself. There is a need not only for science while designing clinical trials for humans, but also for heart. Medicines that were supposed to bring health have brought tragedy, and we shall study examples where statisticians may have been responsible for the harm caused. We shall consider how statisticians should behave, and what students wish to engage with through discussions and group work.							
[Intensive lectures on July 5, 12, and 19 (Fri)]							
<b>[Course objectives]</b>							
Understand <ul style="list-style-type: none"> <li>Conflicts between science and ethics in clinical research,</li> <li>What statisticians have done in drug evaluations in the past,</li> <li>Ways to explain the role of statisticians in clinical research, and</li> <li>Ways to consider and internalize standards of behavior as a statistician.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
Intensive lectures: July 5 (Friday, Periods 3 and 4), 12 (Friday, Periods 3 and 4), and 19 (Friday, Periods 3, 4, and 5) Session 1, July 5, Period 3: Planning a Valid Clinical Trial 1 Session 2, July 5, Period 4: Planning a Valid Clinical Trial 2  Session 3, July 12, Period 3: The Thalidomide Law Suit and Statisticians 1 (Professor Tsugumichi Sato, Tokyo University of Science) Session 4, July 12, Period 4: The Thalidomide Law Suit and Statisticians 2  Session 5, July 19, Period 3: The Heart of the ICH Statistical Guideline Session 6, July 19, Period 4: Cultivating Professionalism Among Statisticians							
Continue to 統計家の行動基準(2) ↓ ↓ ↓							

<b>統計家の行動基準(2)</b>	
Session 7, July 19, Period 5: Group Work	
<b>[Course requirements]</b>	
Students who are not statisticians are also welcome.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Reports	
<b>[Textbooks]</b>	
Materials will be distributed in each session.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Friedman LM, Furburg CD, DeMets DL, Reboussin DM, Granger CB 『Fundamentals of Clinical Trials, 5th ed.』 (Springer, 2015). Hideo Kunitoh, Keiko Sato, Kenichi Yoshimura, "誰も教えてくれなかった臨床試験の正しい作法" (Chugai Igaku, 2016)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Read the "Statisticians' Code of Conduct" issued by The Biometric Society of Japan and the "Statistical Principles in Clinical Trials" issued by ICH E9. <a href="http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf">http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf</a> <a href="https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html">https://www.pmda.go.jp/int-activities/int-harmony/ich/0031.html</a>	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H143 LJ90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	健康デザイン論 Designing Health communication			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor.NAKAYAMA TAKEO		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		1	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, year-round
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)		<b>Language of instructor</b>	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>To learn the way of thinking &amp; basic concept about Communication Design Approach in Healthcare</li> <li>Using this approach as a clue, we will discuss the potential of this approach to promote targets' "understandings" and "actions", and lead them to "expected results"</li> <li>Lecture &amp; workshop style.</li> </ul>							
<b>[Course objectives]</b>							
The goals of this course are to understand concepts and approaches such as "insight", "understanding / behavior promotion", "co-creation / collaboration", etc. regarding how to achieve "health communication" to maximize health outcomes.							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
(First half) 1. September 12 3rd Introduction 2. September 12 4th Communication design Approach ~the way to design & activate consumer's understanding and behavior 3. September 13 2nd Consumer insights ~the attitudes to and way of understanding of the target insights 4. September 13 3rd Planning ~the way of thinking about designing/planning projects to invite the consumers more healthy  (Second half) 5. February 20 3rd Presentation of "I" Project 6. February 20 4th How to develop "value" by learning from creators 7. February 21 2nd The Public Relation Approach 8. February 21 3rd Group Work  (*Tentative schedule)							
Continue to 健康デザイン論(2) ↓ ↓ ↓							

<b>健康デザイン論(2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Report (50%) Presentation (50%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Text books will be introduced in the first class.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> will be introduced in the first class.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Review and home assignments.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Project researchers (Research on health communication[Dentsu])will be cooperated.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H136 LJ90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	統計的推測の基礎 Fundamentals of Statistical Inference			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, OMORI TAKASHI 統計数理研究所 HENMI MASAYUKI Graduate School of Medicine Assistant Professor, Omiva Masatomo		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		2	<b>Year/semesters</b>	2024/First semester
<b>Days and periods</b>	Thu.4	<b>Class style</b>	Lecture and seminar (Face-to-face course)		<b>Language of instructor</b>	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<p>In this course, students will learn the fundamentals of statistics-related subjects. The first will deal with the fundamentals of probability theory, which form the foundation for methods of statistical inference. The second half will deal with the basic concepts of statistical inference such as statistical estimation, hypothesis testing, and confidence intervals. Probability theory in the first half is not based on mathematically rigorous measurement theories, but rather uses calculus and linear algebra (undergraduate-level mathematics) with the aim of teaching students the fundamentals of probability necessary to understand methods of statistical inference. The latter half of statistical inference emphasizes the fundamental ideas and theoretical aspects of the basic concepts. The aim of this course is preparation and consolidation while focusing on the fundamentals that we cannot stop to think about in the course of other statistics-related subjects. Since students in this course are expected to come from various backgrounds, lessons will proceed with as much consideration for their circumstances as possible. [Lecture format, using PowerPoint slides and whiteboards]</p>							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understand the meaning of and ways of thinking that underlie basic concepts related to probability and statistics, and be able to explain these in your own words.</li> <li>Be able to carry out calculations relating to statistics and probability distribution etc., while framing your own thoughts when necessary.</li> <li>While studying other statistics-related subjects, be capable of studying various statistical methods on your own, and understand their mechanisms without viewing them as a black box.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
<p>Session 1, April 11: Lecture Overview and Probability and Stochastic Variable Concepts  Session 2, April 18: Fundamentals of Discrete Random Variables and their Distribution  Session 3, April 25: Fundamentals of Continuous Random Variables and their Distribution  Session 4, May 9: Handling Multiple Random Variables I  Session 5, May 16: Handling Multiple Random Variables II  Session 6, May 23: Probability Distributions for Normal Samples  Session 7, May 30: Fundamentals of Statistical Estimates  Session 8, June 6: Fundamentals of Statistical Hypothesis Testing I  Session 9, June 13: Fundamentals of Statistical Hypothesis Testing II  Session 10, June 20: Fundamentals of Linear Regression Analysis  Session 11, June 27: Fundamentals of Linear Regression Analysis II  Session 12, July 11: Fundamental Asymptotic Methods I</p>							
Continue to 統計的推測の基礎(2) ↓ ↓ ↓							

<b>統計的推測の基礎(2)</b>	
<p>Session 13, July 18: Fundamental Asymptotic Methods II  Session 14, July 25: Fundamental Asymptotic Methods III</p>	
<b>[Course requirements]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students must have basic knowledge of calculus and linear algebra.</li> <li>We do not accept human health science majors.</li> </ul>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Reports	
<b>[Textbooks]</b>	
Lecture materials will be distributed.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Other materials will be introduced during lectures	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>We expect students taking this course to learn various things, but we would like for them to emphasize on the parts that they do not fully understand while taking advantage of this class.</li> <li>Attendance at lectures alone is insufficient to understand and master the content of mathematical lessons. It is necessary to work through these one your own, checking calculations and logic after each lecture. The content covered in this lecture is very important to understand other statistics-related courses involving mathematical elements, so students are advised to work diligently on reviewing all that they learn.</li> <li>In addition to this class, other seminars are arranged for as part of the Clinical Statistician Training course. Those who are unsure of the basics, or are experiencing difficulty with the exercises themselves should also make use of these seminars.</li> </ul>	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H137 LJ90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	生存時間解析 Survival Analysis			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, OMORI TAKASHI 大阪大学大学院医学系研究科 HATTORI SATOSHI Graduate School of Medicine Assistant Professor, Omiva Masatomo		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		1	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, Second semester
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)		<b>Language of instructor</b>	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<p>Survival time analysis is a method of statistical analysis of the duration before an event of interest takes place (survival time). It plays an important role in various medical studies such as clinical trials of antineoplastic drugs. Survival time is not usually observed for all subjects because of research constraints, and a unique methodology has been developed to draw inferences based on this truncated data. In this course, students will learn the fundamental concepts of survival time analysis and try to establish an understanding through practice using SAS programming language for statistical analysis. [Intensive lectures on November 11, 15, 29 and December 6 (Fri)]</p>							
<b>[Course objectives]</b>							
<p>Understand: • Likelihood in truncated survival time analysis and methods of maximum likelihood estimation for parametric models,  • The Kaplan-Meier method and the concept of logrank tests,  • The concept of hazards and the Cox proportional hazards model, and  • Ways to apply survival time analysis method using SAS.</p>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
<p>Session 1. November 8 Period 3: Survival Time Data Examples and Their Characteristics  Session 2. November 8 Period 4: Non-Parametric Estimation    Session 3. November 15 Period 3: Logrank Tests  Session 4. November 15 Period 4: Review of the First Half of the Course and Exercises Using SAS    Session 5. November 29 Period 3: The Cox Proportional Hazard Models  Session 6. November 29 Period 4: Residual Analysis in Survival Time Analysis    Session 7. December 6 Period 3: Sample Size Calculations in Randomized Trials</p>							
Continue to 生存時間解析(2) ↓ ↓ ↓							

<b>生存時間解析(2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students must have completed "Fundamentals of Statistical Inference" in the first semester.</li> <li>Students must be familiar with basic calculus.</li> </ul>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Report.	
<b>[Textbooks]</b>	
Materials will be distributed in each session.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
<p>Yasuo Ohashi, Chikuma Hamada, "生存時間解析-SASによる生物統計" (University of Tokyo Press)  ISBN:978-4130602006, Collett D, (Translated by Etsuo Miyaoka) "医薬統計のための生存時間データ解析  原著第2版" (Kyoritsu Shuppan) ISBN:978-4320110359, Klein J, Moeschberger ML, (Translated by Mamoru Uchinami) "生存時間解析" (Maruzen Publishing) ISBN:978-4621061886, Therneau TM, Grambsch PM "Modeling Survival Data: Extending the Cox Model" (Springer) ISBN:978-1-4419-3161-0,  Yasuo Ohashi, Chikuma Hamada, Ryuji Uozumi, "生存時間解析 応用編-SASによる生物統計-"  (University of Tokyo Press) ISBN: 978-4130623179</p>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Review lessons taught in previous sessions.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H138 LJ90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	統計モデルとその応用 Statistical Modeling and Applications			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, OMORI TAKASHI 岩手医科大学 TAKAHASHI FUMIAKI Graduate School of Medicine Assistant Professor, Omiva Masatomo		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		1	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, Second semester
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
The use of a regression model is one of the methods of adjusting for "confounding." A typical regression model works for one continuous outcome variable. In medical research, however, there may be cases in which one is interested in the presence or absence of risk, or in which an interesting result is measured repeatedly, and a more complicated model may be required depending on the characteristics of the result. In this course, we explain regression models for various outcome variables and their methods of analysis by combining a range of examples.							
[Intensive lectures on October 4, 11, 28, and 25 (Fri)]							
<b>[Course objectives]</b>							
Understand: <ul style="list-style-type: none"> <li>• The role of regression models.</li> <li>• Regression models for various data characteristics and their methods of analysis, and</li> <li>• Ways to perform analysis using statistical analysis software and interpret the results.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
Session 1, October 4, Period 3: Examples and Characteristics of Longitudinal Data Session 2, October 4, Period 4: General Linear Models for Correlated Continuous Data (1) Mean and Covariance Structures Modeling Session 3, October 11, Period 3: General Linear Models for Correlated Continuous Data (2) Random effect models Session 4, October 11, Period 4: Analysis of Longitudinal Data with Missing Values Session 5, October 18, Period 3: Generalized Linear Models for Correlated Categorical Data (1) Marginal Models and Generalized Estimating Equations Session 6, October 18, Period 4: Generalized Linear Models for Correlated Categorical Data (2) Random effect models Session 7, October 25, Period 3: Review of Analysis of Longitudinal Data and Practice using SAS							
<b>[Course requirements]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students should have completed "Fundamentals of Statistical Inference" in the first semester.</li> <li>• Students must have basic knowledge of linear algebra.</li> </ul>							
Continue to 統計モデルとその応用(2) ↓ ↓ ↓							

<b>統計モデルとその応用(2)</b>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Report.	
<b>[Textbooks]</b>	
Materials will be distributed in each session.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Dobson AJ. "一般化線形モデル入門 原書第2版" (Kyoritsu Shuppan) ISBN:978-4320018679, McCulloch C., Searle S., and Neuhaus J. 『Generalized, Linear, and Mixed Models』 (Wiley) ISBN:978-0-470-07371-1, Ikuko Funatogawa, Takashi Funatogawa "経時データ解析" (Asakura Shoten) ISBN:978-4254128550	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Review lessons taught in previous sessions.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H142 LJ90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	行政医学・産業医学 Medical Doctors in Government and Occupational Settings			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUUICHI Part-time Lecturer, KAWAMURA TAKASHI Part-time Lecturer, KOIZUMI AKIO Agency for Health, Safety and Environment Professor, SAKAGAMI YUU		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		2	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, First semester
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
The aim of this course is to provide students with intensive learning and practicing of occupational medicine and health policy. Students will 1) deal with a set of framework aiming at problem-solving in the practical and social context 2) learn about medical doctors' practice in the field of government on health policy 3) learn about medical doctors' practice in the field of occupational medicine							
<b>[Professor]</b>							
外部講師：奥田 司先生（京都府健康福祉部保健医療対策監 京都府立医科大学名誉教授）、和田 安彦先生（新宮保健所長）、藤田 直久先生（京都府保健環境研究所）、丹藤 昌治先生（岐阜県健康福祉部長 厚生労働省医系技官）、波床 将材先生（京都市こころの健康増進センター）、森口 次郎先生（京都工場保健会）、林朝 茂先生（大阪公立大学大学院 医学研究科 産業医学）							
<b>[Course objectives]</b>							
By the end of this course, students will be able to: *have deep knowledge and understanding about the problems in these fields, and explain them to others *have a keen insight figuring out what is the critical cause *consult specialists appropriately in order to solve the problems							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
This course is an immersive program held on Aug.30 and Aug.31. Students are required to participate in all the programs from the first period to the last (fifth or sixth). It is recommended to attend on-demand lectures of "Medical Doctors in Government and Occupational Settings: Extension". The program includes lectures and group works on following subjects							
<b>[Health policy]</b>							
-Practice of health policy -Introduction of health policy practice							
Continue to 行政医学・産業医学(2) ↓ ↓ ↓							

<b>行政医学・産業医学(2)</b>							
<b>[Course requirements]</b>							
This course is mainly for students in the School of Public Health. Students from other courses (including students in School of Human Health Sciences) are also welcomed though the number will be limited. Attendance rate 80% or more.							
<b>[Evaluation methods and policy]</b>							
The grade will be based mainly on active participation in the class (60%) and reports (40%).							
<b>[Textbooks]</b>							
Instructed during class No textbook is required for this course. Handouts will be distributed by the instructors as needed.							
<b>[References, etc.]</b>							
<b>(Reference books)</b>							
Introduced during class References will be introduced by the instructors as needed. • NEW 予防医学・公衆衛生学改訂第4版（南江堂, 2018年）							
Continue to 行政医学・産業医学(3) ↓ ↓ ↓							

行政医学・産業医学(3)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Explain first	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H145 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	多重性の考え方		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine	
	Multiplicity in clinical trials			Program-Specific Professor, OMORI TAKASHI Yokohama city university SAKAMAKI KENTARO Graduate School of Medicine Assistant Professor, Omiya Masatomo	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2024/The first half of first semester
<b>Days and periods</b>	Fri.2	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Multiple validation tests are often necessary within a single clinical trial, such as in a confirmatory clinical trial in which multiple doses of a study drug are run and compared to a placebo group. In such cases, it is extremely important to perform analysis that considers the multiplicity of the type-1 error rate ( $\alpha$ error) properly. In this course, we aim to make students capable of considering the multiplicity of tests at each stage of a clinical trial, namely planning, analysis, and the interpretation of results. Some practical training will also be provided using SAS.					
The forth session will be delivered by Professor Isao Yokota of Hokkaido University, and the fifth session will be delivered by Professor Kouhei Uemura of the University of Tokyo.					
[Lecture format, using PowerPoint slides]					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understanding the multiple comparison issue in clinical trails.</li> <li>Understand basic statistical methods to choose appropriate multiplicity adjustment methods.</li> <li>Understanding statistical methods for dose-response relationship, interim analysis and sub-group analysis.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Session 1, April 12, Period 2: Fundamentals of Test Multiplicity of (Sakamaki) Session 2, April 19, Period 2: Overview of Multiplicity Adjustment Methods related to Dose-response Relationships (Sakamaki) Session 3, April 26, Period 2: Closed Testing Procedure (Sakamaki) Session 4, May 17, Period 2: Interim Analysis and Alpha Spending Function (Yokota) Session 5, May 24, Period 2: Applications of Multiplicity Adjustment Methods in Clinical Trials (Uemura) Session 6, May 31, Period 2: Multiple Primary Endpoint and Co-primary Endpoint (Sozu) Session 7, June 7, Period 2: The Use of Multiplicity Adjustment in Practice (Omori, Omiya)					
Continue to 多重性の考え方(2) ↓ ↓ ↓					

多重性の考え方(2)	
<b>[Course requirements]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students must have completed the "Fundamentals of Statistical Inference" course.</li> <li>Students must be familiar with data handling and random number generation in SAS.</li> </ul>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Reports.	
<b>[Textbooks]</b>	
Lecture materials will be distributed.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Yasushi Nagata. (2007) "統計的多重比較法の基礎" (Scientist Ltd.) ISBN:978-4914903466, Kentaro Sakamaki, Takashi Sozu and Toshimitsu Hamasaki, "多重比較法" (Asakura Shoten) ISBN: 978-4254128628, Dmitrienko, A., Molenberghs, G., Chuang-Stein, C., & Offen, W. W. (2005) "Analysis of clinical trials using SAS: A practical guide." (SAS Institute), translated by (Kaoru Morikawa and Tasaki Takenobu (2009)) 治験の統計解析 #8211理論とSAS#174による実践, Kodansha), Dmitrienko, A., Tamhane, A. C., & Bretz, F. (Eds.). (2009) "Multiple testing problems in pharmaceutical statistics." (CRC press)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Students should review the content of the "Fundamentals of Statistical Inference" course and CB course students should review the content of the "Practical Skills for Clinical Statisticians" course thoroughly. Students must review the lessons learned in each lecture.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M001 LJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	アントレプレナーシップ		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Part-time Lecturer, TERANISHI YUTAKA	
	Entrepreneurship			Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, SUZUKI SHINOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, YAMAGUCHI TARO	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Irregular, First semester
<b>Days and periods</b>	月6	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<b>[Objective]</b>					
The main objective of the program is to foster entrepreneurship among researchers and provide them with the knowledge and skills essential for their entrepreneurial aspirations.					
<b>[Target]</b>					
The main target audience of this course is entrepreneurial beginners who are interested in starting a business but are not sure what steps to take. For students who already have a concrete business idea and are in the preparation stage of starting a business, or have already started a business and wish to be mentored by senior entrepreneurs and investors, external accelerators and pitch events are recommended.					
<b>[Overview]</b>					
This course is related to entrepreneurship with a special focus on the medical healthcare domain. In this course, students will hear lectures from a number of entrepreneurs in order to familiarize students with entrepreneurship. These entrepreneurs are involved in a wide variety of medical healthcare startups, including drug discovery, regenerative medicine, and medical devices. This course will provide the basic knowledge and tools needed to start a business in the medical healthcare area. Specifically, students will learn key elements necessary for entrepreneurship, including design thinking, lean startup, financial statements, intellectual property (patents), finance, and pharmaceutical regulations. These lectures and workshops will be conducted by leading experts in the medical healthcare field, who will share their practical knowledge. In parallel with the lectures and workshops, students will also form teams to create business models that solve needs in the medical healthcare field. Through this process, students will experience building a business model based on clinical needs in the medical healthcare field. During the team work and mid-term presentation, students will have bounce ideas off of students and faculty members. On the final day, students will have the opportunity to present their business models in front of faculty and outside investors and receive practical feedback. Through this course, students will develop an entrepreneurial spirit and acquire practical skills and knowledge in the field of medical healthcare.					
<b>[Course objectives]</b>					
To acquire the basic knowledge needed to start a business and to understand the entrepreneurial process based on clinical needs.					
Continue to アントレプレナーシップ(2) ↓ ↓ ↓					

アントレプレナーシップ(2)	
-----	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
Session 1 April 8 Guidance / Business Tools Session 2 April 15 Design Thinking (mini-workshop) Session 3 April 22 Entrepreneur Lecture (External Lecturers) Session 4 May 13 Idea-thon Session 5 May 20 Venture Finance (External Lecturers) Session 6 May 27 How to read financial statements (External Lecturers) Session 7 June 3 Entrepreneur Lecture (External Lecturers) Session 8 June 10 Entrepreneur Lecture (External Lecturers) Session 9 June 17: Basics of Intellectual Property Session 10 June 24 Mid-term presentation Session 11 July 1 Simulation Game (Lean Startup) (External Lecturers) Session 12 July 8 Pharmaceutical Regulations (External Lecturers) Session 13 July 22 Entrepreneur Lecture (External Lecturers) Session 14 July 29 Final Presentation Session 15 July 29 Entrepreneur Lecture (External Lecturers)	
*The schedule may be subject to change due to the availability of external lecturers.	
<b>[Course requirements]</b>	
This course is mandatory for IP, and an elective for MPH.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Evaluation will be based on an overall consideration of the following three points	
(1) Frequency of speaking up in class (active participation in discussions, etc.) (2) Commitment to teamwork (3) Content of the business model to be presented in the final presentation	
<b>[Textbooks]</b>	
None in particular. Materials prepared by the lecturer will be used instead. Other reference materials will be presented during the lecture as needed.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> "Biodesign" Stefanos Zenios et al., Yakujinipposha "The Startup Manual" Steven G. Blank and Bob Dorf, SHOEISHA "Pitch" Open Network Lab, Impress "Lean Startup" Eric Ries, Nikkei Business Publications "Running Lean - Practical Lean Startup" Ash Maurya, O'Reilly Japan "Effectuation" Saras D. Sarasvathy, Shogakusha "Business Model" Tatsuyuki Negoro et al. SB Creative "Startup" Diana Candler, Shinchosha	
-----	
Continue to アントレプレナーシップ(3) ↓ ↓	

アントレプレナーシップ(3)	
-----	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Team work outside of the classroom is required to create the business model.	
<b>[Other information (office hours, etc.)]</b>	
Students enrolled in this course may take the summer intensive course "Advanced Entrepreneurship" (Business Games). The "HiDEP" (July-September each year) is a program that follows this course. HiDEP: <a href="https://ku-med-device.jp/hrd/hidep/">https://ku-med-device.jp/hrd/hidep/</a>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8M119 LJ90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療ビジネス・イノベーション概論	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine
	Introduction to Medical Innovation and Businesses		Program-Specific Professor.SAOTOME CHIKAKO Graduate School of Medicine Project Professor.YAMAMOTO HIROKAZU Part-time Lecturer.TAKAYAMA KOJIRO
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
		<b>Year/semesters</b>	2024/First semester
<b>Days and periods</b>	木6	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)
		<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
Medical innovations such as the COVID-19 vaccine are important for improving human health and for economic development. Recently healthcare businesses are expanding beyond innovative medicines and medical devices to include regenerative medicine and digital health. Furthermore, startups are increasingly contributing to these medical innovations. On the other hand, healthcare businesses face high hurdles to commercialization due to the huge R&D expenditures including clinical trial costs, and compliance with pharmaceutical regulations. Thus, the development of innovative products requires the combined efforts of not only biological researchers, but also business, legal, intellectual property, and various other specialists. In the first half of the lecture, you will learn about the medical business, including recent advances in medical technology, business models, and market transitions, as well as the fundamentals of R&D of medicine, medical devices, regenerative medicine, digital health, and regulations. In the second half, companies (including start-ups) and academia involved in medical innovation will lecture on specific R&D cases and business strategies (open innovation, etc.).			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understanding the fundamentals of R&amp;D and business strategies for pharmaceuticals, medical devices, regenerative medicine, and digital health, as well as the characteristics of these products.</li> <li>Understanding of commercialization strategies for applying novel technologies to the healthcare business.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
1 April 11 Introduction, Current Situation of the Healthcare Business 2 April 18 Healthcare Business and Modality I 3 April 25 Healthcare Business and Modality II 4 May 9 Drug Development Process 5 May 16 Introduction of Antibody Drug 6 May 23 Introduction of Regenerative Medicine 7 May 30 Medical Affairs 8 June 6 Introduction of Medical Devices 9 June 13 Introduction of Digital Health 10 June 20 Drug Development at Daiichi-Sankyo 11 June 27 Introduction of Drug Delivery System 12 July 4 Case of Cell Therapy			
-----			
Continue to 医療ビジネス・イノベーション概論(2) ↓ ↓			

医療ビジネス・イノベーション概論(2)	
-----	
13 July 11 Development of Medical AI at Startup 14 July 18 Development of Medical Device at Startup 15 July 25 Development and Regulation of Software as a Medical Device(SaMD)	
<b>[Course requirements]</b>	
Management of Technology and IP: required, MPH:selective	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation based on attitude at the class, presentation, and reports.	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Nothing particular.	
<b>[Other information (office hours, etc.)]</b>	
The class is open to students from the Graduate School of Human Health Science. Venue: Medical Innovation Center 1F Seminar room.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M017 LJ90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	知的財産経営学 基礎			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, SAOTOME CHIKAKO		
	Intellectual Property Management in Medical Science				Part-time Lecturer, FUJII ATSUSHI Part-time Lecturer, TANAKA JUNYA		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Irregular, First semester		
<b>Days and periods</b>	火 6	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<p>As open innovation is promoted, academic researchers must know intellectual property and skills for smooth industry-academia partnership.</p> <p>This lecture provides knowledge of industry-university collaboration and intellectual property management necessary to return research results in the life science field to society.</p> <p>Specifically, students will learn about the needs of life science companies and open innovation models, an overview of the patent system, and contracts.</p> <p>The lecture will focus on drug discovery and medical science, but will also include life science industries such as food and medical devices in consideration of the background of the students.</p> <p>Finally, life science researchers should be able to avoid infringement of the rights of others and utilize the rights of their own research results.</p>							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Acquire basic knowledge of intellectual property rights and understand how to protect patent rights and utilize the results of one's research.</li> <li>Acquire basic knowledge of collaboration models and contracts, and acquire the ability to facilitate collaboration with others.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
1 April 9 Introduction 2 April 16 What is Intellectual property 3 April 23 Practice of patent 4 April 30 Patent description 5 May 7 Search of prior art (1) 6 May 14 Foreign patent application 7 May 21 Search of prior art (2) 8 May 28 Material Transfer Agreement 9 June 4 Collaborative Research Agreement 10 June 11 Writing of laboratory notebook 11 June 25 Practice of making invention disclosure document (1) 12 July 2 Topics of the patent in the life science area (1)							
Continue to 知的財産経営学 基礎(2) ↓ ↓ ↓							

<b>知的財産経営学 基礎(2)</b>							
13 July 9 Topics of the patent in the life science area (2) 14 July 16 Practice of making invention disclosure document (2) 15 July 23 Technology transfer							
<b>[Course requirements]</b>							
Management of Technology and IP:selective, MPH:selective							
<b>[Evaluation methods and policy]</b>							
Comprehensive evaluation based on attitude at the class, presentation, and reports.							
<b>[Textbooks]</b>							
Not used							
<b>[References, etc.]</b>							
<b>(Reference books)</b>							
陽藏 康一 『これからの生命化学研究者のためのバイオ特許入門講座』(羊土社) ISBN: 4897063590							
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>							
Nothing particular.							
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>							
The class is open to students from the Graduate School of Human Health Science. All students who are interested in intellectual property are welcome to attend. Active questions and discussions are welcome. Venue: Medical Innovation Center 1F Seminar room. *Please visit KULASIS to find out about office hours.							

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M021 LJ90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	アントレプレナーシップ特論			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, SAOTOME CHIKAKO		
	Special Lecture for Entrepreneurship				Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, YAMAGUCHI TARO Part-time Lecturer, TAKAYAMA KOJIRO		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, First semester		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	special lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>The lecture aims to learn business accounting through the business game.</li> <li>You hire employees, purchase factories and raw materials, produce products, and sell them in the business game. After 12 months, a balance sheet (B/S) and profit and loss statement (P/L) are prepared and ordinary income is calculated.</li> <li>Through simulated management experience, you will learn to examine management strategies, build business models, and acquire basic knowledge of accounting.</li> <li>By using a financial sheet that can be prepared even without specialized knowledge of economics, you can acquire basic accounting knowledge regardless of your background.</li> </ul>							
<b>[Course objectives]</b>							
Through simulated management experience, you will acquire practical knowledge of accounting necessary for business. Then, you will be able to build business models and manage budgets so that you can lead your businesses to success when you actually start your own businesses as entrepreneurs.							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
1 August 1 Introduction 2 August 1 Description of rules of the game 3 August 1 Demo game 4-6 August 2 Business game I-III 7 August 2 Lecture on basic accounting 8 August 2 Lecture on business management and investment 9-12 August 5 Business game IV-VII 13 August 5 Making a presentation about the results of the game 14 August 6 Lecture on startup business 15 August 6 Presentation about results of the business game							
<b>[Course requirements]</b>							
MPH selective Attendance of all lectures is needed. Taking an Entrepreneurship course is recommended.							
Continue to アントレプレナーシップ特論(2) ↓ ↓ ↓							

<b>アントレプレナーシップ特論(2)</b>							
<b>[Evaluation methods and policy]</b>							
Comprehensive evaluation based on attitude at the class, presentation of your business result, and reports.							
<b>[Textbooks]</b>							
Not used							
<b>[References, etc.]</b>							
<b>(Reference books)</b>							
Introduced during class							
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>							
Students are expected to understand the game's rules by the video and rule book distributed in advance.							
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>							
The course is open to students from the Graduate School of Human Health Science. Venue: Medical Innovation Center 1F Seminar Room *Please visit KULASIS to find out about office hours.							

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M024 SJ90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	特許法特論・演習 (前期)		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Part-time Lecturer, TAKAYAMA SHUKO		
	Special Lecture and Practicum for the Patent Law I			Part-time Lecturer, HIGASHIDA NOBUHIRO		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Irregular, First semester	
<b>Days and periods</b>	水 6	<b>Class style</b>	special lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
I. Course overview You will learn the outline of Patent Law and the points of patent practice in the fields of chemistry and life science.  We will use concrete examples for your in-depth understanding.						
II. Methods of education and learning ・ Lectures use PowerPoint and web materials						
<b>[Course objectives]</b>						
(Course objectives) 1. Understand the outline of Patent Law. 2. Understand the points of patent practice in the fields of chemistry and life science. 3. Through understanding the above 1 and 2, obtain the skill to facilitate mutual understandings with IP experts such as patent attorneys, Examiners, and Appeal Examiners, thus make most of the research outcomes.						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
Session 1, April 10, Takayama, General Patent Practice (1): Principles of the Patent System and Optimal Patent Strategy in the field of Chemistry and Life science Session 2, April 17, Takayama, General Patent Practice (2): Definitions and categories of inventions; Industrial applicable inventions Session 3, April 24, Higashida, Patent right Patent right effects and limitations, exhaustion, and license (including license based on prior use) Session 4, May 8, Takayama, Novelty of Inventions ; Industrial applicability Session 5, May 15, Higashida, First-filing: Articles 39 and 29 bis of the Patent Law; the relationship between superordinate concepts and subordinate concepts Session 6, May 22, Higashida, Patent-related lawsuits (1) Summary of infringement proceedings, defense procedures of seeking invalidation, correction, and damages. Session 7, May 29, Higashida, Patent-related lawsuits (2) Claim interpretation, doctrine of equivalents, indirect infringements						
Continue to 特許法特論・演習 (前期) (2) ↓ ↓ ↓						

<b>特許法特論・演習 (前期) (2)</b>						
Session 8, June 5, Higashida, Description requirements (1): Concept of Enablement requirements, Support requirements Session 9, June 12, Higashida, Description requirements (2): Clarity requirements; Description of specification, description of examples, and points of inventions related to numerical limitations or parameter invention, etc. Session 10, June 19, Takayama, Inventive step (1) Concept of inventive step of invention, recognition of inventions and cited inventions, judging methods Session 11, June 26, Takayama, Inventive step (2) Remarkable effects or different effects of the invention, the concept of numerically limited inventions and selected inventions Session 12, July 3, Higashida, Important procedures in practice (1) Examination procedure, amendments and concepts of adding new matters, divisional / changed applications, domestic priority claim applications, practice peculiar to the field of chemistry / life science and their countermeasures Session 13, July 10, Takayama, Important procedures in practice (2) Utilization of accelerated examination, Patent term extension, appeal, opposition and other topics Session 14, July 17 Takayama, Patent-related treaties, and foreign patent application strategies Session 15, July 24, Takayama (Higashida) , Examination (Test)						
<b>[Course requirements]</b>						
This course is mandatory for IP, and an elective for MPH.						
<b>[Evaluation methods and policy]</b>						
Class participation (including attendance) and Results of Examination after all Sessions.						
<b>[Textbooks]</b>						
Handouts will be distributed as texts for each lecture.						
<b>[References, etc.]</b>						
<b>(Reference books)</b> The JPO text (2023 Text for Briefings on the Intellectual Property Rights System (for beginners)) shall be used as a reference text. No particular reference books are specified. Please refer to the following materials as examples. (Reference books) 1. 標準特許法 第8版 (高林 龍著 有斐閣) (Hyoujun Tokkyo Hou, 8th edition, YUHIKAKU PUBLISHING CO.,LTD) 2. リーガルクエスト知的財産法 第2版 (愛知 靖之ら著 有斐閣) Legal Quest Intellectual Property Law, Second Edition (Yasuyuki Aichi et al., YUHIKAKU PUBLISHING CO.,LTD)						
Continue to 特許法特論・演習 (前期) (3) ↓ ↓ ↓						

<b>特許法特論・演習 (前期) (3)</b>						
3. 産業財産権標準テキスト特許編 (発明協会) Standard Textbook of Industrial Property Rights, Patent Edition (Japan Institute of Invention and Innovation) 4. 知的財産権法文集 (発明協会) Intellectual Property Law Collection (Japan Institute of Invention and Innovation)						
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>						
Please refer to the textbooks and other materials for beginners available from the JPO website.						
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>						
・ We recommend that students take "Fundamentals of Intellectual Property Management" alongside this course.  Human health science majors are eligible to participate in this course.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.						

未更新

<b>Course number</b>		P-PUB01 8N015 LJ90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	遺伝医療と倫理・社会		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor, OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TORISHIMA MASAKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO		
	Genetic Medicine, Ethics and Society					
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/First semester	
<b>Days and periods</b>	水2・その他開講日注	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
[Basic information] Class date and time: 2nd period of Wednesdays (there may be exceptions) Classroom: Building G, 3rd Floor, Seminar room Level: Basic Staff in charge: Shinji Kosugi (subject coordinator), Takahito Wada, Ken Nakajima, Takahiro Yamada, Hideaki Sawai, Hidenori Kawasaki, Shinji Kosugi						
[Course overview] Ethical considerations are essential in genetic/advanced medicine. This course is focused on the basics of medical ethics, centered on genetic medicine. Understanding the different guidelines involved is of vital importance. It also outlines the current state of genetic medicine in Japan, including its social foundation.						
<b>[Course objectives]</b>						
Understand the ethical guidelines for genetic medicine and medical science, as well as the basics of ethical issues in genetic testing in pediatrics/obstetrics, as well as in gynecology genetic medicine, and social infrastructure.						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
[1st lecture] 4/13 [Kosugi 1] General Theory of Genetic Medicine: The first compulsory subject of the genetic counselor course is a general introduction, not necessarily related to ethics. The peculiarities of ethical issues in genetic medicine, sharing genetic information, and the unintended disclosure of genetic information are also discussed. [2nd lecture] 4/20 (First Clinical Auditorium) [Kosugi 2] A look at various guidelines concerning genetic medicine. [3rd lecture] 4/27 [Kosugi 3] Ethical Guidelines (and Others) for Human Genome and Gene Analysis Research: Ethical issues involved in human gene analysis conducted as research, as well as the boundaries and distinctions between research and clinical practices. [4th lecture] 5/11 [Kosugi 4] Gene Analyses Conducted by Companies: The issues involved in outsourcing genetic tests to external entities such as clinical testing companies, as well as issues in gene tests carried out in non-medical institutions. [5th lecture] 5/18 [Kosugi 5] Guidelines for Genetic Testing and the Significance of Gene Testing: A						
Continue to 遺伝医療と倫理・社会(2) ↓ ↓ ↓						



遺伝医療と倫理・社会(2)	
<p>look at ethical issues that must be considered when performing clinical genetic testing, as well as the meaning of gene diagnosis and its issues while clarifying the differences between probands and relatives.</p> <p>[6th lecture] 5/25 [Nakajima 1] About Pre-Symptomatic Gene Diagnosis: An analysis of the meaning of pre-symptomatic genetic diagnosis and susceptibility diagnosis and the issues involved, while clarifying the differences among neurodegenerative diseases and familial tumors.</p> <p>[7th lecture] 6/1 [Nakajima 2] Carrier Diagnosis: The meaning of carrier detection in autosomes, X-linked inheritance recessive hereditary diseases, and balanced chromosome translocation.</p> <p>[8th lecture] 6/8 [Wada 1] Diagnosis and Notification of Pediatric Hereditary Diseases and Guardianship: A look at ethical issues in childhood-onset hereditary diseases.</p> <p>[9th lecture] 6/8 5th period [Yamada1] Induced Abortion: Induced abortion in Japan and the ethical issues involved.</p> <p>[10th lecture] 6/15 [Yamada2] Prenatal Diagnosis and Assisted Reproductive Technology: A look at the ethical issues of prenatal diagnosis, and a detailed analysis of ethical questions surrounding assisted reproductive technologies due to infertility/infecundity.</p> <p>[11th lecture] 6/15 5th period [Wada 2] The Diversity of Bioethics: An analysis of various bioethics of patients and clients and how to deal with them.</p> <p>[12th lecture] 6/22 [Wada 3] Disabilities and Bioethics: A look at bioethics from the perspective of disabilities.</p> <p>[13th lecture] 6/29 5th period [Yamada 3] Handling Secondary Findings in Genome Medicine: Ethical issues when dealing with secondary findings different from the original purpose obtained, with the recent introduction of comprehensive genome analysis in clinical practice.</p> <p>[14th lecture] 6/29 4th period [Sawai] Policies to Counter Declining Fertility (Healthy Parents and Children 21): Various measures have been implemented to counter the falling birthrate, which slows society's growth. Some of these measures produced results, while others did not. This lecture looks at what went wrong.</p> <p>[15th lecture] 6/30 [Kawasaki] Neonatal Care and Ethics: Ethical problems in neonatal care.</p> <p>7/13 Final test Written test 8/3 Retest Written test</p>	
[Course requirements]	
Compulsory subjects for first-year students in the Genetic Counselor Course	
Availability for students majoring in Human Health Sciences: Contact us in advance	
[Evaluation methods and policy]	
Comprehensive evaluation of tests, reports, active participation in classes, presentations, attendance, and other activities.	
[Textbooks]	
Other materials will be distributed accordingly.	
[References, etc.]	
(Reference books)	
Introduced during class	
Continue to 遺伝医療と倫理・社会(3) ↓ ↓ ↓	

遺伝医療と倫理・社会(3)	
<p>[Study outside of class (preparation and review)]</p> <p>Instructions will be given accordingly</p>	
(Other information (office hours, etc.))	
The lecture schedule, lecturers, and content are subject to minor changes	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

Course number		P-PUB01 8H040 LJ90			
Course title (and course title in English)		基礎人類遺伝学 Introduction to Human Genetics		Instructor's name, job title, and department of affiliation	
				Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer KAWASAKI HIDENORI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor TORISHIMA MASAKO Graduate School of Medicine Program-Specific Professor YOSHIDA AKIKO	
Target year		Professional degree students	Number of credits		2
			Year/semesters		2024/First semester
Days and periods		水3・その他開講日注	Class style		Lecture (Face-to-face course)
			Language of instructor		Japanese
[Overview and purpose of the course]					
[Basic information]					
Class date and time: 3rd period on Wednesdays (there may be exceptions)					
Classroom: Building G, 3rd floor, Seminar room					
Level: Basic					
Staff in charge: Shinji Kosugi, Takahito Wada, Ken Nakajima, Takahiro Yamada					
[Course overview]					
Lectures about the most basic matters for those who intend to work as genetic counselors or in the field of medical genetics/genetic medicine. It is also important for tailor-made treatment based on genetic information expected in the future. This course is composed of systematic lectures about cytogenetics, molecular genetics, Mendelian genetics, non-Mendelian genetics, and population genetics.					
[Course objectives]					
Having a complete understanding of the basics of human genetics and being able to explain it to non-specialists in a concise manner.					
[Course schedule and contents]					
[1st lecture] 4/13 [Wada 1] General Theory of Mendelian Genetics and How to Draw Family Trees: General theory of Mendelian and non-Mendelian genetics, autosomes and sex chromosomes, the concept of alleles, the concept of hereditary diseases, and how to draw family trees.					
[2nd lecture] 4/13 4th period [Kosugi 1] Autosomal Dominant/Recessive Inheritance: The concepts of autosomal dominant diseases, their characteristics, penetrance, expressiveness, hereditary and de novo mutation, and anticipation (next-generation expression promotion phenomena); the concept and characteristics of autosomal recessive diseases; and the concept of carriers.					
[3rd lecture] 4/13 5th period [Kosugi 2] X-linked inheritance: The concept of X-linked inheritance, the specificities of the X and Y chromosomes, gender determination mechanisms, and specific diseases that show X-linked inheritance.					
[4th lecture] 4/13 6th period [Yamada 1] Cytogenetics (1) Chromosome and cell division, chromosome analysis by banding, method of karyotyping chromosomes, and an introduction to chromosome abnormalities.					
[5th lecture] 4/20 (First clinical auditorium) [Kosugi 3] Pharmacogenetics: Understanding the basics of pharmacogenetics/pharmacogenomics, the most important area of (already-starting) tailor-made treatment.					
Continue to 基礎人類遺伝学(2) ↓ ↓ ↓					

基礎人類遺伝学(2)	
<p>[6th lecture] 4/20 5th period [Yamada 2] Cytogenetics (2) The concept of chromosome numerical abnormality and generation mechanisms; the concept of chromosomal structural chromosome and generation mechanisms; and the concept of carriers and effects on the next generation.</p> <p>[7th lecture] 4/27 6th period [Wada 2] Estimation of genetic risks: Learn about estimation recurrence and Bayes' theorem.</p> <p>[8th lecture] 5/11 [Nakajima 1] Genetic testing (1) PCR, Sequencing and Southern blotting.</p> <p>[9th lecture] 5/18 [Kosugi] Genetic testing (2) How to screen for mutations, mutations and polymorphisms, and types of mutations.</p> <p>[10th lecture] 5/25 [Wada 3] Multifactorial inheritance and population genetics: Learn about the concept of multifactorial inheritance, quantitative and qualitative traits, and the Hardy-Weinberg principle.</p> <p>[11th lecture] 6/1 [Yamada 3] The Basics of the Human Genome: Learn about human genome information, including gene structure, functions, and genetic diversity in detail.</p> <p>[12th lecture] 6/8 [Wada 4] Non-Mendelian Genetics (1) Learn about mitochondrial inheritance.</p> <p>[13th lecture] 6/15 [Nakajima 3] The Basics of Tumor Genetics: Somatic cell variants and germline variants, oncogene and anti-oncogene, and hereditary cancer syndrome.</p> <p>[14th lecture] 6/22 [Wada 5] Non-Mendelian Genetics (2) Learn about epigenetics.</p> <p>[15th lecture] 6/29 [Yamada 4] The Basics of Molecular Genetics: PCR, next generation sequencing, and microarray.</p> <p>7/6 Written test 7/27 Retest Written test</p>	
[Course requirements]	
Compulsory subject for first-year students, graduating from non-medical college/university, in the Genetic Counselor Course	
Caution; students, graduating from medical college/university, should take "Introduction to Human Genetics"	
If taken as an elective, we recommend taking it along with "Genetic Medicine and Ethics/Society"	
Availability for students majoring in Human Health Sciences: Contact us in advance	
[Evaluation methods and policy]	
Comprehensive evaluation of tests, reports, presentations, attendance, and other activities.	
[Textbooks]	
Thompson & Thompson Genetics in Medicine (2nd Ed.) (Medical Science International) ISBN: 978-4-89592-875-5, April 2017, Edited by Yoshimitsu Fukuyama Genetic Counseling Manual (Revised 3rd Edition) (Nankodo) ISBN:978-4-524-26667-8 Rinsyo Idenn Senmonni Text 1 Rinsyo Idengaku Soron (Shindan to Chiryō sya) ISBN: 978-4787823670	
[References, etc.]	
(Reference books)	
Norio Niikawa	
Continue to 基礎人類遺伝学(3) ↓ ↓ ↓	

<b>基礎人類遺伝学(3)</b>	
Iden Igaku e no Shotai (Revised 6th Edition) (Nankodo) ISBN:978-4-524-24931-2.	
<b>(Related URLs)</b>	
(http://www.geneclinics.org/ (GeneReviews))	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Instructions will be given accordingly	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
The lecture schedule, lecturers, and content are subject to minor changes	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8N021 LJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング Clinical Genetics and Genetic Counseling	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor, OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TORISHIMA MASAKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO		
			<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>
<b>Days and periods</b>	水4-5-6	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
[Basic information] Class date and time: 4th and 5th periods on Wednesdays (there may be exceptions) Classroom: Building G, 3rd Floor, Seminar room, Level: Basic Staff in charge: Takeshi Nakajima, Takahito Wada, Masanobu Ogawa, Hideaki Sawai (Hyogo College of Medicine), Masayo Takahashi, Hidenori Kawasaki, Hiroshi Yamazaki, Shinji Kosugi					
[Course overview] General lectures on the basic concepts, models, and current state of genetic counseling. The students are expected to acquire a level of knowledge and vision about the most common diseases in order to allow them to be part of a genetic medicine team. Also, to provide the students with skills to solve problems in the field of genetic medicine, the course offers lectures on clinical genetics and is focused on family relationships and genetic counseling as part of team medical care. Monohereditary diseases, chromosomal abnormalities, multiple malformations, recurrent miscarriage, familial tumors, neurodegenerative diseases, and multifactorial diseases are discussed in detail through the lectures.					
<b>[Course objectives]</b>					
Capable of explaining the pathology, causes, mode(s) of inheritance, and genetic problems of major hereditary illnesses. Also, being able to explain the basic concepts of genetic counseling for these ailments, as well as the main considerations about them.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
[1st lecture] 4/19 4th period (First clinical auditorium) [Nakajima] General Theory of Hereditary Cancer (1) General Theory of Familial Tumors (1): The concepts of familial tumors, somatic and germline mutations, tumor (suppressor) genes, and pre-symptomatic diagnosis. [2nd lecture] 4/19 6th period [Wada] Congenital Malformation Syndrome A look at the diagnosis/rehabilitation and genetic counseling for congenital malformation syndrome. [3rd lecture] 4/26 4th period [Nakajima] Hereditary Cancer (2) A look at familial adenomatous polyposis and Lynch syndrome as typical hereditary cancer, as well as genetic counseling practices for those diseases. [4th lecture] 4/26 5th period [Wada] Autosomal Abnormalities (1) A look at genetic counseling for diseases caused by numerical and structural abnormalities of autosomes. [5th lecture] 4/26 6th period [Ogawa] Infertility and Assisted Reproductive Technology Historical background, current state, specific skills, legal regulations, ethical issues, and guidelines. Autosomal abnormalities and genetic counseling.					
Continue to 臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(4) ↓ ↓ ↓					

<b>臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(2)</b>	
[6th lecture] 5/10 4th period [Wada] Autosomal Abnormalities (2) A look at the diagnosis, treatment, and rehabilitation of microdeletion syndrome and chromatin-related illnesses. [7th lecture] 5/10 5th period [Wada] Sex Chromosomes Abnormalities Learn about genetic counseling for Turner syndrome and Klinefelter syndrome, X-linked inheritance disease, and the sex spectrum. [8th lecture] 5/10 6th period [Ogawa] Prenatal Diagnosis A look at the current state, specific skills, legal regulations, and ethical issues, as well as actual genetic counseling practices [9th lecture] 5/17 4th period [Ogawa] Infertility (Recurrent Miscarriage) The concepts, pathology, causes, treatment of infecundity and recurrent miscarriage, the involvement of genetic factors such as sperm dysfunction due to oligospermia and chromosomal abnormal pregnancy in translocation-type carriers, as well as genetic counseling for those cases. [10th lecture] 5/17 5th period [Wada] Hereditary Neurological Disorder (1) A look at genetic counseling for triplet repeat diseases and Fabry disease. [11th lecture] 5/24 4th period [Kokugi] Hereditary cancer (4): Multiple endocrine neoplasia Outline of the concepts, pathology, mode(s) of inheritance, diagnosis, treatment, and genetic counseling for multiple endocrine neoplasia types 1 and 2 as specific diseases of familial tumors. [12th lecture] 5/31 4th period [Wada] Muscular Dystrophy A look at genetic counseling for Duchenne/Becker Muscular dystrophy. [13th lecture] 5/31 4th period [Wada] Hereditary Neurological Disorder (2) A look at genetic counseling for neurocutaneous syndrome and spinal muscular atrophy. [14th lecture] 6/7 5th period [Wada] Hereditary Cardiovascular Disease A look at genetic counseling for hereditary cardiovascular diseases such as Long QT syndrome and Marfan syndrome. [15th lecture] 6/14 4th period [Ogawa] Fetus Diagnosis and Perinatal Control A look at obstetrics perinatal management, which is performed based on fetal information. [16th lecture] 6/14 5th period [Nakajima] Hereditary cancer (3) Hereditary breast and ovarian cancer (HBOC) Outline of the concepts, pathology, mode(s) of inheritance, diagnosis, treatment, and genetic counseling for hereditary breast and ovarian cancer (HBOC) as specific diseases of hereditary cancer. [17th lecture] 6/21 4th period [Nakajima] Hereditary cancer (5): Li-Fraumeni Syndrome Outline of the concepts, pathology, mode(s) of inheritance, diagnosis, treatment, and genetic counseling for Li-Fraumeni Syndrome as specific diseases of hereditary cancer. [18th lecture] 6/21 5th period [Ogawa] Genetic practice and medical system Learn about the clinical genetic medical system [19th lecture] 7/5 4th period [Yamazaki] Genetic Deafness The concepts, pathology, mode(s) of inheritance, diagnosis (syndromic and non-syndromic hearing loss), genetic heterogeneity, treatment and rehabilitation, and genetic counseling. [20th lecture] 7/5 5th period [Kawasaki] Congenital metabolic disorder Learn about congenital metabolic disorders and genetic counseling [21st lecture] 7/12 3rd period [Kawasaki] Intractable diseases Intractable Diseases and Medical Expenses Subsidy / Welfare System [22nd lecture] 7/12 4th period [Nakajima] Hereditary cancer (6) Learn about relatively rare hereditary cancer, poyposis syndrome other than FAP, retinoblastoma, and BHD syndrome [23rd lecture] 7/12 5th period [Masayo Takahashi] Hereditary Retinal Disease and Regenerative Medicine Retinitis pigmentosa and age-related macular degeneration: The concepts, pathology, mode(s) of inheritance, diagnosis, genetic heterogeneity, treatment, and regenerative medicine.	
Continue to 臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(3) ↓ ↓ ↓	

<b>臨床遺伝学・遺伝カウンセリング(3)</b>	
[24th lecture] 7/19 4th period [Wada] Final test Written test [25th lecture] 8/2 4th period [Nakajima] Retest Written test	
<b>[Course requirements]</b>	
Compulsory subject for first-year students in the Genetic Counselor Course	
If taken as an elective, we recommend taking it along with "Basic Human Genetics."	
Availability for students majoring in Human Health Sciences: Contact us in advance (must be taken along with Basic Human Genetics)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation of tests, reports, presentations, attendance, and other activities.	
<b>[Textbooks]</b>	
Also, see Basic Human Genetics	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Instructions will be given accordingly	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
The lecture schedule, lecturers, and content are subject to minor changes.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

Course number	P-PUB01 8N017 LJ90					
Course title (and course title in English)	遺伝医学特論 (集中講義) Special Seminar for Genetic Medicine			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor, OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TORISHIMA MASAKO	
	Target year	Professional degree students	Number of credits		2	Year/semesters
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
[Basic information] Class date and time: Mainly in the first semester (please check the exact start date and time) Classroom: First clinical auditorium Level: Advanced Staff in charge: Takeshi Nakajima, Takahito Wada, Masanobu Ogawa, Hidenori Kawasaki, Masako Torishima, Akiko Yoshida, Shinji Kosugi,						
[Course overview] Lectures designed to check the fundamentals of genetic counseling learned in the first year, and to acquire advanced knowledge at the same level as doctors.						
<b>[Course objectives]</b>						
Having a complete understanding of the basics of human genetics, and being able to have an accurate discussion with doctors.						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
[1st lecture] 4/11 Tuesday 1st period [Nakajima] "Basics of Clinical Genetics and Genetic Counseling / Mendelian Genetics" Learn about inheritance and genetic terms [2nd lecture] 4/11 Tuesday 2nd period [Nakajima] "About Genetic Testing" Learn about genetic testing for hereditary diseases [3rd lecture] 4/12 Wednesday 1st period [Wada] "How to Draw Family Trees and Estimation of Genetic Risks" The standard method for drawing family trees and methods of estimating genetic risk [4th lecture] 4/12 Wednesday 2nd period [Wada] "Genetic Counseling for Congenital Malformation Syndromes" Genetic counseling for major congenital malformation syndromes [5th lecture] 4/14 Friday 1st period [Ogawa] "Genetic Counseling for Cytogenetics and Chromosomal Abnormalities" The basics of cytogenetics and genetic counseling for chromosomal abnormalities [6th lecture] 4/14 Friday 1st period [Ogawa] "Prenatal Care and Genetic Counseling" A look at actual practices of prenatal genetic testing and genetic counseling [7th lecture] 4/18 Tuesday 1st period [Wada] "Genetic Counseling for Hereditary Neurological Disorders" A look at genetic counseling for major hereditary neurological disorders [8th lecture] 4/18 Tuesday 2nd period [Ogawa] "Assisted Reproductive Technology and Genetic Counseling" A look at assisted reproductive technologies and genetic counseling, targeting medical conditions such as						
Continue to 遺伝医学特論 (集中講義) (2) ↓ ↓ ↓						

Course number	P-PUB01 8H158 LB90					
Course title (and course title in English)	地域保健活動論 Public health intervention strategies			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KONDO NAOKI	
	Target year	Professional degree students	Number of credits		2	Year/semesters
Days and periods	Thu.3,4	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese and English	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
This course provides the opportunities for practical learning in the form of lectures and exercises on theories and techniques related to health promotion activities in "places" such as the international community, countries, local communities, workplaces, and SNS communities.  Focusing on social determinants of health and health disparity in particular. Among the related theories, We discuss on Rose's high risk strategy and population strategy in preventive medicine, which are further classified into vulnerable population approach, proportionate universalism, redistributive policy, etc.  Health promotion requires consensus building and collaborative activities with various stakeholders. Concepts related to community practice include community empowerment, community organizing, social prescribing, community-based integrated care (chiiki houkatsu kea), and inclusive community design. We will also discuss recent voluntary actions by citizens, such as children's cafeteria (kodomo shokudo) and learning support for children.  Participants will choose their own review topics to provide the presentation on them on the final day.						
<b>[Course requirements]</b>						
Available only for the Division of Medical Science (Master's Program).  Requires a basic understanding of molecular biology and molecular genetics.						
<b>[Evaluation methods and policy]</b>						
Comprehensive evaluation of tests, reports, attendance, and other activities.  [Passing grade] A score of at least 60 out of 100 points on the written test 60 points or more: Pass 59 points or less: Fail						
<b>[Textbooks]</b>						
『Thompson & Thompson Genetics in Medicine (2nd Ed.)』 (Medical Science International) ISBN:978-4-89592-875-5 『#8226 Genetic Counseling Manual (Nankodo) Revised 3rd Edition』 (Nankodo) ISBN:978-4-524-26667-8 『Clinical genetics text note』 (The Japan Society of Human Genetics) ISBN:978-4-787-82316-8						
<b>[References, etc.]</b>						
(Reference books) 『Iden Igaku e no Shotai ( "Invitation to Medical Genetics" ) Revised 5th Edition』 (Nankodo) ISBN: 978-4-524-26562-6 Dian Donnai and Andrew Read 『New Clinical Genetics』 (MEDSI) ISBN:978-4-89592-574-7						
Continue to 遺伝医学特論 (集中講義) (3) ↓ ↓ ↓						

未更新

Course number	P-PUB01 8H158 LB90					
Course title (and course title in English)	地域保健活動論 Public health intervention strategies			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KONDO NAOKI	
	Target year	Professional degree students	Number of credits		2	Year/semesters
Days and periods	Thu.3,4	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese and English	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
This course provides the opportunities for practical learning in the form of lectures and exercises on theories and techniques related to health promotion activities in "places" such as the international community, countries, local communities, workplaces, and SNS communities.  Focusing on social determinants of health and health disparity in particular. Among the related theories, We discuss on Rose's high risk strategy and population strategy in preventive medicine, which are further classified into vulnerable population approach, proportionate universalism, redistributive policy, etc.  Health promotion requires consensus building and collaborative activities with various stakeholders. Concepts related to community practice include community empowerment, community organizing, social prescribing, community-based integrated care (chiiki houkatsu kea), and inclusive community design. We will also discuss recent voluntary actions by citizens, such as children's cafeteria (kodomo shokudo) and learning support for children.  Participants will choose their own review topics to provide the presentation on them on the final day.						
<b>[Course objectives]</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understand the historical transition of the concept of community health activities.</li> <li>Understand the basics of health inequalities management in the community.</li> <li>Critically evaluate the community welfare actions that are currently being implemented.</li> <li>Practical learning of methods for consensus building with various actors.</li> <li>Select the themes that students are interested in, discuss them in a presentation format, and deepen their understanding.</li> </ul>						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
The following schedule is subject to change. 1. 10/5 Concepts of community health activities and their evolution/types of population approaches 2. 10/12 Creating healthy communities: fostering social capital and community organization 3. 10/19 Data-based community development: health promotion in communities using local diagnostic data. 4. 10/26 Promoting partnerships with diverse organizations: building consensus and promoting activities with sectors outside of health 5. 11/9 Experiencing Health Impact Assessment (HIA): HIA exercise (Prof. Yoshihisa Fujino, Occupational and Environmental Medicine University) 6. 11/13 Inclusive society created through 'Yuru Sports' (special lecture by Mr Tomohiro Sawada, President						
Continue to 地域保健活動論(2) ↓ ↓ ↓						

<b>地域保健活動論(2)</b>	
of the World Yuru Sports Association) (Japanese only) 7. 11/30 "Selling" health: Application of social marketing and targeting of activities (Dr Masamitsu Kamata, The University of Tokyo, ) 8. 12/14 Students' Presentation!	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Attendance (30%), report (30%), presentation (40%): Report submission is required for the first lecture and final presentation.	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Lisa F. Berkman, Ichiro Kawachi, and M. Maria Glymour 『Social Epidemiology 2nd Edition』 (Oxford, 2014) ISBN:9780195377903  Editors: Kawachi, Ichiro, Takao, Soshi, Subramanian, S.V. Global Perspectives on Social Capital and Health. Springer, 2013	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Prepare for the presentations in the final day.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H020 LB90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	人間生態学 Field Medicine	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Center for Southeast Asian Studies Associate Professor,SAKAMOTO RYOUTA
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Days and periods</b>	Mon.4	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)
<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester		
<b>Language of instructor</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
Field Medicine is based on the belief that patients in the hospital setting provides only a small glimpse into their world, and that the reality of illness and aging can be observed in their homes and communities as well. In this class, we will consider illness and ageing in relation to ecology and culture.			
<b>[Course objectives]</b>			
To nurture the potential to find and tackle with issues of one's own motive, we will learn the pioneer spirits and philosophy of our forefathers and people in our time.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
1. Introduction 2. Field Medicine 3. Freedom and Pioneer Spirits 4. Studies started from a patient in front of you 5. Legionella beside you 6. Aging in high-altitude environments 7. Global environment issues inside us 8. Health and happiness among the elderly in Domkhar valley 9. Significance of friendships in area studies 10. Community based elderly care program in Bhutan 11. Learning livelihoods of people from a clinic 12. Limitations and roles of medical care 13. View of life and death and significance of medical care 14. Message from an elderly in Himalaya 15. General Discussion			
<b>[Course requirements]</b>			
None			
Continue to 人間生態学(2) ↓ ↓ ↓			

<b>人間生態学(2)</b>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Evaluation will be made based on presentation, question-and-answer participation in class and reports.	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> 坂本龍太 『ブーランの小さな診療所』 (ナカニシヤ出版) ISBN:978-4779508974 奥宮清人 『生老病死のエコロジー』 (昭和堂) ISBN:978-4812210673	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Please treasure questions and ideas conceived in your mind during the classes. Please study further and consider well in your mind after the classes.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Ryota Sakamoto, MD, PhD  Center for Southeast Asian Studies Kyoto University 46 Shimoadachi-cho, Yoshida, Sakyo-ku, 606-5801 Kyoto, Japan TEL:+81 75-753-7368 FAX:+81 75-753-7168 E-mail:sakamoto65@cseas.kyoto-u.ac.jp  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H021 LJ90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	交絡調整の方法 Intermediate Biostatistics	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor,OMORI TAKASHI
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Days and periods</b>	Tue.2	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)
<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester		
<b>Language of instructor</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
Confounding leads to bias which interferes causal interpretation between exposure and outcome in observational studies. This course is designed to provide statistical methods for adjustment of confounding. Stratified analysis and regression modeling are introduced. Related topics, such as survival analysis, missing data, etc., are included. For conducting an epidemiologic or clinical research, developing a study protocol and a statistical analysis plan is necessary. We provide an essence for developing them.			
<b>[Course objectives]</b>			
The goals of this course are - to able to explain the concept of confounding - to able to understand and explain pros and cons of stratified analyses and regression modeling - to able to understand and importance for study protocol and statistical analysis plan.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
1. October 1 Confounding and standardization 2. October 8 Estimation of common effect measures 3. October 22 Comparison of means 4. October 29 Introduction to regression modeling, Class exam 1 5. November 12 Generalized linear models 6. November 19 Survival analysis 1 7. November 26 Survival analysis 2 8. December 3 Handling missing data, Class exam 2 9. December 10 Study protocols 10. December 17 Statistical analysis plans 11. December 24 Review of pharmaceutical products and pharmacovigilance 12. January 7 Variable selections, Class exam 3  (13:15-14:45) 13. January 14 Advanced methods for confounding adjustment 14. January 21 Discussion on statistical analysis plans			
Continue to 交絡調整の方法(2) ↓ ↓ ↓			

交絡調整の方法(2)	
<b>[Course requirements]</b>	
All students in the course were expected to take "Fundamentals of Biostatistics"	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Class examinations - 3 times.	
<b>[Textbooks]</b>	
Distributed materials in "Fundamentals of Biostatistics"	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Rothman KJ, Greenland S, Lash TL. 『Modern Epidemiology, 3rd ed.』 (Lippincott Williams & Wilkins, 2008)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Fundamentals of Biostatistics	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H022 P190				
<b>Course title (and course title in English)</b>	解析計画実習 Health Data Processing Laboratory			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, OMORI TAKASHI JPMA MORI KAZUHIKO Pharmaceuticals and Medical Devices Agency ANDO YUKI Graduate School of Medicine Assistant Professor, Omiya Masatomu	
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		2	<b>Year/semesters</b>
<b>Days and periods</b>	Tue.3,4	<b>Class style</b>	Practical training (Face-to-face course)		<b>Language of instructor</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
This course provides students technical issues to develop a statistical analysis plan and a study protocol. This course provides practice to review new pharmaceutical products. At the end of this program, students develop their statistical analysis plans for their master's thesis and give presentation for them.						
<b>[Course objectives]</b>						
The goals of this course are - to able to understand study guidelines - to able to apply stratified analysis and regression models using JMP statistical software and interpret results - to able to be familiar with review of submitted documents for approval on new pharmaceutical products - to able to develop analysis plans for master's theses.						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
1. October 1 Study guidelines 1 2. October 8 Study guidelines 2 3. October 22 Study guidelines 3 (Presentation) 4. October 29 Stratified analysis 5. November 12 Comparison of means 6. November 19 Regression analysis 7. November 26 Generalized linear models 8. December 3 Survival analysis 9. December 10 Review practice for new pharmaceutical products 1 10. December 17 Review practice for new pharmaceutical products 2 11. December 24 Review practice for new pharmaceutical products 3 (Presentation, 15:00-18:15) 12. January 7 Developing statistical analysis plan 1 13. January 14 Developing statistical analysis plan 2 14,15. January 21 Statistical analysis plan presentations (Presentation, 10:30-16:30)						
Continue to 解析計画実習(2) ↓ ↓ ↓						

解析計画実習(2)	
<b>[Course requirements]</b>	
All students in the course were expected to take "Introduction to Statistical Computing."	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Report in each session (80%) and presentations (20%).	
<b>[Textbooks]</b>	
Distributed materials in "Fundamentals of Biostatistics" Distributed materials in "Introduction to Statistical Computing" Distributed materials in "Intermediate Biostatistics"	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
You must download and install the statistical software JMP on your own computer. Please see <a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/software/JMP/</a> .	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Introduction to Statistical Computing	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H159 LB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	環境曝露・リスク評価 Environmental exposures and their risk assessments			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, HARADA KOUJI 京都大学 医学研究科 研究員 FUJITANI TOMOKO Part-time Lecturer, HARADA MARIKO Part-time Lecturer, FUJII YUKIKO	
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		2	<b>Year/semesters</b>
<b>Days and periods</b>	Fri.5	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)		<b>Language of instructor</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
In this course, I lecture on methodologies for assessing the health effects of environmental factors. I will outline various environmental factors and introduce exposure assessment methods for each. I will introduce examples of analyzing the effects of environmental factors on health outcomes and give lectures on their characteristics. I will introduce a framework for assessing risk in a defined population based on the impact of environmental factors and consider case studies. Finally, I will introduce the actual risks and issues of risk management that implement risk evaluation results in our society. In the lecture, the students themselves will consider the case, and have opportunities for presentations and discussions.						
<b>[Course objectives]</b>						
To explain various environmental factors. To explain the outline of the method of exposure assessment of environmental factors. To understand the framework of health impact assessment and risk assessment. To conduct a critical review on published article in environmental health.						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
1st Orientation 2nd Exposure assessment 1 Chemical factors 3rd Exposure assessment 2 Biological monitoring 4th Exposure assessment 3 Chemical analysis 5th Toxicology 1 General principle 6th Toxicology 2 Testing methods 7th Toxicology 3 Toxicokinetics 8th Toxicology 4 Neurotoxicity 9th Environmental epidemiology 1 Phytoestrogens 10th Environmental epidemiology 2 Chemical exposures and metabolic disorders 11th Risk assessment 1 Critical review 12th Risk assessment 2 Critical review 13th Toxicology 5 Gene and environment interactions 14th Risk management 15th Presentation and discussion						
Continue to 環境曝露・リスク評価(2) ↓ ↓ ↓						

環境曝露・リスク評価(2)
<b>[Course requirements]</b>
None
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Attendance and active participation 50%</li> <li>Presentation 50%</li> </ul>
<b>[Textbooks]</b>
Handouts
<b>[References, etc.]</b>
<b>(Reference books)</b>
Introduced during class
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Revision is recommended to follow biological mechanisms in target toxicities.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H032 LB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	ベンチトレーニングコース On the Bench Training Course		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor.HARADA KOUJI 武庫川女子大学食物栄養科学部 准教授 HABU TOSHIYUKI 昭和大学医学部 講師 MORITO DAISUKE	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, Second semester
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
The practice of toxicology and exposure assessment will be given for learning protocol writing, protocol meeting, sample collection, sample measurement, audit, paper writing, review and presentation.					
<b>[Course objectives]</b>					
Skills in handling Gas Chromatography/Mass Spectrometry (GC-MS) and other testing kits Skill for protocol writing in accordance with the practice of toxicology Conduct laboratory works Skill to evaluate the experimented data Skill to write a company paper					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Course Schedule 1 Orientation 2 Gas Chromatography 3 Mass Spectrometry 4 Biochemical analysis 5 Molecular analysis 6 Physiological analysis 7 Discussion of theme and presentation of background 8 Protocol Writing 9 Protocol Presentation 10 Sample collecting 11 Sample measurement (1) 12 Sample measurement (2) 13 Summarizing the data 14 Presentation of the data 15 Writing Paper					
Continue to ベンチトレーニングコース(2) ↓ ↓ ↓					

ベンチトレーニングコース(2)
<b>[Course requirements]</b>
None
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Attendance and active participation 50% Presentation 50%
<b>[Textbooks]</b>
Instructed during class
<b>[References, etc.]</b>
<b>(Reference books)</b>
Introduced during class
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Group discussion will be performed by students in Out-of-Class.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
Course schedule will be planned according to the theme of each student.
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H099 LB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査 Development strategy, plan, and regulatory affairs of drugs and medical devices		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor.KAWAKAMI, KOJI	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester
<b>Days and periods</b>	Wed.3,4	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Director and Instructors: (Director) Koji Kawakami (Professor, Pharmacoeconomics), Shiro Tanaka (Program-specific Professor, Clinical Biostatistics), Madoka Sasaki (Graduate School of Kinki Univ.), Yasuhiro Fujiwara (PMDA), Hiroi Kasai (Tohoku Univ. CRIETO), Haruko Yamamoto (NCVC), Tetsuya Tokoro (Sanamed), Hiroshi Yamada (NIBIO), Shigeoyuki Wakitani (Mukogawa Women's Univ.), Yoko Uryuhara (Doshisha Univ.), Christian Elze (Catenion), Yoshie Onishi (CreativCeutical), Gen Terashima (JMDC), Hisashi Urushihara (Keio Univ.), Toshiki Fukasawa (Assistant professor, Digital health)					
The development strategy, protocol design, project management, safety/efficacy assessment, and economic evaluation of drugs and medical devices will be lectured. The development of drug and medical device and the regulatory review in terms of manufacturing and control, nonclinical studies, clinical protocol, the new drug applications, and post-marketing will be discussed.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>The idea of drug/medical device development and regulatory review will be understood.</li> <li>To understand the strategy, protocol development, and project management of drug development and clinical trials.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
October 2 Drug Development strategy and translational research (Tanaka) October 9 Industry R&D and regulatory reviewer training: protocol review of clinical trial (Fujiwara) October 16 Industry R&D and regulatory reviewer training: CMC (Kawakami) October 23 Industry R&D and regulatory reviewer training: nonclinical studies (Sasaki) October 30 Project management of clinical trial (Kasai) November 6 Industry R&D and regulatory reviewer training: medical devices (1) (Yamamoto) November 13 The Changing Dynamics of Bio-pharmaceutical Innovation (Elze) November 27 Safety-data evaluation and its AI application in drug development (Yamada) December 4 Industry R&D and regulatory reviewer training: regenerative medicine (Wakitani) December 11 Life Cycle Management of Pharmaceuticals and Behavioral Science (Uryuhara) December 18 Drug epidemiology methodology training (Fukasawa) December 25 Pharmacoeconomics and value-based drug pricing (Onishi)					
Continue to 医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2) ↓ ↓ ↓					

医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査(2)	
-----	
January 8 Industry R&D and regulatory reviewer training: medical devices (2) (Tokoro) January 22 Industry R&D and regulatory reviewer training: Post-marketing surveillance (Urushihara) January 29 Evaluation of medical database / health evaluation (Terashima)	
<b>[Course requirements]</b>	
You must take this course along with the course H109 "Drug policy and regulations" and H079 "Drug development, evaluation and regulatory sciences" of Wednesday 2nd of the second semester for you to acquire fundamental understanding of the field.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Participation (50%) and report (50%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Saeko Yasuo et al. 『Invitation to new drug development.』 (Kyoritsu Press, 2006) Koji Kawakami, Hisashi Urushihara, Shiro Tanaka et al. ed. 『Strom's Textbook of Pharmacoepidemiology』 (NANZANDO Co.,Ltd., 2019.)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation in advance and review after lecture	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Koji Kawakami (3F, Bldg G) appointment required by email. e-mail: kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H079 LB90		
<b>Course title (and course title in English)</b>	医薬品の開発と評価 Drug Development, Evaluation and Regulatory Sciences	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, KAWAKAMI, KOJI	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	
<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, Second semester		<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>				
Director and Instructors: (Director) Koji Kawakami (Professor, Pharmacoepidemiology) Hironitsu Shirasawa (MSD, Japan), Ikuro Horii (Cambridge Univ.), Izumi Sato (Professor, Nagasaki Univ.), Christian Elze (Catention), Yoshie Onishi (Creativ Ceutical), Yasuharu Sakaki(MOF), Hisashi Urushihara (Keio Univ.), Sachiko Tanaka (Professor, Kobe Pharmaceutical University)				
The efficacy and safety of the drug, biologics, and medical devices are evaluated through the drug development process involving preclinical and clinical studies, manufacturing, and post-marketing surveillance. Also, cost/benefit consideration through the comparative effective research is necessary. Fundamental considerations of these issues along with research examples will be discussed.				
<b>[Course objectives]</b>				
To understand idea of the development, evaluation, cost/benefit of medicinal products.				
<b>[Course schedule and contents]</b>				
November 13 Healthcare Systems - Challenges and Reform(Elze) November 27 Drug development and toxicity/safety (Horiei) December 4 Medical real world data and Medicine evaluation(Kawakami) December 11 Regulatory affairs in the globalwide pharmaceutical company (Shirasawa) December 18 An introduction to Pharmacoepidemiology (Sato) December 25 Pharmacoeconomics and value-based drug pricing (Onishi) January 8 Finance of Japan and healthcare (Sakaki) January 22 Postmarketing surveillance (Urushihara) January 29 Digital health and epidemiology(Tanaka)				
<b>[Course requirements]</b>				
You must take this course along with the course H109 "Drug policy and regulation" otherwise the entire grasp of the drug research, development, and regulations will not be achieved.				
-----				
Continue to 医薬品の開発と評価(2) ↓ ↓ ↓				

医薬品の開発と評価(2)	
-----	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Participation (50%) and report (50%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Saeko Yasuo et al. 『Invitation to new drug development.』 (Kyoritsu Press, 2006) Koji Kawakami, Hisashi Urushihara, Shiro Tanaka et al. ed. 『Strom's Textbook of Pharmacoepidemiology』 (NANZANDO Co.,Ltd., 2019.)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation in advance and review after lecture	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Koji Kawakami (3F, Bldg G) appointment required by email. e-mail: kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp intermediate  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M004 SJ90		
<b>Course title (and course title in English)</b>	契約実務演習 Business Contract Practice	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, SUZUKI HIROSHI Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, SAOTOME CHIKAHO	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	
<b>Days and periods</b>	Tue.5	<b>Class style</b>	Seminar (Face-to-face course)	
<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester		<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>				
Course overview In order to conduct business using research results, in many cases, it is necessary to collaborate with others. Knowledge of contracts and the ability to execute them are necessary to maximize the value of research results and intellectual property, and to prevent, avoid, and resolve disputes with other parties at each stage of collaboration, from the start of research to commercialization.				
In this course, students will learn the basics of contracts, as well as the points to keep in mind when concluding contracts such as non-disclosure agreements, joint research agreements, patent license agreements, and other contracts related to conducting research and utilizing research results, using sample contract documents. In addition, students will learn about legal research methods and basic negotiation techniques, mainly in the field of drug discovery.				
Teaching and Learning Methods Participation in lectures and exercises				
<b>[Course objectives]</b>				
- Understand the basics of contracts and enhance legal literacy - Understand the process of entering into R&D-related contracts and important points and precautions - Understand how to review simple contracts				
<b>[Course schedule and contents]</b>				
1st session (Suzuki) October 1 Introduction to Contracts 2nd session (Saotome) October 8 Legal Search 3rd session (Saotome) October 22 Negotiation 4th session (Suzuki) October 29 Contract documents (1) 5th session (Suzuki) November 5 Contract documents (2) 6th session (Suzuki) November 12 Nondisclosure agreement 7th session (Suzuki) November 19 MTA (Material Transfer Agreement) 8th session (Suzuki) November 26 Collaborative Research Agreement 9th session (Suzuki) December 3 Collaborative Research Agreement 10th session (Suzuki) December 10 R&D related contracts				
-----				
Continue to 契約実務演習(2) ↓ ↓ ↓				

契約実務演習(2)	
11th session (Suzuki) December 17 R&D related contracts 12th session (Suzuki) December 24 R&D related contracts 13th session (Suzuki) January 7 R&D related contracts 14th session (Suzuki) January 14 R&D related contracts 15th session (Suzuki) January 28 R&D related contracts  In the 10th through 15th sessions, we plan to cover contracts related to research and development, such as research consentment agreements, joint application agreement, patent license agreements, and data transfer agreements.  In addition, there is a possibility that an outside lecturer in charge of contracts at a company, etc. will give a lecture or conduct a mock negotiation at one of the sessions, taking into consideration the preferences of the students.	
[Course requirements]	
This course is mandatory for IP, and an elective for MPH. Students preferably have already taken or concurrently take the following courses: "Fundamentals of Intellectual Property Management" and "Advanced Patent Law and Practice."	
[Evaluation methods and policy]	
Class participation (including attendance), assignment submissions, participation in exercises, and presentations.	
[Textbooks]	
Other required texts: None. Materials will be provided by teaching staff	
[References, etc.]	
<b>(Reference books)</b> 知っておきたい知的財産契約の基礎知識 (Basic knowledge of intellectual property agreements) <a href="https://www.inpit.go.jp/katsuyo/ip-contract.html">https://www.inpit.go.jp/katsuyo/ip-contract.html</a>  Other references will be introduced during class.	
[Study outside of class (preparation and review)]	
Indicated as appropriate.	
[Other information (office hours, etc.)]	
Human health science majors are eligible to participate in this course (please contact us in advance).  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8M007 SJ90				
Course title (and course title in English)		知的財産法演習 Practicum for Intellectual Properties Protection Law		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Part-time Lecturer,TOMA HIROFUMI Part-time Lecturer,SOIYO ISAMU
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2024-Irregular, Second semester	
Days and periods	月 6	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese	
[Overview and purpose of the course]						
I. Course overview ・ Students are given an overview of how intellectual property in the fields of chemistry and biosciences (life sciences) is protected and used in Japan with reference to court cases. They also learn about the current state of the field and related issues. ・ Students get to analyze the essence of and trends visible in past judgments and learn the basic methodologies necessary to protect and utilize intellectual property properly. ・ Students learn about the current state of intellectual property in the field of life sciences.						
[Course objectives]						
II. Course attainment goals (What you can expect to have learned by the end of this course): ・ Together with analyzing key issues in important judgments to understand their logical significance, acquire the practical skills necessary to protect intellectual property appropriately through specific case exercises. ・ By studying the essence of past judgment cases and recent trends, acquire practical capabilities with respect to methods of protection and use of intellectual property specific to the life sciences field. ・ Further your understanding of the current state of intellectual property in field of life science.						
III. Methods of education and learning ・ Students will be taught through lectures relying on PowerPoint presentations and discussions and exercises using case materials.						
[Course schedule and contents]						
Session 1, October 7: Orientation and General Remarks Session 2, October 7: The Importance of Recognizing Inventors Session 3, October 21: How to Read Trial Decisions and Judgments, The Judgment System Session 4, October 21: Litigation rescinding a trial decision (Novelty and inventive step) Session 5, October 28: Professor Sojiyo: Aiming for Intellectual Capital Management Session 6, November 11: Professor Kumagai: The Role of Trial and Appeal Session 7, November 18: Litigation rescinding a trial decision (Inventive steps) Session 8, November 18: Litigation rescinding a trial decision (Description requirements, amendments, and corrections) Session 9, November 25: Case Studies (Inventive steps) (Presentation and discussion) Session 10, December 2: Litigation rescinding a trial decision (Applications to register a patent term extension) Session 11, December 9: Patent Infringement Lawsuits (1): Efficacy of Patent Rights, the Technical Scope of						
Continue to 知的財産法演習(2) ↓ ↓ ↓						

知的財産法演習(2)	
Patented Inventions Session 12, December 16: Patent Infringement Lawsuits (2): Doctrine of Equivalence, Defense Session 13, December 16: Patent Infringement Lawsuits (3): Indirect Infringements Session 14, January 20: Case Study (Infringement litigation) (Presentation and discussion) Session 15, January 27: Professor Kumagai: The Patent System in General No examination  *The schedule is subject to change based on the availability of external lecturers.	
[Course requirements]	
This course is mandatory for IP, and an elective for MPH.  A basic knowledge of the practice of patent law (patent requirements, inspection criteria, etc.) is recommended. Students should have already taken or should concurrently take the following courses: "Advanced Patent Law and Practice" (first and second semesters).	
[Evaluation methods and policy]	
Comprehensive assessment will be made based on class participation (including attendance) and submission of assignment reports.	
[Textbooks]	
Other required texts: None. Necessary materials will be distributed during lectures. Recommended text: "別冊ジュリスト 特許判例百選 第5版 (No.244)" (Betsuban Jurisuto Tokkyo Hanrei Hyakusen Dai Go Ban, The Jurist: 100 Selected Precedents on Patents' Supplementary Volume, 6th Ed.) (Issued August 2019)	
[References, etc.]	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
[Study outside of class (preparation and review)]	
Students should study the judgments to be introduced in lectures in advance and identify relevant issues.	
[Other information (office hours, etc.)]	
・ High-level expertise in chemistry, bioscience etc., is not required (technical content shall be explained as necessary). ・ Note that the lecture schedule is tentative and subject to change. ・ Consecutive lectures across Periods 5 and 6 shall be held on October 7, October 21, November 18, and December 16. Human health science majors are eligible to participate in this course.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8M025 SJ90				
Course title (and course title in English)		特許法特論・演習 (後期) Special lecture and practicum for the Patent Law II		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Part-time Lecturer,TANAKA JUNYA
Target year	Professional degree students	Number of credits	2	Year/semesters	2024-Irregular, Second semester	
Days and periods	水 6	Class style	special lecture (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese	
[Overview and purpose of the course]						
Class overview ・ Learn about patent practice through exercises involving the identification of inventions that are a result of research on patent applications and the acquisition of patent rights, while focusing on the fields of chemistry and bioscience (life sciences). Understand the practicalities of patent strategy using specific examples of patent searches and patentability judgments, creation of specifications based on experimental data (invention description), and case studies.						
Methods of education and learning: ・ Lectures with PowerPoint presentations and exercises involving real examples ・ Case study lectures using case materials including self-study in advance						
[Course objectives]						
Course attainment goals (What you can expect to have learned by the end of this course) Deeper understanding of patent strategy in practice and knowledge and skills that form the fundamental requirements for such practice through seminars including personal learning and research.						
[Course schedule and contents]						
Session 1, October 2: How to Read and Write Patent Specifications (1): Explanation of how to read and write patent specifications with reference to actual patent specifications Session 2, October 9: How to Read and Write Patent Specifications (2): Explanation of how to read and write patent specifications with reference to actual patent specifications Session 3, October 16: How to Create a Patent Specification (Invention Description) (1): Identification and compilation of the essential parts of an invention based on simulated experimental data and scenarios up to the completion of the invention Session 4, October 23: How to Create a Patent Specification (Invention Description) (2): Identification and compilation of the essential parts of an invention based on simulated experimental data and scenarios up to the completion of an invention Session 5, October 30: How to Create a Patent Specification (Invention Description) (3): Identification and compilation of the essential parts of an invention based on simulated experimental data and scenarios up to the completion of an invention Session 6, November 6: How to Create a Patent Specification (Invention Description) (4): Identification and						
Continue to 特許法特論・演習 (後期) (2) ↓ ↓ ↓						



特許法特論・演習（後期）(2)	
<p>compilation of the essential parts of an invention based on simulated experimental data and scenarios up to the completion of an invention</p> <p>Session 7, November 13: Key Points Concerning Patents in the field of Life Science (1)</p> <p>Session 8, November 20: Analyzing Patent Specifications (1): Analyze, present, and discuss patent specifications.</p> <p>Session 9, November 27: Patent Search and Patentability Judgments (1): Choose a patent publication report, carry out a patent search and determine patentability, present, and discuss.</p> <p>Session 10, December 4: Patent Search and Patentability Judgments (2): Choose a patent publication report, carry out a patent search and determine patentability, present, and discuss.</p> <p>Session 11, December 11: Key Points Concerning Patents in the field of Life Sciences (2)</p> <p>Session 12, December 18: Case Study (1): Discussion of examples of litigation to rescind trial decisions in bioscience and chemistry through individual learning and presentations.</p> <p>Session 13, January 8: Case Study (2): Discussion of examples of litigation to rescind trial decisions in bioscience and chemistry through individual learning and presentations.</p> <p>Session 14, January 15: Practical Points in Patent Strategy in the field of Life Sciences (2)</p> <p>Session 15, January 22: Case Study (3): Discussion of examples of litigation to rescind trial decisions in bioscience and chemistry through individual learning and presentations.</p>	
<b>[Course requirements]</b>	
Required course for IP and elective course for MPH. Students are expected to have completed "Advanced Patent Law and Practice (First semester)" in advance.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation of reports (presentations on topics) and participation in case studies.	
<b>[Textbooks]</b>	
Other required texts: None. The minimum required materials will be distributed during lectures. Recommended texts include: 特許の知識 (Tokkyo no Chishiki 'Knowledge of Patents') (Kazuhiko Takeda, Diamond Co.) 産業財産権標準テキスト特許編 (Sangyou Zaisan Hyoujun Tekisuto Tokkyo-Hen 'Industrial Property Standard Text: Patents') (Japan Institute of Invention and Innovation) 知的財産権法文集 (Chiteki Zaisan Kenpou Bunshuu 'Intellectual Property Rights Law, Collected Works') (Japan Institute of Invention and Innovation)	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
In order to give presentations on patent application publications and court judgments among other topics in class, students must study the cases thoroughly before attending class.	
Continue to 特許法特論・演習（後期）(3) ↓ ↓ ↓	

特許法特論・演習（後期）(3)	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Learn about patent practice through exercises. Please consult with us first if you are unsure.</li> <li>Those without basic knowledge of patents, please take the Advanced Patent Law and Practice (First semester) first.</li> </ul> <p>Human health science majors are eligible to participate in this course.</p> <p>*Please visit KULASIS to find out about office hours.</p>	

Course number		P-PUB01 8M120 LJ90			
Course title (and course title in English)	創薬医学特論 Special Lecture for Drug Discovery		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, SAOTOME CHIKAOKA	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2024/Irregular, Second semester
Days and periods	Other	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>Today's drug discovery is diversified in modalities such as antibodies and nucleic acid drugs, in addition to small molecule drugs. In addition, technologies for drug discovery, such as drug delivery systems and AI-based drug discovery, have also progressed. Furthermore, not only pharmaceutical companies but also biotech companies are contributing to the creation of innovative drugs.</p> <p>Lecturers will be invited from pharmaceutical companies and startups engaged in drug discovery research, as well as venture capital firms that invest in venture companies, to give lectures with actual examples. This will provide students with an understanding of cutting-edge drug discovery activities.</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Understanding of drug discovery strategies, R&amp;D, and business models by studying drug discovery case studies.</li> <li>Understand basic drug discovery technologies and their applications</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>Oct. 3 (V) Guidance, and Introduction of Drug Discovery</li> <li>October 10, Period 5 (MIC 1F Seminar Room): DDS</li> <li>October 25, Period 5 (MIC 1F Seminar Room): JCR Pharma</li> <li>4 ~ 8 Schedule under adjustment</li> </ol>					
<b>[Course requirements]</b>					
MPH: selective "Introduction to Medical Innovation and Businesses" is recommended before attending the lecture.					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Comprehensive evaluation based on attitude at the class, presentation, and reports.					
Continue to 創薬医学特論(2) ↓ ↓ ↓					

創薬医学特論(2)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Require preparation and review as appropriate.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8M022 LB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	ゲノム科学と医療 Genome Science and Medicine			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor.MATSUDA FUMIHIKO Graduate School of Medicine Project Professor.NAGASAKI MASAO Graduate School of Medicine Associate Professor.KAWAGUCHI SHUJI		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		2	<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester
<b>Days and periods</b>	Thu.3	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
DNA sequencing technology is increasingly popularized, the application of this technology in the clinical medicine is now coming into reality. The aim of this course is to provide knowledges which are necessary to understand Genomic Medicine. The link between basic science and clinical medicine will be focused, from the currently ongoing practice to future perspectives. A lecture is provided by expert researcher each week. Students are also required to participate in the symposium of Kyoto Course on Bioinformatics for Genomic Medicine.							
<b>[Course objectives]</b>							
- Understand the basic concepts behind Genomic Medicine - Learn about current and upcoming application of genome science in the clinical practice							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Genomic Medicine: Regulators and Disease (Prof. Yasuhiro Murakawa) 【On-demand class】</li> <li>Disease and AI (Associate Prof. Shuji Kawaguchi) 【On-demand class】</li> <li>High-Dimensional Statistical Methods; Challenges and Innovations (Prof. Hung Hung, Taiwan University) 【On-demand class】</li> <li>Genetics of Diseases: Quantitative Traits and Structural Polymorphisms (Prof. Masao Nagasaki) 【On-demand class】</li> <li>Genomic Database Resources for Rare Diseases (Prof. Masao Nagasaki) 【On-demand class】</li> <li>Genomic Medicine COVID-19 (Prof. Masao Nagasaki) 【On-demand class】</li> <li>Genomic Medicine Genomic Drug Discovery (Prof. Yukinori Okada, Tokyo University) 【On-demand class】</li> <li>Pharmacogenetics of Genomic Medicine (Dr. Taisei Mushirola, Group Leader, RIKEN) 【On-demand class】</li> <li>How to Communicate the Results of Scientific Research (Riko Muranaka) (tentative) 【Simultaneous bidirectional class】</li> </ul> In principle, the classes will be delivered online in English.							
<b>[Course requirements]</b>							
Completion of Statistical Genetics I and II is strongly recommended							
Continue to ゲノム科学と医療(2) ↓ ↓ ↓							

<b>ゲノム科学と医療(2)</b>	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Status of class participation in lectures, Submission of reports for each class.	
<b>[Textbooks]</b>	
Handouts will be given during the class	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Review of the handouts should be the main focus.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
This classes is media class and will be delivered online in English.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

<b>Course number</b>		P-PUB01 8N018 LJ90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療倫理学各論 Practicum for Clinical Genetics			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor.INOUE YUSUKE		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		2	<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester
<b>Days and periods</b>	金5・6：開講日注	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
[Basic information] Class date and time: 5th and 6th periods of Fridays (biweekly) Classroom: Building G, 3rd Floor, Seminar room. Online classes may be conducted depending on circumstances. Level: Advanced Staff in charge: Yusuke Inoue, Masanobu Ogawa, Hidenori Kawasaki, Sayaka Takenouchi, Atsushi Asai (Tohoku University), Yasuji Yamazaki (Kobe University)							
<b>[Course overview]</b>							
Analysis of clinical problems that arise with the development of medical technology and issues in clinical research. The goal is for participants to acquire the "ability to think about problems on their own, seek solutions, and practice clinically" and to become practical, action-oriented medical professionals.							
<b>[Course objectives]</b>							
1) Understand the basics of medical ethics <ul style="list-style-type: none"> <li>Understand the background of healthcare ethics, the transformation of the doctor-patient relationship, as well as the patient's rights and the profession's responsibility.</li> </ul> 2) Learn how to deal with ethical issues <ul style="list-style-type: none"> <li>Recognize the existence of an issue and analyze it using a framework for thinking.</li> <li>Create a path for a solution through discussion.</li> <li>Think about how to apply ethical principles to consideration.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
[1st/2nd lectures] 10/4 [Inoue]"Research ethics and tainted data discussion" [3rd/4th lectures] 10/18 [Yamazaki]"Law and Ethics" A comprehensive analysis of the relationship between morality, ethics, and law, as well as the natural law theory and legal positivism. [5th/6th lectures] 11/15 [Takenouchi]"Terminal Care" An analysis of the discontinuation of treatment, life-prolonging treatment, euthanasia, death with dignity, medical care for the elderly, DNR orders, advance instructions, and medical futility. [7th/8th lectures] 11/29 [Asai]"Problems in Medical Resource Allocation" [9th/10th lectures] 12/6 [Ogawa]"Obstetrics and Gynecology and Ethics" Since these particular fields involve embryos and unborn children, obstetrics and gynecology have inherent broad ethical issues, which these lectures examine. [11th/12th lectures] 12/20 [Kawasaki]"Pediatric Medicine and Ethics" A look at guardianship in pediatric							
Continue to 医療倫理学各論(2) ↓ ↓ ↓							

<b>医療倫理学各論(2)</b>	
treatment, informed consent and assent, and medical ethics. [13th/14th lectures] 1/17 [Kawasaki]"The Problem of Secondary (Accidental) Findings" Learn how to handle secondary (accidental) findings, which have become common in today's era of the extensive use of genome information. [15th/16th lectures] 1/31 [Inoue]"Independent Research Presentation" Presentation of independent theme research by graduate students who are taking the course.	
<b>[Course requirements]</b>	
Compulsory subject for first-year students in the Genetic Counselor Course:  The SPH elective "Basic Medical Ethics" must be taken in advance as a prerequisite.  Availability for students majoring in Human Health Sciences: Contact us in advance	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Research presentations, active participation in discussions, reports, and attendance are evaluated comprehensively.  Presentation of independent research (the final step): Each student must present the outcome of investigating a theme of his/her own choice (any theme related to medical ethics) and looking for issues on his/her own. Each theme is discussed by everyone in the class. The time allocated (presentation + discussion) depends on the number of presenters, but it is between 15 and 20 minutes. (Please use PowerPoint in your presentation and distribute a handout to everyone). This is a required step for students and attendees from other majors and postgraduate courses as well.	
<b>[Textbooks]</b>	
Instructed during class Other handouts distributed in class	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Instructions will be given accordingly	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Other messages: Videos and cartoons may be used in case analyses.  The lecture schedule, lecturer, and content are subject to minor changes.  An official letter of enrollment must be submitted without fail.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H130 LB90					
Course title (and course title in English)	健康情報学 I Health informatics I		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Daito Bunka University, Professor, SUGIMORI HIROKI PDS Co., Ltd. Principal / Japan MBTI Association President SONODA YUKI Center for Cancer Control and Information Services, Deputy Director WAKAO FUMIHIKO Kyoto University Hospital Associate Professor, KATOU GENTA Information System Engineering Inc., Representative Director and President KURODA SATOSHI Shizuoka Graduate University of Public Health (Shizuoka SPU) Associate Professor FUJIMOTO SHUHEI			
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Year/semesters	2024/Second semester
Days and periods	Fri.2	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<p>This course comprises systematic lectures on health / medical information, collection, accumulation, transmission, retrieval and appraisal of data and knowledge. Being based on epidemiology and EBM, methods of utilizing information about health and medicine via medical literature, mass media or internet. Health literacy, circulation of information and information ethics including protection of individual information will be also addressed.</p> <p>Moreover, the workshop of the "MBTI", which is very popular among healthcare professionals in the US and western countries, will be held to understand intra and inter personal pattern of information recognition and processing, and communication.</p> <p>Methods of Instruction Lectures, practices, small group discussion.</p>							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Being based on knowledge of epidemiology and EBM, to acquire skills of utilizing various health / medical information.</li> <li>• To be capable of collecting and appraising health information via mass media or internet and of utilizing them as materials for decision making, problem solving and promoting communication.</li> <li>• To understand intra and inter personal pattern of information recognition and processing, and communication in terms of the "MBTI".</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
1 October 4 Information / health literacy: Introduction 1 2 October 18 Information / health literacy: Introduction 2 ----- Continue to 健康情報学 I (2) ↓ ↓ ↓							

健康情報学 I (2)	
-----	
3 October 25 Internet and e-health 4 November 1 Communicating Risks and Benefits 5 November 15 Narrative information: the significance and possibility 6 November 22 Evidence-based practice and clinical practice guidelines 7 November 29 Secondary use of healthcare data 8 December 6 Dissemination of cancer information: the current state of enlightenment and problem 9 December 13 Topics of technical communications 10 December 20 Considering health information in "AI era" 11 January 10 World cafe 12 January 17 Health literacy and risk communication 13 (Not yet adjusted) "MBTI" special workshop (1) 14 (Not yet adjusted) "MBTI" special workshop (2) 15 February 7 Individual presentation and wrap-up Note: This schedule is subject to change. The class will be scheduled to avoid overlapping "Health informaticsII".	
<b>[Course requirements]</b>	
None (it is desirable to have basic knowledge of epidemiology or evidence-base medicine).	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Short report for each lecture 80%, Oral Presentation 20%	
<b>[Textbooks]</b>	
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers. Purchase of the textbook of MBTI is required (approximately, 4,200Yen).	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Baruch Fishhoff, Noel T Brewer, Julie S Downs 『Communicating Risks and Benefits: An Evidence-Based User's Guide』 (US Department of Health and Human Services, Food and Drug Administration)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Information is defined as "those which reduce uncertainty". This course provides students with the opportunity to consider how to develop, transmit and utilize information appropriately. Moreover, the special workshop of the "MBTI" must benefit students to widen perspectives of personal pattern of information recognition, processing and communication. This course is open to graduate students with the school of human health science. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H151 LB90					
Course title (and course title in English)	健康情報学 II Health informatics II		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Assistant Professor, NISHIKAWA YOSHITAKA			
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Year/semesters	2024/Second semester
Days and periods	Fri.3,4	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Participants will learn about elementary knowledge of the Internet and e-health, and ICT in healthcare will be introduced. Participants will learn about secondary data analysis and medical big data in Japan.</li> <li>• Community pharmacies in developed countries are playing an important role not only in supplying medicines but also in public health in communities. In this lecture, it will be introduced the results of some intervention studies in community pharmacies for patients with NCDs. It also will be introduced Nudge and the patient approach on health behavioral theory which was used in the Japanese intervention studies.</li> <li>• Disaster and health informatics: Participants will learn about health outcomes following a disaster and discuss necessary health information during and after the disaster. Participants will also learn about health information on disaster risk reduction. The course will provide the knowledge and skills to write case studies and case reports.</li> <li>• Lecture and practical in Japanese. I will try to offer several handouts in English</li> </ul>							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Learning knowledge of the Internet and concepts of e-health. Learning knowledge and analysis of medical big data, public statistics and secondary data.</li> <li>• To know the change of the clinical practice and policy in community pharmacy in the world. Learning the basic knowledge of behavioral economics: Nudge and the health behavioral theory.</li> <li>• Through the course, participants will gain the following: A) basic knowledge about disaster and health, B) basic knowledge about writing case studies.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
Oct 4, 4th. Introduction Oct 11, 4th. Developing pharmacy practice in the community Oct 18, 4th. Patient care in community pharmacy Oct 25, 4th. Elementary knowledge of the Internet Nov 1, 4th. Guidelines and checklists of healthcare ICT Nov 8, 4th. Group work (Developing a form of an Internet survey) Nov 15, 4th. Disaster and health informatics 1: Health outcome following disaster and health information during a disaster Nov 22, 4th. Disaster and health informatics 2: Health information on disaster risk reduction Nov 29, 4th. Disaster and health informatics 3: Knowledge about writing case studies Dec 20, 3rd-4th. Medical big data and secondary data analysis (Group A) Jan 10, 3rd-4th. Medical big data and secondary data analysis (Group B) Jan 17, 3rd-4th. Cases of healthcare ICT (1)(2) ----- Continue to 健康情報学 II (2) ↓ ↓ ↓							

健康情報学 II (2)	
-----	
Jan 24, 3rd-4th. Social network analysis, Life-course epidemiology, and secondary data analysis The schedule could be changed.	
<b>[Course requirements]</b>	
Registration of Health Informatics I (recommendation).	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Participation in the class and discussion, 30%; Reports or presentations, 70%.	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
I will show educational materials for preparation during the class.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
This course is basically conducted in Japanese. If you have questions, send an e-mail to takahashi.yoshimitsu.3m@kyoto-u.ac.jp. *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H160 SB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	質的研究・演習 Applied Medical Communication			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, IWAKUMA MIHO		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, year-round		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Seminar (Face-to-face course)		<b>Language of instructor</b>	Japanese and English	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
students learn several qualitative research methods. There are many methods for qualitative research, and you need to choose the appropriate method according to the research question which you want to know. It is better to try some tools before the actual research starts, so it is recommended to take this class at the time when you are aware of your research question and start exploring the methodology. In addition, qualitative research, which is relatively difficult to self-study; therefore, it is easy to learn while sharing tasks and questions with your classmates who take the course together. Focusing on "actually analyzing data", we will experience group analysis and individual analysis.							
<b>[Course objectives]</b>							
to Understand several qualitative research methods can perform group analysis and individual analysis can analyze the data using SCAT can conduct a focus-group interview (FGI) can analyze the large set of data using KH coder, a text-mining software can choose the research method that suits your research question							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
1. 9/3 Introduction 2. 9/10 SCAT① 3. 9/17 SCAT② 4. 10/1 SCAT③ 5. 10/8 SCAT④ 6. 10/15 Focus group interview (FGI) ① 7. 10/29 SCAT analysis report 8. 11/12 FGI② 9. 11/19 FGI③ 10. 11/26 KH coder ① (Tomomi Funaki, MPH) 11. 12/3 KH coder ② (Tomomi Funaki, MPH) 12. 12/10 FGI④ 13. 12/17 KH coder ③ (Tomomi Funaki, MPH) 14. 1/7 analysis report 15. 1/14 analysis report							
Continue to 質的研究・演習 (2) ↓ ↓ ↓							

<b>質的研究・演習 (2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
class participation 30%	
analysis reports 30%	
term paper 40%	
title 10%	
final paper 30%	
<b>[Textbooks]</b>	
Instructed during class	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class handouts will be delivered in class.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
homework will be given	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
A high Japanese proficiency is needed for a data analysis	
* Classes are delivered in-class only.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H152 LB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	環境・感染症論 Environment and Infection			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Center for Southeast Asian Studies Professor, YAMAZAKI WATARU		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester		
<b>Days and periods</b>	Mon.3	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)		<b>Language of instructor</b>	Japanese and English	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
Students will gain a comprehensive understanding of infectious diseases through lectures by teachers, presentations by students and group discussions. In particular, we will deepen our understanding of the interactions between the environment, humans and pathogens. Social transformation and historical impact of infectious diseases will also be studied from a socio-ecological perspective.							
<b>[Course objectives]</b>							
In order to understand infectious diseases comprehensively, students will acquire the ability to view various factors from a socio-ecological perspective, including the natural environment in which pathogens live, the anthropogenic environment created by humans, and the resistance of humans to infection.							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
The first 10 sessions will be lectures, and the 11th-15th sessions will be presentation sessions and group discussions.							
1. General introduction 2. Transmission of pathogens across animal species 3. Food hygiene 4. Water and health 5. Mosquito- and tick-borne infectious diseases 6. Prion diseases 7. Drug resistance 8. Animal Welfare 9. Biological Weapons, Bioterrorism and Pathogen Leak Accidents 10. Infodemics 11. Presentation session and group discussion I 12. Presentation session and group discussion II 13. Presentation session and group discussion III (Self-study depending on the number of participants) 14. Presentation session and group discussion IV (Self-study depending on the number of participants) 15. Presentation session and group discussion V (Self-study depending on the number of participants)							
Continue to 環境・感染症論 (2) ↓ ↓ ↓							

<b>環境・感染症論 (2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
<b>[Evaluation criteria]</b>	
Students must achieve a score of 60 or above out of 100 points (60 or above: pass, 59 or below: fail).	
<b>[Evaluation Method]</b>	
Grades will be based on attendance (30%), understanding, proactivity, insight, and ability to express oneself in group discussions (20%) based on the students' presentations (50%). Students who do not give a presentation will not be considered to have taken the examination and will receive no grade.	
<b>[Textbooks]</b>	
The textbook will not be used. Lecture materials and relevant academic papers will be shared in Panda.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
The reference book will not be used. Lecture materials and relevant academic papers will be shared in Panda.	
<b>(Related URLs)</b>	
https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/en/(Center for Southeast Asian Area Studies, Kyoto University) http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/en/field/class-16/(Ecology with Emphasis on the Environment, School of Public Health)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Students are encouraged to prepare for and review the lecture materials.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
<b>[Contact address]</b>	
Room Inamori 215, 46 Shimo Adachi-cho, Yoshida, Sakyo-ku, Kyoto 606-8501, Japan Center for Southeast Asian Area Studies, Kyoto University Wataru Yamazaki, DVM, PhD Tel: (075) 753-9618 Email: yamazaki@cseas.kyoto-u.ac.jp	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H156 LB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>		質的研究入門 Introduction to Qualitative Research		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>		Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KOHNO AYAKO	
<b>Target year</b>		Professional degree students		<b>Number of credits</b>		1	
<b>Year/semesters</b>		2024/Intensive, First semester					
<b>Days and periods</b>		Intensive		<b>Class style</b>		Lecture (Face-to-face course)	
<b>Language of instructor</b>		Japanese and English					
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
This course outlines the basics of qualitative research methods and lectures on various analysis techniques. This course is for beginners who want to learn qualitative research methods without any prior knowledge.							
<b>[Course objectives]</b>							
Explain the fundamentals of qualitative research methodology. To understand the key methodology of qualitative research and to be able to interpret qualitative research findings critically. Being able to enhance understanding about how to conduct qualitative research with the guidance of qualitative research experts.							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
1st Lecture: June 12 What is Qualitative Research? Philosophy of Qualitative Research (Epistemology & Ontology) Role of Theory in Qualitative Research							
2nd Lecture: June 19 Planning and Designing Qualitative Research How to Develop Research Question in Qualitative Research (Individual Work) Writing a Research Proposal							
3rd Lecture: June 26 Interviewing, Focus Group and Observations, and Unobtrusive Methods Groupwork (FGD)							
4th Lecture: July 3 Method of Data Analysis (Thematic Analysis and Content Analysis) Groupwork (Thematic Analysis)							
5th Lecture: July 10 Rigour and Ethics in Qualitative Research Appraisal and Validity of Qualitative Research Groupwork (Discussion on reading qualitative paper using COREQ)							
6th Lecture: July 17 Student Presentation Students will make presentations in a group using PPT. (Depending on number of registered students, presentation time will be 5 to 8 min per student.) One topic shall be chosen from below list: (1) What I learned in the introduction to qualitative research class							
Continue to 質的研究入門(2) ↓ ↓ ↓							

<b>質的研究入門(2)</b>							
<p>(2) Draft research questions for qualitative research (3) Ethical considerations when conducting qualitative research (4) Draft interview guide (5) Research plan for qualitative research</p> <p>7th Lecture: July 24 Basics of Mixed Methods</p> <p>8th Lecture: July 31 Writing and Communicating Qualitative Research</p>							
<b>[Course requirements]</b>							
This course is mainly for students in the School of Public Health.							
Students from other courses (including students in the School of Human Health Sciences) are also welcome although the number will be limited to 5 students.							
For those who wish to take this course in PhD or DrPH degrees as well as students in the School of Human Health Sciences, please e-mail beforehand and consult with the instructor. (kohno.ayako.8w@kyoto-u.ac.jp)							
<b>[Evaluation methods and policy]</b>							
The grade will be based mainly on active participation in the class (class attendance and writing class comments for each class) (30%), submission of two reports (Summarizing the groupworks during the class) (30%), and conducting student presentation (40%).							
<b>[Textbooks]</b>							
Instructed during class. No textbook is required for this course. Handouts will be distributed by the instructors as needed.							
<b>[References, etc.]</b>							
<b>(Reference books)</b>							
Liamputtong P. Qualitative research methods. Fifth edition. Melbourne: Oxford university press; 2020.							
Liamputtong P. Research methods in health: foundations for evidence-based practice. 3rd edition. 2017.							
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>							
Please take enough time for self-study before and after each classes and do the assignments.							
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>							
This class will be conducted on-site in seminar room A.							
Office hours will be announced at the first lecture.							
Students from the School of Human Health Sciences are also welcome although the number will be limited to							
Continue to 質的研究入門(3) ↓ ↓ ↓							

<b>質的研究入門(3)</b>							
5 students.							
We will notify the registered students via PandA regarding the course information in advance.							
Students who wish to audit this class (without registration thus will not receive credit) should notify the instructor by e-mail of their wish to audit the class by one week before the first day of class (by June 5th).							
*Please visit KULASIS to find out about office hours.							
Continue to 臨床試験の統計的方法(2) ↓ ↓ ↓							

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H135 LJ90					
<b>Course title (and course title in English)</b>		臨床試験の統計的方法 Statistical Methods in Clinical Trials		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>		Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, TANAKA SHIROU	
<b>Target year</b>		Professional degree students		<b>Number of credits</b>		1	
<b>Year/semesters</b>		2024/The first half of second semester					
<b>Days and periods</b>		Wed.5		<b>Class style</b>		Lecture (Face-to-face course)	
<b>Language of instructor</b>		Japanese					
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
We hold lectures and practical training with the aim of understanding the design of Phase II and Phase III clinical trials and learning sample size calculations. Lecture videos and assignments will be distributed before the first session, so students should use them for preparation and review. Knowledge of clinical trials and statistics equivalent to the first semester courses "Clinical Trials," "Fundamentals of Statistical Inference," and "Statistical Models and their Applications" is a prerequisite. This is a mandatory course for CB and an elective course for MPH.							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Learn to calculate sample sizes in Phase II and Phase III clinical trials.</li> <li>Understand frequency theory in study design and the differences from Bayesian statistical concepts.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Classes will be held in Seminar Room B in Building G.</li> <li>Homework + lecture and practicum format.</li> <li>Homeworks are provided using an online learning environment KoALA (<a href="https://koala.highedu.kyoto-u.ac.jp">https://koala.highedu.kyoto-u.ac.jp</a>).</li> <li>We calculate sample size in the practicums in Sessions 1 to 4, but no knowledge of software is assumed. In Sessions 6 and 7, we read clinical trial papers and interpret results.</li> <li>Practicum tutoring is performed by clinical statistics staff.</li> </ul> <p>Session 1, October 2: Sample Size Design 1 Continuous Data Session 2, October 9: Sample Size Design 2 Binary Data Session 3, October 23: Interpreting the Results of Clinical Trials Session 4, October 30: Interpreting the Results of Clinical Trials Session 5, November 6: Sample Size Design 3 Survival Time Data Session 6, November 13: Sample Size Design 4 Phase II Clinical Studies, Bayesian Statistics Session 7, November 20: Reserve date</p>							
Continue to 臨床試験の統計的方法(2) ↓ ↓ ↓							

臨床試験の統計的方法(2)	
<b>[Course requirements]</b>	
Students must have completed the following courses in the first semester: "Clinical Trials," "Fundamentals of Statistical Inference," and "Statistical Models and their Applications."	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Class participation: 50% and Reports: 50%	
<b>[Textbooks]</b>	
Machin D, Campbell MJ, Tan SB, Tan SH. "Sample Sizes for Clinical, Laboratory and Epidemiology Studies, 4th Edition," (John Wiley & Sons). We will make an announcement on acquiring textbooks during Session 1.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Prepare for and review lessons using the lecture videos and assignments distributed before the first session. Details will be announced via email.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Human health science majors are not eligible to participate in this course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8Z203 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	グローバルヘルス通論	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine		
	Global health		Professor, NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Assistant Professor, SAHKER, ETHAN KYLE		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester
<b>Days and periods</b>	Wed.3	<b>Class style</b>	Lecture (Media-based course)	<b>Language of instruction</b>	English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This course is provided in English by the Global Health Interdisciplinary Unit. The course is conducted entirely through ZOOM and accessed via PANDA. It includes a wide variety of classes to provide students with insight into global health challenges. Students will be introduced to the socio-cultural, economic, political, and environmental factors that globally affect the health of populations. A series of guest speakers will be drawn from diverse fields to share their expertise. We welcome students from all faculties and graduate schools.					
<b>[Course objectives]</b>					
To gain a wide range of perspectives and critical knowledge about current global health issues. Students will be able to understand why tackling global health issues is such an important endeavor to reduce poverty, build stronger economies, and promote peace.					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
後期水曜日3限目 Wednesday, 13:15 to 14:45 (3rd period) This course is simultaneous bidirectional course every time. In principle, we will cover the following topics:					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: Why study global health?</li> <li>2. Understanding the social determinants of health</li> <li>3. Achieving the health-related Sustainable Development Goals</li> <li>4. Sexual Reproductive Health</li> <li>5. Delirium &amp; Working Globally</li> <li>6. Group Discussion</li> <li>7. Environment &amp; Health</li> <li>8. Global Health &amp; Aging</li> <li>9. Role of Innovation &amp; Technology in Changing People's lives</li> <li>10. Culture &amp; Health</li> <li>11. Global Mental Health</li> <li>12. Natural Disasters &amp; Global Health Challenges</li> <li>13. Term Paper Workshop</li> <li>14. Ecological Model &amp; Public Health Intervention</li> <li>15. Feedback</li> </ol>					
Continue to グローバルヘルス通論 (2) ↓ ↓					

グローバルヘルス通論 (2)	
<b>[Course requirements]</b>	
None	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>-The course is presented in lecture/group discussion format</li> <li>-Each class is provided by an expert in the field</li> <li>-All sessions are conducted in English</li> <li>-All lectures will be conducted as live lectures through Zoom.</li> <li>-Attendance is mandatory for all lectures except for exceptional circumstances.</li> <li>-Grading is based on 1 Term Paper (100%)</li> <li>-See the course homepage on PanA for details of attendance, term paper, and course contact information.</li> </ul>	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used No textbook is required. You will have additional readings as part of your final research paper.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Skolnik, Richard 『Global Health 101 (3rd ed.)』 (Jones and Bartlett Publisher) Skolnik R (著), 本原正 (監訳), 本原雅 (監訳) 『グローバルヘルス : 世界の健康と対処戦略の最新動向』 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) Additional readings may be suggested when necessary	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Require preparation and review for each class. Significant time dedicated to writing the term paper, the 1 course assignment.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
The course is a media class and will be conducted entirely through ZOOM. Students may contact the instructor by email (sahker.ethan.2e@kyoto-u.ac.jp)	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H161 LB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	感染症数理モデル入門	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine		
	Introduction to infectious disease modelling		Professor, NISHIURA HIROSHI		
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, First semester
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
This module welcomes students to dive into the introductory science of infectious disease modelling. We cover the fundamental idea of renewal process. Infectious disease data are very special in two critical points, (i) infection event is seldom directly observable and (ii) the risk of infection involves dependence structure. We study how these problems are handled using non-linear models and integral equations.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>a. Understand how the transmission potential is measured in epidemiology;</li> <li>b. Explain threshold phenomena in controlling infectious diseases;</li> <li>c. Describe technical issues associated with delay structure;</li> <li>d. Understand how vaccine efficacy at an individual level can be measured;</li> <li>e. Estimate and implement epidemic modelling in students' own laptop computer.</li> </ol>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
The venue is likely to be external to the campus (e.g. Campus Plaza Kyoto in the last year), spanning from 1 to 10 August. During this period, participants may have a difficulty to attend other lectures in a timely manner.					
Each session takes 90 minutes in total. The module itself will be a part of the 10-day short course of infectious disease modelling, and participants are encouraged to take other lectures too.					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to epidemic modelling</li> <li>2. Measuring transmissibility</li> <li>3. Herd immunity and SIR model</li> <li>4. Capturing heterogeneity</li> <li>5. Vaccine and vaccination</li> <li>6. Stability analysis</li> <li>7. Real time modelling</li> <li>8. Case fatality risk, followed by exam</li> </ol>					
<b>[Course requirements]</b>					
Attend "infectious disease epidemiology" (MPH core) in advance					
Continue to 感染症数理モデル入門 (2) ↓ ↓					

感染症数理モデル入門 (2)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Attendance to a total of two-thirds of classes will be required to be eligible for final examination. Evaluation is conducted by coursework (i.e. comprehension during the class) (30%) and examination (70%).	
<b>[Textbooks]</b>	
西浦博 (編) 『感染症疫学のためのデータ分析入門』 (金芳堂、2021) ISBN:978-4-7653-1882-2 (Introductory book of infectious disease epidemiology, and aligned with the module "Infectious Disease Epidemiology" of MPH Core.) 西浦博 (編) 『感染症疫学のためのデータ分析入門, 数理モデル編』 (金芳堂、2024) (Introductory book of infectious disease modelling to be released in 2024. Aligned with this particular module.)	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
No specific preparation would be required. There will be math refresher sessions on Day 2 and Day 3 of the entire short course. Students who do not possess substantial mathematical expertise are encouraged to attend those lessons.	
<b>[Other information (office hours, etc.)]</b>	
Check KULASIS for office hours.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H167 LB90			
Course title (and course title in English)	QOL・PRO評価法		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,YAMAMOTO YOSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Assistant Professor,YAMADA YOSHIE Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,ITAYA TAKAHIRO	
	QOL/PRO assessment				
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2024/Second semester
Days and periods	Mon.3	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
Learn how to evaluate QOL (Quality of Life) and PRO (Patient Reported Outcomes), which are essential for clinical research. Understanding the interpretation of results and utilization of existing evaluation methods, students will also learn the basic skills of developing new scales and experience part of the process.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Understand QOL/PRO and the evaluation methods.</li> <li>• #8226 Be able to interpret the measured results correctly.</li> <li>• Know the basic skills required for the development of new measurement scales.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
※ Depending on the situation, this class may be offered online.  10/ 7 1st: Introduction: QOL and PRO 10/21 2nd: Comprehensive scale 10/28 3rd: Disease-Specific Scale/Symptom Scale 11/11 4th: Scale to estimate health preference 11/18 5th: Interpretation of the results 11/25 6th: Basic skills required for measurement scale development 12/ 2 7th: Developing new scales, practice 1 12/ 9 8th: Developing new scales, practice 2 (presentation)					
<b>[Course requirements]</b>					
None					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Attendance 50%, Presentation 50%					
<b>[Textbooks]</b>					
Instructed during class					
Continue to QOL・PRO評価法(2) ↓ ↓ ↓					

QOL・PRO評価法(2)	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation is not needed, but you should review it after class.	
<b>[Other information (office hours, etc.)]</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8H169 LB90			
Course title (and course title in English)	公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Part-time Lecturer,EBINA RYOKO	
	Risk Communication for Public Health Emergencies				
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2024/Intensive, year-round
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>This course aims to deepen understandings of risk communication for public health emergencies and implement it appropriately. This is an intensive day course in the first and second semester each.</p> <p>In the first semester, students will learn about the basic concepts and theories of risk communication in emergency situations. It includes risk perception and outrage, effective risk communication strategies (e.g. developing strategic risk communication plan) and emergency response systems.</p> <p>In the second semester, the basic knowledge of risk communication will be applied to the typical issues occurring under emergencies. It includes how to explain risk and present uncertainty when the people's abilities of processing information are reduced in crisis, how to lead people to rational decision making, how to communicate with vulnerable population, how to cooperate with mass media, how to address social stigma and misinformation.</p> <p>Throughout this course, lectures and exercises will be provided by the course director and part-time lecturer. Teaching and learning methods: lectures and exercises</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Understand the various types of risk communication required to health professionals and risk managers in public health emergencies.</li> <li>• Develop risk communication capacities including strategic risk communication planning, needs assessment, implementation, and evaluation.</li> <li>• Increase two-way communication skills that fit to the needs of people at risk after understanding of their risk perceptions, outrage, health literacy and so on.</li> <li>• Understand the effective methods of risk communication in crisis control measures and develop capacities.</li> <li>• Understand how to address social stigma and mis/dis-information.</li> <li>• Understand how to prepare for a next emergency.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
Day 1 (September 10, 4 Sessions) 10:00-17:30 1. Risk communication in emergency situations 2. Risk perception and outrage 3. Risk communication strategies and emergency response systems for building trust 4. Strategic risk communication plan					
Day 2 (February 12, 4 sessions) 10:00-17:30 5. Explaining risk, presenting uncertainty, and leading to rational decision making 6. Cooperating with mass media and address social stigma					
Continue to 公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション(1) ↓ ↓ ↓					

公衆衛生の緊急事態におけるリスクコミュニケーション②
7. Communicating with vulnerable populations at risk 8. Addressing mis/dis-information
<b>[Course requirements]</b>
None
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
In-class exercises 70%, essay (at the end of the course) 30%.
<b>[Textbooks]</b>
Ryoko Ebina 『Crisis and Emergency Risk Communication (CERC): Principles and Strategies to Protect People's Lives and Health under a Crisis Situation.』 (Taishukan Publishing, 2020) (to be purchased by students (2,420 yen).) Ryoko Ebina 『Risk Communication for Public Health Emergencies: What Community Health Professionals Need to Know』 (Igaku-Shoin, 2022) (to be purchased by students (2,860 yen).) The textbooks will be used mainly. The handouts will be provided for exercises.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Think about how you can apply what you've learnt in this course to improve the current situation through daily news and conversations with your colleagues working in the field of healthcare and welfare settings.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H082 LB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療経営特別カリキュラム I Healthcare management Special Curriculum I		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor, KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, GOTO ETSU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, TAKADA DAISUKE	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, First semester
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Practical training (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>This course is for healthcare management major.</li> <li>It is based on action learning in relation to the real world practice.</li> <li>Topics will include: <ul style="list-style-type: none"> <li>Leadership at different levels</li> <li>Financial Management, Financial Planning</li> <li>Accounting and Costing</li> <li>Organizational Culture</li> <li>Patient Satisfaction and Customer Relationship</li> <li>Safety and Quality Management System</li> <li>Risk Management System</li> <li>Policy and External Environment Analysis</li> <li>Marketing in Health Care</li> <li>Information Technology and Data Analysis/Utilization</li> <li>Starting up a New Function, Project Finance</li> <li>Facility Management</li> <li>Networking, Merge and Acquisition</li> <li>Strategic Planning</li> <li>Implementation of Change</li> <li>Strategic Management</li> </ul> </li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Explain key issues in healthcare management, including theories/frameworks and internal and external environment</li> <li>Making outputs through teamwork</li> <li>Making outputs through individual work</li> <li>Constructively discuss current issues, and propose their potential resolutions</li> <li>Critically and systematically appraise healthcare management issues</li> <li>Apply the above knowledge and skills for your own planning and action in healthcare management</li> </ul>					
Continue to 医療経営特別カリキュラム Ⅱ(2) ↓ ↓ ↓					

医療経営特別カリキュラム Ⅱ(2)
<b>[Course schedule and contents]</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>Based on the real world practice, data and people</li> <li>Information Collection and Analysis, Quantitative Data Analysis, Planning</li> <li>Interviews, Presentations, Making reports, Discussion</li> </ul>
<b>[Course requirements]</b>
This is specifically designed and required for Healthcare Management Young Leaders Course.
<b>[Evaluation methods and policy]</b>
Program participation and performance
<b>[Textbooks]</b>
Reading materials will be distributed as needed.
<b>[References, etc.]</b>
(Reference books)
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>
Good preparation and review are necessary.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>
*Please visit KULASIS to find out about office hours.

<b>Course number</b>	P-PUB01 8H083 LB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療経営特別カリキュラム Ⅱ Healthcare management Special Curriculum II		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor, KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, GOTO ETSU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, TAKADA DAISUKE	
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, Second semester
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Practical training (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>This course is for healthcare management major.</li> <li>It is based on action learning in relation to the real world practice.</li> <li>Topics will include: <ul style="list-style-type: none"> <li>Leadership at different levels</li> <li>Financial Management, Financial Planning</li> <li>Accounting and Costing</li> <li>Organizational Culture</li> <li>Patient Satisfaction and Customer Relationship</li> <li>Safety and Quality Management System</li> <li>Risk Management System</li> <li>Policy and External Environment Analysis</li> <li>Marketing in Health Care</li> <li>Information Technology and Data Analysis/Utilization</li> <li>Starting up a New Function, Project Finance</li> <li>Facility Management</li> <li>Networking, Merge and Acquisition</li> <li>Strategic Planning</li> <li>Implementation of Change</li> <li>Strategic Management</li> </ul> </li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Explain key issues in healthcare management, including theories/frameworks and internal and external environment</li> <li>Making outputs through teamwork</li> <li>Making outputs through individual work</li> <li>Constructively discuss current issues, and propose their potential resolutions</li> <li>Critically and systematically appraise healthcare management issues</li> <li>Apply the above knowledge and skills for your own planning and action in healthcare management</li> </ul>					
Continue to 医療経営特別カリキュラム Ⅲ(2) ↓ ↓ ↓					



医療経営特別カリキュラム II (2)	
-----	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Based on the real world practice, data and people</li> <li>Information Collection and Analysis, Quantitative Data Analysis, Planning</li> <li>Interviews, Presentations, Making reports, Discussion</li> </ul>	
<b>[Course requirements]</b>	
This is specifically designed and required for Healthcare Management Young Leaders Course.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Program participation and performance	
<b>[Textbooks]</b>	
Reading materials will be distributed as needed.	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Good preparation and review are necessary.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H053 LB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療経営ケーススタディ Case Studies in Healthcare Management	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,GOTO ETSU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,TAKADA DAISUKE			
			<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Seminar (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>This case study is on healthcare management.</li> <li>It is based on analysis, discussion and constructive critique on real cases originally developed.</li> <li>Topics will include: <ul style="list-style-type: none"> <li>Overview of Healthcare Management: Key Issues</li> <li>Leadership</li> <li>Finance</li> <li>Organizational Culture</li> <li>Safety and Quality Management System</li> <li>Policy and External Environment Analysis</li> <li>Marketing in Health Care</li> <li>Information Technology and Data Analysis/Utilization</li> <li>Starting up a New Function, Project Finance</li> <li>Facility Management</li> <li>Networking, Merge and Acquisition</li> <li>Strategic Planning/ Management</li> <li>Implementation of Change</li> </ul> </li> </ul>						
<b>[Course objectives]</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>Explain key issues in healthcare management, including theories/frameworks and internal and external environment</li> <li>Constructively discuss current issues, and propose their potential resolutions</li> <li>Critically and systematically appraise healthcare management issues</li> <li>Apply the above knowledge and skills for your own planning and action in healthcare management</li> </ul>						
-----						
Continue to 医療経営ケーススタディ(2) ↓ ↓ ↓						

医療経営ケーススタディ(2)	
-----	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Case Studies</li> <li>Reports</li> </ul> <p>The cases for this course are originally developed. It might use cases developed elsewhere including ones abroad</p>	
<b>[Course requirements]</b>	
This is specifically designed and required for Healthcare Management Young Leaders Course.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Program participation and performance	
<b>[Textbooks]</b>	
Reading materials will be distributed as needed.	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Good preparation and review are necessary.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
This class is not open to students from graduate school of human health science.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8K026 LB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床研究計画法 I (MCR限定) Seminar in Study Design I	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI KOJI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,NAKAO YOKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,MIZUNO KAYOKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,TAKAYAMA ATSUSHI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,YANAI TAKANORI Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Assistant Professor,TOYAMA MAYUMI Graduate School of Medicine Assistant Professor,NISHIKAWA YOSHITAKA Graduate School of Medicine Associate Professor,TAJIKA ARAN Graduate School of Medicine Professor,IWAMI TAKU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,NISHIOKA NORIHIRO Graduate School of Medicine Professor,KONDO NAOKI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,INOUE KOSUKE Graduate School of Medicine Professor,YAMAMOTO YOSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Assistant Professor,YAMADA YOSHIE			
			<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Days and periods</b>	Mon.5	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
-----						
Continue to 臨床研究計画法 I (MCR限定)(2) ↓ ↓ ↓						

臨床研究計画法   (MCR限定)(2)	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>	
This course will discuss study designs and protocols in clinical epidemiology based on student's clinical questions.	
<b>[Course objectives]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>To be able to convert clinical questions to structured research question</li> <li>To be able to build study protocol from research question</li> <li>To be able to communicate study plan effectively with peers</li> </ul>	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
① April 8 Guidance ② May 13 Discussion ③ May 20 Discussion ④ May 27 Discussion ⑤ June 3 Discussion ⑥ June 10 Discussion ⑦ June 17 Discussion ⑧ June 24 Discussion ⑨ July 1 Discussion ⑩ July 8 Discussion ⑪ July 18 Discussion ⑫ July 22 Discussion ⑬ July 29 Discussion	
Backup date: April 22, August 5	
<b>[Course requirements]</b>	
Class for MCR restricted	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Course assignment (30%) Presentation (70%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books) Introduced during class	
Continue to 臨床研究計画法   (MCR限定)(3) ↓ ↓ ↓	

臨床研究計画法   (MCR限定)(3)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Methods of Instruction ・ Didactic lectures ・ Student's presentation and discussion	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
There are no pre-requisites for this course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8K028 SB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床研究計画法演習 I (MCR限定) Special Seminar in Study Design I	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, YAMAMOTO YOSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor, OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Associate Professor, TAJIKA ARAN Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, NAKAO YOKO Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, INOUE KOSUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TAKAYAMA ATSUSHI Graduate School of Medicine Assistant Professor, TOYAMA MAYUMI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, NISHIOKA NORIHIRO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, MIZUNO KAYOKO Graduate School of Medicine Assistant Professor, YAMADA YOSHIE Graduate School of Medicine Assistant Professor, NISHIKAWA YOSHITAKA Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YANAI TAKANORI			
			<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Days and periods</b>	Thu.4	<b>Class style</b>	Seminar (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>All MCR students and students in the course are expected to participate in this class.</li> <li>The students will present their research plans based on their own research questions (RQ) and exchange opinions with each other in order to learn how to create a high quality research protocol.</li> <li>The presentation will also include the background and significance of their RQs.</li> </ul>						
<b>[Course objectives]</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>To be able to develop a clinical research protocol that meets the objectives of the research with advice from the supervisor.</li> <li>The student will be able to devise a specific strategy for the management of research that meets the objectives of the research with the advice of the supervisor.</li> <li>To be able to recognize, with the advice of the supervisor, the points to be considered in the management of research according to the method and setting of the research.</li> </ul>						
Continue to 臨床研究計画法演習 I (MCR限定)(2) ↓ ↓ ↓						

臨床研究計画法演習 I (MCR限定)(2)	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
※The course may be offered online depending on the situation.	
1) 4/18 Orientation/Protocol presentation 2) 4/25 Protocol presentation 3) 5/2 Protocol presentation 4) 5/9 Protocol presentation 5) 5/16 Protocol presentation 6) 5/23 Protocol presentation 7) 5/30 Protocol presentation 8) 6/6 Protocol presentation 9) 6/13 Protocol presentation 10) 6/20 Protocol presentation 11) 6/27 Protocol presentation 12) 7/4 Protocol presentation 13) 7/11 Occasional date 14) 7/18 Occasional date	
<b>[Course requirements]</b>	
Limited to MCR students	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Active participation in lectures (100%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books) Introduced during class Reference books will be introduced in class if necessary.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Protocol presentation by students and discussion by all attendees.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Please check with KULASIS for details on office hours.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8K030 LB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	医療技術の経済評価 (MCR限定) Economic Evaluation of Medical Technologies				<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor,KUNISAWA SUSUMU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,GOTO ETSU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer,TAKADA DAISUKE	
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1		<b>Year/semesters</b>	2024/The first half of first semester
<b>Days and periods</b>	Wed.3	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)		<b>Language of instruction</b>	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Lectures will address the theories and frameworks that support economic evaluations in health care, and students will learn the major research methods used in evaluating healthcare-related economic performance.</li> <li>Economic evaluations of healthcare and medical technologies are usually conducted under practical constraints, and students will learn the approaches to conducting research under these conditions.</li> <li>This course will examine economic evaluations in a wide range of healthcare-related topics.</li> </ul>							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students will be able to explain key issues in the theories, frameworks, and research methods that support economic evaluations of medical technologies including medication.</li> <li>Students will understand the possible biases associated with research involving economic evaluations of medical technologies including medication.</li> <li>Economic evaluations are conducted on various aspects of health care, including treatment techniques, pharmaceuticals, medical supplies, medical examinations, and health policy programs. Students will understand and be able to explain the differences and respective applications of the main research methods used in these evaluations, including cost analyses, cost-effectiveness analyses, cost-utility analyses, and cost-benefit analyses. Students will also learn the core concepts of cost calculations and outcome measurements, time-based concepts, discount rates, sensitivity analyses, incremental cost-effectiveness ratios, and the appropriate interpretation of analytical results.</li> <li>Based on the above, students will be able to conduct critical reviews of research articles in this field and explain their significance. Students will also be able to apply their acquired knowledge and techniques when developing research protocols and conducting research.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>April 10 Evaluating the economic performance of health care 1</li> <li>April 17 Evaluating the economic performance of health care 2</li> <li>April 24 Economic evaluation methods in health care</li> <li>May 1 Modeling in economic evaluations</li> </ol>							
Continue to 医療技術の経済評価 (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓							

<b>医療技術の経済評価 (MCR限定) (2)</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>May 8 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 1</li> <li>May 15 Methodologies in cost-effectiveness and cost-utility analyses 2</li> <li>May 22 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 1</li> <li>May 29 Economic evaluation in health care: Journal article review and discussion 2</li> </ol> <p>Note: This schedule is subject to change. Overview of the schedule will be shown at the first day.</p>							
<b>[Course requirements]</b>							
This course is only open to students involved in MCR course. Attendance rate 80% or more.							
<b>[Evaluation methods and policy]</b>							
The grade will be based mainly on active participation in the class (40%) and reports (60%).							
<b>[Textbooks]</b>							
Reading materials will be distributed as needed							
<b>[References, etc.]</b>							
<b>(Reference books)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes, 4th Ed. Oxford, 2015.</li> <li>Myriam Hunink. Decision Making in Health and Medicine: Integrating Evidence and Values. Cambridge, 2001.</li> <li>医療制度・医療政策・医療経済 (丸善出版,2013)</li> <li>Handbook of Health Services Research (Springer Science+Business Media)</li> <li>「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」(編集:小泉昭夫/馬場園明/今中雄一/武林亨) 南江堂, 2018.</li> </ul>							
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>							
Both good preparation and review are needed.							
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Places available for students without former experiences of studying economics.</li> <li>Our department has been accepting graduate students who are interested in research related to health care policies, health care management, and health care quality/safety/cost. (<a href="http://med-econ.umin.ac.jp/int/">http://med-econ.umin.ac.jp/int/</a>)</li> </ul> <p>Note: Topics related to process and outcome measures, clinical practice variation, healthcare evaluations and assessments, hospital functional assessments, and healthcare quality &amp; safety are included in the course “</p>							
Continue to 医療技術の経済評価 (MCR限定) (3) ↓ ↓ ↓							

<b>医療技術の経済評価 (MCR限定) (3)</b>							
Evaluation of Quality in Health Care” (Wed.3, the last half of first semester). If you would like to learn about these topics, consider to apply for this course.							
*Please visit KULASIS to find out about office hours.							
Continue to 臨床研究計画法 I I (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓							

<b>Course number</b>		P-PUB01 8K027 LB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床研究計画法 I I (MCR限定) Seminar in Study Design II				<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor,KAWAKAMI KOJI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,NAKAO YOKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,MIZUNO KAYOKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,TAKAYAMA ATSUSHI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,YANAI TAKANORI Graduate School of Medicine Professor,IMANAKA YUUICHI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Professor,NAKAYAMA TAKEO Graduate School of Medicine Associate Professor,TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Assistant Professor,TOYAMA MAYUMI Graduate School of Medicine Assistant Professor,NISHIKAWA YOSHITAKA Graduate School of Medicine Associate Professor,TAJIKAWA ARAN Graduate School of Medicine Professor,IWAMI TAKU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor,NISHIOKA NORIHIRO Graduate School of Medicine Professor,KONDO NAOKI Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor,INOUE KOSUKE Graduate School of Medicine Professor,YAMAMOTO YOSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor,OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Assistant Professor,YAMADA YOSHIE	
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1		<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester
<b>Days and periods</b>	Mon.5	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)		<b>Language of instruction</b>	Japanese and English	
Continue to 臨床研究計画法 I I (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓							

臨床研究計画法 I I (MCR限定)(2)	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>	
This course will discuss study designs and protocols in clinical epidemiology based on student's clinical questions.	
<b>[Course objectives]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>To be able to convert clinical questions to structured research question</li> <li>To be able to build study protocol from research question</li> <li>To be able to communicate study plan effectively with peers</li> </ul>	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
① October 21 Discussion ② October 28 Discussion ③ November 7 Discussion ④ November 11 Discussion ⑤ November 18 Discussion ⑥ November 25 Discussion ⑦ December 2 Discussion ⑧ December 9 Discussion ⑨ December 16 Discussion ⑩ December 23 Discussion ⑪ January 6 Discussion ⑫ January 20 Discussion ⑬ January 27 Discussion	
Backup date: October 7, February 3	
<b>[Course requirements]</b>	
Class for MCR restricted	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Course assignment (30%) Presentation (70%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books) Introduced during class	
Continue to 臨床研究計画法 I I (MCR限定)(3) ↓ ↓ ↓	

臨床研究計画法 I I (MCR限定)(3)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Methods of Instruction <ul style="list-style-type: none"> <li>Didactic lectures</li> <li>Student's presentation and discussion</li> </ul>	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
There are no pre-requisites for this course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8K029 SB90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床研究計画法演習 I I (MCR限定)	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, YAMAMOTO YOSUKE Graduate School of Medicine Associate Professor, OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, SASAKI NORIKO Graduate School of Medicine Associate Professor, TAKAHASHI YOSHIMITSU Graduate School of Medicine Associate Professor, TAJIKA ARAN Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, NAKAO YOKO Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, INOUE KOSUKE Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TAKAYAMA ATSUSHI Graduate School of Medicine Assistant Professor, TOYAMA MAYUMI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, NISHIOKA NORIHIRO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, MIZUNO KAYOKO Graduate School of Medicine Assistant Professor, YAMADA YOSHIE Graduate School of Medicine Assistant Professor, NISHIKAWA YOSHITAKA Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YANAI TAKANORI		
	Special Seminar in Study Design II				
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester
<b>Days and periods</b>	Mon.4	<b>Class style</b>	Seminar (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>All MCR students and students in the course are expected to participate in this class.</li> <li>Each graduate student will present his/her research plan based on his/her own research question (RQ) and learn how to create a high-quality research protocol through discussions among graduate students.</li> <li>The graduate students will identify problems in conducting the research. If results have been obtained, the interpretation of the results will be clarified.</li> </ul>					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>To be able to develop a clinical research protocol that meets the objectives of the study.</li> <li>To be able to devise a specific strategy for the management of research that is appropriate to the objectives of the research.</li> <li>To be able to recognize the points to be considered in the management of research according to the method and setting of the research.</li> </ul>					
Continue to 臨床研究計画法演習 I I (MCR限定)(2) ↓ ↓ ↓					

臨床研究計画法演習 I I (MCR限定)(2)	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
※ The course may be offered online depending on the situation.	
1) 9/30 Protocol presentation ※ Held in the practicum room only on this day 2) 10/7 Protocol presentation 3) 10/21 Protocol presentation 4) 10/28 Protocol presentation 5) 11/11 Protocol presentation 6) 11/18 Protocol presentation 7) 11/25 Protocol presentation 8) 12/2 Protocol presentation 9) 12/9 Protocol presentation 10) 12/16 Protocol presentation 11) 12/23 Protocol presentation 12) 1/6 Protocol presentation 13) 1/20 Occasional date 14) 1/27 Occasional date	
<b>[Course requirements]</b>	
Limited to MCR students	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Active participation in lectures (100%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books) Introduced during class Reference books will be introduced in class if necessary.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Protocol presentation by students and discussion by all attendees.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Please check with KULASIS for details on office hours.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8K020 LB90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定)			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, NAKAYAMA TAKEO Osaka District Court Judge NISHIOKA SHIGEYASU Shizuoka Graduate University of Public Health (Shizuoka SPU) Associate Professor FUJIMOTO SHUHEI St. Luke's International University Graduate School Associate Professor MASUZAWA YUKO		
	Special Lectures on EBM and clinical practice guidelines						
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester		
<b>Days and periods</b>	Fri.3	<b>Class style</b>	special lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>This course focuses on evidence-based medicine (EBM) and clinical practice guidelines.</li> <li>This course will provide exercise to assess and develop clinical practice guidelines.</li> <li>This course will give opportunity to consider communication issues between clinicians and patient/family, legal issues and resource allocation.</li> </ul> <p>Didactic lectures and group work</p>							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Explain the relationship between EBM and clinical practice guidelines</li> <li>Understand the basic concepts of development and assessment of evidence-based clinical practice guidelines</li> <li>Explain possibilities and subjects of clinical practice guidelines from the social viewpoints.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
<p>1 October 4 EBM and Clinical Practice Guidelines (CPGs)  2 October 11 Assessment of CPGs  3 October 18 Development of CPGs  4 November 1 From CPGs to Quality Indicators  5 November 8 From CPGs to Shared Decision-Makings  6 November 15 CPGs and Patients' View  7 November 29 Legal Issues on CPGs  8 December 6 Wrap-up Discussion  (*This schedule is subject to change)  The class will be scheduled to avoid overlapping "Health informaticsII".</p>							
Continue to EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓							

<b>EBM・診療ガイドライン特論 (MCR限定) (2)</b>	
<b>[Course requirements]</b>	
The class is limited to MCR students.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Short report for each lecture (100%)	
<b>[Textbooks]</b>	
The material necessary for the lecture will be provided by lecturers.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Nakayama T & Tsutani K 『Rinsho kenkyu to ekigaku kenkyu no tameno kokusai rurushu』 (raihu sciensu shuppan)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Rather than spending more time on your preparation, please put more energy into the review.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Students who learn this course are expected to be not only good users of clinical practice guidelines but also good developers of clinical practice guideline.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8K025 LJ90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床研究データ管理学 (MCR・CB限定)			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Associate Professor, NAKAO YOKO		
	Data management for Clinical Research						
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1	<b>Year/semesters</b>	2024/The first half of second semester		
<b>Days and periods</b>	Fri.1	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
This course consists of lectures and exercises on methodology of data management for observational studies using routinely collected health data, clinical registry studies and clinical trials. Exercises will include determination of data items, designing case report forms, preparation of datasets for statistical analysis, data entry and data check, and handling of outputs from statistical analysis. MCR restricted and elective.							
<b>[Course objectives]</b>							
To understand methodology of data management for clinical researches through lectures and exercises.							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
<p>1. Overview - What is data management? (Nakao)  2. How to select the database and those limitations for your research &amp; something about the DPC database in Japan (Takayama)  3. Data management for clinical study I (Takada)  4. Data management for clinical study II (Tada)  5. Data quality management for clinical study (Takada)  6. Preparation of Datasets for Statistical Analysis (Kimura)  7. Structure and management of claims data (Fukasawa)</p>							
<b>[Course requirements]</b>							
None							
<b>[Evaluation methods and policy]</b>							
Attendance 30%, Report 70%							
<b>[Textbooks]</b>							
Not used							
Continue to 臨床研究データ管理学 (MCR・CB限定) (2) ↓ ↓ ↓							

<b>臨床研究データ管理学 (MCR・CB限定) (2)</b>	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Please review what you learned before handling data in your research.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Laptop PC is required in the exercise. Contact the director if not available. This course is not open to students in School of Human Health Science.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8K036 LE90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	系統的レビュー (MCR限定) Systematic Reviews			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Associate Professor, OGAWA YUSUKE Graduate School of Medicine Assistant Professor, YAMADA YOSHIE Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, ITAYA TAKAHIRO		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		1	<b>Year/semesters</b>	2024/Second semester
<b>Days and periods</b>	Mon.2	<b>Class style</b>	Lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
[Basic information] Restricted to MCR students.							
[Course overview] In this course, each student will write up an English protocol for a systematic review/meta-analysis on an intervention topic that interests them. This course should be taken by students who want to write a systematic review protocol. Please note that you will need a lot of time before and after class to read the handbook and present the summary, as well as to write and refine the protocol every week. It takes a lot of effort for the teacher to correct the protocols, so if there are more than a certain number of people who want to take this course, we will ask them to submit an essay in English about their reasons for wanting to take this course and the topic they are planning, and then we will select a certain number of people. Other students will only attend lectures (no homework correction, presentation, or evaluation).							
[Teaching/Learning Method] The lecture will proceed as follows. 1. Students will read through the following handbook and present a summary of their assigned parts in the lecture. 2. Add the lecture portion of your protocol as homework after each lecture and submit it. 3. Receive comments from the teacher and revise it. 4. In other words, for homework after each lecture, there are two tasks: adding and revising. This will allow students to refine the protocol.							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>Students will understand the Handbook, summarize it, and present it.</li> <li>Each participant will write up a systematic review protocol for a clinical question of interest to them.</li> <li>For those who wish, we will continue to provide guidance after this lecture until they finally write a systematic review paper.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
1 September 30 Introduction Ogawa							
2 October 7 Presentation of proposed PICO by students All students							
3 October 21 Handbook Chapters 1-3 Presenter							
4 October 28 Presentation of inclusion criteria All students							
Continue to 系統的レビュー (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓							

<b>系統的レビュー (MCR限定) (2)</b>	
-----	
5	November 11 Handbook Chapter 4-5 Presenter
6	November 18 Presentation about Search strategy All students
7	November 25 Handbook Chapter 7, 8, 13 Presenter
8	December 2 Handbook Chapter 6, 9, 10 Presenter
9	December 9 Summary
December 16, 23 reserve date	
<b>[Course requirements]</b>	
Restricted to MCR students (elective for MCR students).	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Active participation in lectures (30%) Submitted systematic review protocols (70%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Julian P. T. Higgins et al. 『Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions』 (Wiley) Lectures will be given based on this handbook.	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Please note that a significant amount of study time will be required before and after class.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
This course is not open to students majoring in human health sciences. Please visit KULASIS to find out about office hours.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8K033 LJ90					
<b>Course title (and course title in English)</b>	データ解析法特論 (MCR限定) Special Seminar of Data Analysis			<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Professor, YAMAMOTO YOSUKE Graduate School of Medicine Assistant Professor, YAMADA YOSHIE Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, ITAYA TAKAHIRO		
	<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>		1	<b>Year/semesters</b>	2024/The second half of first semester
<b>Days and periods</b>	月6	<b>Class style</b>	special lecture (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>In this lecture, students will analyze clinical research data using statistical analysis software, stata.</li> <li>The data of clinical research used as teaching materials for the practical training will be example data of clinical research.</li> <li>Assignments are made to check the level of proficiency of the students.</li> <li>The students will be able to use stata free of charge during the course period (however, students who wish to continue using stata after the course period will need to purchase the code on their own).</li> </ul>							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>To be able to analyze basic clinical research data using statistical analysis software.</li> <li>To be able to interpret the output of statistical analysis software accurately.</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
※This lecture may be offered online depending on the situation.							
1) May 20 Basic use of statistical software (STATA)							
2) May 27 Testing and Estimating Continuous Variables							
3) June 3 Testing and Estimating Categorical Variables							
4) June 10 Correlation and regression							
5) June 17 Linear Regression Analysis							
6) June 24 Logistic Regression Analysis							
7) July 1 Survival Time Analysis							
8) July 8 Sample Size Estimation and Other Analyses							
9) July 22 Occasional Date							
10) July 29 Occasional date							
<b>[Course requirements]</b>							
Students who plan to analyze using stata are recommended to take this class.							
Continue to データ解析法特論 (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓							

<b>データ解析法特論 (MCR限定) (2)</b>	
-----	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Active participation in the lecture (60%) Reports on assignments (40%)	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used Basic learning resources will be distributed.	
<b>[References, etc.]</b>	
(Reference books) Takahiro Higashi, Fumiaki Nakamura, Yasuaki Hayashino, Takashi Sugioka, Yosuke Yamamoto 『Stata Manual for Clinical Research』 (iHope)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Preparation: not required Review: Students are expected to review the relevant topics before the next lecture. If there are assignments, students are required to submit a report by the next lecture.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Please contact us by e-mail if you wish to meet with us. For details of office hours, please check KULASIS.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

Course number	P-PUB01 8K035 LB90				
Course title (and course title in English)	社会疫学研究法 (MCR限定) Methods in social epidemiology		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Professor, KONDO NAOKI	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2024/Intensive, First semester
Days and periods	Intensive	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instructor	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
In clinical practice, it is common to encounter patients with social issues such as poverty and isolation. By providing medical care that takes into account the social issues and residential environment of patients, we can expect to increase the effectiveness of treatment and prevention.					
In this course, students will learn the practical aspects of social epidemiology research in clinical settings, including research to evaluate disparities in patients' health, access to medical services, and treatment effectiveness due to socioeconomic status, as well as the development and evaluation of intervention methods to resolve these issues. This course will provide you with the basic knowledge and skills necessary to build evidence to prevent patients from returning to the environment that made them sick.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Learn how to evaluate patients' socioeconomic problems.</li> <li>Learn the key topics of social epidemiology research, which is mainly conducted in clinical practice, and how to conduct them.</li> <li>Learn the basics of causal inference using multilevel analysis, counterfactual models, Directed Acyclic Graphs, etc., which are widely used in social epidemiology.</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
The following dates are subject to change.					
<ol style="list-style-type: none"> <li>6/14 Topics of social epidemiology research in clinical settings</li> <li>6/21 Descriptive epidemiology: Distribution of health inequalities and how to evaluate the data (Yuri Ito)</li> <li>6/28 Observational study: Inferring the relationship between individual social factors and health</li> <li>7/5 Experimental and quasi-experimental research: Verifying the effects of interventions</li> <li>7/12 Causal inference in social epidemiology (Kosuke Inoue)</li> <li>7/19 Multilevel analysis in social epidemiology (Koryu Sato)</li> <li>7/26 Research on social prescribing (Daisuke Nishioka)</li> <li>8/1 Making a research plan of social epidemiology</li> </ol>					
Continue to 社会疫学研究法 (MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓					

社会疫学研究法 (MCR限定)(2)					
<b>[Course requirements]</b>					
None					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Attendance 40% Report 60%					
<b>[Textbooks]</b>					
Instructed during class					
<b>[References, etc.]</b>					
<b>(Reference books)</b>					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>					
You will make a research plan in this course. If you wish to actually proceed with the research plan you are creating, please consult with the course instructor (Kondo) for advice and support for building a research team.					
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>					
*Please visit KULASIS to find out about office hours.					

未更新

Course number	P-PUB01 8N022 SJ90				
Course title (and course title in English)	基礎人類遺伝学演習 (GC限定) Fundamental Human Genetics, exercise		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor, OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TORISHIMA MASAKO	
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2024/Second semester
Days and periods	Thu.5	Class style	Seminar (Face-to-face course)	Language of instructor	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
[Basic information]					
Class date and time: 5th period on Thursdays during the second semester (there may be exceptions)					
Classroom: Building G, 3rd Floor, Seminar room. Online classes may be conducted depending on circumstances.					
Level: Advanced					
Staff in charge: Shinji Kosugi, Takahito Wada, Takeshi Nakajima, Takahiro Yamada, Hideaki Sawai (Hyogo College of Medicine), Hidenori Kawasaki					
[Course overview]					
The purpose of this course is to provide the students with a concrete understanding of the analysis of genes and chromosomes, one of the fundamental abilities of genetic counselors, through practical experience. The students will engage in the exercises of family tree creation and estimation of the mode(s) of inheritance and genetic risk, and will learn about clinical image diagnosis and medical follow-up practices.					
<b>[Course objectives]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>Capable of creating a family tree, estimating the mode(s) of inheritance, and calculating the recurrence probability accurately</li> <li>Understand genetic testing methods and be able to explain them accurately</li> </ul>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
[1st lecture] 6/29 Wednesday 6th period [Sawai] "Bone System Diseases and X-Ray/Ultrasound Test" : This lecture outlines bone system diseases (which are common fetus congenital anomalies) and provides the X-ray interpretation skills required to diagnose them.					
[2nd lecture] 10/6 [Wada 1] "Family Tree Creation Exercise" : A look at the standard method of creating family trees and an analysis of the mode of inheritance and genetic risk estimation.					
[3rd lecture] 10/13 [Yamada 1] "Fetal Ultrasonography" : A look at ultrasonography in early to mid-pregnancy, especially soft markers associated with chromosomal abnormalities. Also, an analysis of ultrasonography performed in the stages of late pregnancy and its significance.					
[4th lecture] 10/20 [Nakajima 1] "Cancer screening": Understand the differences between cancer screening and surveillance for hereditary tumors.					
[5th lecture] 10/27 [Wada 2] "Patterns of inheritance and risk assessment": Learning standard family tree notation and estimate the pattern of inheritance					
Continue to 基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓					

基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (2)					
[6th lecture] 11/10 [Yamada 2] "Effects of Radiation, Environmental Factors, and Infectious Diseases in the Fetus" : An analysis of the environmental factors responsible for about 5% of congenital defects.					
[7th lecture] 11/17 [Kawasaki 1] "Collecting Medical Information from Medical Records" : Tips to collect information from medical records. Summary of how to collect general medical information.					
[8th lecture] 11/24 [Wada 3] "Interpretation of Chromosomal Test Results (1)" : An analysis of how to interpret chromosomal test results.					
[9th lecture] 12/1 [Yamada 3] "Miscarriage Chorionic Villus Sampling" : More than half of miscarriages in early pregnancy have chromosomal abnormalities. This lecture looks at the significance of testing in miscarriage patients.					
[10th lecture] 12/16 [Wada 4] "Interpreting Chromosomal Test Results (2)" : A look at how cytogenetic tests other than chromosomal tests are conducted (especially array CGH).					
[11th lecture] 12/22 [Nakajima 2] "Diagnostic imaging related to hereditary tumors": Learning about the characteristics and significance of diagnostic imaging such as upper and lower gastrointestinal endoscopy and abdominal ultrasonography.					
[12th lecture] 1/5 [Yamada 4] "Amniotic Fluid Chromosomal Test" : A look at how amniotic fluid chromosomal tests are performed and how to provide an appropriate explanation for the results.					
[13th lecture] 1/12 [Kawasaki 2] "How to Write Medical Records and Documents" : Learning tips to write medical information.					
[14th lecture] 1/19 [Nakajima 3] "Evaluation of Variants (1)" : Evaluation of the variants detected in tumor-related genes and learning to interpret them.					
[15th lecture] 1/26 [Wada 2] "Evaluation of Variants (2)" : Evaluation of the variants detected in rare disease related genes and learning to interpret them.					
<b>[Course requirements]</b>					
Compulsory subject only for first-year students of the Genetic Counselor Course (pre-determined subject)					
<b>[Evaluation methods and policy]</b>					
Comprehensive evaluation of active participation in exercises, reports, presentations, attendance, and other activities.					
<b>[Textbooks]</b>					
Other handouts distributed in class					
<b>[References, etc.]</b>					
<b>(Reference books)</b>					
Introduced during class					
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>					
Instructions will be given accordingly					
Continue to 基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (3) ↓ ↓ ↓					

基礎人類遺伝学演習 (GC限定) (3)	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
The lecture schedule, lecturers, and content are subject to minor changes.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8N006 SJ90			
Course title (and course title in English)	臨床遺伝学演習 (GC限定) Clinical Genetics, Exercise	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor, OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TORISHIMA MASAKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO		
			Target year	Professional degree students	Number of credits
Days and periods	水 5・6	Class style	Seminar (Face-to-face course)	Language of instructor	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
[Basic information] Also known as "genetic counseling role-play exercise" Class date and time: Second semester. 5th periods on Wednesdays (Please note that there may be exceptions). Classroom: Building G, 3rd floor, Seminar room or Online lecture. Level: Advanced Staff in charge: Hidenori Kawasaki, Masanobu Ogawa, Akiko Yoshida, Masako Torishima, Hiromi Murakami, Sayaka Honda, Akari Minamoto, Sayoko Haruyama					
[Course overview] ・ An orientation is given four weeks before the start of the exercise (9/4). <ul style="list-style-type: none"> <li>・ The instructor in charge notifies all parties concerned of the basic settings at least two weeks in advance.</li> <li>・ Actual genetic counseling is performed by a medical care team of clinical geneticists and certified genetic counselors with different roles, but one of the characteristics of role play is to perform both. Therefore, tasks such as disclosing genetic test results which in reality are mainly carried out by a clinical geneticist are performed by a genetic counselor in the role-play. This is a valuable experience, not only as a genetic counselor, but also to understand the position of a clinical geneticist. Moreover, having solid knowledge about frequent diseases as a certified genetic counselor is helpful in answering similar questions from clients.</li> <li>・ Gradually increase the difficulty of role-playing; role-play for one client in the 1st to 8th lectures and for two clients in 9th to 16th lectures.</li> <li>・ In this course, students are expected to learn about the structure of genetic counseling, disease explanation, agenda setting and psychosocial support with keeping counseling minds. Similarly, it is important to understand decision-making support for genetic testing and disclosure of results to relatives. In role-playing for two clients, students learn the power balance between clients and how to deal with disagreements.</li> <li>・ The genetic counselor (M1), CGC mentor, and teacher in charge must also hold a preparatory meeting before two weeks the course. Other meetings are held as needed.</li> <li>・ The meetings of clients and instructor are also held as needed. The client role is played by an M1 once.</li> <li>・ The genetic counselor (M1) must distribute the feedback sheet and material used in genetic counseling by the day before the course starts.</li> <li>・ Constructive and positive feedbacks are welcome from genetic counselor (M1), CL role, instructor in charge, CGC mentor and audiences. Also collect comments on the feedback sheet.</li> <li>・ If necessary, the genetic counselor (M1), CGC mentor, and instructor will look back on the day or at a later date.</li> <li>・ After each lectures, the genetic counselor (M1) and CGC mentor make another retrospective of the exercise using a verbatim record and feedback sheet, and submit the report to the instructor in charge within a week. In addition, after all role-plays are completed, students must submit a review report to Torishima and Yoshida.</li> </ul>					
Continue to 臨床遺伝学演習 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓					

臨床遺伝学演習 (GC限定) (2)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ The schedule may change depending on the number of students taking the course.</li> </ul>	
<b>[Course objectives]</b>	
Acquire practical skills as a genetic counselor and practical response capability in the field. Acquire knowledge of clinical genetics and the basic skills of genetic counseling.	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
[Initial meeting] 9/4 5th period [All members] "How to Perform Role-Play and Orientation for Genetic Counseling Practice" : The objective, method, and significance of role-play. Orientation for genetic counseling practice. [1st and 2nd lectures] 10/2, 10/16 [Ogawa/Yoshida] "Hereditary Breast Cancer and Ovarian Cancer" : Evaluation of the risk of hereditary breast cancer in a family with multiple breast cancer patients and adaptations to genetic testing. Learn about support sharing information among relatives. [3rd and 4th lectures] 10/23, 10/30 [Kawasaki/Murakami] "Marfan syndrome" : The goal is to be able to outline Marfan syndrome (which is relatively common and can cause life-long prognostic complications), to explain the need for surveillance and the significance of genetic testing, and to contribute to the diagnosis of blood-related relatives who may be at risk. [5th and 6th lectures] 11/6, 11/13 [Ogawa/Torishima] "Duchenne Muscular Dystrophy" : Through sporadic cases of patients diagnosed with DMD, students will learn how to conduct a genetic diagnosis and detect whether the mother or sisters are carriers of X-linked hereditary diseases. [7th and 8th lectures] 11/20, 11/27 [Kawasaki/Yoshida] "Fragile X syndrome" : In this lecture, students learn about the symptoms of Fragile X Syndrome, explanations of triplet repeat disease, anticipation, and female carrier onset. This lecture will focus on maternal acceptance of the disease and psychosocial support in X-linked inheritance. [9th and 10th lectures] 12/4, 12/11 [Ogawa/Honda] "Recurrent Miscarriage" : In these lectures, students will learn not only about evaluations of obstetrics and gynecology, as well as genetic test-based evaluations, to detect the causes of recurrent miscarriage cases, but also genetic counseling [11th and 12th lectures] 12/18, 12/25 [Kawasaki/Haruyama] "Mitochondrial Disease (MELAS)" : Through the case of a child diagnosed with MELAS, this lecture focuses on genetic counseling in mitochondrial disease, addressing maternal inheritance, diversity of expression, and how to convey uncertain information. [13th and 14th lectures] 1/8, 1/15 [Ogawa/Torishima] "Turner Syndrome": Through the case of a girl diagnosed with Turner syndrome, this lecture focuses on deepening students' understanding of chromosomal numerical abnormalities, as well as preparing them to be able to provide clients with brief information on diseases and future responses while considering their feelings. [15th and 16th lecture] 1/22, 1/29 [Kawasaki/Minamoto] "Genetic Hearing Loss" : Students learn to explain the inheritance patterns of diseases with high genetic heterogeneity. This lecture will also focus on consideration when couples have different opinions.  Participants: Students, all related teachers, genetic counseling graduate student (M1), observers (M1, M2, PhD student), GC mentor Video recording: Observers (M1). The video recording and file must be saved on the server for later review.	
<b>[Course requirements]</b>	
Compulsory subject only for first-year students in the Genetic Counselor Course (pre-determined subject)	
Continue to 臨床遺伝学演習 (GC限定) (3) ↓ ↓ ↓	

臨床遺伝学演習 (GC限定) (3)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation of proactivity in exercises, practical abilities, attendance, reports, and other activities.	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Instructions will be given accordingly	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	



<b>Course number</b>		P-PUB01 8N020 LJ90			
<b>Course title (and course title in English)</b>	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定)		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TORISHIMA MASAKO Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor, OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO	
	Communication for Genetic Counselors				
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	3	<b>Year/semesters</b>	2024/Irregular, year-round
<b>Days and periods</b>	水1:開講日注意	<b>Class style</b>	lecture and seminar (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>[Basic information] Class date and time: Weekly classes in 1st period on Thursdays during the first semester, then biweekly classes in 1st period on Thursdays during the second semester (there may be exceptions).  Classroom: Building G, 3rd Floor, Seminar room, Level: Basic  Staff in charge: Masako Torishima, Akiko Yoshida, Mari Urano, yako Kumamura, Hiromi Murakami, Nana Akiyama, Sayaka Honda, Manami Matsukawa, Sayoko Haruyama, Akari Minamoto</p> <p>[Course overview] These lectures are focused on communication, which is an important theme in genetic counseling. The students themselves take the lead in discussions and share their learning with each other. With these lectures, they learn how to communicate not only with clients and families (to provide them support as genetic counselors), but also with members of their medical care team, who have different specialties. Another aim of this lecture is to provide the basic knowledge and information on the theories required for "Genetic Counseling Role-Play Exercise" and "Genetic Counseling Practice (clinical practice at hospitals)." Ultimately, the students are expected to deepen their knowledge in genetic counseling and genetic counselors' role through these lectures, exercises, and practices. The exercises are programmed to include different methods (such as role-play and video learning) according to the progress of the class.</p> <p>[Teaching/learning method]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Reading the texts before class, followed by the submission of a report.</li> <li>Discussions and exercises during lectures.</li> <li>It also includes the following extra-curricular activities: Video learning: "Three approaches to psychotherapy" / "Medical genetics" (in the School of Medicine)</li> </ul> <p>We look forward to your participation! Questions about the content of the classes are welcome too. Please contact us by e-mail!</p>					
Continue to 遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓					

遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (2)					
<b>[Course objectives]</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Acquire the minimum knowledge and attitudes required to support clients and their families as a genetic counselor.</li> <li>2. Acquire the minimum knowledge and attitudes required to know how to act as a member of a medical care team.</li> </ol>					
<b>[Course schedule and contents]</b>					
[First semester]					
[1st lecture] 4/11 [Yoshida] "Introduction and Basic Concepts" "Definition and History of Genetic Counseling" First day of the basics: Communication for genetic counselors. Introduction to the basics of self-presentation, classes, and homework.					
[2nd lecture] 4/18 [Torishima] "Basic Attitudes of Genetic Counselors" : Second day of the basics: Basic attitudes in genetic counseling and comprehension from the inside out (an internal frame of reference). Understanding basic attitudes, listening closely, and developing an internal frame of reference. "Empathic Understanding" : Third day of the basics: The concept of empathic understanding.					
[3rd lecture] 4/25 [Yoshida] "Building Rapport" : Fourth day of the basics: The flow of genetic counseling and the formation of trusting relationships (building rapport). "Reception" : Sixth day of the basics: Points to be considered in telephone reception.					
[4th lecture] 5/2 [Murakami] "Non-Verbal communication" : Fifth day of the basics: The importance of non-verbal communication.					
[5th lecture] 5/9 [Yoshida] "Providing Information" : Eighth day of the basics: Providing information in genetic counseling.					
[6th lecture] 5/16 [Yoshida] "Providing Information" : Eighth day of the basics: Providing information in genetic counseling.					
[7th lecture] 5/23 [Torishima] "Decision-Making" : Ninth day of the basics: Decision-making in genetic counseling.					
[8th lecture] 6/6 [Torishima] "Decision-Making" : Ninth day of practice: Genetic counseling for an individual who requested a pre-symptomatic test for hereditary diseases that are progressive and have no cure.					
[9th lecture] 6/13 [Torishima] "Family Interviews" "family systems theory" "family dynamics" : 13th day of the basics: The role of genetic counselors in family interviews.					
[10th lecture] 6/20 [Akiyama, Torishima] "Talking about Heredity to Children" : Genetic counseling for children. Tenth day of practice: Talking about heredity to children [practice].					
[11th lecture] 6/27 [Honda] "Views of Disability" : Sixteenth day of the basics: Disability and society's understanding. "Prenatal Testing" : Eighth day of practice: Genetic counseling involved in prenatal testing.					
[12th lecture] 7/4 [Yoshida, Torishima] "Mini Role-Play" : Assessment to confirm the main complaints and to acquire information for creating the family tree.					
[13th lecture] 7/11 [Yoshida, Torishima] "Mini Role-Play" : Assessment to explain and provide information about the mode of inheritance					
[14th lecture] 7/18 [Yoshida, Torishima] "Mini Role-Play" : Assessment to explain and provide information about the mode of inheritance.					
[15th lecture] 7/25 [Yoshida, Torishima] "Case Examination" : The structure of genetic counseling and client assessment.					
[Second semester]					
Continue to 遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓					

未更新

遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (2)					
<b>Course title (and course title in English)</b>	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定)		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor, OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TORISHIMA MASAKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO	
	Genetic Counselling, Exercise 1				
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Irregular, year-round
<b>Days and periods</b>	2・4週:金5・6時	<b>Class style</b>	Seminar (Face-to-face course)	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>					
<p>[Basic information] Class date and time: Fridays (every other week in principle) 5th and 6th periods, Classroom: Building G, Seminar room A or Exercise room  Level: Genetic Counseling Exercise 1 (Basic)/Genetic Counseling Exercise 2 (Advanced)  Staff in charge: Takahito Wada, Takeshi Nakajima, Masanobu Ogawa, Hidenori Kawasaki, Masako Torishima, Akiko Yoshida, Hiromi Murakami, Sayaka Honda, Akira Inaba, Kazuo Tamura, Junko Tatsumi, Kazumasa Saigo, Nobuyuki Fukushima, Norihito Kawashita, Yoshihito Kawashita, Mina Nakama, lecturer</p> <p>[Course overview] Actual genetic counseling cases are presented to the participants, who are expected to have a thorough discussion with other conference participants about problems related to genetic, medical, recuperative, social, legal, ethical, and psychological issues. Starting in the second semester of the first year, the course is more focused on conferences, and the participants are expected to make presentations about the cases they have witnessed in actual genetic counseling practice. This is the most important element in the curriculum of genetic counselor courses at Kyoto University and Kinki University, with the active participation of graduate students from both universities. As a rule, graduate students in the practice period (second-year students: April to October; first-year students: November to year-end; the transition period depends on the situation of each course) must make a case presentation in every class. 4:30-6:30 PM: Joint conference for case presentation</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Review meeting (the moderator does the timekeeping so that between four and six cases are reviewed at each meeting). From 6:30 PM to around 7:20 PM: Presentations about genetic counseling activities from genetic counselors that completed the course at Kyoto/Kinki Universities, or joint conference attendees/invited speakers</li> </ul> <p>[Teaching/learning method] Case presentation/discussion and creation of conference record (students take turns for each case)</p>					
<b>[Course objectives]</b>					
Capable of making an appropriate presentation of cases, organizing various problems and making decisions on future response policies, participating in discussions and making logical observations, and creating appropriate conference records.					
Continue to 遺伝カウンセラーコミュニケーション概論 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓					

遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (2)	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
[Moderator] Conference lecturers [1st lecture] 4/14 [Kosugi] Shinji Kosugi: "Introduction to Joint Conferences" [2nd lecture] 4/28 [Kawasaki] Toshiaki Takenouchi: "Genetic testing/diagnosis and counseling for critically ill newborns" [3rd lecture] 5/12 [Saigo] Yuji Takahashi: "Neurological diseases - Recent topics" [4th lecture] 5/26 [Kawasaki] Koji Kitabatake: "Knowing the life course of Down syndrome; from neonate to adolescent, until adulthood" [5th lecture] 6/9 [Yoshida] Mari Tsubata: "Efforts of Department of Genetic Medicine, Tohoku University Hospital" [6th lecture] 6/23 [Wada] Mari Kuroiwa: "Mammalian sex determination mechanism, independent of Y chromosome and SRY gene" [7th lecture] 7/14 [Kishita] Ke Ida: "Common SNP and RNA splicing" [8th lecture] 10/27 [Honda] Akira Inaba: "Work as a certified genetic counselor at the Department of Clinical Genetics Unit, Kyoto University Hospital" [9th lecture] 11/10 [Nakama] Sawako Matsuzaki: "Development and prospects of Department of Clinical Genetics, Kyushu University Hospital" [10th lecture] 11/24 [Torishima] Kayono Yamamoto: "Qualitative research in the area of #8203#8203genetic counseling" [11th lecture] 12/8 [Kawasaki] Mizuho Ueyama: "Involvement of a child life specialist in genetic diseases" [12th lecture] 12/22 [Nakajima] Masanobu Ogawa: "Fetus, pregnant women, and me" [13th lecture] 1/12 [Kawasaki] New Year Roundtable [14th lecture] 1/26 [Kawashita] Mashu Futagawa: "The role of certified genetic counselors at Okayama University Hospital" [15th lecture] 2/9 [Wada] Michiko Furuya: "Hereditary kidney tumors and related diseases"	
[Specific guidelines for the joint conference] 1) Objective: This is not a practice debriefing session. The attendees must put their impressions aside and focus on whether genetic counseling was conducted appropriately in each case, whether mistakes were made, or if something was missing. They must listen to the specialists' opinions and comments and join the debate. A time for discussion must be allocated so that many people can share their opinions and they can be effectively applied to genetic counseling. 2) Presentation: Objectively summarize the facts. First, explain the background and main complaint to the participants. Also, briefly indicate the progress of genetic counseling and pertinent issues. Keep the presentation time under 15 minutes, plus 10 minutes for discussion. 3) Slides: Try to use bullets to organize the discussion better. The following number of slides must be followed by all. First half: One slide with the title (including the date and name of the presenters and the doctor in charge), one slide to explain the disease, two slides containing the background of the consultation and main complaint, as well as the family tree. Second half: One or two slides with the progress of genetic counseling and one or two slides with issues and problems. 4) Progress: Instruct the presenters to simplify any redundant parts and to promote constructive discussion. 5) Assessment: Questions, personal opinions, and impressions must be reserved for later, when there is a general discussion. If you really have to make a comment at the beginning, consult the supervisor and doctor beforehand. 6) After the presentation: Add one slide containing the content of the discussion. After the confirmation by the doctor in charge, save it in "Genetic Counseling Record" and "Conference Record" (within a week	
Continue to 遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (3) ↓ ↓ ↓	

遺伝カウンセリング演習1 (GC限定) (3)	
after the conference). * Since this activity involves contact with personal information, first-time participants must submit the "Pledge of Confidentiality" in advance. Do not talk about the details of genetic counseling in the presence of others, do not leave the notebook containing genetic counseling information where others can see it, and do not lend the notebook to (or borrow it from) others.	
<b>[Course requirements]</b>	
Compulsory subjects only for students in the Genetic Counselor Course (pre-determined subjects):  "Genetic Counseling Exercise 1" for first-year students  "Genetic Counseling Exercise 2" for second-year students	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation of presentations, active participation in discussions, creation of conference records, and other activities.	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used. As a rule, no handout is distributed.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Instructions will be given accordingly.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

Course number		P-PUB01 8N008 SJ90				
Course title (and course title in English)	遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) Genetic Counselling, Exercise 2		Instructor's name, job title, and department of affiliation Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor, OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TORISHIMA MASAKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO			
	Target year	Professional degree students		Number of credits	2	Year/semesters
Days and periods	2・4週: 金5・6期	Class style	Seminar (Face-to-face course)	Language of instructor	Japanese	
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
[Basic information] Class date and time: Fridays (every other week in principle) 5th and 6th periods, Classroom: Building G, Seminar room A or Exercise room Level: Genetic Counseling Exercise 1 (Basic)/Genetic Counseling Exercise 2 (Advanced) Staff in charge: Takahito Wada, Takeshi Nakajima, Masanobu Ogawa, Hidenori Kawasaki, Masako Torishima, Akiko Yoshida, Hiromi Murakami, Sayaka Honda, Akira Inaba, Kazuo Tamura, Junko Tatsumi, Kazumasa Saigo, Nobuyuki Fukushima, Norihito Kawashita, Yoshihito Kawashita, Mina Nakama, lecturer						
[Course overview] Actual genetic counseling cases are presented to the participants, who are expected to have a thorough discussion with other conference participants about problems related to genetic, medical, recuperative, social, legal, ethical, and psychological issues. Starting in the second semester of the first year, the course is more focused on conferences, and the participants are expected to make presentations about the cases they have witnessed in actual genetic counseling practice. This is the most important element in the curriculum of genetic counselor courses at Kyoto University and Kinki University, with the active participation of graduate students from both universities. As a rule, graduate students in the practice period (second-year students: April to October; first-year students: November to year-end; the transition period depends on the situation of each course) must make a case presentation in every class. 4:30-6:30 PM: Joint conference for case presentation ・ Review meeting (the moderator does the timekeeping so that between four and six cases are reviewed at each meeting). From 6:30 PM to around 7:20 PM: Presentations about genetic counseling activities from genetic counselors that completed the course at Kyoto/Kinki Universities, or joint conference attendees/invited speakers						
[Teaching/learning method] Case presentation/discussion and creation of conference record (students take turns for each case)						
<b>[Course objectives]</b>						
Capable of making an appropriate presentation of cases, organizing various problems and making decisions on future response policies, participating in discussions and making logical observations, and creating appropriate conference records.						
Continue to 遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓						

遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (2)	
<b>[Course schedule and contents]</b>	
[Moderator] Conference lecturers [1st lecture] 4/14 [Kosugi] Shinji Kosugi: "Introduction to Joint Conferences" [2nd lecture] 4/28 [Kawasaki] Toshiaki Takenouchi: "Genetic testing/diagnosis and counseling for critically ill newborns" [3rd lecture] 5/12 [Saigo] Yuji Takahashi: "Neurological diseases - Recent topics" [4th lecture] 5/26 [Kawasaki] Koji Kitabatake: "Knowing the life course of Down syndrome; from neonate to adolescent, until adulthood" [5th lecture] 6/9 [Yoshida] Mari Tsubata: "Efforts of Department of Genetic Medicine, Tohoku University Hospital" [6th lecture] 6/23 [Wada] Mari Kuroiwa: "Mammalian sex determination mechanism, independent of Y chromosome and SRY gene" [7th lecture] 7/14 [Kishita] Ke Ida: "Common SNP and RNA splicing" [8th lecture] 10/27 [Honda] Akira Inaba: "Work as a certified genetic counselor at the Department of Clinical Genetics Unit, Kyoto University Hospital" [9th lecture] 11/10 [Nakama] Sawako Matsuzaki: "Development and prospects of Department of Clinical Genetics, Kyushu University Hospital" [10th lecture] 11/24 [Torishima] Kayono Yamamoto: "Qualitative research in the area of #8203#8203genetic counseling" [11th lecture] 12/8 [Kawasaki] Mizuho Ueyama: "Involvement of a child life specialist in genetic diseases" [12th lecture] 12/22 [Nakajima] Masanobu Ogawa: "Fetus, pregnant women, and me" [13th lecture] 1/12 [Kawasaki] New Year Roundtable [14th lecture] 1/26 [Kawashita] Mashu Futagawa: "The role of certified genetic counselors at Okayama University Hospital" [15th lecture] 2/9 [Wada] Michiko Furuya: "Hereditary kidney tumors and related diseases"	
[Specific guidelines for the joint conference] 1) Objective: This is not a practice debriefing session. The attendees must put their impressions aside and focus on whether genetic counseling was conducted appropriately in each case, whether mistakes were made, or if something was missing. They must listen to the specialists' opinions and comments and join the debate. A time for discussion must be allocated so that many people can share their opinions and they can be effectively applied to genetic counseling. 2) Presentation: Objectively summarize the facts. First, explain the background and main complaint to the participants. Also, briefly indicate the progress of genetic counseling and pertinent issues. Keep the presentation time under 15 minutes, plus 10 minutes for discussion. 3) Slides: Try to use bullets to organize the discussion better. The following number of slides must be followed by all. First half: One slide with the title (including the date and name of the presenters and the doctor in charge), one slide to explain the disease, two slides containing the background of the consultation and main complaint, as well as the family tree. Second half: One or two slides with the progress of genetic counseling and one or two slides with issues and problems. 4) Progress: Instruct the presenters to simplify any redundant parts and to promote constructive discussion. 5) Assessment: Questions, personal opinions, and impressions must be reserved for later, when there is a general discussion. If you really have to make a comment at the beginning, consult the supervisor and doctor beforehand. 6) After the presentation: Add one slide containing the content of the discussion. After the confirmation by the doctor in charge, save it in "Genetic Counseling Record" and "Conference Record" (within a week	
Continue to 遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (3) ↓ ↓ ↓	

遺伝カウンセリング演習2 (GC限定) (3)	
after the conference). * Since this activity involves contact with personal information, first-time participants must submit the “Pledge of Confidentiality” in advance. Do not talk about the details of genetic counseling in the presence of others, do not leave the notebook containing genetic counseling information where others can see it, and do not lend the notebook to (or borrow it from) others.	
<b>[Course requirements]</b>	
Compulsory subjects only for students in the Genetic Counselor Course (pre-determined subjects): “Genetic Counseling Exercise 1” for first-year students “Genetic Counseling Exercise 2” for second-year students	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation of presentations, active participation in discussions, creation of conference records, and other activities.	
<b>[Textbooks]</b>	
Not used. As a rule, no handout is distributed.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Instructions will be given accordingly.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

Course number		P-PUB01 8N009 P190				
Course title (and course title in English)	遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) Genetic Counselling, Practice 1			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor, OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TORISHIMA MASAKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO	
	Target year	Professional degree students	Number of credits			2
Days and periods	Other	Class style	Practical training (Face-to-face course)		Language of instruction	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>						
[I. Course overview] The participants go to an actual genetic counseling clinic to experience its daily routine while performing preliminary examinations (pre-counseling), creating family trees, and conducting follow-up by phone with actual clients.  Staff in charge: Takeshi Nakajima, Takahito Wada, Masanobu Ogawa, Hidenori Kawasaki, Hideaki Sawai, Yuka Yotsumoto, Masako Torishima, Akiko Yoshida, Hiromi Murakami, Sayaka Honda, Akira Inaba  [II. Teaching/Learning method] Practical exercises (preparation, pre-counseling, supervised practice, case record creation, case report in conferences, discussion, follow-up by phone). Active participation in related conferences and seminars and submission of a report. The “Genetic Counselor Work Practice,” held between January and March, includes exercises of the actual work of certified genetic counselors, such as booking genetic counseling sessions by phone.						
<b>[Course objectives]</b>						
Learn how to approach clients appropriately. Capable of conducting a preliminary examination and creating a family tree. Capable of discussing issues in the cases with the doctors in charge. Capable of summarizing a case, as well as searching the literature regarding medical, psychosocial, and ethical issues to obtain the most recent information. Capable of presenting a case at a conference and having a discussion about it. Capable of exchanging information and collaborating with related departments appropriately and practicing team medical care.						
<b>[Course schedule and contents]</b>						
[Genetic Counseling Practice] The genetic counseling practice starts around the second half of the first year. The exact date of the start and frequency of the practice is determined based on the students' level of knowledge and attainment. In two years, they will have experienced around 60 cases. The first sessions may be limited to observations, but ideally, the students should try to take part in actual genetic counseling as much as possible, even with minor tasks. One example is the initial intake (pre-counseling), which involves the preliminary examination and creation of the family tree. For each case, the student must create a case record and logbook, have it checked by the teacher in charge, and conclude it as soon as possible (within a week at the latest). Then, the student						
Continue to 遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓						

遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (2)	
must store it in the designated place. It is also the student's duty to create a typification sheet and to present the cases he/she has witnessed at conferences and to discuss them. Each case requires around 6 hours of work (including the preparation and search phases). The students must seek to diversify disease cases as much as possible, including, for example, familial tumors, neurodegenerative diseases, prenatal diagnosis/ chromosomal abnormalities, genetic deafness, ophthalmic diseases, congenital malformations, congenital metabolic disorder, and others. • Kyoto University Hospital, Clinical Genetics Unit (includes the otorhinolaryngology genetic deafness outpatient ward): Monday to Friday (all course members take turns) • Hyogo College of Medicine, Clinical Genetics Department: Tuesdays (one person per day) • Takatsuki General Hospital, Pediatrics/Obstetrics & Gynecology (on an irregular basis) As a rule, the phone follow-up after the genetic counseling must be made by the students in the genetic counselor course as part of their practical on the job training (OJT) and internship.	
[How to write a case record: Excerpt] 1. File name: Medical record number + Short disease name + Consultation day (e.g., 999FAP120915) For re-examinations, add the date and the number of the re-examination to the previous file name (e.g., 999FAP1261013-2) 2. Type out the medical record number before the body title. 3. Do not write the client's name, but write the real names of the medical facilities involved. 4. Type out the time (ending time and duration). 5. The family tree must be created as a separate PowerPoint file. The file name must be the same as the Word file above.	
[Participation in conferences and workshops] To acquire a broader set of knowledge and experience, the students must participate in the conferences and workshops below for two years (we will provide financial support as much as possible). The students are encouraged to actively participate in conference presentations and seminars. We also recommend participating in conferences and seminars other than the ones listed below that are deeply related to genetic counseling, and to use these opportunities to do active networking. Participating in patient groups and support groups is also highly recommended. We will provide information accordingly.	
<b>[Course requirements]</b>	
Compulsory subjects only for students in the Genetic Counselor Course (pre-determined subjects): “Genetic Counseling Exercise 1” for first-year students “Genetic Counseling Exercise 2” for second-year students	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation of active participation in practices.	
<b>[Textbooks]</b>	
Also, no resource is as important as the experience of being in contact with actual clients.	
Continue to 遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (3) ↓ ↓ ↓	

遺伝カウンセリング実習1 (GC限定) (3)	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Introduced during class	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Guidance will be provided.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
All client information must be kept confidential. Also, students are not to talk about genetic counseling content in the presence of outsiders, or to leave notebooks containing genetic counseling information where outsiders can see them. Lending or borrowing notebooks is strictly forbidden. Those who cannot maintain confidentiality will be expelled from the course.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.	

未更新

Course number		P-PUB01 8N010 PJ90					
Course title (and course title in English)	遺伝カウンセリング実習2 (GC限定)				Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor, OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TORISHIMA MASAKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO	
	Genetic Counselling, Practice 2						
Target year	Professional degree students	Number of credits	4	Year/semesters	2024/Irregular, year-round		
Days and periods	Other	Class style	Practical training (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
[I. Course overview] The participants go to an actual genetic counseling clinic to experience its daily routine while performing preliminary examinations (pre-counseling), creating family trees, and conducting follow-up by phone with actual clients.  Staff in charge: Takeshi Nakajima, Takahito Wada, Masanobu Ogawa, Hidenori Kawasaki, Hideaki Sawai, Yuka Yotsumoto, Masako Torishima, Akiko Yoshida, Hiromi Murakami, Sayaka Honda, Akira Inaba  [II. Teaching/learning method] Practical exercises (preparation, pre-counseling, supervised practice, case record creation, case report in conferences, discussion, follow-up by phone). Active participation in related conferences and seminars and submission of a report. The "Genetic Counselor Work Practice," held between January and March, includes exercises of the actual work of certified genetic counselors, such as booking genetic counseling sessions by phone.							
<b>[Course objectives]</b>							
Learn how to approach clients appropriately. Capable of conducting a preliminary examination and creating a family tree. Capable of discussing issues in the cases with the doctors in charge. Capable of summarizing a case, as well as searching the literature regarding medical, psychosocial, and ethical issues to obtain the most recent information. Capable of presenting a case at a conference and having a discussion about it. Capable of exchanging information and collaborating with related departments appropriately and practicing team medical care.							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
[Genetic Counseling Practice] The genetic counseling practice starts around the second half of the first year. The exact date of the start and frequency of the practice is determined based on the students' level of knowledge and attainment. In two years, they will have experienced around 60 cases. The first sessions may be limited to observations, but ideally, the students should try to take part in actual genetic counseling as much as possible, even with minor tasks. One example is the initial intake (pre-counseling), which involves the preliminary examination and creation of the family tree. For each case, the student must create a case record and logbook, have it checked by the teacher in charge, and conclude it as soon as possible (within a week at the latest). Then, the student							
Continue to 遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (2) ↓ ↓ ↓							

遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (2)							
must store it in the designated place. It is also the student's duty to create a typification sheet and to present the cases he/she has witnessed at conferences and to discuss them. Each case requires around 6 hours of work (including the preparation and search phases). The students must seek to diversify disease cases as much as possible, including, for example, familial tumors, neurodegenerative diseases, prenatal diagnosis/ chromosomal abnormalities, genetic deafness, ophthalmic diseases, congenital malformations, congenital metabolic disorder, and others. <ul style="list-style-type: none"> <li>• Kyoto University Hospital, Clinical Genetics Unit (includes the otorhinolaryngology genetic deafness outpatient ward): Monday to Friday (all course members take turns)</li> <li>• Hyogo College of Medicine, Clinical Genetics Department: Tuesdays (one person per day)</li> <li>• Takatsuki General Hospital, Pediatrics/Obstetrics &amp; Gynecology (on an irregular basis)</li> </ul> As a rule, the phone follow-up after the genetic counseling must be made by the students in the genetic counselor course as part of their practical on the job training (OJT) and internship.							
[How to write a case record: Excerpt] 1. File name: Medical record number + Short disease name + Consultation day (e.g., 999FAP120915) For re-examinations, add the date and the number of the re-examination to the previous file name (e.g., 999FAP1261013-2) 2. Type out the medical record number before the body title. 3. Do not write the client's name, but write the real names of the medical facilities involved. 4. Type out the time (ending time and duration). 5. The family tree must be created as a separate PowerPoint file. The file name must be the same as the Word file above.							
[Participation in conferences and workshops] To acquire a broader set of knowledge and experience, the students must participate in the conferences and workshops below for two years (we will provide financial support as much as possible). The students are encouraged to actively participate in conference presentations and seminars. We also recommend participating in conferences and seminars other than the ones listed below that are deeply related to genetic counseling, and to use these opportunities to do active networking. Participating in patient groups and support groups is also highly recommended. We will provide information accordingly.							
<b>[Course requirements]</b>							
Compulsory subjects only for students in the Genetic Counselor Course (pre-determined subjects):  "Genetic Counseling Exercise 1" for first-year students  "Genetic Counseling Exercise 2" for second-year students							
<b>[Evaluation methods and policy]</b>							
Comprehensive evaluation of active participation in practices.							
<b>[Textbooks]</b>							
Also, no resource is as important as the experience of being in contact with actual clients.							
Continue to 遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (3) ↓ ↓ ↓							

未更新

遺伝カウンセリング実習2 (GC限定) (3)							
<b>[References, etc.]</b>							
(Reference books) Introduced during class							
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>							
Guidance will be provided.							
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>							
All client information must be kept confidential. Also, students are not to talk about genetic counseling content in the presence of outsiders, or to leave notebooks containing genetic counseling information where outsiders can see them. Lending or borrowing notebooks is strictly forbidden. Those who cannot maintain confidentiality will be expelled from the course.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.							

Course number		P-PUB01 8H168 LB90					
Course title (and course title in English)	遺伝サービス情報学				Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Medicine Program-Specific Senior Lecturer, KAWASAKI HIDENORI Kyoto University Hospital Program-Specific Associate Professor, OGAWA MASANOBU Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, TORISHIMA MASAKO Graduate School of Medicine Program-Specific Assistant Professor, YOSHIDA AKIKO	
	Genetic service informatics						
Target year	Professional degree students	Number of credits	1	Year/semesters	2024/Intensive, First semester		
Days and periods	Wednesday:6	Class style	Lecture (Face-to-face course)	Language of instruction	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
The collection and evaluation of genetic information is now an essential technology for those engaged in genetic medicine. In this course, you will learn general medical information databases and guideline searches, how to use databases related to genes and inherited diseases, how to evaluate variants systematically, and learn the knowledge and skills necessary for the practice of medicine for evidence-based medicine.							
<b>[Course objectives]</b>							
Acquire the skills to properly use medical information and genetic information databases according to their purpose, search for necessary information, and conduct critical examination appropriately.							
<b>[Course schedule and contents]</b>							
[1st lecture] May 17, Wada, Information search for hereditary diseases, "Learn how to use databases on hereditary diseases such as OMIM and GeneReviews" [2nd lecture] May 24, Nakajima, Literature management method, "Learn about literature management tools such as EndNote, Mendeley, Zotero, RefWorks, etc." [3rd lecture] May 31, Ogawa, Literature search method, "Learn about the outline of literature retrieval using PubMed, Ichushi, etc." [4th lecture] June 7, Kawasaki, EBM practice, "Learn the basics of EBM and organize the processes necessary for its practice" [5th lecture] June 14, Wada, Genome Browser, "Use the UCSC Genome Browser to search for genome information" [6th lecture] June 21, Nakajima, Variant evaluation, "Learn variant evaluation based on ACMG guidelines" [7th lecture] June 28, Ogawa, Clinical practice guidelines and systematic review, "Learn about the overview and the way to use about clinical practice guidelines and systematic reviews" [8th lecture] July 5, Kawasaki, Diagnosis support system, "Learn about the use of a rare disease diagnosis support system"							
<b>[Course requirements]</b>							
Genetic medicine, ethics/society, and basic human genetics are recommended as prior courses.							
Continue to 遺伝サービス情報学(2) ↓ ↓ ↓							

遺伝サービス情報学(2)	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Comprehensive evaluation of reports, presentations, attendance, etc.	
<b>[Textbooks]</b>	
R.L.Nussbaum, R.R.McInnes & H.F.Willard 『Thompson & Thompson Genetics in Medicine, 8th ed.』 (Elsevier, 2016) ISBN:978-1437706963 中山智祥 『医療に役立つ 遺伝子関連Web情報検索 第2版 手とり足とり教えますガイド』 (メディカルサイエンスインターナショナル, 2020) ISBN:978-4815701970	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> 坊農秀雅 『バリエーションデータ検索&活用 変異・多型情報を使いこなす達人レシピ』 (羊土社, 2020) ISBN:978-4758122450 水谷修紀 『症例でわかる新しい臨床遺伝学』 (MEDSI, 2008) ISBN:978-4-89592-574-7	
<b>(Related URLs)</b>	
https://togotv.dbcls.jp/(TogoTV) https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/(PubMed) https://www.ncbi.nlm.nih.gov/omim/(OMIM) http://www.geneclinics.org/(GeneReviews) https://genome.ucsc.edu/(UCSC Genome Browser)	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Lecture	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H139 LJ90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床統計家の実務スキル (CB限定) Practical Skills for Clinical Biostatisticians	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, OMORI TAKASHI Graduate School of Medicine Assistant Professor, Omiya Masatomo
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	1
<b>Days and periods</b>	Mon.5	<b>Class style</b>	Practical training (Face-to-face course)
<b>Year/semesters</b>	2024/First semester	<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
This course deal with documents of data analyses, programming using SAS and R, and consulting in the practice of clinical studies, and will acquire the knowledge of the roles of clinical statisticians. Students will make programs of SAS and R to analyze a dataset and report the result, and also have a statistical consultation session.			
[Lectures and practicums using PowerPoint slides]			
<b>[Course objectives]</b>			
The goals of this course are to			
- be able to explain the needs of statistical programming,			
- be able to read a data file and construct a dataset for analyses in SAS and R,			
- be able to make tables, lists, and figures (TLFs) using SAS and R,			
- be able to have statistical consultations for investigators.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Session 1, April 8, Period 5: Introduction to SAS and R			
Session 2, April 15, Period 5: Reading a data file			
Session 3, April 22, Period 5: Protocol, and data manipulation (1)			
Session 4, May 13, Period 5: Tables and graphs			
Session 5, May 20, Period 5: Data manipulation (2)			
Session 6, May 27, Period 5: Statistical analysis plan, simple analyses			
Session 7, June 3, Period 5: Tables, figures, lists (TFLs), and data manipulation (3)			
Session 8, June 10, Period 5: Basis of analyses using regression model			
Session 9, June 17, Period 5: Statistical consultation (1)			
Session 10, June 24, Period 5: Statistical consultation (2)			
Session 11, July 1, Period 5: SAS macro and R function			
Session 12, June 8, Period 5 Leave-one-out method			
Session 13, July 22, Period 5 Simulation			
Session 14, July 29, Period 5 Class discussion (Role of clinical statistician in practical work)			
Continue to 臨床統計家の実務スキル (CB限定) (2) ↓ ↓ ↓			

臨床統計家の実務スキル (CB限定) (2)	
<b>[Course requirements]</b>	
・ This course is limited to students of the Clinical Biostatistics course.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Short report in each session(50%), group presentation (10%), term-end report (50%).	
<b>[Textbooks]</b>	
Lecture materials will be distributed.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b> Etsuo Miyaoka, Atsuko Yoshizawa "SASプログラミング" (Kyoritsu Shuppan, 2013) ISBN:978-4320110557 Yohei Takanami, "The R Tips 第3版: データ解析環境Rの基本技・グラフィックス活用集" (ohmsha, 2016) ISBN:978-4274219580 Kleinman K, Horton NJ "SAS and R: Data Management, Statistical Analysis, and Graphics, Second Edition" (Chapman and Hall/CRC, 2014) ISBN:978-1466584495	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
Programming not completed during class should be finished by the next session. Assignments given in class should be submitted by the due date as a short report.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H144 SB90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	統計的推測の基礎・演習 (CB限定) Practicum in Fundamentals of Statistical Inference	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, OMORI TAKASHI 統計数理研究所 HENMI MASAYUKI Graduate School of Medicine Assistant Professor, Omiya Masatomo
<b>Target year</b>	1st year students or above	<b>Number of credits</b>	1
<b>Days and periods</b>	前:木6/後:木3	<b>Class style</b>	Seminar (Face-to-face course)
<b>Year/semesters</b>	2024/First semester	<b>Language of instruction</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
This course focuses on the content of the "Fundamentals of Statistical Inference," and tackles exercises relating to the fundamental points in learning subjects related to statistics. In the first half, we tackle exercises on fundamental points concerning statistical inference in general, and in the second half, we tackle specific statistical inference exercises (estimation, hypothesis testing, and confidence intervals). The overall purpose of the course is to understand and come to grips with each of the topics addressed in "Fundamentals of Statistical Inference" through specific problems, and to teach the fundamental concepts of statistical inference obtained from these. Through exercises in the first half, students will acquire the necessary mathematical skill to study statistics-related subjects, while exercises in the latter half teach methods to apply statistical inference by working on problem sets that are similar to real-world issues as applied to clinical trials, and will understand their utility. Since students of this course are expected to come from various backgrounds, a large number of teaching staff will be assigned and exercises will proceed according to the progress of each student.			
[Practicum Format] (Held in sixth period until June 4, then fifth period from June 11)			
<b>[Course objectives]</b>			
・ Understand the techniques necessary for methods of statistical inference and related methods, and learn how to apply them,			
・ Learn the meaning and properties of basic statistics and ways to make calculations by making use of them by yourself, and			
・ Understand the situations in which the fundamentals of statistical inference are required, such as actual clinical trials, and learn to solve basic problems that are important in application.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Session 1, April 11: Confirmation of Basic Mathematics and Calculating Probability			
Session 2, April 18: Basic Properties of Discrete Random Variables			
Session 3, April 25: Basic Properties of Continuous Random Variables			
Session 4, May 9: Multiple Random Variables I			
Session 5, May 16: Multiple Random Variables II			
Session 6, May 23: Probability Distribution as it Relates to Normal Samples			
Session 7, May 30: Fundamentals of Statistical Estimation			
Session 8, June 6: Fundamentals of Statistical Hypothesis Testing I			
Session 9, June 13: Fundamentals of Statistical Hypothesis Testing II			
Session 10, June 20: The Basics of Linear Regression Analysis I			
Session 11, June 27: The Basics of Linear Regression Analysis II			
Continue to 統計的推測の基礎・演習 (CB限定) (2) ↓ ↓ ↓			

統計的推測の基礎・演習 (CB限定) (2)	
Session 12, July 11: Fundamental Asymptotic Methods I Session 13, July 18: Fundamental Asymptotic Methods II Session 14, July 25: Fundamental Asymptotic Methods III	
<b>[Course requirements]</b>	
This course is limited to those taking the Clinical Biostatistics course.	
<b>[Evaluation methods and policy]</b>	
Reports	
<b>[Textbooks]</b>	
Other materials will be introduced during practicums based on progress made.	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Other materials will be introduced during practicums based on progress made.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>Preparation will not be required when this course is taken together with "Fundamentals of Statistical Inference," which is held on the same day. However, if students are concerned about basic mathematical techniques such as calculus and linear algebra, they are advised to engage in self-study in consultation with their instructor.</li> <li>For questions that cannot be solved, students should ask their instructor during or after their seminars, and be sure to solve these before taking repeat exercises. Even if a student solves a question once, it is advisable to attempt it again after a while.</li> </ul>	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H146 LB90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	メタアナリシス (CB・MCR限定) Meta-analysis	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, TANAKA SHIROU
<b>Target year</b>	1st year students or above	<b>Number of credits</b>	1
<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, First semester		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Seminar (Face-to-face course)
<b>Language of instructor</b>	Japanese and English		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
Lectures and practicums on meta-analysis, a statistical method for systematic review, will be held in line with guidance from the textbook titled "Introduction to Meta-Analysis, New Edition." This is an elective course for both CB and MPH.			
<b>[Course objectives]</b>			
* Learn techniques for the performance of meta-analysis using STATA.			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>Lecture and practicum format: As we will perform data analysis using SAS statistical software, please set this up on your own PC. STATA installation will be explained in Session 1. A practicum assistant will be provided by the clinical statistics staff.</li> </ul> <p>Session 1, August 26, Period 3: Typical Methods of Meta-Analysis (Chapters 3-6) (Maruo) Session 2, August 26, Period 4: Typical Methods of Meta-Analysis (Chapters 3-6) (Tanaka) Session 3, August 27, Period 3: Typical Methods of Meta-Analysis (Chapters 3-6) (Tanaka) Session 4, August 27, Period 4: Multivariate/Network Meta-Analysis (Chapters 7, 9-10) (Tanaka) Session 5, August 28, Period 3: Multivariate/Network Meta-Analysis (Chapters 7, 9-10) (Noma) Session 6, August 28, Period 4: Multivariate/Network Meta-Analysis (Chapters 7, 9-10) (Tanaka)</p>			
<b>[Course requirements]</b>			
None			
<b>[Evaluation methods and policy]</b>			
Class participation: 50% and Reports: 50%			
Continue to メタアナリシス (CB・MCR限定) (2) ↓ ↓ ↓			

メタアナリシス (CB・MCR限定)(2)	
<b>[Textbooks]</b>	
Toshiro Tango, "新版メタ・アナリシス入門—エビデンスの統合をめざす統計手法—" (Shinpan Meta-Anarishisu Nyuumon-Ebidensu no Tougo wo Mezasu Toukei Shuhou, 'Introductory Meta-Analysis: Methods of Statistics Aimed at Evidence Integration, New Edition') (Asakura Shoten) ISBN: 425412760X	
<b>[References, etc.]</b>	
<b>(Reference books)</b>	
Not used.	
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b>	
If students understand the basic methods of using STATA, they should be able to deal with the practicums without any issue.	
<b>(Other information (office hours, etc.))</b>	
Human health science majors are not eligible to participate in this course.	
*Please visit KULASIS to find out about office hours.	

<b>Course number</b>		P-PUB01 8H140 LB90	
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床研究実地研修 I (CB限定) Clinical Research Training I	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, TANAKA SHIROU Kyoto University Hospital Professor, Morita Satoshi National Cerebral and Cardiovascular Center ASAKURA KOUKO Kyoto University Hospital Senior Lecturer, HIDAHA YU Kyoto University Hospital Assistant Professor, UENO KENTARO
<b>Target year</b>	Professional degree students	<b>Number of credits</b>	2
<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, year-round		
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Practical training (Face-to-face course)
<b>Language of instructor</b>	Japanese		
<b>[Overview and purpose of the course]</b>			
This training facilitates a hands-on understanding of how the statistical thinking acquired in the Clinical Statistician Training course can be applied to real-world situations through practical training at a hospital. From this practical experience, students will understand the roles and responsibilities of test statisticians in clinical trials, and will be equipped with the fundamental capabilities (attitude, skills, knowledge) necessary for one to plan, conduct, and report on clinical trials as a test statistician. Clinical Research On-Site Practicum II continues from I, and offers more advanced content. Training will take place at two locations: Kyoto University Hospital and the National Cerebral and Cardiovascular Center. Students are asked to choose the facility they wish to train at in advance. Training at the Kyoto University Hospital mainly comprises planning and conducting clinical trials for the development of innovative new medical technologies (pharmaceuticals, etc.). Training takes place at two locations: Kyoto University Hospital and the National Cerebral and Cardiovascular Center. Details of the training will be published on the website.			
<b>[Course objectives]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>* Understand the process of planning and conducting clinical trials, the operations and system relied on in carrying out clinical trials, and the roles and areas of responsibility of researchers, research assistants, and test statisticians.</li> <li>* Understand the statistical items to be included in clinical trial protocols and obtain the fundamental knowledge and techniques required to be able to contribute to the creation of clinical trial protocols.</li> <li>* Acquire the fundamental knowledge and skills to be able to plan and carry out a statistical analysis appropriately and summarize the results.</li> <li>* Understand the fundamentals of research ethics and conflicts of interest in clinical trials and the protection of personal data, and be capable of contributing to the planning and execution of reliable clinical trials.</li> <li>* Learn to use various explanatory methods and means and the attitudes and methods to convey statistical concepts in clinical trials in a way that is easily understood.</li> </ul>			
<b>[Course schedule and contents]</b>			
Kyoto University Hospital Intensive lectures and practicums will be held over five days between July and September (Periods 1-6, 8:45-19:45)			
Continue to 臨床研究実地研修 I (CB限定) (2) ↓ ↓ ↓			

臨床研究実地研修 I (CB限定) (2)
Day 1 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Readiness as a Biostatistician (1) Period 2: Ethics in medical research Period 4: Seed Development Period 5: Statistics Consulting Situations Period 6: Creating Reports
Day 2 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Readiness as a Biostatistician (2) Period 3: Monitoring Tasks Period 4: Clinical Test Sites Period 5: Statistics Consulting Situations Period 6: Creating Reports
Day 3 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Readiness as a Biostatistician (3) Period 3: Project Management Tasks Period 4: The History and Future Potential of Translational Research Period 5: Statistics Consulting Situations Period 6: Creating Reports
Day 4 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Data Management Tasks Period 3: The Role of CRC Period 4: Investigational New Drug Management System Scenarios Period 5: Statistics Consulting Situations Period 6: Creating Reports
Day 5 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Corresponding with Authorities Period 3: Radiodiagnosis Scenarios Period 4: Advanced Medical Technology Scenarios Period 5: Development of Innovative Medical Technologies Using iPS Cells Period 6: Creating Reports
National Cerebral and Cardiovascular Center This will be held over a total of six days. The first day will be in August, with the remaining five days held between December and January (Each session is 90 minutes long) (9:30-11:00/11:15-12:45/13:45-15:00/15:15-17:00)
Day 1 Session 1: Training Overview and Explanation, Visit to a Hospital: Purpose and Content of Training
Continue to 臨床研究実地研修 I (CB限定) (3) ↓ ↓ ↓

臨床研究実地研修 I (CB限定) (3)
Session 2: Cardiovascular Disease Fundamentals (1): The Basics of Arrhythmia Session 3: Cardiovascular Disease Fundamentals (2): The Basics of Cardiac Failure Session 4: Medical Device Research and Development: Visit to an Animal Experimentation Facility
Day 2 Session 5: Clinical Trial Planning (1): Basic Matters of Clinical Trial Planning Session 6: Clinical Trial Planning (2): Basic Procedures in Clinical Trial Planning Session 7: Randomized Assignment (1): The Role of Randomized Assignment in Clinical Trials Session 8: Randomized Assignment (2): General Methods of Randomized Assignment
Day 3 Session 9: Group Work: Randomized Assignment System Exercise (1) Session 10: Group Work: Randomized Assignment System Exercise (2) Session 11: Sample Size Design (1): Methods of Sample Size Design in Clinical Trials Session 12: Sample Size Design (1): Procedures for Sample Size Design in Clinical Trials
Day 4 Session 13: Group Work: Sample Size Design Exercise (1) Session 14: Group Work: Sample Size Design Exercise (2) Session 15: Statistical Analysis Plans (1): Fundamental Points to Describe in a Statistical Analysis Plans Session 16: Statistical Analysis Plans (2): Standard Tasks and Processes for Statistical Analysis in Clinical Trials
Day 5 Session 17: Accompanying CRC Patients Session 18: Accompanying CRC Patients Session 19: Group Work (5): Randomized Assignment System Exercise (3) Session 20: Group Work (6): Randomized Assignment System Exercise (4)
Day 6 Session 21: Group Work (7): Sample Size Design Exercise (3) Session 22: Group Work (8): Sample Size Design Exercise (4) Session 23: Summary Presentation (1): Reporting on the Results of the Randomized Assignment System Exercise Session 24: Summary Presentation (2): Report on the Results of the Sample Size Design Exercise
<b>[Course requirements]</b> None
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Evaluation is based on the content of the reports and presentations created in practicums. Class participation (attendance etc.) will also be taken into account.
Continue to 臨床研究実地研修 I (CB限定) (4) ↓ ↓ ↓

臨床研究実地研修 I (CB限定) (4)
<b>[Textbooks]</b> Not used.
<b>[References, etc.]</b> (Reference books) Not used.
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Indicated during practicums.
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Human health science majors are not eligible to participate in this course.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.

未更新					
Course number	P-PUB01 8H147 PB90				
<b>Course title (and course title in English)</b>	臨床研究実地研修II (CB限定) Clinical Research Training II	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Medicine Program-Specific Professor, TANAKA SHIROU Kyoto University Hospital Professor, Morita Satoshi National Cerebral and Cardiovascular Center ASAKURA KOUKO Kyoto University Hospital Senior Lecturer, HIDAKA YU Kyoto University Hospital Assistant Professor, UENO KENTARO		
<b>Target year</b>	1st year students or above	<b>Number of credits</b>	2	<b>Year/semesters</b>	2024/Intensive, year-round
<b>Days and periods</b>	Intensive	<b>Class style</b>	Practical training (Face-to-face course)	<b>Language of instructor</b>	Japanese and English
<b>[Overview and purpose of the course]</b> This training facilitates a hands-on understanding of how the statistical thinking acquired in the Clinical Statistician Training course can be applied to real-world situations through practical training at a hospital. From this practical experience, students will understand the roles and responsibilities of test statisticians in clinical trials, and will be equipped with the fundamental capabilities (attitude, skills, knowledge) necessary for one to plan, conduct, and report on clinical trials as a test statistician. Clinical Research On-Site Practicum II continues from I, and offers more advanced content. Training will take place at two locations: Kyoto University Hospital and the National Cerebral and Cardiovascular Center. Students are asked to choose the facility they wish to train at in advance. Training at the Kyoto University Hospital mainly comprises planning and conducting clinical trials for the development of innovative new medical technologies (pharmaceuticals, etc.). Training takes place at two locations: Kyoto University Hospital and the National Cerebral and Cardiovascular Center. Details of the training will be published on the website.					
<b>[Course objectives]</b> * Understand the process of planning and conducting clinical trials, the operation and system for carrying out clinical trials, and the roles and areas of responsibility of researchers, research assistants, and test statisticians. * Understand the statistical items that are to be included in clinical trial protocols and obtain the fundamental knowledge and techniques needed in order to contribute to the creation of clinical trial protocols. * Gain fundamental knowledge and skills to plan and carry out a statistical analysis appropriately and summarize the results. * Understand the fundamentals of research ethics and conflicts of interest in clinical trials and the protection of personal data, and learn to contribute to the planning and execution of reliable clinical trials. * Learn to use various explanatory methods and means and the attitudes and methods to convey statistical concepts in clinical trials in a way that is easily understood.					
<b>[Course schedule and contents]</b> Kyoto University Hospital Intensive lectures and practicums will be held over five days between July and September (Planned) (Periods 1-6, 8:45 - 19:45) Day 1:					
Continue to 臨床研究実地研修II (CB限定) (4) ↓ ↓ ↓					

臨床研究実地研修II (CB限定) (2)
Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Advanced presentation and discussion of assignments Period 3: Standard Operating Procedures Period 4: Introduction to Real Clinical Trials by a Clinician Period 5-6: Protocol Creation and Database Construction  Day 2 Period 1: Pre-Training Preparation Protocol 2: Presentation and discussion of the results of the protocol practicum Period 3-6: Statistical analysis planning practicum  Day 3 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Presentation and discussion of statistical analysis planning Period 3: SAS Program practicum Period 4: Validating the quality of the results of statistical analysis Periods 5-6: Statistical analysis practicum  Day 4 Period 1: Pre-Training Preparation Period 2: Summary Reports Period 3: Clinical Trial Report Paper Practicum Periods 4-6: Statistical Analysis Report Practicum  Day 5 Periods 1-2: Pre-Training Preparations Periods 3-4: Statistical Analysis Report Presentation Period 5: Conclusion Period 6: Report Creation  National Cerebral and Cardiovascular Center This will be held over a total of six days. Held between July and September (Each session lasts for 90 minutes) (9:30-11:00/11:15-12:45/13:45-15:00/15:15-17:00).  Day 1 Session 1: Training Overview and Explanation, Visit to a Hospital: Purpose and Content of Training Session 2: Cardiovascular Disease Fundamentals (1): The Basics of Cerebrovascular Disease Session 3: Cardiovascular Disease Fundamentals (2): The Basics of Cranial Nerve Disease Session 4: Ethics and Patient Consent  Day 2 Session 5: Statistical Analysis (1): Basic Matters in Statistical Analysis Session 6: Statistical Analysis (2): Tasks and Procedures in Statistical Analysis Session 7: Statistical Analysis Reports, Summary Reports, and the Publication of Papers Session 8: Statistical Analysis Consultation and Clinical Trial Consultation  Day 3
Continue to 臨床研究実地研修II (CB限定) (3) ↓ ↓ ↓

臨床研究実地研修II (CB限定) (3)
Session 9: Data Management for Clinical Trials: The Fundamentals of Data Management Session 10: Data Management for Clinical Trials: Data Management Tasks and Processes Session 11: Group Work (1): Data Management Exercise (1) Session 12: Group Work (2): Data Management Exercise (2)  Day 4 Session 13: Group Work (3): Data Management Exercise (3) Session 14: Group Work (4): Data Management Exercise (4) Session 15: Group Work (5): Statistical Analysis Exercise (1) Session 16: Group Work (6): Statistical Analysis Exercise (2)  Day 5 Session 17: Clinical Trial Monitoring Session 18: Clinical Trial Monitoring Field Trip Session 19: Group Work (7): Statistical Analysis Exercise (3) Session 20: Group Work (8): Statistical Analysis Exercise (4)  Day 6 Session 21: Group Work (9): Statistical Analysis Exercise (5) Session 22: Group Work (10): Statistical Analysis Exercise (6) Session 23: Summary Presentation (1): Data Management Exercise Results Report Session 24: Summary Presentation (2): Statistical Analysis Exercise Results Report
<b>[Course requirements]</b> Students must have completed Clinical Research Practicum I.
<b>[Evaluation methods and policy]</b> Evaluation is based on the content of the reports and presentations created in practicums. Class participation (attendance, etc.) will also be taken into account.
<b>[Textbooks]</b> Not used
<b>[References, etc.]</b> <b>(Reference books)</b> Other materials will be indicated during practicums.
<b>[Study outside of class (preparation and review)]</b> Indicated during practicums.
Continue to 臨床研究実地研修II (CB限定) (4) ↓ ↓ ↓

臨床研究実地研修II (CB限定) (4)
<b>(Other information (office hours, etc.))</b> Human health science majors are not eligible to participate in this course.  *Please visit KULASIS to find out about office hours.







## 2024年度人間健康科学系専攻科目及び他部局開講科目(公共政策大学院科目)における社会健康医学系専攻学生の受講について

### ◎人間健康科学系専攻科目

一部の科目を社会健康医学系専攻の学生が受講することを認めています。  
詳細は、KULASISで人間健康科学系専攻のシラバスをご参照ください。

### ◎公共政策大学院科目

以下の科目を社会健康医学系専攻の学生が受講することを認めています。  
詳細は、KULASISで公共政策大学院のシラバスをご参照ください。

- ・公共政策論 A・B
- ・行政システム
- ・財政システム
- ・CS 予算と政策分析



科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」

推進事業「公共圏における科学技術・教育研究拠点」

教育プログラム 授業科目

科目ナンバリング	G-MED11 8Z069 LB90		
授業科目名 <英訳>	現代社会と科学技術A (政策) Research Methods for Policy A	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司
配当学年	1回生以上	単位数	1
開講年度・開講期	2024・前期		
曜時間	木1	授業形態	演習 (対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
本講義は、「政策のための科学」プログラムの選択科目の1つである。 本講義は、現代社会と科学技術Bと一貫した講義であり、受講者は原則として本講義を先に受講する必要がある。			
<b>[到達目標]</b>			
「政策のための科学」プログラムにおいては、科学と社会、政策とを「つなぐ人材」の育成を目標としている。この目標のために、様々な関連トピックを取り上げて、講師からの話題提供と、それに基づいた学生間のディスカッションを行い、科学の多様性と社会、政策を考えるための端緒とする。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
【予定・内容】			
第1回[5/16] 健康福祉政策と情報の利活用 (医学研究科 教授 川上浩司)			
第2回[5/23] 超少子高齢社会を支える地方自治 (公共政策大学院 特別教授 羽生雄一郎)			
第3回[5/30] 政策立案の実現と科学：元官僚の社会科学者による考察 (総合生学学館 准教授 関山健)			
第4回[6/6] 科学技術・イノベーション政策等について (iPS 細胞研究所 准教授 丹羽良太)			
第5回[6/13] 科学技術と社会 (産業技術総合研究所 関根仁博)			
第6回[6/15] 研究プロジェクトテーマ研究会 (全教員) 10時～12時オンライン			
第7回[6/20] 現代社会の問題と政策のための科学的考え方 (政策のための科学ユニット専任教員 カール・ベッカー)			
第8回[6/27] ライフサイエンスの論理とガバナンス (大阪大学医学研究科 教授 加藤和人)			
第9回[7/4] まちづくり・地域づくりとソーシャル・キャピタル (経営管理大学院 特定教授 要藤正任)			
第10回[7/11] ビットコインにおける非中央集権の理想と現実 (公共政策大学 教授 岩下直行)			
第11回[7/18] 研究プロジェクト中間発表会 (全教員) *1～2限			
第12回[7/25] 福島の賠償と復興 (経済研究所 特定准教授 山下恭範)			
◆第6回6月15日のテーマ発表会は土曜日の開催となります(オンライン)			
◆第11回7月18日の中間発表会は1～2限の予定です。			
<b>[履修要件]</b>			
本講義は、現代社会と科学技術と一貫した講義であり、受講者は原則として本講義を先に受講する必要がある。			
◆政策のための科学プログラム受講者のみ履修可。			
現代社会と科学技術A (政策) (2)へ続く↓ ↓ ↓			

現代社会と科学技術A (政策) (2)	
-----	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
講義への積極的な参加及び演習への貢献度、レポート (提出状況及び内容) により総合的に判断する。	
<b>[教科書]</b>	
使用しない	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 授業中に紹介する	
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>	
◆授業前の課題がある場合は、事前に政策ユニットの事務局から連絡があります。	
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b>	
◆5月9日 (木) 9:00～10:30 宮野先生の講義後、10:45～11:20 オリエンテーションの講義の予定です。詳細はユニット事務局から通知があります。	
◆講師の先生方の都合により、標記のタイトル、日程が変更することがあります。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング	G-MED11 8Z068 LB90		
授業科目名 <英訳>	現代社会と科学技術B (政策) Research Methods for Policy B	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司
配当学年	1回生以上	単位数	2
開講年度・開講期	2024・後期		
曜時間	木4	授業形態	演習 (対面授業科目)
使用言語	日本語及び英語		
<b>[授業の概要・目的]</b>			
本講義は、「政策のための科学」プログラムの必修科目の1つ (入門必修科目) である。 本講義は、現代社会と科学技術Aと一貫した講義であり、受講者は現代社会と科学技術Aの講義から継続した受講が必要である。			
<b>[到達目標]</b>			
「政策のための科学」プログラムにおいては、科学と社会、政策とを「つなぐ人材」の養成を目標としている。この目的のために、様々な関連トピックを取り上げて、講師からの話題提供と、それに基づいた学生間のディスカッションを行い、科学の多様性と社会、政策を考えるための端緒とする。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
【予定・内容】			
第1回[10/3] データ可視化と政策立案 (京大名誉教授 小山田耕二)			
第2回[10/10] 研究プロジェクト中間発表会 (全教員) 3～4限			
第3回[10/17] 公共政策と民主主義 (人間・環境学研究所 教授 佐野野)			
第4回[10/24] 責任ある研究・イノベーションとは何か (大阪大学COデザインセンター 教授 平川秀幸)			
第5回[10/31] クリティカルシンキングの観点からみた科学技術と社会 (文学研究科 教授 伊勢田哲治)			
第6回[11/7] 森林の生態系サービスと政策 (情報学研究所 教授 大手信人)			
第7回[11/14] 持続可能性と人口減少社会のデザイン (人と社会の未来研究院 教授 広井良典)			
第8回[11/21] データサイエンスの経済学 (経済研究科 教授 依田高典)			
第9回[11/28] 日本型直接支払制度の政策評価とその方法 (農学研究所 教授 伊藤順一)			
第10回[12/5] 移植医療の社会的価値 (同志社大学商学部 教授 瓜生原葉子)			
第11回[12/12] 質の評価：アートの視点から (京大名誉教授 富田直秀)			
第12回[12/19] 医療の経済評価：その現状と課題 (医学研究科 教授 中山健夫)			
第13回[1/9] 振り返りワークショップ (学際融合教育研究推進センター 准教授 宮野公樹)			
◆10月10日の研究プロジェクト中間発表会は3～4限になります。			
現代社会と科学技術B (政策) (2)へ続く↓ ↓ ↓			

現代社会と科学技術B (政策) (2)	
-----	
<b>[履修要件]</b>	
本コースは現代社会と科学技術入門と一貫した講義であり、受講者は現代社会と科学技術入門の講義から継続した受講が必要である。	
◆政策のための科学プログラム受講者のみ履修可。	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
講義への積極的な参加及び演習への貢献度、レポート (提出状況及び内容) により総合的に判断する。	
<b>[教科書]</b>	
使用しない 特になし	
<b>[参考書等]</b>	
(参考書) 授業中に紹介する	
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>	
◆授業前の課題がある場合は、事前に政策ユニットの事務局から連絡があります。	
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b>	
◆講師の先生方の都合により、標記のタイトル、日程が変更することがあります。	
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		G-MED11 8Z063 SB90			
授業科目名 <英訳>	科学技術イノベーション政策総合演習 (政策) Advanced Seminar on Science, Technology and Innovation Policy	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司		
配当学年	1年生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期集中
曜時間	夏季集中	授業形態	講義 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
本講義は「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ(選択科目II:イシュー科目群)である。プログラム1年目に履修することが望ましい。					
<b>[到達目標]</b>					
当該分野の先端的な知見を得るとともに、様々な視点から検討する。問題分析や政策提言等のグループワークを通じて、得られた知識の応用力を高めるとともに、各拠点の学生間の知的交流を促進する。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点(京都大学・大阪大学連携、政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、九州大学)合同の合宿セミナー。各拠点およびゲスト講師による講義とともに、共同で問題分析や政策提言等の作成を行うグループワークを行う。夏期休暇中に、2泊3日程度の合宿形式で行われる。 なお、合宿セミナーに先立って実施される。阪大との合同によるワークショップへの参加、科学技術イノベーション政策特別演習の受講を強く推奨する。					
日程や詳細は、追って連絡する。					
<b>[履修要件]</b>					
プログラム1年目に履修することが望ましい。 (政策のための科学プロジェクト受講生のみ履修可)					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
成果物・提出物により、総合的に判断する。					

科学技術イノベーション政策総合演習 (政策(2))					
<b>[教科書]</b>					
使用しない 特になし					
<b>[参考書]</b>					
特になし					
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>					
特になし					
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b>					
授業外学習については、受講生に対して事前に連絡する。  ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-MED11 8Z064 PB90			
授業科目名 <英訳>	研究プロジェクト (政策) Research project	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司		
配当学年	1年生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時間	その他	授業形態	実習 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
本講義は、「政策のための科学」プログラムの必修科目である。プログラム2年目に履修登録する。					
<b>[到達目標]</b>					
公共的視点から科学技術と政策や社会とをつなぐ活動や成果物の作成を行うことにより、自らの専攻分野を生かしつつ、プログラムで学んだ知識やスキルを活用する能力を獲得する。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
科学技術イノベーション政策に関連する具体的なトピックと方法論を用いて、「政策のための科学」に関連する個人研究もしくは共同研究のプロジェクトを実施し小論文・研究レポート (日英可) を作成する。それぞれの研究テーマや進捗に合わせて、プログラム関連教員による個別指導を中心に進める (プロジェクトの内容に関しては、各自の専門の学位論文に関連したもので可)。 1年次に研究計画を策定し、テーマ発表会を行う。 2年次に京都大・大阪大の合同発表会を実施する。					
日程については追って説明する。					
<b>[履修要件]</b>					
履修前に、所属研究科の指導教員、及び本科目の担当教員に、研究計画等について相談すること。  政策のための科学プログラム受講者のみ履修可。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
成果物・提出物により、総合的に判断する。					
<b>[教科書]</b>					
研究指導担当教員の指示による。					
<b>[参考書]</b>					
(参考書) 研究指導担当教員の指示による。					
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>					
研究指導担当教員の指示による。					
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b>					
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-MED11 8Z065 SB90			
授業科目名 <英訳>	政策のための研究方法論 (政策) Research Methods for Policy	担当者所属・ 職名・氏名	医学研究科 教授 川上 浩司 非常勤講師 Becker, Carl Bradley 医学研究科 特定助教 小泉 志保		
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期不定
曜時間	水曜日4時限	授業形態	演習 (対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
本講義は、「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の1つ (選択科目I:基軸科目群) である。以下、2名の教員によって進める。 政策のための科学ユニット 専任教員 Becker, Carl Bradley 政策のための科学ユニット 特定助教 小泉 志保					
公共社会政策を研究するためには、社会学、心理学、科学史、政治学、経済学等の学問体系をまたがらざるを得ない。本演習では、それぞれの学問領域の研究手法論を土台に、情報の検索・収集・分析・評価から、論理構造や政策形成まで、学会発表や投稿論文作成に必要なレベルの高い研究方法と書き方の修得を目指して指導する。 そして論文の論理的構築と標準的形式を理解して、研究論文や出版投稿論文の基礎知識を身に付ける。					
<b>[到達目標]</b>					
本演習の受講生の到達目標は以下の2点である。 (1) それぞれの分野において注目度が高く、信憑性を持つ情報にアクセスし、得られた内容を自分の研究論文の先行研究として位置付けられるようになること。 (2) 論文の論理構成と標準的な形式を理解し、卒業論文や投稿出版論文の基礎知識を身に付けること。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
下記の様な内容を毎週紹介し、それぞれの宿題と一緒に添削・訂正する: 1) オリエンテーション:メモの取り方、学術的集中法、情報管理ソフト紹介 2) 中心的概念の定義の広義と狭義、上位と下位、事例と除外 3) 基礎文献の特定・確認・検索方法と表記法 4) CiniiやWeb of Science による有用記事・目的の明瞭化 5) 書評検索 (Web of Scienceや大宅社一等) 6) 統計データ・新聞・博論の検索法 7) アウトライン・目次・論理構造の形成 8) 博論・オープンデータ・政府白書から科研・財団報告書 9) 医療に限らない医中誌やPubMed 10) アウトライン・目次の実例再検討 11) 英語と日本語の文献表の作成法・再確認 12) 総まとめ、宿題提出 (目次・序文・文献表) 13) フィードバック					

政策のための研究方法論 (政策)(2)	
<b>[履修要件]</b>	
特になし	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
中間の提出:10%、学期末レポート試験:30%、講義への積極的な参加と宿題提出:60%、と計算して評価する。	
<b>[教科書]</b>	
授業中に紹介・配布する。	
<b>[参考書等]</b>	
<b>(参考書)</b> 高橋昭男 『仕事文の書き方』 (岩波新書) 小笠原誠 『読み書きの技法』 (筑摩書房)	
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>	
授業外学修としては、各回において、受講者の研究テーマに関するレポートか、図書館やデータベースで資料に基づく調査か、いずれかの作業を期待する。各回で提出されたレポートや調査結果は次の講義で取り上げ、ディスカッションの材料とするため、その予習と提出を必須とする。各回で提出されたレポートや調査結果は、論文作成において必要なパーツを構成しており、その積み重ねによって投稿に至る。論文作成は、数冊の本を読めば出来る作業ではなく、広範囲な文献収集を要するので、計画的な時間配分を心がけられる大学院生を期待する。	
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b>	
曜日・時間については、受講生と相談の上、決定する。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		G-MED11 8Z067 SJ90	
<b>授業科目名</b> <英訳>	科学技術コミュニケーション演習(政策)	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 川上 浩司
	Science, Technology and Communication Seminar		非常勤講師 Becker, Carl Bradley 医学研究科 特定助教 小泉 志保
<b>配当学年</b>	専門職	<b>単位数</b>	2
		<b>開講年度・開講期</b>	2024・通年不定
<b>曜時間</b>		<b>授業形態</b>	演習 (対面授業科目)
		<b>使用言語</b>	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>			
本講義は「政策のための科学」プログラムの研究プロジェクトコースにおける必修科目の1つである。以下、2名の教員によって進める。 政策のための科学ユニット 専任教員 Becker, Carl Bradley 政策のための科学ユニット 特定助教 小泉 志保  「政策のための科学」プログラムにおける研究プロジェクトを進めるうえで必要となる、問いの立て方、仮説検証に関する方法論、プレゼンテーションスキルの習得等を目的とする。あわせて、受講生のディスカッションを通じて、研究に関する批判的考察能力を涵養する。			
<b>[到達目標]</b>			
科学技術を巡る社会的課題を各分野における分析のフレームワークで捉え、政策分析手法によって論理的に論じられることを到達目標とする。受講生のディスカッションによって、実践的に能力の習得を目指す。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
受講生は事前に発表等の準備を行い、ディスカッションは積極的に参加することを期待する。 【予定・内容】 本演習は後述に開講する。下記のような内容を毎週紹介し、各回に課した宿題を次の演習において一緒に添削・修正していく。  1.夏期休業中の研究の振り返りと中間発表への準備 2.問いの立て方とSTIPSの目標 3.政策への9つのステップと政策提案書例 4.政策分析手法: Kahneman決定表MAPと買い物の比較表 5.政策分析手法: 都市計画とコロナの事例 6.政策分析手法: Kahneman決定表MAPを自例に応用 7.限られた資源の優先順位決定: 病院の臨床例 8.限られた資源の優先順位決定: 国や市の運営 9.合同発表会の評価法、批評と発見 10.ポリシーブリーフ練習 11.ビジュアルアブストラクトの書き方 12.パワーライティングの序文 13.総まとめ、宿題提出 (冬期休業期間中の研究の予定について確認) 14.フィードバック			

科学技術コミュニケーション演習(政策) (2)	
<b>[履修要件]</b>	
政策のための科学プログラム受講生のみ履修可。	
<b>[成績評価の方法・観点]</b>	
中間(2,3回)の発表:計25%、期末発表:15%、講義への積極的な参加と宿題提出:60%、と計算して評価する。	
<b>[教科書]</b>	
使用しない	
<b>[参考書等]</b>	
<b>(参考書)</b>	
<b>(関連URL)</b>	
<a href="https://scirex-core.grips.ac.jp/">https://scirex-core.grips.ac.jp/</a>	
<b>[授業外学修 (予習・復習) 等]</b>	
特になし	
<b>(その他 (オフィスアワー等) )</b>	
曜日、時間については、受講生と相談のうえ、決定する。 ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。	

科目ナンバリング		P-PUB01 8Z081 LB90	
<b>授業科目名</b> <英訳>	科学技術イノベーション政策特別演習 (政策)	<b>担当者所属・職名・氏名</b>	医学研究科 教授 川上 浩司
	Science and technology policy for the innovation -advanced discussion		非常勤講師 Becker, Carl Bradley 医学研究科 特定助教 小泉 志保
<b>配当学年</b>	1年生以上	<b>単位数</b>	1
		<b>開講年度・開講期</b>	2024・前期集中
<b>曜時間</b>	夏季集中	<b>授業形態</b>	講義 (対面授業科目)
		<b>使用言語</b>	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>			
「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ (選択科目I: 基軸科目群) である。2名の教員によって進める: 政策のための科学ユニット 専任教員 Becker, Carl Bradley 政策のための科学ユニット 特定助教 小泉 志保  本演習では、政策過程や政策分析に関する基礎的知識を習得し、それらを政策立案に応用する実践的な能力を養う。具体的には、政策のための科学アドバイザー委員会の「推進事業の方向性」: (1) 現状の把握・分析、 (2) 政策課題の発見・発掘、 (3) 政策目標と手段のリストアップ、 (4) 政策の基となるデータの探索、 (5) 複数の選択肢から、政策オプションの作成、 (6) 経済的・社会的影響の分析で政策オプションの事前評価、 に沿って、履修者がSDGs等の政策分析に取り組むロジックを身につけられるように指導する。効果的なプレゼンテーションが行えるよう、パワーポイントのスライドづくりや発表方法についても教授する。論理的思考力と実践的スキルを涵養することが本演習の目的である。			
<b>[到達目標]</b>			
論理的思考力の習得においては、政策立案までの理論枠組を理解し、必要なエビデンスの特定と収集ができるようになることを受講生の到達目標とする。実践的スキルの習得においては、効果的なプレゼンテーションスキルを得ることを受講生の到達目標とする。受講生がディスカッションに積極的に参加することを期待する。			
<b>[授業計画と内容]</b>			
2日間で集中的に行う。  各受講生の専門分野での発表、サマーカーンでの発表、研究プロジェクトでの発表等の際に、立案した政策の内容や目的を聞き手に分かりやすく伝え、会場で有意義な議論を可能とするプレゼンテーションスキルを習得できるよう指導する。  ◇ 1日目			



<p>科学技術イノベーション政策特別演習 (政策②)</p> <p>(自分の研究分野を含む) SDGsなどの政策課題を議論し合い、政策立案過程の理論を学ぶ。各自が興味を持つ社会課題について、分析枠組みを用いて捉える。          課題：各自がテーマとした社会課題の分析に関して、パワーポイントのスライドを作成する。</p> <p>◇ 2日目          各受講生が作成したスライドに基づいて発表して、評価し合う。作成されたスライド及び発表法の改善点をディスカッションで明らかにし、その改善点に基づき、受講生は修正を行い、最終発表に臨む。</p>
<p><b>【履修要件】</b></p> <p>特になし</p>
<p><b>【成績評価の方法・観点】</b></p> <p>講義への積極的な参加、講義への貢献度、成果物により総合的に判断</p>
<p><b>【教科書】</b></p> <p>使用しない          特になし</p>
<p><b>【参考書等】</b></p> <p>(参考書)          特になし</p>
<p><b>【授業外学修(予習・復習)等】</b></p> <p>受講生に対し、事前に連絡する。</p>
<p><b>【その他(オフィスアワー等)】</b></p> <p>日程及び教室については追って連絡する。          ※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>





